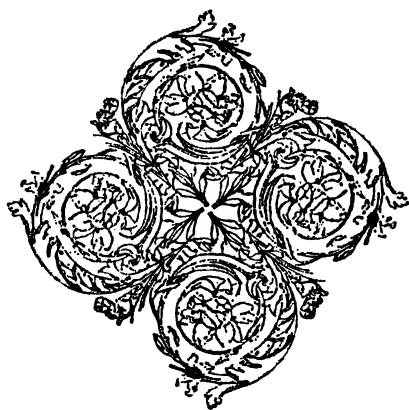
大泉入門シリーズ

式辞挨拶集

平山城児

式辞挨拶集

平山城児

大泉書店

はじめに

スピーチのよし悪しを決める基準はどこにあるかということは、人によっていくつかに意見の分かれるところである。しかし、ある程度つきつめて考えてみると、聞き手に十分理解されたか、そして聞き手の心に訴えることができたかという、ごく単純なことが一番大切であり、そういうスピーチをすることが、いかにむずかしいかということになる。

話術ということばがあるが、話すことを単にテクニックとして考えるのは危険なことである。わたしたちは、だれでも話すことができるし、いつでも話し手になることもできる。そういう場面が、実際わたくしたちの生活の中で生ずることが多い。たとえば、結婚披露宴に招かれて、「ひとつ祝辞をお願いします」というようなことは、よくあることである。ところが、一対一の対話と違って、いわば聴衆を前にしてしゃべるとなると、なんとなくそれ相応の話をしなければならないという気持ちになる。

式辞あいさつということばが、妙に古めかしい感じがするが、この本では、わたしたちの日常生活上に最もゆかりの多い、わたしたちが一番話し手として登場しなければならない場面を考えて、この編集方針をとった。

たしかに、軽々しくスピーチはできない。一応の準備をし、話の組み立てをして、その場にの

ぞむわけであるが、何より場にマッチした話でなければ、社会人として常識に欠けることになる。そういう意味で、スピーチにもマナーがあり、形式があるといえる。

しかし、何より大事なことは内容である。自分の心を伝えるものでなければならない。ただ形だけ整ったスピーチに面白味も深みもないことは、ご存じの通りである。だから、決して雄弁家である必要もなく、自分の個性を生かした話しぶりで、自分の心情をいかに表現できるかに、スピーチのよし悪しがかかってくるといえよう。

この本は、そうした場に応じてのスピーチ事例集である。実際に応じてこの本にあるパターンを活用して、よりよいスピーチを工夫していただければ幸いである。スピーチに絶対の定型はない、とするならば、よいスピーチをするために参考の資料としてこの本を利用することが、本当の意味での活用法といえよう。

目次

結婚

祝賀

祝　日

教育

懇親

葬祭

装幀＝上口睦人

結婚

式辞挨拶について

話すということ

話すことができるというのは人間の特権である。われわれは日常、ことばによって意志の疎通をはかっている。しかし、これが改まった席で、人を前にして何かを話すということになると、日常会話と違ってそうスムーズに行かなくなる。「講釈師、見てきたような嘘をつき」といわれているが、話術を職業としている人ならいざ知らず、一般の人にとっては結婚披露宴で祝辞ひとつ述べるのも大変おっくうなことである。

何か集まりがあるとき「会に出るのはいいのだが、どうもスピーチさせられるのが困りもので」という場合がある。しかし、人前で話すことをためらっていては、この組織社会の一員としての役割りを放棄することにもなりかねない。昔は訥弁ということがいわれていた。そのため、どうも自分が訥弁であることにコンプレックスを抱いたりする雰囲気もあったようである。そのようなことは問題にならない。口下手には口下手なりのよさがある。話すということは口の上手や下手の問題ではないということをまず認識してもらいたい。

式辞挨拶というと何となく堅苦しい感じがするが、元来式辞というのは、祝賀や弔祭の式場で、その式に関する話題を改まって話すことであり、挨拶というのは会合や儀式の場で儀礼的に述べられるものである。この場合、あらかじめ、文章を用意しておいてそれを読み上げるという人もいる。

いずれにせよ、ある特定の場で特定の対象に向かって話すわけであり、お祝いの場、ビジネスの場など、その場に応じた形と内容が必要とされる。しかし、第一には内容である。場に応じてエチケットを失わないということはもちろんであるが、わかりやすいことばで、自分の心を語ることができれば、これが最高のものといえよう。

話し方のテクニック

話は技術ではない、いくら美辞麗句を並べ流れるようにしゃべっても、聞く人の心に何も残らない話であっては意味がない。これではことばの遊びである。東京の美濃部知

事は『対話』ということをモットーにしておられるが、いわゆる演説をする場合も、語りかけるような口調でやわらかく話している。その人柄にぴったりとマッチした個性が感じられる。話す場合に、その人の個性と心情が伝えられれば効果は十分である。

そのためにどうすればよいかということが、いわばこの話し方のテクニックに相当するものである。

① まず、話の目的をしっかりつかむこと。自分の考えていること、感じていることを正しく聞き手に伝えることが大切である。たとえば、結婚披露宴の来賓として話す場合なら――この結婚を心から祝うということに目標を設定して、話を組み立ててゆくことが必要である。

② なるべく短い話にまとめること。話しはじめると、長くなりがちな人が多いが、せいぜい十分程度にすることが無難であろう。

③ 場に合った話を具体的に。結婚、葬儀、その他の集まり、いずれもその場の雰囲気に適合した話でなければならない。

こういう前提をおいて、話を組み立てることを心がけると、すっきりとした無駄のないものができあがるものである。

そして、やむを得ない場合以外はその場で即興の話にしないことが大切である。弔辞や式典の挨拶は別として、結婚披露宴の祝辞くらいは何とかなると思って行ったところが、大失敗をするということにもなりかねない。文章にして、その場で朗読するというのは、特定の場合以外は最近あまり見かけなくなったが、必ず要点はメモしておくようにすれば、それだけで事前に頭に入るので便利である。

話すことがない、という人がいる。しかし話の材料というものは必ずあるものである。ちいさなエピソードひとつにしても、また、古今東西の名言ひとつにしても、それを中心に話を組み立てることはできる。話の材料は広く集めることが必要である。

どうも話がよくできないというのは、第一には心理的な問題で、第二には条件的な問題といえる。口は上手でなくてもよい。話はその場に合ったものを自分の個性を生かして組み立てる、という考え方をすれば、必ず内容のある話ができるものである。

結婚の祝辞と挨拶

自分の立ち場を明確に

いちばん機会の多い場が、この祝辞であろう。もちろんお祝いのことばであるから、新郎・新婦やその両家に対してよろこびとほめことばを贈るのが、招かれたもののエチケットとなる。そして、うれしい祝辞をもらったと感じてもらえれば成功といえよう。

結婚披露宴の場合、媒酌人、来賓、職場の先輩や同僚、そして友人、また新郎・新婦側と話す人の立ち場によって話の趣旨とムードが異なってくる。来賓として祝辞を述べる場合に、くだけすぎていては何となく披露宴の格式が崩れるような気をおこさせるし、友人だからといって新郎の悪口やからかい半分の話をしては失礼な感じがする。

常にエチケットを失しないことが大切であり、その披露宴の雰囲気を正しく判断することが必要である。披露宴というと、新郎・新婦が当日のスターであり、両家の家族のことを考えて、話の聞き手をその方だけだという気持ちに定まりがちであるが、来賓はじめ参列者の地位や人格によって話の口調なり態度なりを決めることも必要である。

ことばづかいの注意

結婚披露宴での祝辞の場合、ことばづかいには注意をする必要がある。昔からおめでたい席でいってはいけないとされている「忌みことば」というものが、まだ生きているようである。「別れる」「切れる」「破れる」「去る」「くり返す」「再び」「二度目」などということばがそれである。迷信といってしまえばそれまでであるが、ことばづかい上の注意をすることが、この場合のエチケットのひとつと考えるべきであろう。

媒酌人の話の要点

媒酌人として披露宴で挨拶する場合、次の項目は欠かしてはならないので注意すべきである。(1) いま結婚式がつつがなくとり行なわれた。(2) 新郎・新婦の略歴紹介。(3) 新郎・新婦両家の紹介。(4) 参列者に対して新郎・新婦の将来をお願いする。この四点は必ず話の構成の中に入れなければならない。

媒酌人

新郎・新婦の父の友人

それでは、きょうの佳き日の媒酌人といたしまして、ご披露の宴に移ります前に、一言ご挨拶申し上げます。

ただ今、おごそかなうちにも喜びの挙式がとどこおりなく取り結ばれ、真路君と祐子さんは終生変わらじとの誓いのもとに、堅く契りを交わされました。誠におめでとうございます。

親友のご子息であり、愛嬢であるお二人の、きょうのこの喜びに接し得て、万感胸に迫るものがあります。

真路君、祐子さん、おめでとう。

ここにご出席の皆さまは、お二人のひととなり、その他について、一通りご承知かと思いますが、お二人がいかに似合いの夫婦であり、こよなき良縁であるか、いささか自慢させていただきたいと思います。

新郎・真路君は、関東医科大学卒業後、母校に勤務され、日夜実習に、研究に励んでおられる青年医師でありまして、囲碁、カメラ、音楽となかなか多趣味な青年であります。特にカメラは、カメラ雑誌などの写真コンクールで入賞という腕前で、いつぞや彼の部屋に飾ってあった祐子さんのプロフィールは、モデルがいいとはいえ、実にすばらしい出来栄えで、少々カメラをかじったことのある私も、しばらく見とれるほどでした。

新婦・祐子さんは、東亜大学薬学部を卒業され、県立病院に勤務されている薬剤師でいらっしゃいます。小さいころから水泳がお得意で、高校時代には国体にも出場されたという活発なお嬢さんで、今も暇をみてはプールや海に出かけられるとのことであります。人並みすぐれてスマートな容姿も、そんなところに原因があるのかもしれません。

真路君の父君・伊藤敬君は武蔵医大教授、祐子さんの父君・木下秀実君は当市の市会議員で、共に私とは一高時代の同窓であり、みんなから、三羽烏と言われるほどの仲良しでしたし、いまだに三人は変わらぬ友情に結ばれております。

いつも明るくて、なごやかな両家の家風はもとより、お二人の人柄もよく存じており、このたびの仲人を喜んでか

って出た次第であります。

真路君はご両親が、よき社会人たるべく、円満な人格の陶冶に専念されたというだけあって、鋭さの中にも丸みがあり、生活態度にみじんも軽薄なものがありません。一人よがりな人間の多い現代には珍しい堅実な青年であります。

また、祐子さんも、心身ともにのびのびとお育ちになり、明るく素直で清純でいらっしゃることは、皆さまよくご存知のことと思います。小鳥が大変お好きらしく、今、カナリア、文鳥など五、六種可愛がっておられるそうですが、これをみても心のやさしさがしのばれます。

もし私に息子や娘がおりましたら、お二人ともそっくり私のところに、いただきたい気持ちです。

父君同士が親友ということから、お二人は小さいころからのお知り合い、つまり幼なじみで、いつしか愛が芽ばえたというのでしょう。

ちなみに真路君は二十九歳、祐子さんは二十六歳で、当分お二人ともそれぞれ従前どおり勤務され、来秋、当市新天町で開業される予定とか、さぞかしお二人の胸のうちは夢でいっぱいといったところでしょう。開業医となられたら、泣き出したいくらい繁盛するに違いありません。

〝よい結婚はあるけれど、楽しい結婚はめったにない〟と言われますが、同じ医学を志すお二人のこと、しっかりと手をとり合い、〝楽しい結婚〟をかちとって、皆さんのご期待に添われることでしょう。末長きしあわせを祈ります。

ご出席の皆さま、本日は本当に有難うございました。

新郎の父の知人

お喜びの新郎・新婦を心から祝福すべく、ご参会下さいました皆さまに、媒酌人としてご挨拶を申し上げますことは、私ども夫妻にとりまして、この上ない喜びであり、光栄といたすところであります。

あくまでもすがすがしく晴れわたった秋晴れのきょう、菊香る当式場で、新郎・裕貴君と新婦・里佳さんはおごそかに華燭の典をあげられました。誠にめでたく喜ばしい次第であります。

新郎の裕貴君は、国鉄技師でいらっしゃる九条武雄氏のご長男で、本年二十三歳、昨年の春、西京商大をご卒業になり、目下当市のH自動車販売株式会社に勤務され、フレ

ッシュなセールスマンとして第一線でご活躍中であります。スマートで柔和な容姿、ねばり強くて、気のおけないご性格、高校時代弁論部で鍛えたというさわやかな弁舌、など三拍子も四拍子もそろった、前途有望なセールスマンであり、まさにセールス界のサラブレットと申してもいいかと思います。

入社以来この一年有半、同輩の九人に遅れを取ったことは一度もないという実績は、まことにあっぱれではありますが、けだし当然とも申せましょう。

豊かな教養と情操の士である裕貴君は、特にクラシック音楽に造詣が深く、この趣味の音楽が里佳さんとの縁結びになったのであります。

したがいまして本仲人は、シューベルトであり、メンデルスゾーンでありまして、不肖私は頼まれ仲人にすぎないのであります。

新婦の里佳さんは、古くからのレコード店『文化堂』の北沢孝一氏の三女として生まれ、県立高校を経て、友愛学園に学び、料理、洋裁、生け花、茶道など主婦としての修業を修められた近代女性として申し分のない才媛であります。二十一歳というお若さに似ず、きわめて勤勉で、女性として最も大切な〝心の優しさ〟という美徳もそなえておられます。

北沢家は代々、健康と長寿のご家系でありますうえに、ご家庭がいたってなごやかでありますから、ご明朗で、健康ご自慢の方でもあります。

さっきも申しましたように、お二人は音楽といいますか、レコードが取り持つ縁ではございますが、お二人が初めて言葉らしい言葉を交わされたのは、裕貴君が「結婚行進曲集」を買いに行ったときだそうですから、きょうのこのご結婚が一段とめでたく思われてなりません。

「伊藤は仲人が商売」と陰口をたたかれるほど、私はたくさんの縁結びをやって参りましたが、きょうの新郎・新婦ほど〝似合いの夫婦〟という言葉がピッタリするご夫婦は今までありませんでしたし、世間にもあまり見当たらないのではないかと、いささか自慢に思っているくらいでございます。

申し上げるまでもなく、私たち人間は、自分だけ、夫婦だけ、あるいは、わが家族だけの幸福のみを願って生きることは許されませんし、そんなことは不可能でもあります。

夫婦に限ってみれば、妻のしあわせなくて、夫のしあわせはなく、夫のしあわせなくて、妻のしあわせはないのであります。夫は妻のしあわせを願い、妻は夫のしあわせを願ってこそ、本当の夫婦と言えますし、しあわせにもなれると思います。

新郎・新婦におかれましては、ただ今神前でご朗読になりました誓詞をいつまでも忘れることなく、よき夫、よき父となり、またよき妻、よき母となって、健全にして、幸福な家庭を築かれるよう念願いたします。

本日は皆さま、ご多忙のところ、ご光来いただき、まことに有難うございました。

万端にわたり不行き届きで、失礼の点が少なくありませんが、どうか新郎・新婦お二人の前途を祝って、時間の許す限り、ご歓談下さいますようお願いいたします。

新郎・新婦の上司

佳志君、由里子さん、きょうは本当におめでとう。さぞかし空の上へ引き上げられるような生命の高揚を感じていられることでしょう。あなたたち二人の隠しきれない喜びが、この老いの身にも伝わってくるようです。

喜びにあふれる二人を祝福すべく、お忙しい中をご参会下さいました皆さまに、仲人役の私から厚くお礼申し上げます。

特にきょうはあいにくの雨で、お足元が不便で、ご不自由なさったことと思います。今、私はあいにくの雨と申しましたが、結婚式当日の雨は「雨降って地固まる」と申しまして、新夫婦にとっては願ってもない幸先のよいものと聞いておりますので、皆さんのご不自由にもかかわらず、私などむしろ喜んでいる次第です。

仲人と申しましても、名ばかりの頼まれ仲人にすぎませんが、慣例によりまして簡単に新郎・新婦のご紹介をさせていただきます。

新郎の佳志君は当年二十五歳、早稲田大学文学部を卒業後、すぐ私どもの出版社に入社されたわけですが、持ち前の文才と幅広い知識を生かした編集は実に見事なもので、かつて『新婦人』の名編集長として鳴らされたいまは亡き父上の芥川六朗氏もさこそと思われるほどです。編集に生き、編集に殉じられた父上の血が佳志君に脈々と受け継がれたのでしょう。きっとどこかでうれしそうに佳志君の仕事ぶりをみつめておられるに違いありません。文学青年に

は、きどり屋や一風変わった人が多いようですが、佳志君はきわめて常識人で、仕事の鬼の割りには大変なハニカミ屋です。よくも、恋愛などというダイソレタことができたものと半ばあきれた次第です。

新婦の由里子さんは「スキット」で有名な横浜の名菓の老舗ミナト屋・佐田権三郎さんの次女で南西学院短期大学の文学部を昨春ご卒業後やはり私どもの出版社に入社されたのであります。まだ二十一歳という若さもさることながら、愛嬌たっぷりなお嬢さんなので、校正という地味な職場も花やいで見えます。

由里子さんは七歳のときから藤間流の踊りを習い、高校時代に名取りになられただけに、現代娘にはなかなか見られない優雅さも身につけておいでです。〝ハニカミ〟と〝優雅〟のなれそめは、ある日突然なのか、チロチロと燃えてきたのか、残念ながら知りませんが、全く「縁は異なもの」と言えましょう。

「とめてとまらぬ恋の道」、もう三月も前ごろから、お二人は、社内でだれ知らぬ者もない恋仲で、これからもさぞかし仲の良いおしどり夫婦として評判をとることと思いますが、おしどり結構、大いに仲のいいところを見せつけてもらいたいものです。私なぞ若返りのクスリになるのではないかと今から期待しています。

お二人のロマンスが実り、ここに恋の花が見事に開いたのですから、定めし結びの神もご満悦なさっていることでしょう。

とにかく私は清らかなメロドラマのハッピーエンドを見ているような気がして心からほほえまずにはおれません。「縁組みはたやすく、所帯持ちはむずかしい」と言いますが、人一倍思いやりのある佳志君と、地味な校正をもくもくとやり抜く由里子さんのこと、力を合わせて、きっと暖かいご家庭を築かれることと思います。

フランスに「結婚する前に最も愛し合っていた人々は、時として、夫婦となった暁に最も愛し合わない人々である」などという箴言（しんげん）がありますが、それは「愛人同士は注意して自分たちの欠点を隠し合う。しかしあまりにもしばしば夫婦は自分たちの欠点を見せ合う」からではないでしょうか。

しかし賢明なお二人のこと、二人自身の責任において「泣いても連れ添」い、二人の恋がホンモノであったことを証明してくれることと思います。

本当にきょうはおめでとうございます。ご列席の皆さまもガッチリと二人の将来を見守ってやって下さい。

新郎の恩師

由平君、雅子さん、おめでとう。ご両家ならびにご出席の皆さま、おめでとうございます。

本日はようこそおいで下さいました。厚くお礼申し上げます。喜びにあふれた式もとどこおりなく終わり、由平君と雅子さんは誓いも堅く、第二の人生にスタートされました。

二、三日降りつづいた雨もカラリと上がり、二人の前途を祝福するかのように、さわやかに晴れわたって、こんな喜ばしいことはありません。

新郎の由平君は、林商事にお勤めの岡田洋平氏の長男で、本年二十六歳、高校を出るとすぐ市役所に入り、病気勝ちなお母さんを助けて、三人の弟さんのめんどうをみるかたわら、黙々とがんばって平和大学夜間部を卒業したという苦学力行の士で、趣味も読書、釣りと堅実そのものです。また由平君は私のよき教え子であり、愚息幸弘の親友でもあります。

高校時代の由平君は、地味でまじめな人柄のせいか、さして目立つ生徒ではありませんでしたが、伝統あるわが陸上競技部の長距離ランナーとして大活躍したことは、私たち教師仲間の間で、今でも時々話題になるくらいであります。陸上競技で有名な太洋大学の誘いも断わって、市役所に入られたわけですが、その後パッタリやめられたことは、まことに惜しく、残念でなりません。

しかし、当時のガンバリがその後も由平君に生きていることは、夜間部卒業という実績をみてもわかろうと思います。

一方、新婦の雅子さんは、私と同じ春風高校で教鞭をとっておられる有沢浩二氏の長女で、白梅高校を卒業後、東雲洋裁学院に行っておられましたが、間もなく卒業というとき、不幸にもお母さんを亡くされ、卒業を断念して、その日から進んで家庭に入られたと聞いております。それからはずっと家庭にあって、もっぱら主婦的役割りを果たしてこられたのであります。

お父さんの浩二氏は、控え目で自慢のきらいなお方ですが、雅子さんだけは番外らしく、何度か娘自慢をお聞きしたことがあります。それがちっとも抵抗なく聞けるのは、

浩二氏の人柄もさることながら、雅子さんが名実ともによくできたお嬢さんだからにほかなりません。

父思い、妹思いの雅子さんは、いましばらくお父さんの妻代わり、妹さんの母代わりをやって行きたい考えが強かったようですが、早く女としてのしあわせを味わわせたい、というお父さんの暖かいお気持ちを素直にお汲みになって、きょうのこの喜びに踏み切られたという次第です。

雅子さんはまだ二十三歳の若さながら、家庭生活の切り盛りは堂に入ったもので、その点少しの不安もないといえるでしょう。雅子さんは洋裁が趣味というだけあって、いつもお手製の洋服を着ておられますが、それがまた上品で実によく似合います。とにかく家庭のふくらみといったものを感じさせる雅子さんです。

蛇足かもしれませんが、確か昨年春の日曜日、幸弘のところに由平君が遊びに来ている時、たまたま雅子さんが、お父さんのお使いでみえたので、〝有沢先生のお嬢さんだ〟と二人に紹介したのが、なれそめの初めで、二人にとって私は〝有難い縁結びの神〟だそうです。

二月ほど前、二人から仲人を頼まれた折り、そう言って感謝されたのです。口下手で、本来は媒酌人などという大役などお引き受けできる柄ではないのですが、いっぺんでお引き受けする気になったのですから、おかしいくらいです。

苦労人には往々にして暗い陰があるものですが、この二人にはそうした暗さは全くなく、快活そのもので、いつも笑いが絶えないといった感じです。

「快活なる妻は一生を楽しくす」とか、もはや楽しい一生は約束されたとさえ言えるでしょう。

肉身思いの二人のこと、相寄り、相助け合って、しあわせという紅い実を結ぶであろうことを信じて疑いません。

どうか皆さんも、この若き両君に心からの拍手を送ってやって下さい。心から、この両君を祝ってやってやって下さい。そして暖かい心で両君の歩みを見守ってやって下さい。

よろしくお願いします。

頼まれ仲人

このたび、吉村、山内ご両家の慶事に、不肖媒酌の栄をにないまして、新郎・新婦お二方を、皆さまにご紹介申し上げる光栄に浴しましたことは、私どもの最も欣幸とするところでございます。

さわやかな風、澄み渡る青い空——この中秋の佳き日、新郎・道雄君と新婦・理子さんは、ただ今平尾天満宮の大前で、いともおごそかに結婚式をあげられましたことを、まず、ご列席の皆さまにご報告させていただきます。

新郎・道雄君は、吉村久敏氏の長男として生まれ、当年二十八歳、東山高校を経て、西海工業短期大学に学び、昭和三十七年同大学機械科をきわめて優秀な成績で卒業、直ちに月見鉄工に入り、現在、その大崎工場に勤務中の前途有為のエンジニアでございます。

その人となりは、誠実、まじめで実直、工場長をして「本社のエリートとして大切に育てたい」と言わしめるほどの逸材であります。そしてまた、その技術は、入社わずか数年にして、自らコンプレッサーの部品を考案、それがたちまち社内の認むるところとなり、逸早く社長から発明考案賞を贈られ、先輩、同僚の目をみはらせた俊才であります。そして余暇には、往年のスプリンターとして、今なお陸上競技を楽しみ、登山を愛するスポーツマンでもあります。

新婦・理子さんは、山内武雄氏の長女として生まれ、ご両親の薫陶よろしきを得て、すくすくと成人され、芳紀まさに二十三歳、昭和四十年中央高校を卒業後、大陽銀行西新支店に入社、八月末結婚を理由に退職されるまで同支店の模範社員として、恪勤精励されてきたのであります。

その性格は、きわめて明朗快活、一見鷹揚にしてしかも繊細緻密、温厚従順の中にも一本芯の通った近代感覚の持ち主であり、その上に結婚後も主婦としての安易な生活に甘んじようとはせず、「何か適当なアルバイトをしたい」と私に申し出られるほど、勤労意欲旺盛な女性でございます。皆さま、ご覧のとおり、理子さんは容姿まことに端麗、ヒナ人形を思わせるような麗人であるうえに、茶道、生け花、琴、編み物など、そのいずれもが免許皆伝の域に達し、日本的教養を深く身につけられた才媛でございます。

実は私、この縁談の仲人にあたり、新郎・新婦の双方とも、良く存じあげないままに月下氷人の役を引き受けたのでございますが、ご両家と交わりを深くするに従って、その家柄といい、肝心の本人の性格、教養といい、これほど似合いのご夫婦は、この世の中にそう多くはあるまいと、天の配剤と言うにはあまりにも恵み深い、有難い組み合わせであると確信するに至ったのでございます。

フランスの作家ロマン・ローランはその著『ジャン・クリストフ』の中で「男性は作品を創る。しかし、女性は男性を創る」と喝破しておりますが、私はこの新郎・新婦こそ、この言葉をそのまま実行できる唯一の組み合わせであることを期待し、またそれだけの実力を十分備えておられることを信じて疑いません。

このように似合いの新郎・新婦が、ここに皆さまの目の前で、ウエディングケーキにナイフを入れようとしているのです。

どうぞ皆さま、ご両人の前途を幾久しく祝福して下さいますようお願いいたします。そしてまた、互いに相寄り、相助けて、風雪に満ちたこれからの長い人生行路を、自分たちの手で切り開こうと誓い合っている新郎・新婦に、惜しみない愛情と限りない声援を送ってあげて下さい。

いささか冗漫に流れましたが、私はこのことを申し上げて新郎・新婦へのはなむけとし、皆さまへのごあいさつといたします。

新郎・新婦の友人（再婚）

宇野君ご夫妻に心からおめでとうを申し上げます。

私は宇野君の友だちで、きょうの仲人をつとめさせていただきました桜井でございます。

きょうの披露宴は、お二人のお望みで、肩のこらない、ごくくつろいだものということになっていますので、ざっくばらんにお二人のなれそめなど、ご披露したいと思います。

花婿の宇野桂介君は、私と同郷の出身で、小学校から高校までずーっと一緒で、大の仲良しでしたが、宇野君は横浜の大学に、私は京都の大学に進んだため、やや疎遠になりかけましたが、卒業後たまたま二人とも、この東京の、それもごく近くに住むようになって、また俄然、友情がよみがえり、今では家族ぐるみで交際している次第です。

花嫁の津村里絵子さんは、私の妻と若葉高校時代の同窓で、やはりずっと以前からご交際を願っております。

皆さんもご存知のように、宇野君が、不慮の事故で奥さんを亡くされてから、もうかれこれ六年になります。あの当時、やんちゃな幼稚園児だった陽子ちゃんも、もう小学校の五年生、すくすく育って、すっかり聞きわけのあるお子さんになられました。

父親一人の手で、少しのかげりもない明るいお嬢さんに

育て上げた宇野君に感服せざるを得ません。
陽子ちゃん思いの宇野君は、たとえウジが湧いてもやもめ暮らしをつづけようという考えだったようですが、私が会うたびに「君自身のためにも、陽子ちゃんのためにも、よき妻であり、よき母である人がいなければいけないよ」と、宇野君の耳にタコができるくらい力説するものですから、「陽子のいいお母さんになってくれる人なら……」と、やっとその気になってくれました。それが三ヵ月前のことでした。そこで、初の仲人を是が非でも成功させようと、ただちに愚妻と作戦会議を開いた結果、半月後には早くも見合いにこぎつけたのであります。
お相手はもちろんきょうの花嫁・里絵子さんですが、実を言うと私たちは大分以前から里絵子さんに白羽の矢を立てていたのです。
里絵子さんは最初の結婚に失敗され、かつて奉職されていた小学校に戻られて、一生独身で教育に打ち込まれる決心でいられたようですが、これまた愚妻の果敢な攻撃で、〝結婚後も教師をつづける〟という条件つきながら、ついに見合いを納得してもらいました。
里絵子さんは、ご覧のように、愚妻と同級といってもだれも信じないくらい若くて美しい女性ですから、いっぺんで宇野君の気持ちが傾いたようでした。里絵子さんの方も、「この人なら……」と、何かひらめくものがあったのでしょう。〝善は急げ〟というわけではないでしょうが、私たちが目を白黒させるくらい、トントン拍子に話が進んで、きょうというめでたい日を迎えたわけであります。
この父にこの子ありと言いますか、陽子ちゃんは大変なお父さん思いで「お父さんさえよかったら……」と初めから賛成でしたし、今では新しいママを心から歓迎してくれています。宇野君は「結婚は何度してもよいもんだ」といわんばかりの顔をしていますが、「里絵子さんをしあわせにして、お互いにこの結婚を最後にしなければ」と堅く心に誓っていることと思います。
しあわせに限界はないし、人に遠慮もいりません。過去の不遇、不幸を差し引いても、たっぷりおつりがくるくらい、しあわせになって下さい。二人なら、きっとそれができると信じます。
きょうは思いきりおめでとうを言うつもりでしたが、二人のむつまじさに当てられて、おめでとうばかりも言っておれない気持ちになってきました。

どうも私はひがみ根性が強いのか、宇野君がさっきから「早く二人だけになりたいのに……」とつぶやいているような気がしてなりませんので、これくらいで引き下がることにします。

どうか皆さん、二人の輝かしい再出発を心から祝ってやって下さい。

来　賓

新郎の上司

後藤君、本日ここにめでたく華燭の典をあげられまして、本当におめでとうございました。私まで、このめでたい席に列席させていただきまして、誠に光栄に存じます。心からお喜び申し上げるとともに、厚くお礼申し上げます。

僭越ではございますが、総務部を代表いたしまして、一言祝辞を述べさせていただきます。

後藤君と私との交際は、まだそれほど長いものとは言えませんが、昨年の秋、総務部全員で、ロマンスハイウエーから夢見高原へ旅行いたしましたとき、幹事役の後藤君が、万端行き届いた世話をされたことは、今もなお、私の脳裏を離れないものがあります。私はそれ以来、このような人物のお嫁さんになる人はさぞ幸福であろう、なんとか私の手で花嫁候補を推薦したいものだと考えておりましたところ、先月末、本日のこの式典のことを聞き、遅かりしか、と残念に思うとともに、私自身の結婚式でもあるかのような喜びを覚えたものでございます。

ところがどうでしょう、皆さん。後藤君は、それから数日して、結婚届を私のところに提出して参ったのであります。結婚式は十二月七日と案内しておいて、十一月末に結婚したという届け出を見た私はいささか面食らいました。電光石火というか疾風迅雷というか、後藤君のこの早業、この積極性に驚いた次第でございます。平素はおとなしい後藤君にして、なお、こと結婚ともなると、これほど積極性が出るものか、新夫人の威力まさに絶大、一日も早く、新夫人にお目にかかりたいものだと、本日のこの席をひそかに期待しておったのでございます。

本日、初めてお目にかかった新夫人の印象は、その容姿といい、挙措といい、おのずから教養の高さを表わし、好

漢後藤君に過ぎたるものがある、後藤君が大急ぎで、結婚届を出したナゾも、ここに初めて解けたような気が致しておる次第でございます。

私はうれしさのあまり、つい余計なことをしゃべってしまいましたが、このへんで私の率直な気持ちを披露させていただきます。

世間では、結婚は人生の花としてたたえます。全くそのとおりでございます。しかし、この花たるや、その瞬間の美しさだけに酔ってしまってはいけないのです。結婚の甘い感触が、そう長く続くものとは思われませんし、〝花に嵐〟というたとえのとおりで、社会のきびしい現実が、いつ、その花の下に忍び寄るかもわからないのです。

願わくは新郎・新婦、きょうの佳き日を記念して、明朗で堅実な第一歩を二人三脚で踏み出して下さい。そしてそのトレーニングのために元気よく新婚旅行に出発して下さい。こう申しているうちにも楽しい旅行の時間が迫るようで、私まで心さわいで参りました。これをもちまして私のごあいさつといたします。

新郎の父の知人

本日は誠におめでとうございます。

新郎・新婦はもとより、ご家族、ご親戚の皆さまにも、心からお喜び申し上げます。

〝幸福線〟とでも言いたいような、放射能をニコニコとまきちらしておられるお二人を見ていると、やはり「結婚っていいなァ」とつくづく思いますし、二十数年前の自分の結婚式のことなど、懐かしく思い出されます。

結婚式をおあげになったばかりのお二人を前にして、誠に心ないことを言うようですが、私は、お二人のお姿を、ただ晴れがましくながめているだけではありません。晴れやかな式服を脱いで、夫となり、妻となった明日からの日常生活の中で、新しい夫婦が、そのみずみずしいしあわせを生涯持ちつづけることのむずかしさを、私自身よく知っているからであります。

「恋愛とは美しい誤解であり、結婚とは惨憺たる理解である」と言った人がありますが、実は私もこれに似た感じ方をしております。

恋する人間は、日がな一日、相手に寄り添い、いつまで

もみつめ合っていたいと願うものですが、恋愛が結婚生活にまで延長されて、夫婦となり、一つ屋根の下でいつも一緒に生活するということになると、やがて、結婚が決して甘ったるいものではなく、自分の恋愛に誤解があったことに気がつくでしょう。

恋愛中や新婚当初は、相手を過大評価して、勝手に理想の夫、理想の妻にまつり上げているわけですから、自分の期待を裏切ったと、相手を非難するのは筋違いというべきです。

私はどんな理想的な夫婦でも、いつかは、夫なり妻なりに対して、きっと失望する日がくると思います。そしてそのうち、ケンカだってすることでしょう。

しかし、ケンカするたびに惨憺たる理解を深めて、ますます離れられなくなれば、それはそれで、いいのではないでしょうか。

理想ということが完全ということを意味するのでしたら、初めからそんな人間はいないのですから、理想の夫婦ということもありえません。

しかし、人間はもともと、不完全であるという認識のもとに、夫と妻とが少しでも完全な人間に近づこうと努力して生きる、その生きて行く過程でお互いに励まし合い、いたわり合って暮らすならば、それこそ理想的な夫婦と言えるでしょう。

苦楽を共にして生きて行くことを知っている夫婦は、それだけで、幸福な夫婦であり、理想の夫婦であろうと思います。

世間には、尊敬に値するすぐれた人たちが、たくさんおられますが、そうした立派な人たちでも、奥さんの目には〝平凡な夫〟としか見えないかもしれませんし、世間からもてはやされ、大層はなやかに見える人気スターや花形歌手も他人が見るほど、幸福ではないかもしれません。

私は人間の幸福というものはそんな世間的な関心とは別のところ、もっと平凡な、ささやかなところに、ひそんでいるように思います。

結婚生活は決してスリルに富んだものではなく、ドラマチックなものでもありません。単調で平凡な会話と行為の繰り返しといってもいいくらいです。その繰り返しの中に、夫婦に共通した最小限度の喜びや満足を見いだしながら、共に年をとってゆくことができたら、その時、初めて、結婚の幸福、二人の幸福が生まれてくるのではないで

しょうか。
　フランスのある小説家は「しっかり結びついた夫婦にとっては、若さを失うことは不幸ではない。共に年をとってゆく楽しさが、老いる苦痛を忘れさせる」と言っております。平凡といってしまえばそれまでですが、結婚生活の幸福などというものは、このように平凡なものかもしれません。
　結婚して二年、三年と生活して行くうちに、お互いが〝空気のような存在〟になれたら、その結婚は成功であり、二人のしあわせも約束されたようなものだと思います。
　相手を傷つけもしなければ、束縛もしない、それでいて絶対欠かせぬ空気のような存在、一緒に居ても、少しも目ざわりにならず、息苦しくもなく、存在さえも意識しない、そのくせ、ちょっと離れると、息苦しいほどその存在が意識され、その必要性が痛感される――そんな夫婦は結構しあわせではないかと思います。
　空気のような、つかみどころのない祝辞になってしまいましたが、これをもちまして私のごあいさつといたします。どうか、心からくつろげる楽しい家庭を築いて、いつまでもしあわせにおすごし下さい。

新郎の父の知人

　ほかに先輩各位、ご年長の方々もたくさんおられますのに、誠に僭越（せんえつ）で恐縮に存じますが、皆さまのお許しを得まして、本日ご招待にあずかりました一同を代表し、一言ごあいさつ申し上げたいと存じます。
　このたび、宮崎・吉浦ご両家の、誠におめでたきご結婚につきまして、ただ今、ご媒酌人東慎太郎様から、くわしくご紹介を承り、新郎・新婦のお人柄、ご経歴、あるいはまたご趣味など拝聴いたしましたが、私も新郎のご家庭とは長くご交際をいただいておりまして、新郎・星路（せいじ）君もまだ幼少のころから存じておりますので、この新郎に配するに、この新婦こそ、誠に好一対のこよなきご良縁と存じ、心から喜ばしく思っております。
　ご媒酌人東様からもお話がありましたが、私自身が存じ上げているところから申しましても、ご両家とも、いともご円満、ご裕福であり、大変行き届いたご家庭でありまして、この明るくなごやかなふんいきのうちにご成人になりましたお二人は、これまた円満で温和なお人柄であり、将

来、互いに助け合って、立派に家庭生活を営まれ、社会的にもご活躍されることを堅く信じておるものであります。

前途大いに期待される星路君が、今やよき配偶者として、かくも美しいご利発な葉奈さんをお迎えになりましたことは、誠に喜びにたえない次第でございます。

末久しくご幸福でありますようにお祈り申し上げます。ご両家の皆さま、ことにご両親様がたのご満悦もさこそと拝察申し上げます。どうぞご両家とも、ますますお栄えなさいますよう、あわせてお祈り申し上げます。

ところで「結婚は家庭生活の第一歩である」と申しますように、お二人は、きょうから、新しい生活のスタートを切られるわけでありますが、家庭生活は長い間つづくものでございますし、そうそう、よいときばかりではありませんん。風の日、雨の日がありますように、いろいろな苦しみや悲しみ、悩みなどが人生にはつきものであり、なかなかかままならぬものでございます。

お互いに深い理解と堅い愛情に結ばれたお二人は、いかなる時にも、はぐれるようなことは決してないとは存じますが、きょうの誓い新たに、どうかお二人で強く手をつなぎ、どんな場合にも、いたわり合い、助け合っていらっして下さいますようお願いいたします。

本日のご祝宴に、私ども大勢お招きいただきまして、ご丁重なおもてなしにあずかり、有難くお礼申し上げるとともに、心からお祝い申し上げます。

これをもちまして私のお祝いの言葉といたします。

新郎の父の友人

ご指名にあずかりましたので、一言お祝い申し上げます。

本日は、この晴れがましい華燭の盛典にお招きいただいただけでも、無上の光栄と存じておりましたのに、はなむけの言葉まで求められましたことは、誠に過分のことと恐縮いたす次第でございます。

先ほどからのご媒酌人のご紹介や、来賓の皆さんのお祝辞をお聞きしまして、新郎・新婦のお二人とも、人並みすぐれた資質の持ち主であることを知り、そのようなお二人ならば、今さら何も私ごとき者が、つけ加えて申し上げる必要はないように思われます。必ずや理想的な家庭をつくり上げられて、社会的な信望も得られることと確信いたし

ます。

老婆心ながら、思うままを一言だけ申し上げることにいたしましょう。

ご媒酌人の話によりますと、新郎は幼稚園以来ずっと秀才コースを順調にたどられ、現在お勤めになっている県庁でも、頭脳のさえを発揮されて、最も将来を嘱望されておられるとのことですから、将来のご栄達はすでに保証されていると申せましょう。

この新郎に配するにこの新婦と申しますが、文字通り才子と才媛のすばらしき縁組みというべく、前途はまさに洋洋たるものがあり、喜ばしい限りであります。

ただ私は、お二人があまりにも資質に恵まれ、環境にも恵まれて、これまであまりにも順風満帆だったために、人間や社会に対する見方や考え方を誤られて、将来少しでも誤解を招かれることのないように、心ひそかに願うものであります。

世の中には、資質にも恵まれず、環境にも恵まれない人がたくさんいることは、私が改めて言うまでもないことと思います。

優等生には劣等生の気持ちはわからないでしょうし、落第したことのない人には落第生の悲哀はわからないと思います。

貧乏したことのない人には、貧乏のつらさやくやしさ、失恋したことのない人には、失恋の悲しみや苦しみがわからないだろうと思います。

それと同じように順調に育った人には、逆境に育った人の気持ちは、とてもわかってもらえないのではないでしょうか。

そこで私は、お二人に、とりわけ、新郎に、これから進んで苦労され、いかなる人の気持ちも察しうる、いわゆる人から苦労人といわれるような人物になってほしいと思うのでございます。

世の秀才にありがちな独善的な人間ではなく、血も涙も豊かな人物になっていただきたいのであります。

お役所勤めの方は、頭がキレルという点では感心させられますが、人心の機微にうとく、とかく国民大衆から浮き上がった、御仕着せ行政と言いますか、国民不在の行政になりがちなのは残念でなりません。

もし、すべてのお役人が苦労人で、大衆の気持ちを知り、もっと大衆に密着した仕事を心がけてくれたら、行政

にも暖かい血が通って、私たちのこの社会はどんなにか明るく、楽しくなるだろうと思います。

このようなおめでたい席で、苦言のようなことを申し上げて、はなはだ礼を失したようですが、新郎が今後大きく、躍進される一助にでもなればと考え、あえて申し上げた次第です。

なにとぞ、微意おくみとりのうえ、エリート意識をさらりと捨てて大衆と共に生きて行かれますようお願いいたします。

お仕事ももちろん大事ではありますが、暖かい家庭を築くこともそれ以上に大事かと思います。

どうかお二人力を合わせて、暖かい家庭を築いて下さい。

新郎の父の取り引き先

本日は、このおめでたい宴席へお招きを受けまして、光栄に存じます。ご新郎、ご新婦のご多幸はもとより、ご両家のご隆盛を謹んでお喜び申し上げます。

私はご新郎のお父上である有隣商会の矢野友喜さんとは、二十年以上もお取り引きをして、とりわけ親密なご交際を続けてまいりました。この長い年月の間に、世の中はめまぐるしく変わり、青息吐息の苦しい時もたびたびありましたが、お互いに助け、助けられて、この年月を生き抜いてまいりました。

お年をとられて少々白髪がふえたとはいえ、まだまだ青年をしのぐほどお元気でありまして、お仕事の夢も大きく目的に向かって、一歩一歩堅実に進まれております。ご長男の広海さんのよき協力を得られて、ますますご発展されることでありましょう。

私の尊敬する矢野さんは、まさに努力の人であり、信用をモットーとされる誠実な方でありまして、私など、いつも感心させられております。また矢野さんはまことにご聡明で、進取の気象に富んだ方でもあります。

その父の血を受けられたご長男が、きょうめでたくご結婚になり、お父さんのよき後継者として、名実ともに充実されることは、誠に喜ばしい限りであります。

私は家庭的な交際もいただいておりますので、広海さんのことも、よく存じております。商家にしては珍しいくらいしつけのきびしいご家庭だったせいか、お小さいころから大変礼儀正しいお子さんで、驚くほどハキハキしていら

っしゃいました。小学生のころから、お手伝いもよく進んでおやりになっていたように覚えております。

広海さんは当市立大学を卒業されてから、お父上の片腕となって、家業に精励されており、いずれは有隣商会を背負って立たれる方でありますが、お父上に似て働き手であり、誠実であり、その上、すばらしい近代的経営感覚を身につけておられます。とにかく、やることなすこと、すべてが斬新で、お父上そっくりだと思わされること、たびたびであります。

そういう点から見ましても、有隣商会の前途は非常に明るく、大いなる発展が望まれますことは、まことにうらやましい限りであります。

この上ともにご新郎は、ご新婦と相たずさえて、家業発展のためにご尽力なされるよう心からお願い申し上げます。

ご新婦・アイ子さんも、ご両親のご薫育よろしく、まことにご立派な花嫁さんで、しかもご賢明な方であると承っておりましたが、本日親しくお目にかかりまして、なるほどと感じている次第であります。

ご実家が、ご新郎と同業で取り引き関係にあることは、非常に結構なことと存じます。夫婦はなによりも理解がなくてはなりませんが、これまで、ご実家の商いを直接間接に見られてきたご新婦ですから、ご新郎に対して尽くすべきことがらは、すでにおわかりでしょうし、その点申し分がないと思います。

ご媒酌人のお話によりますと、アイ子さんはソロバンが達者で、計数に大変明るくていらっしゃるとか、おそらく今後、広海さんを助け、よく内助の功を発揮されて、有隣商会を盛り立てて行かれるであろうことを確信いたします。

慎んでご両家の繁栄を祈り、お二人の上に幸多からんことをお祈りして、私のご祝辞のあいさつに代えさせていただきます。

本日は丁重なるおもてなしにあずかり、心からお礼申し上げます。

新婦の知人・上司（女性）

お二人の新しい門出を心からお喜び申し上げます。まゆみさんは一人娘でいらっしゃるせいか、五つも違う私を姉のように親って下さり、きょうのご新郎である英孝さんの

こともよくお伺いしておりました。

お二人のご交際は、誠に愛すべきものでしたし、きょうめでたく、ご結婚なさいまして、私は喜びと感激でいっぱいでございます。

お父上の事業の失敗から、まゆみさんは小・中学校のころ、大分貧しい生活をなさったのですが、お父上の「心まで貧しくなるな」というおさとしを守られて、少しも悪びれずのびのびとお育ちになりました。小・中学ともずっと学級委員だったことをみても、どんなに級友の信頼が厚かったかわかろうと思います。

高校を出るとすぐ、私が働いているサクラテレビに入社されましたが、大変もの静かでうるおいのあるまゆみさんは、お声も大変おきれいですので、会社の顔とも言われる受け付け係をずっとおつとめになりました。特に笑顔がおきれいで、まゆみさんにニッコリされると、私など、ムシャクシャや疲れがいっぺんに吹っ飛んでしまうような気になってしまいます。

まゆみさんは、いわばサクラテレビの看板娘でいらっしたわけで、この結婚を機に退社されたことが、非常に惜しまれてなりません。

私のよき友であり、私のひそかなる誇りでもありましただけに、なおのこと哀惜の念が深うございます。

私はまゆみさんとご近所でもあり、たびたび電車でご一緒しましたが、まゆみさんが、お年寄りや赤ちゃんや、おなかの大きい方など乗ってみえますと、自分がどんなにお疲れになっているときでも、さーっと立って席をお譲りになるのには感心しました。その譲り方がまた実に自然で、心のゆかしさがしのばれたものでございます。

世の妻はややもすれば、家庭を守るだけの『主婦』という名前にコンプレックスを感じて、社会に出て行く女性をうらやましく感じたりするようですが、私はむしろ『主婦』という職業に誇りを感じていいのではないかと思います。外に出て、会社や工場などに勤めるのでなくては、近代女性の資格がないかのように言うのは、行き過ぎではないでしょうか。

いかに社会に出て働いても、家事をおろそかにして、夫に愛想を尽かされたり、子どもを不幸に追いやったりしては、なんにもなりません。

まゆみさんは、きっと誇りと自信をもって『主婦業』に専念なさることと思います。

ところで、私たちが〝生きる〟ということは、常に何かを〝愛している〟ということではないでしょうか。常に何かを愛していなければ、私たちは生きてはいられない、愛は生きることの絶対的条件でさえあると思います。

ビクトル・ユーゴーも「人生にあって最も大切であり、価値あるものは、名誉でもなく、財産でもなく、天才でもなく、愛し愛されることである」と言っております。

どんなに偉い芸術家でも、億万長者でも、また、どんな絶世の美女でも、自分のそばに、心身ともに裸になることのできる、そういう人を、少なくとも一人持っていなければ、決して幸福にはなれないと思います。愛こそが人間の孤独を救い、人間を慰めてくれるものではないでしょうか。

真の愛は、〝その人のために〟愛することであり、その人に何を与えるかを考えることであると思います。つまり、真の愛は、〝相手に尽くすべきもの〟ではないでしょうか。

まゆみさんが、人に尽くすすべ、人を愛するすべをしっかり身につけておられることは、この私が保証いたします。

このようなすばらしい奥さまをおもちになるご主人さまこそ恵まれたお方だと思います。どんなにかおしあわせでございましょう。

終生妻を愛するということは、お仕事以上に気骨の折れることかもしれませんが、どうか英孝さん、この愛すべきまゆみさんを幾久しく可愛がって下さい。

幸多き人生でありますよう、祈っております。

きょうは本当におめでとうございました。

新婦の父の友人

ただ今のご媒酌人のご紹介により、新郎の明平さんが高校出、新婦の真知子さんが大学出ということを知り、ただそれだけで、きょうのご結婚が実に立派に思えて、私はうれしくなってしまいました。

学歴にこだわらないという一事だけで、お二人は限りなく立派だと思いますし、心から拍手を送りたいと思います。お二人のような美わしいカップルが、どんどんふえることを、願わずにはいられません。

他人には「学歴は問題にすべきではない」などと進歩的なことばかり言っているお嬢さんが、いざ自分の結婚とも

なると「やはり大学出の人でないと……」と俄然保守的になったりします。

身勝手というか、打算的というか、皆さんもこのようにチャッカリした人物にきっと思い当たられることでしょう。

わが国では、まだまだ学歴が尊重され、大学出という肩書きがモノをいう世の中ですから、学歴を問題にしたくなるのは、わからないではありません。

しかし、結婚は、人格と人格の結合であるべきであり、一人の男と一人の女とが精神的・肉体的に結合するのが目的であり、理想的なのですから、相手の人間的な価値を見きわめようとする前に、学歴や肩書きをとやかく言うのは、不純であり、あまりに打算的すぎると思います。学歴や肩書きは、あくまでも単なる従属的条件にしかすぎません。

一流大学を出たからといって、みんながみんな人間として立派だとは言えず、中卒だからといって、みんながみんな人間として劣っているとは決して言えません。

お百姓さんでも大工さんでも、立派な人はあくまでも立派です。代議士とか社長とか偉そうな肩書きがついていても、業者からばく大な袖の下をもらったり、会社のカネで豪壮な妾宅を建てたりするようなお粗末な人物もたくさんいることは、私が指摘するまでもないと思います。要するに、人間の価値は学歴や肩書きで決まるものではないということです。

私の友人に一流の大学を出、一流の会社に入って、現在、部長をやっている秀才がおりますが、私と違って背が高く、スマートなハンサムで、人あたりもよく、実に気がつく男で、私たち友人の間ではもちろん、会社でも信望を集めております。

社会においては、そのように申し分のない人物ですが、家庭における夫、また父としては、大きな欠点をもっているようであります。

彼は、自分がすぐれた人物であることを家族にまで誇示したいのか、奥さんに芯から打ちとけてくれないらしく、二人で心底から笑い合ったことなどほとんどない、といつぞや奥さんがこぼしておられました。

たまに家に居ても、自分の書斎で読書とか書きものばかりして、奥さんと談笑したり、お子さんとたわむれるようなことは、滅多にしないそうです。たまにお子さんに声を

かけることはあっても、「勉強しているか」というようなことばかりで、今ではお子さんから煙たがられているだけのようであります。

これでは、夫としても、父としても失格だと言わねばなりません。

秀才でスマートで、収入の多い地位にあっても、このように夫としても立派だとは必ずしもいえないのでありま す。

私は鈍才で社会的地位もなく、決して収入も多くありませんが、家庭はいつもなごやかで、愚妻も結構しあわせそうだし、家庭人としては秀才の彼よりも上だと、その点、低い鼻を高くしている次第であります。

人間的な結びつきを大事にされる堅実なお二人のことですから、この結婚を機に、ますます堅く、ますます強く結ばれて、だれにも負けないしあわせな家庭を築かれることと信じます。

きょうは、いつになく私の心がほのぼのとしていることをお二人にお伝えして、私のはなむけの言葉に代えたいと思います。

どうか、花も実もある楽しい人生をお送り下さい。

新婦の母の友人（女性）

この世の喜びを一身に集められたようなお二人の、いかにも晴ればれとしたお顔を、こうして拝見しておりますと、きょうばかりは、〝世界は二人のために〟あるようにさえ思えてきます。なんですか、私まで晴れやかな気持ちになり、〝二人の世界〟にそっと加えていただきたいくらいでございます。

ゆかりさん、ご結婚おめでとう。

皆さま、きょうは本当におめでとうございます。

ご新婦のゆかりさんとは、ゆかりさんのお母さまと私とが、女学校以来の友だちという関係から、家族のように親しくさせていただいております。

ゆかりさんは、大変お心のやさしいお嬢さんであり、お姿のようにお心もとてもおきれいで、うちの娘など、おこぼれにあずからせたいくらいでございます。

このような、お顔もお心も美しい花嫁さんをお迎えになられました向井家は、どんなにかおしあわせだろうとうらやましく思います。

ご新郎の研一さんにお目にかかるのは、きょうが初めて

ですけれど、ゆかりさんが将来をお誓いになったお方だけに、見るからにご立派で、この方なら、きっと末長くご円満に行くに違いないと確信し、太鼓判を押したいと思います。私、メガネはかけておりますけれど、人を見る目には自信がございます。

ゆかりさんについて、ぜひここでご紹介しておきたいのは、お料理のお腕前でございます。

ゆかりさんは、二年間、料理学校でみっちり勉強されただけあって、お料理が大変お上手で、また大変お好きでいらっしゃいます。

何度もゆかりさんの手料理をご馳走になりましたが、私はそのたびに、ゆかりさんの腕に感嘆し、また、そのたびに、自分の腕に幻滅したものでございます。

こう話しながらも、さっぱりしたお台所で、かわいいエプロンをかけたゆかりさんが、楽しそうにハミングしながら、せっせとお料理をつくるお姿が目に浮かぶようでございます。

夫婦そろってゆかりさんの手料理に舌鼓（したつづみ）を打ったある日のこと、夫が「君がゆかりさんの三分の一でも料理がうまかったら、僕の人生は二倍楽しく、二倍しあわせになったろう」と冗談めかして言ったことがありますけれど、あながち冗談ではなく、案外本音だったのではないかと思います。

私は生来、手先が無器用なのか、悔しいくらいお料理がダメで、いまだに、夫のしあわせを半分にするようなお料理ばかり作っております。

お料理は毎日のことであり、お料理がうまいということは、妻のすばらしい財産であり、家庭の立派な財産であると思います。

研一さんは舌がこえていらっして、お料理には大変うるさいお方だとお聞きしておりますけれど、ゆかりさんの手料理なら、きっとご満足なさることでしょう。

舌鼓や腹鼓を打たれるのは、一向にかまいませんけれど、胃や腸をパンクさせない程度にお願いしておきます。

「接吻はつづかないが、料理はつづく」――きょうのご新郎・ご新婦には全然ピンとこない言葉かもしれませんけれど、まさに、家庭の大いなる魅力は料理にあり、料理こそ妻の味であり、家庭の味ではないでしょうか。

ゆかりさんが、いかにお料理の達人とはいえ、研一さんとは味つけの好みなど少しは違うでしょうし、弘法もなん

とやらで、時には失敗だってなさるでしょう。そんなときも「うまい！」とおいしそうに食べてあげて下さい。

おやさしそうな研一さんのこと、きっとそうした暖かい思いやりで、ゆかりさんをいたわって下さることでしょう。

どんなすばらしいお料理も、健康で、心楽しくなければ、決しておいしくいただけるものではありません。

どうか、〝いつもおいしくお料理を食べられる夫婦〟になって下さい。

ゆかりさん、当分はどうしても甘くなりがちでしょうから、いつもより塩加減を強くなさってはいかがでしょうか。

新婦の恩師

突然のご指名をいただきましたので、なんの準備もなく、うまく話せないかもしれませんが、一つだけ私の体験から、女房業の心得……のようなものを話してみたいと思います。

むかし、佐賀県の鍋島藩に〈葉隠れ〉と称する武士の心得のようなものがありまして、〈武士とは死ぬことと見つけたり〉という精神が中心になっていました。これは本当に、真理をついている言葉だと思いますが、さて〈武士〉を〈女房〉に置き代えてみますと、私は〈女房とは、跡片付けとみつけたり〉という言葉にとどめをさすと思うのです。

すばらしい美人でも、優秀な才女でも、離婚した女性をみますと、ことごとく、跡片付けのできない奥さんであった――と断じても全く間違っていませんでした。

世の中には、マメな男性がいくらでもいます。料理にしたって、まごまごしていると奥さんよりじょうずにこなす人だっています。テーブルに食器を並べるくらいのことなら、五つの坊やにだってできることです。

ところが食べた跡はどうでしょう。跡片付けの好きな旦那や子どもはいませんよ。それが奥さんの仕事になってくるのです。

それこそ跡片付けまで他の人間に頼むような奥さんでは、もう妻という名で呼ぶことはできません。

私もよく、友人や若い人たちの家庭に招かれることがあります。玄関へ一歩足を踏み込んで、まずそこに細かいゴミが散らかっていたり、何足もの靴やゲタが乱雑に放って

あったりする家庭を見ると、すぐ（ああ、この分だと台所の流しも、汚れた茶碗やお皿でいっぱいだろうなァ……）と、想像してしまいます。

洗たく機の上には何日も洗ってない汚れ物が積んであるだろうなァ、と思うし、押し入れの中もタンスも整理されていないだろうなァ、と思わざるをえません。

そこで――私はいつも、その家の夫と妻の間にある危険なものを感じないわけにはいかないのです。

そういう家庭では、必ず、夫は妻に感心することが少ないでしょうし、妻に頼り、任せる気持ちもうすらいでいることでしょう。もう破鏡に至る危機の芽が目のあたりに感じられてしまうのです。

結婚した当座は、やれ美人だ、やれ頭がいいの、スタイルがいかすのなどと、そんな枝葉末節の魅力にのみとりつかれているものですが、それが結婚して三年、四年とたってくると、新婚時代に抱いていたそれらの魅力が、いかにはかないものであったか――と気づいてくるのです。

また、女性の方だって、スタイルも顔も頭のよさも、かなり変化していくはずです。跡片付けも満足にできない女房に、さて夫をつなぎ止めるどんな新しい魅力が出てくるというのでしょうか？

台所のことなんか、おばあちゃんかお手伝いさんに任せておけばいい……などという奥さんがいたら、一体その人はだれのために、なんのために必要なのでしょうか。

世の中で、用のないものは存在価値もなく見捨てられていくのは当然のことです。女房だって同じです。つねに（私は主人にとって必要な人間だろうか）と考えることです。

跡片付けの中には、食べた跡の食器の整理から掃除、洗たく、さらに疲れて帰る旦那さんの、精神的なシコリを取り除いてあげる跡片付けまで含まれるのです。

その範囲が広いほど、跡片付けがうまいほど、いい女房としての株価も上がっていくというわけです。

どうぞ、跡片付けを十分にマスターできる奥さんになって下さい。

乾　杯

美しい愛のために

桂木洋一郎さんと江波京子さんのお二人は、長い間のご交際が美しい実を結んで、ここにめでたく華燭の盛典をおあげになりました。

希望と喜びの花が見事に開いて、お二人の感激もひとしおのことと思います。

お二人のむせかえるような幸福感が、この会場いっぱいにあふれております。

見るからにお似合いのご夫婦で、ご両親様をはじめ、ご両家皆さまのお喜びも、いかばかりかとご推察申し上げます。

お二人がこの喜び、この感激を忘れずに、〝おまえ百まで、わしゃ九十九まで〟仲睦まじく暮らされますよう祈らずにはおれません。

では今から、お二人の美しい愛のために、そして、輝かしい未来のために、共に乾杯いたしますので、グラスをおとり下さい。ご唱和願います。

「おめでとうございます」

幸多き門出に

新郎・新婦は相思相愛の仲であり、そのうえ、皆さまからさんざん祝福されて、きょうは、さながら幸福の化身のようでございます。

結婚は言うまでもなく、第二の人生の出発点であり、これからはどこに居ても、どこに行くにも二人連れです。

新婚当初は、二人連れも感動的でしょうが、いつしか二人連れにも慣れ、悪くすれば二人連れにイヤ気がさすようなこともあるかもしれませんが、はい、さようならと二人連れをやめるわけにはいきません。

不完全な人間二人が、助け合い、補い合って、より完全な人間として生きて行くために、結婚して二人連れになるのだと、私は信じております。

どうぞ、末の長い歩みですから、忍耐強く助け合いの生活を続けて、しあわせな二人連れの一生を、お過ごしになるよう祈ります。

心をこめて乾杯し、お二人の幸多き門出を祝いたいと思

います。ご起立下さい。
　ではどうぞ、グラスをかかげて
「ご結婚、おめでとうございます」

限りなきしあわせのために

　好男君と春子さんのお二人は、三年にわたるロマンスが実り、きょう厳粛に、夫となるべき、また、妻となるべき杯（さかずき）を交わされました。お二人にとって、きょうは、わが生涯の最良の日であり、終生記念すべき日であります。
　結婚――実にすてきな言葉です。楽しい言葉です。しかし、「結婚とは二人が互いに見つめ合うことではなくて、ともに同じ方向を見つめること」でありまして、恋愛のように甘いものではないかもしれません。
　きょう神前で永遠の契りを結ばれたお二人の、これからの人生行路は、平坦で幸福に満ちているとは信じておりますが、山あれば谷ありで、とかくままならぬのが人生であります。
　いつまでも、きょうと同じ気持ちで、強く手を握り合い、きっと前を向いて、明るく、楽しく、生きて下さいますようお祈りいたします。
　ご列席の皆さまも、この輝かしいお二人の新しい門出に惜しみない拍手を賜わりますようお願いいたします。
　好男君と春子さんの結婚を祝福するとともに、お二人の限りなきしあわせを祈って、皆さまとご一緒に乾杯したいと思います。ご起立のうえ、ご唱和を。
「おめでとうございます」

上役・先輩

新郎の上司

　森山君おめでとう。
　年来の望みがかなって、きょうここにめでたく結婚式を挙げられ、さぞうれしいことでしょう。心からお祝い申し上げます。
　ご媒酌人のご紹介でもご承知のとおり、森山君は私と同じ文芸新聞社勤務の中堅記者、新婦の時友敬子さんは家庭婦人社の編集者であり、ご両人とも文化的なお仕事にたずさわっておられますが、ご結婚後もお互いに自分の能力を生かしてご活躍を続けて行かれるというお話で、私も大変

喜んでおります。

戦後、働く女性は非常に多くなりましたが、三年、四年と経験を積んでこれからというときに結婚して、あっさりやめて行くのは、なんとしても惜しいと思います。

結婚を一生涯の就職と心得、それを捜す方便として一時的に職につく、といった誤った考えで社会に出る女性が少なくないのは、誠に残念でなりません。そういう誤った考えの女性が、結婚して妻になると、とかく、ないものねだりをして、自分の欲求を満たしてくれない夫を軽蔑したり、自分の結婚に不満を感じたりするようであります。

しかし、自分の仕事に社会的意義と生きがいを感じている女性、特に自主的に共働きする女性には、そういうワカラズ屋は少ないのではないかと思います。働く女性は夫の仕事に理解がありますから、夫に過大な要求はしません。

現在では、共働きはごく普通のことになってしまいましたが、共働きによって女性が視野を広げて健全な生き方をするようになれば、夫である男性の生活も健全なものとなることでしょう。

ただここに、一つ困った問題があります。それは、女性の職場進出が日を追って激しくなる半面、知的職業からの女性締め出しが、だんだん露骨になってきたということです。

これにはもちろん、女性側にも問題があると思いますが、自分の領分を女ごときに侵されたくないというミミッチイ男性たちが、共同戦線を張って、女性の進出を断固阻止しようとするからであります。いわば男性の女性に対する嫉妬心がそうさせるのだと思います。日本の男性は、女性ほどには進歩しなかったと言えるかもしれません。

こういった現実ですから、結婚した女性が、知的職場を守り抜くことは、並みたいていのことではないかもしれません。しかし、ネを上げて家庭に逃げ帰ることは、その女性の敗北であるばかりでなく、男性全体の進歩にとってもマイナスだと思います。どうか敬子さん、自分自身の誇りのためだけでなく、森山君のために、ひいては日本の男性のために、できるだけ長く職場に踏みとどまって、男性のハナをあかして下さい。

最近、サラリーマンの中に、マイホーム族がふえていると、よく言われますが、マスコミが騒ぐほどではあるまいと思います。同性として私は、男性がいかに女性化したとは言え、そんなフガイない人間ばかりではないことを信じ

ております。

働き盛りの男性が、精力のほとんどを家庭に傾注するというようなことは考えられませんし、またそうあってはならないと思います。もちろん、家庭は大事にしなければなりませんが、家庭と同様に仕事も大事にすべきだと思います。

もし男性がマイホーム族に転落しかけたら、むしろ女性が、男性を家庭から社会へ押し出すことが好ましいのではないでしょうか。そのためには、女性自身が、妻の座に安住することなく、夫と共に社会に出て働くことが一番だと思います。常に前向きの人間としてよい仕事に打ち込むことはすばらしいことではないでしょうか。

もちろん、共働きには、家庭と職場とのかけもちで妻が過労に陥るとか、家庭的なうるおいを欠くとか、いろんな難点もありましょうが、それに負けてしまうようでは、結局、女性の進歩も、また、男性の進歩も望み得ないでしょう。

二人相寄り、相たすけて初心を貫きとおされることを期待いたします。最後に森山新夫妻のご多幸を祈ってごあいさつといたします。

新郎の上司

葉山君、おめでとう。心からお祝い申し上げます。

どうか苦楽を共にして円満な家庭を築かれ、お二人とども長寿をまっとうされますよう、心からお祈り申し上げる次第であります。

葉山君ははつらつたる若さのみなぎる青年であり、職場では責任感が強く、すこぶる勤勉で、信頼に値する立派な社員でありますが、きょうここに、見るからにやさしく、聡明な奥さんを迎えられて、健康な家庭を持たれますことは、ご両家の繁栄のみならず、社会的にも誠に有益なことと、喜びにたえません。

葉山君の活躍は、今後、一段とめざましいものがあろうと、今から大いに期待しております。

私がこれから申し上げることは、私の十有余年にわたる夫婦ゲンカのキャリアから生まれたケンカ防止法、いわば夫婦和合、家庭円満の秘訣であります。

夫婦が生活していくうえで一番望ましいことは、いうまでもなく家庭円満ということでありましょう。どんなにお金があり、どんなに立派な邸宅に住んでおりましても、夫

婦の間に冷たい対立がありましたら、二人は決して幸福とは言えません。だからこそ結婚する男女のすべてが、夫婦和合し、幾千代かけて仲睦まじく、と願うのであります。

まあ、結婚当初は、お互いが、お互いの立ち場なり、考え方なりを尊重しておりますので、夫婦ゲンカなんかあまりしませんが、やがて何年かたちますと、お互いに遠慮がなくなり、自分というものをムキ出しにする結果、夫婦の愛情にヒビがはいって形だけの夫婦というような、仲の悪い夫婦にもなりかねません。

私の好きな言葉の中に、「親しき仲にも礼儀あり」という格言がありますが、私はこれを「夫婦の仲にも礼儀あり」と言いかえてもいいのではないかと思います。敬意やつつしみを表わす、この礼儀を守るという心がけは、夫婦円満に欠かせないものだと思います。

親しみに慣れ、礼儀を忘れると、ついわがままになり、勝手なことを言い合って、あげくの果てはおきまりの夫婦ゲンカになってしまいます。

夫婦は一心同体などと申しますけれども、夫婦といえども、二人の人間であることに変わりありませんから、夫婦の間にも守るべき礼儀はあると思います。いや、長い人生を共にする夫婦だからこそ、この礼儀を守るという心がけが、より一層大事なのではないでしょうか。

また、夫婦生活で非常に大事なことは、相手を理解しようとする気持ちではないかと思います。

私たちが夫婦になるのは、お互いに相手を愛し、理解したからではなく、これから相手を理解するためだとさえ言えるかもしれません。お互いに相手を徹底的に理解したいという情熱が夫婦という形をとらせるのだと思います。

一口に理解すると申しましても、これは大変むずかしいことで、理解しているつもりでも、的がはずれていることも多々あります。けれども、理解しようという気持ちを終生失わないように努力し、同時に、自分の欠点を少しずつでも無くしていくように努力すれば、仮に少々のもつれが生じても、きっとうまくほぐしてゆけると思います。

もちろん、理解という言葉の中には、相手の気持ちを尊重するということが含まれております。夫は妻の好ききらいを尊重し、妻は夫の好ききらいを尊重するという、いわば暖かい思いやりです。そして、この思いやりの積み重ねが愛であろうと思います。

どうか円満な家庭を築いて、末長く幸福な生活をお過ご

しになられるようにお祈りいたします。

新郎の上司

きょうの佳き日に、島津和広君と山川ひとみ嬢が新しい人生のスタートを切られますことは、誠にめでたく、心からお喜び申し上げます。

お二人を、さっきからじっと見ておりますと、結婚できてうれしいという単なる甘い喜びだけでなく、手をがっちり握り合って、たくましく人生を生き抜こうという決意のほどが表情ににじんでいて、頼もしい限りだと思います。このお二人なら、必ず花も嵐も踏み越えて行かれるに違いありません。

承りますと、結婚後も当分、共稼(かせ)ぎをなさるとのことですが、誠に結構なことだと思います。

実は、私たち夫婦も、結婚して長男が生まれるまでの二年間くらい、共稼ぎをしましたが、当時はまだ、社会で働く女性、いわゆる職業婦人は少なく、家内など、だいぶ肩身の狭い思いをしたようでございます。

しかし、今ではあらゆる職場で、男性に伍(ご)して思い切り仕事ができるわけですし、うらやましいような気がします。

時代の流れとともに、働く女性は急激にふえており、既婚女性の占める割り合いが次第に高くなっております。これは、腰かけ的だった女性が、次第に職場に定着し始めたことを示し、喜ばしい現象と言わねばなりません。

妻が職業を持つということは、もう今では珍しいことでもなんでもなく、むしろ当たり前のことになりましたし、妻が職業を持ったからといって、夫の生活能力をとやかく言う人はまずあるまいと思います。

夫の給料だけでは、どうしてもやっていけないという生活困窮型も、もちろんありましょうが、多くの共稼ぎ夫婦は、大いに稼いで、大いにレジャーを楽しもうという享楽型か、働けるうちに働いて、将来に備えようという貯蓄型ではないでしょうか。

共稼ぎのよい点は、収入という経済的な面だけでなく、奥さんの若さや美しさを保つうえでも効果があることでございます。

何かの本に、「朝から晩までだらだらと家事に追い回されたり、あるいは、日がな一日ぼんやりと夫を待って暮らしている妻は、職業を持っている妻より、肉体的な衰え

も、精神的な老化も早い」と書いてありましたが、確かにそういうことは言えると思います。つまり、妻が働くということは、経済的な面ばかりでなく、精神的にも肉体的にもプラスしているわけで、まさに一石三鳥でございます。
しかし、そう言えるためには、仕事と家庭の両立に、よほど工夫を凝らさねばならないと思います。そうしなければ、妻は逆に心身ともに疲れてしまうでしょう。
女性が職業を持ち、同時に妻の役割りも果たすとき、家に居る短い時間に、せいいっぱい妻としての役割りを果たさねばならず、どうしても無理が生じがちでございます。肉体的、精神的な疲労が積み重なりますと、いつしか笑いまで奪われて、笑えぬ妻にさえなりかねません。
働く妻は、働くことに生きがいと誇りを持っている半面、いつも家庭の仕事が十分にできない、夫のめんどうを十分にみれないという劣等感も持っているようです。そうした心の負担が、いつしか重くのしかかって、肉体の疲れまで引き起こすのではないかと思います。
昔は、夫のため、子どものため、家のため、おのれを殺して生きるのが、〝良妻〟でしたが、昔は昔、今は今、現代の働く妻は、そういう昔の良妻の幻影や、家事への劣等感を捨ててしまわない限り、共稼ぎはとても長続きしないのではないでしょうか。
〝昔の良妻〟に悩まされるのは愚かだし、一度その幻影を打ち破って、生活全体を切り替え、妻としてのおのれをいかに生かすかを考えなければいけないと思います。
共稼ぎは結構ですが、わが国の現状では、妻が出産して育児という仕事が加わりますと、なかなかむずかしくなってまいります。妻と職業は両立しても、母と職業の両立はまだまだ非常に困難です。
もっとも、子どもは母親が育てるのが一番いいようですから、子どもができたら家庭に帰るのがいいのかもしれません。
お二人も、いつかは可愛い赤ちゃんができて、子ども中心の生活が始まることを念頭において、共稼ぎ夫婦になっていただきたいのでございます。
実は、私の場合、いずれ妻が家庭に帰るという心の準備がなかったため、少々あわてた覚えがあります。
賢明なお二人には、そんな失敗はないと思いますが、老婆心から一言申し上げた次第です。しっかりがんばって下さい。おしあわせを祈ります。

新郎の上司（再婚）

永沢君、秀子さん、ご結婚おめでとうございます。

お二人とも再婚ではありますが、初婚だからめでたく、再婚だからめでたくないということはありません。めでたいからこそ、こうして大勢集まって祝って下さるのだと思います。

幸か不幸かコブといいますか、付録がついていないので、お二人とも初婚のような、ういういしいお気持ちで、この結婚式をおあげになったのではないかと思います。

永沢君が一ヵ月ほど前、こんどの再婚のことを話してくれるまで、私は彼が、〝禁婚の誓い〟でも立てたのではないかと思っておりました。いや禁婚の誓いは立ててはいたのだが、秀子さんに会い、秀子さんを知るに及んで、あえなく誓いがくずれ去ったというのが実情かもしれません。

かつては永沢君と同じ部で働いていましたので、よく共に杯を傾けたものですが、そんな時、いくら私が再婚を勧めても、「再婚ですか？　僕はもう女に凝りましたよ」と、本当に女には凝りたような顔をして、いかにも気のない返事ばかりするものですから、てっきりもう結婚するハラはないんだなと思ったのです。

それがどうでしょう。一ヵ月前になって、いきなり再婚すると言い出したのです。それも秀子さんが好きでたまらんといった顔をして言うものですから、私は見事いっぱい食わされた気になり、「秀子さんも女だよ」とつい皮肉を言ってやりました。そしたら、またその返事がふるっています。「いやァ、女も女、女の中の女だから好きになったんです」

とにかく、相当なお熱でした。

今、こうして秀子さんにお会いしてみると、なるほど〝女の中の女〟でいらっしゃいますし、永沢君の〝変節〟がよくわかるような気がします。むしろ変節万歳を唱えたいくらいです。

「二十代の恋愛は幻想である。三十代の恋愛は浮気である。四十代になって初めて真の恋愛を知る」とゲーテは言いました。これでいくと、四十二歳の永沢君は〝真の恋愛〟を知ったことになり、誠に恵まれたしあわせな男と言わざるを得ません。もちろん、まだ三十代でいらっしゃる秀子さんの方は浮気だ、なんてケチをつけるわけではありませんので、お気を悪くしないで下さい。

私は永沢君の初めての結婚式にも出席させていただきましたが、気のせいか、きょうの永沢君の方が、ずっと晴れがましく、しあわせそうに見えます。初めのフワーッとした、それこそ幻想的な恋愛と違って、こんどはドッシリした〝真の恋愛〟だったからにほかならないと思います。

初婚の夫婦は、どうかすると性格その他に食い違いを生じて、離婚という結果を招くことがありますが、再婚は二人とも人間的に練れているせいか、たいてい結果がよく、離婚という不幸な例は少ないようです。

きょうのお二人も、夢多くして足が地につかないような若さではなく、一応、人の気持ちのアヤも、人生のキビも知り、精神的にも落ち着かれた年齢だし、必ずや夫婦相和して、こんどこそ、しあわせになられるものと確信します。

お二人とも、きょう限り、心のどこかにひっかかっているであろうモヤモヤやいやな思い出をきっぱり捨てて、これからの長い人生を二人楽しく送って下さい。そうすれば、永沢君の六年、秀子さんの五年というわびしい空白も、いっぺんで取り戻せると思います。

永沢君は〝夫の中の夫〟に、秀子さんは〝妻の中の妻〟になって、お互いに「再婚して、本当に良かった」と思い合える夫婦になって下さい。

誇り高き紳士淑女の方々の中にも、ひそかに再婚三婚を夢見ていらっしゃる方があるんじゃないでしょうか。さよう、この席で再婚の睦まじいお二人を見て、一段とその思いを強くされたのではないかと思いますが、皆さんいかがなものでしょう。

ここにおいでの皆さんが、再婚したくなったら、やはり困りますので、永沢新夫妻は表面上はほどほどに幸福になって下さい。

これをもちまして、私のお祝いの言葉といたします。

新郎・新婦の上司

堀内君、それからルリ子さん、おめでとう。

お二人の輝かしい晴れの門出を心からお祝い申し上げます。堀内君は、会社にはいられてすでに七年、いまや中堅社員としてわが社には欠かせぬ人材であり、私が部長をつとめております営業部の誇りでもあります。

堀内君は正義の人であり、なにごとにも誠実をモットーに生きる誠実の人でもあります。毎日の生活の中に自分の

モットーを確実に生かして、少々のことでは遅刻や欠勤はしない、約束は絶対と言っていいほど破らない、という現代まれにみる信念の人でもあります。こう申しますと、いかにもカタブツのようですけれども、屈託のない明るい青年でもあります。

また、ルリ子さんは、堀内君より二年遅れて入社されましたが社歴すでに五年、やはり今では、なくてはならぬ存在であります。誠にもの静かでやさしく、それでいてコセコセしない大変おおらかで朗らかな女性であります。

みんなからルリちゃん、ルリちゃんと呼ばれて親しまれるのもそうした人柄のせいだと思います。実は私も、日ごろは内藤さんとかルリ子さんとは言わずに、ルリちゃんと呼んでおりますが、ちゃんづけが一番ぴったりくるルリ子さんなのです。

お二人は社内結婚ではありますが、ひと目惚れとか、恋を恋するといったような、浮わついた交際でなかったことは、この私がよく知っております。

同じ職場で一緒に働いているうち、お互いにその仕事ぶりに魅せられ、その人柄にひかれて、知らず知らずに好きになったという、誠に自然な愛情に結ばれたお二人であり、実にひかえめで、清らかな交際は、お二人の交際を知る者すべてに好感を与えていたことと思います。とにかくお二人はお互いに、良い点も悪い点も理解し合い、信頼し合って、きょうという日を迎えられたのですから、何も心配することはありません。

ルリ子さんを選んだ堀内君も賢明なら、堀内君を選んだルリ子さんも賢明だと思います。お二人に何か賞品でも差し上げたいくらいです。

お二人とも高校卒業と同時に実社会に出られたわけですが、いろいろとご苦労も多かったでしょうし、会社その他での人間関係のむずかしさも十分経験してこられたことでしょう。

結婚生活はお二人の過去の生活よりも、もっと複雑であり、社会的人間関係も、ずっとむずかしくなるかもしれませんが、苦しさも悲しさも嚙みくだいて生活の知恵としてしまうお二人ですから、今までの貴重な経験を生かして、きっと健全な家庭を築かれ、たくましく生き抜かれることと確信いたします。

わざわざ不幸になったり、貧乏になる必要はありませんが、たとえ、不幸や貧乏を経験されても、お二人をしっか

り結びつけている愛情は、決してゆるがないでしょうし、いかなる不幸も、いかなる貧乏も踏み越え踏み越えて行かれることでしょう。人間はそういう山や谷を踏み越えてこそ、本当のしあわせを味わえるのではないかと思います。
しあわせは、タナから落ちてくるものではなく、自然に生まれてくるものでもありません。自分たちの手、自分たちの心でつくって行くものなのです。子どものように、苦労して生み育てて行くものなのです。
フランスに「男と女が結婚した時、彼らの小説は終わりを告げ、彼らの歴史が始まる」という箴言（しんげん）がありますが、これからお二人でつくり上げる歴史が、小説以上に美しく充実したものになることをお祈りいたします。
この結婚を機に資材部に移られるのは非常に残念ですが、ルリ子さんが結婚後も私たちのルリちゃんとして、わが社で働いてくれることを大変うれしく思います。
お二人とも健康に十分注意され、きょうの気持ちを大切にして、明るいしあわせな家庭を築いて下さい。
もう一度おめでとうを言って私のお祝いの言葉といたします。
堀内新夫妻、きょうは本当におめでとう。

新婦の上司

お二人ともおめでとうございます。
私はきょう、この席にお招きをいただきまして、初めて新郎にお目にかかったしだいですが、いやァ立派な青年ですね。さすがは山本文子さんが選んだ人だけのことはある……と、先ほどからいささか感心させられているところです。
さて、この山本文子さんという人は、わが社でも指折りの美人の一人でありまして、私とは、社長（部長、課長）と女子社員などという肩書きの壁などは一切ない、ごく親しいお友だち同士としてのおつきあいをしていただいてきました。
親しいおつきあいといったところで、私は四十五歳、新婦は二十二歳、どうぞ妙なふうにお考えにならないでいただきたい。
四年間のおつきあいでわかったことは、なんといっても彼女は甘えん坊だということです。その甘えん坊も、やはり育ちは争えないというべきか、たいへんスマートな上品さを伴った甘えん坊ということで、これは女の大きな魅力

といえましょう。
　そこで私が思ったことは、この新しいご夫妻が、全く都合のいい理想的なカップルだということです。新郎のお仕事は、時代の先端をいくアート・デザイナー（記者、カメラマン、その他の芸術家）といったことで、これはまた、神経の末端まですり切らせ、消耗させる仕事です。
　疲労して帰る家に、上品な甘さをたたえたお嫁さんが待っているという――私の長い見聞のなかで、このようなご夫婦が不仲になったという話を、いまだ耳にしたことがございません。
　思いきり夫に甘える。夫は張りつめて、こんがらがっていた神経をゆっくり解きほぐすことができる、そして明日への精神的スタミナが培養され、さらにさらに大きな仕事へ挑戦することができる――という寸法です。
　だいたい、夫を批評しがちだったり、神経質で甘さの乏しい奥さんというものは、夫を心身ともにくつろがせてくれないものなんです。委縮させてしまうんです。ですから、張りつめていたものをそのまま明日に持ち越して、いい仕事ができるはずがないんです。
　そういう人は、結婚してさらに仕事が小さくなり、人間までが小さくなってしまうんです。
　決して夫を批評したりせず、逆に広い夫のふところにすっぽり抱かれて、存分に甘えることのできる奥さんは、なんの計算もなしに自然に夫の人格を大きくしていくことができるんです。
　本当に素直な形で夫に甘えられる妻……というタイプの女性は、正直いって少ないんです。その意味で新郎は、まことに理想的な奥さんを得られたわけで、私はもうすっかり安心いたしました。
　文子さん、とにかく甘えなさい、大いに甘ったれなさい。
　聞けば新郎は、スーパー・スポーツ・セダンを乗り回しておられるとのこと、老婆心ながら自動車の事故にはくれぐれも気をつけてください。そして、特に奥さんを助手席に乗せたときは、絶対に安全運転に努めて下さい。文子さんも、車の助手席以外のところで大いに甘えるようにして下さい。
　この次に、お二人にお目にかかるときは、文子さんの腕にかわいい二世が抱かれているときだろうと、いまから心待ちにしております。

新郎の先輩

山本君おめでとう。文子さんおめでとう。僭越ながら、僕は、僕の弟の結婚式以上にうれしい。いま、その感激をしみじみと味わっているところです。

思えば君は、僕たちの会社へ僕より五年おそくはいってきた後輩だが、僕と君はなんと仲の良かったことだろう。口の悪い連中が「あの二人はホモじゃないのか」などという悪口をたたいたくらい……文子さん、気にしないで下さい、これは冗談なんだから——。つまりそのくらい仲の良い君と僕だった。

「ミスター親切」というのが、会社における山本君のニックネームです。これは説明の要もないでしょう。文字通り、こんな親切な人間を僕はこれまでに見たことがありません。それも、特定の人物だけに親切なのではなく、上は重役から下は新入社員まで、すべての人に万遍なく、しかも徹底的に親切なのです。

たとえば、ある重役が立ち話で、「九州の人口と市の数がわからんかね……」などと言う。これをちょいと小耳にはさんだだけで、もう山本君の姿は消えてしまいます。そして三十分ほどたって、恐らく社の図書室から借り出したものでしょう、山ほどの資料をかかえて重役室へ飛び込み、説明解説に及ぶ——といった具合い。

これが、他の社員のやったことなら「あいつ上役にばかりゴマすりやがって……」ということになりましょうが、山本君には絶対にそれがないのです。

たとえば相手が西も東もわからない新入社員の場合。ある高校出の少女が、途方にくれた声で、「どなたか衆議院議員宿舎へ行く道を教えてくれないでしょうか……」とつぶやく。「よーし」大声で通事するのはいつも山本君、そして、微にいり細にわたる電話番号から住所、郵便番号まで記入された地図をあっという間に作りあげてしまう。山本君という人は、かくの通りの親切人間なのです。

さて山本君、いままで君はすべての人を対象に、それこそ年齢、性別の差なく善意を施して、君の恩恵を被ってない社員は一人もいないほどになっているはずだが、先輩として一言ご注意申し上げておきます。

われわれ男性への親切は、従来通り以上のおつき合いを願いたいのですが、これからは女性への親切は一切とりやめて、奥さま一本に絞っていただきたい。

僕はこれまで、わが愚妻を親切に扱ってきた記憶がありません。それでも僕ら夫婦は、かように円満であります。これに、女房への親切、いたわりが加わったらどんなにか理想的夫婦像が誕生することでしょう。それを僕は山本君、文子さんのカップルに期待したいのです。

新郎の先輩

小山君、ご結婚おめでとう。
新郎の先輩として一言お祝い申し上げます。
きょうの結婚披露宴は、小山君の人柄を反映してか、実に和気あいあいとしており、こんなうれしいことはありません。

きょうのようなはなやかな席に持ち出す話題としては、所帯くさく、いささか気がひけるのですが、しばらくご辛抱いただきたいと思います。

私が数年前結婚したとき、私たち夫婦は来賓の一人から、〝いつも夫と妻は同じ量の睡眠をとり、同じ量の栄養をとるように〟という祝辞をちょうだいしました。しかし、「何事も公平を旨とすべし」という信念をもっている私は、そのとき、そんなことは当然のことと思いましたし、さして気にもとめませんでした。

ところが、結婚生活を二年、三年と続けて行くうちに、この二つのことを実行することは、実に大変なことだと気がつくと同時に、非常に大事なことだと思うようになりました。

そこで、きょうは、小山君ご夫妻にこの言葉をそっくりお贈りしようと思います。はなむけの言葉のおすそ分けというわけですが、どうか快く受け取って下さい。

まず睡眠ですが、多くの場合、妻の方が少ないのではないでしょうか。夫は眠くなればさっさとフトンにもぐり込めますが、妻は食後のあとかたづけをしたり、家計簿をつけたり、いろいろと雑用があって、夫のようにはまいりません。ことに赤ん坊が生まれますと、夜中、少なくとも二回は起きなければならないし、赤ん坊から幼児になったらなったで、オシッコに起こしてやるとか、寝ぐせが悪くなるのでフトンをかけてやるとか、それはそれは大変です。また朝は朝で、毎日夫より、三十分は早く起きて食事の用意をしなければなりません。

家庭専従の奥さんでもこれですから、共稼(かせ)ぎの奥さんはなおのこと大変だろうと思います。

結婚生活が二、三週間のことなら、少々睡眠不足が続いても、別にどうということもないでしょうが、チリも積もればなんとやらで、五年、十年と経つうちに疲労感が慢性的になり、やがては健康を害して発病、ということにもなりかねません。これでは不公平です。妻が可哀相です。

このような不公平を無くすためには、夫も家事や育児を分担して妻を助ける以外にないと思います。こんなことを言うと、「亭主のゴキブリ化かね」などと毒づく向きもあるかと思いますが、少しでも愛妻の負担を軽くしてやろうというわけですから、恥じるどころか、誇ってさえいいことだと思います。ゴキブリ亭主大歓迎というわけです。

世の中にはゴキブリ亭主を軽蔑する人物もおりますが、そういう人物こそ、男尊女卑の思想をもった封建的な人物として、軽蔑されてしかるべきだと思います。

次に栄養ですが、夫は宴会に出る機会が多く、友人や同僚とレストランなどに出かけることもあります。家庭では、それほど上等の食事をしていないのですから、どうしても妻より夫の方が栄養をとることになります。せめて家庭で夫と同量だけ食べればいいのですが、たいていの妻は、たまにご馳走を作っても、夫の皿に多く盛り、自分の皿にはつつましく盛ったりしますので、ますます不公平になってしまいます。

夫がたまにニギリズシやウナ丼をおみやげに持って帰っても、妻はなかなか一人で食べるということをしませんし、結局夫も一緒にパクつくことになって、不公平は一向になくなりません。

第一、夫一人のご馳走は不道徳ですし、妻一人の粗食もまた不道徳です。こうした不道徳を長く続けると、妻は睡眠不足に栄養失調が重なって、バッタリ倒れるようなことになってしまいます。主婦に結核が多いというのも、こうした生活の当然の結果と言えるかもしれません。

どうか奥さん、昼寝でも、つまみ食いでも大いにやって、みずから病気を招くようなバカなことだけは避けて下さい。

男女同権などという堅苦しい考えからではなく、奥さんの健康を守り、ひいては家庭の平和やしあわせを守るために〝公平な生活〟をするように努力していただきたいと思います。

新婦の先輩（女性）

広津さん、かおりさん、おめでとうございます。

きょうは、このようなおめでたい席にお招きいただき、本当に有難うございました。お二人の新しい門出を心からお喜び申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

お二人とも、教養のある方でいらっしゃいますし、お喜びの言葉以外に何も言うことはないのですけれど、せっかくのご指名でございますから、私が最近、強く感じますことをお話したいと思います。これは、私自身の反省でもございます。

結婚するということは、この人だったら生涯を共に歩いて行けるという自信と決心のうえで、愛し合う男女が、人生の新しい旅立ちを始めることだと思います。旅立ちを始めたころは、なるほど共に並んで歩いておりますが、いつとはなしに、夫婦の間に距離ができてしまうようでございます。

ことに、夫が有能な人物であればあるほど、向上心のない妻であればあるほど、この距離の開きが大きくなるようでございます。

妻が懸命に努力しても、夫の歩みについて行けないようなこともあるでしょうが、共に歩くことをやめたり、あきらめたりするために、こんなことになるのではないでしょうか。

妻は、ともすれば、家庭という狭い場所にとじこもり、家事に追われ、育児に関心を奪われて、いつしか近視眼的な人間になってしまいがちでございます。

結婚したころは、「夫に遅れないよう、しっかりついて行こう」と決心していた妻も、家庭というぬるま湯にひたっているうちに、決心を忘れ、向上心を失って、だんだん夫に遅れるようになってしまいます。

世の中の動きや政治には、全く無関心、関係ナイと言う妻が、少なくないようでございますが、こういう妻に限って、給料が少ないの、物価が高いのと、やたらにブツブツ言って、自分の無知をさらしているのは、コッケイとしか言いようがございません。

初めから「女は家事や育児に専念し、家庭を守ることだけ考えておればいい」という保守的な妻もおります。また、それだけで満足している夫もおりますけれども、そのような考えをもつ夫は、妻の人格を認め、妻の人間性を尊

重しているとは思えません。
　本当に妻を愛し、妻の人格を認めて、それを尊重している夫でしたら、妻もまた、自分と同じ程度に成長してくれることを願うだろうと思います。
　進歩のない妻、進歩しようとしない妻は、心の輝きを失って、魅力のない妻となり、夫の愛を失うことにもなるでしょう。
　本当の美しさは、心の美しさであることを知ってか知らずか、化粧やおしゃれには金をかけ、時間をかけて憂き身をやつすくせに、心のおしゃれをおろそかにする女性が多いのは、寂しい限りでございます。
　心の貧しさ、知的内容の乏しさは、はなやかな衣裳（いしょう）でも決してゴマ化せません。豪華な衣裳、高価な装身具が、かえってその人を醜くすることだってあるのではないでしょうか。
　自分の心の貧しさを知り、高い理想をもち続けて、おのれをいつも、よりよくしよう、よりよい自分になろうと心がけている人は、それだけで美しく、愛する夫といつまでも、共に歩いて行ける人だと思います。
　心のおしゃれは、自分のためばかりでなく、夫のためにもなるのですから、これこそ、すばらしいおしゃれと言えるでしょう。
　〝政治音痴〟、〝世の中音痴〟に甘んじていたら、話の合わない妻、心の通わぬ妻、もの足りぬ妻になり、いつかは夫に愛想を尽かされて、置き去りにされ、見向きもされなくなってしまうに違いありません。
　心のおしゃれに努めて、いつまでも夫のよき話し相手でいようと努力することが、家事や育児と同様に大切なことであり、そうすることがまた、妻のつとめでもあろうと思います。
　妻は夫のあとにノコノコついて行かねばならないということはございませんし、夫に追いつき、追い越しても、かまわないと思います。向上心がなく、よほど自信のない夫でない限り、「追い越し禁止」とか「ストップ」などと情けないことは言わないでしょう。「わが女房ながら、あっぱれ」と鼻の下を長くして、猛然と後を追ってくるに違いありません。
　ご新郎の広津さんは、放送記者という、大変知的なお仕事にたずさわっていらっしゃいますし、いわば時代の先端を歩かれるお方でございます。

どうか、かおりさんも、そんなご主人のよき話し相手として、いつまでも共に歩いて行かれますようお願いして、私のはなむけの言葉といたします。

新婦の知人（再婚＝女性）

本日は、五月晴れのすばらしいお天気で、お二人の前途を暗示しているようでございます。

心からご結婚をお祝い申し上げます。

先ほどから、ご新婦・弓子さんに対する皆さまの暖かい思いやりのあるお言葉やおほめのお言葉を拝聴いたしまして、わがことのようにうれしゅうございます。

私は、弓子さんとは古くからのおつきあいで、私の方が少し年上ということや主婦業の先輩ということもありまして、このたびのご結婚に関しましても、当初から何かとご相談を受けたのでございますが、それだけに、弓子さんのご決意のほどもよく存じているつもりでございます。

男は再婚、女は初婚というケースは世間にザラにあることだし、別に珍しいことではありませんが、男に子どもが居る場合は、妻となると同時に母となることでございますから、やはり大変なことだろうと思います。

また、「生き別れはよいが、死に別れのあとへ嫁に行くな」と世間で申しますのも、それなりのいわれがあるのでしょうし、当分、弓子さんの気苦労は大変だろうと思います。新婚の甘い気分にウットリとひたるようなことは、おそらくできないのではないかと思われますが、そのへんのことも、よくお考えになったうえ、ご結婚に踏み切られたようでございますので、その点、心配はございません。

また、お二人の愛情は、そうしたいろんな障害をきっと乗り切って行けると信じております。

でも、愛情だけではどうにもならないというときだって、たまにはあるだろうと思います。

そこで私は、ご新郎の黒岩さんに、特にお願い申しておきたいのでございます。それは、このようになみなみならぬご決意で嫁がれました弓子さんではございますが、家庭を持たれるのは、なにしろ初めての経験でございますから、黒岩さんと違って、何かと戸惑うこともおありだろうと思います。

ことにお子さんの由佳ちゃんが、幼稚園児という、まだまだむずかしい時期でいらっしゃいますから、本当の母娘のように最初からしっくり行くとは、ちょっと考えられま

せん。たとえ、母親の経験のある女性であったにしても、そこまで望むのは無理だと思います。まして、初めて妻となり、いきなり母となる弓子さんには、なおさら無理というものでございましょう。

由佳ちゃんとの仲は、少しずつ自然に融(と)け合って行くほかないし、それなりの時間がかかるでしょう。二人の間に、あるいは感情のズレといったようなものが、みられないとも限りませんが、弓子さんの愛情を信じてお任せになっていただきたいと思います。

山本有三は「女が母親になることは、なんでもないことである。そんなことはどんな女にだってできる。だが母親たることは、なかなかできることではない」と言っております。もちろん、これは子を生む母親のことであり、弓子さんには、そのまま当てはめられないでしょうけど、弓子さんが〝よき母〟となられることは間違いありません。由佳ちゃんも大変賢いお子さんとお聞きしておりますし、日ならずして「ママ、ママ」となついて下さることでしょう。

どうか弓子さんが、新しい生活にすっかりなじまれるまで、しばらくご辛抱下さるとともに、ご協力下さるようお願いいたします。

聰明な弓子さんでございますから、すぐに新しい生活になじまれ、明るい家庭を築かれて、黒岩さんの胸にポッカリあいた空洞をきれいに埋めて下さることでしょう。

初婚の弓子さんは、もちろん若々しい情熱をもって嫁がれましたので、黒岩さんも大いに若やいだ気分になって、弓子さんをしっかり受け止めてやって下さいませ。弓子さんをくれぐれもよろしくお願いいたします。

どうぞ末長くおしあわせでありますよう、心からお祈りして、私のお祝いの言葉にかえさせていただきます。

友人・同僚

新郎の友人

きょうは、どうしても一言お祝いを言いたいと、さっきからウズウズしていたところでした。すばらしい新夫妻の誕生を祝して一言ごあいさつをいたします。

まず宣ちゃん、おめでとう。

宣ちゃんはメンクイだから、きっと美人の奥さんを持つ

だろうとは思っていましたが、こんな艶麗花のごとき美人とまでは思っていませんでした。
　僕も美人は文句なしに好きです。こんな美しい奥さんをもらった宣ちゃんが、文句なしにうらやましくてなりません。さっきから妬けてしょうがありません。
　一向に女にモテなくて、「女などとの交渉からは、なんの新しい展開もない」などと負け惜しみばかり言っている僕ですが、本当は早く結婚して、新しい展開をしたいと絶えず思っておりますし、とくにきょうはつくづく、結婚したいなァと思います。
　今、二、三の方もおほめになりましたが、宣ちゃんが、現代まれにみるネバリ強いガンバリ屋であることは、高校時代も、大学時代も、山岳部員として、多くの山を黙々と歩いたことをみてもおわかりだろうと思います。僕も高校時代、宣ちゃんと同じ山岳部員として、何度か登山を共にした一人ですが、宣ちゃんのネバリは抜群でした。
　おそらく、きょうの花嫁さんも、このネバリ強い攻撃で陥落されたのではないかと思います。
　また宣ちゃんは、山男に似ず、人一倍思いやりのある男です。宣ちゃんは会社の同僚と登山するときも、近所の友人たちと登山するときも、必ず最後尾を歩くことにしているそうです。初めて高い山に登ったとき、最後にとり残されて、実に苦しい思いをしたから、そのような〝ビリの苦しみ〟を人に味わわせたくないという思いからなのです。
　宣ちゃんと新婦・ナオミさんは北アルプスのお山の上でお知り合いになったそうですが、宣ちゃんのそうした思いやりが、ナオミさんの心をグッと引きつけたのではないかと思います。
　きょう、これからの新婚旅行も、伊東だとか熱海だとか、俗っぽいところではなく、お二人が結ばれた思い出の地・北アルプスだと聞いて、いかにも宣ちゃんらしいと感心するとともに、山友だちとして、実にうれしく思います。
　月のさし込む静かな山小屋で、谷川のひめやかなセレナーデの祝福を受けながら新婚第一夜を送る、ああまさにこの世の天国です。宣ちゃん、またひどく妬けてきました。僕はめったに妬かないつもりでしたが、きょうは妬けて妬けてしかたがありません。
　宣ちゃん、あまり喜びが大きいと足が地に着かないそうですから、地球を踏みはずして大ケガしたりしないよう気

をつけて下さい。

きょうからお二人は未知の高山に登られるわけですが、思いやりとネバリの宣ちゃんは、時にはナオミさんの手を引き、時にはオンブして、深い谷もけわしい峰も踏み越えて、ただひたすらに黙々と歩きつづけて行くに違いありません。

ナオミさんという愛のお荷物は、重いリュックを背負いなれた宣ちゃんには、もののかずではないと思います。

宣ちゃんは全くいい男です。スルメのように噛めば噛むほど味のある男です。われわれには、いい友であるように、ナオミさんのいい旦那さんとして、これからもずっといい男であるに違いありません。

僕が高校時代に習った歌、宣ちゃんと共に歌った懐かしい歌を、今から朗々と独唱したいのですが、生まれ落ちるとき声帯を痛めたままになっており、せっかくのご馳走を前に皆さまの食欲を損っては申し訳ありませんので、静かに朗読したいと思います。

宣ちゃんも心の中で歌って下さい。

喜びにあふれて　ほほえむ日よ
きょう交わす誓いを　長く胸に秘め
睦みて変わらじ　はるかなる日まで

新郎の友人

はなはだ僭越ではございますが、友人代表ということでご指名をいただきましたので、一言お祝いのごあいさつを申し上げます。

山本君、文子さん、本日はおめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

新郎と私とは、中学、高校の六年間を通じて、同じ机で少年期を送った、今流でいうご学友でございます。

奇しき因縁といえばそれまでのことでしょうが、A中学の入学式後、一年A組の前から五番目のイスにすわったとき、隣の席にすわっていたのが山本君だったというわけであります。

その瞬間から、私は終生色褪せない心の友を得たわけで、まず彼の、十二歳という年少にもかかわらず持っている趣味の広さに驚かされました。落語と講談と浪花節が大好きで、月に三度は寄席通いを欠かさないというのです。

人情こまやかでめんどう見がよく、人一倍思いやりのある彼の人間性は、すでにこのころから芽ばえ、成長してい

たのです。

新しい友と接して大きな刺激を受けた私は、ご多聞に漏れず学業もそこそこに寄席のほうに力を入れる落第坊主に堕ちていきましたが、山本君の趣味のほうはますます広がるばかりで、高校にはいってからは、歌舞伎、俳句、川柳、剣道と、とどまることなく一途に情熱を燃やしていきましたが、不思議なことに、学校の成績のほうも常にトップクラスの座をゆずらず、三年卒業の折りには、学園雑誌に「飛鳥京より平安京に至るわが国都城の変遷」と称する大論文を掲載するなど、その豊かな才能と不屈の努力は、全卒業生を圧倒したものでした。

いま彼は、大学へ進んだ私と別れて実社会へ飛び込み、デパートの老舗「〇〇百貨店」で勤続十年、出世コースを邁進しております。そして、その人間性もますます深く濃くたくましく育ち、同級生の私どもが先輩扱いをするほど水をあけてしまいました。

なにとて注文をつけるところのない友人ではありますが、願わくは、近ごろ耳にしますところでは三味線のけいこにまで趣味の手を伸ばしてきたということですが、これからは月に一度でも奥さまとともに戸外のレクリエーションを楽しむといった新しい趣味を作ってもらいたいと思います。そんなことはいわれなくてもわかってる――とお思いでしょうが、こと自分の好きな道に関しては親兄弟の意見にも耳を貸さなかった山本君の過去を知っている私には、これが精一杯の老婆心という次第です。

親孝行と女房孝行、どうぞわれわれの手本になるような家庭ぶりを見せて下さい。

新郎の友人

山本くん、おめでとう。

名実ともに、わが社のホープであり、エースである山本くんの結婚式にご招待をいただき、新しい人生へのスタートを祝って、ともに美酒を汲み交わすことができたことは、われわれ友人といたしまして感激ひとしおのものがあります。

彼は、われわれのグループにあっては、いわゆる最後のチョンガーであり、折りにつけて、

「いつになったら嫁さんをもらうんだよ」

とか、

「いいかげんで年貢を納めたらどうだい？」

など、攻撃の矢おもてに立っていたものですが、そのつど、

「だれかいい人がいたら頼むよ、俺はお見合い主義者なんだから……」

と、うまくおとぼけをきめこんでいたのですが、だれにも気づかれずにチャッカリと、こんなにきれいなお嫁さんを捜しておいたあたり、さすがにエースの面目躍如たるものがあります。

彼のニックネームは「先生」。といっても、やたらに屁理屈をこねくりまわすナントカ先生ではなく、堂々たる音量と美声の持ち主であるところから、つまり歌の先生ということであります。

あの身体を見て下さい。身長一七八センチ、体重七五キロという体軀、あの巨体が、腹の底から歌いあげる「ヴォルガの船歌」は、われらの、うれしいにつけ悲しいにつけての痛飲の機会に、欠かすことのできない名物でありました。

図体が大きいからといって、彼がいわゆるウドの大木とは大違いであることは、これまた社の中で知らないものはありません。

どうしても避けることのできない昨年春の人事異動で、広告部で辣腕を振るっていた山本くんが、いきなり地味な総務部へ飛ばされたとき、おおかたの仲間は、

「やっこさん、ずいぶん面くらってることだろうな?」

と、大いに同情し、気をもんだものでしたが、それがどうでしょう。人手が足りなくて往生していた総務部の、山のような未整理資料が、わずか一ヵ月ののちにはきれいに消化され、こんどは人手が余るほどの症状をきたした——と、部長が冗談まじりにコボす始末なのです。

これこそ、山本くんの残業につぐ残業、そして日曜出勤をもいとわず仕事に励んだ努力があったからこその結果なのです。

ある日、女子社員同士のうわさ話に、

「山本さんのような人を旦那さんにしたら、奥さん、息がつまっちまうでしょうね」

と。

つまり、怠けものの女性から見れば、彼はそれほどタフで働きもので努力家だ、という証明になりましょう。もっとも、彼の図体が大きいから、寝床の中で押しつぶされて息がつまってしまう……という意味であったのか否かは聞

き漏らしてしまいましたが――。

われわれ、二年も三年も前に結婚した連中が、依然としてウダツの上がらないアパート暮らしを強いられているというのに、彼、山本くんは頼もしきかな！　あと一年でマイホームを建設する、とわれわれに断言しているのです。

私など、彼のこの一言で毎晩愚妻に責めさいなまれ、「あーあ、山本さんの奥さまになる人がうらやましいわ」などと追い打ちをかけられて、安眠もままならないこのごろであります。

かかる物騒な公約を発表した彼に、罰としてお得意の美声を披露していただきたいと思います。彼のリードで、彼の出身大学の校歌を歌おうではありませんか。

（以下、校歌斉唱）

新郎の同僚

いろいろと新郎の美点長所のみをほめあげる祝辞が続きましたが、私はここで、新郎の胸の中にぎっしりとつまっている、言いたくてしようがないオノロケを含めて、新婦文子さんの素顔について一言述べさせていただきたいと思います。

文子さんは、人情紙のごとき当節にあって、全く得がたきやさしい心根の持ち主であります。

ご列席の皆さまがたの中には、山本くんが、「これだッ、これこそオレが捜し求めてきた理想の女房だ！」と決心するにいたった、本当の動機をご存知の方は、まずおいでにならないでしょう。私がそれを知っているのです。

――いまから五年前の、ちょうど文子さんが〇〇女子高等学校の三年生のときです。仲のよいクラスメートが三人で、夏休みを利用して上野のレストランでアルバイトをしていたときのこと――。

調理場で、あとかたづけの雑用やら皿洗いが彼女たちの仕事でしたが、アルバイトを始めて何日もたたないある日、二人の友人が妙なことに気づいたのです。

お客が食べ残したものは、さっさとポリエチレンのごみ箱に放り込むのが当たりまえのことだったのですが、文子さんだけはそれをしない。

おそらく自宅から持ってきたのでしょう、ビニールの小さな袋を何枚も手に持って、食べ残しのパンやサラダやハンバークなどを、彼女はいちいちビニールの袋に詰めて、

きちんと封をしてから、ごみ箱に捨てるのです。
おわかりですか、皆さん。
不審に思った友人の一人が、
「文子さん、なんでそんな丁寧な捨て方をするの？」
と、これは当然な質問です。そのときの文子さんの返事が泣かせましたね。
つまり、東京という大都会には、その日暮らしに追われて三度の食事も満足に食べられない浮浪者がたくさんいる、というのです。
そして、彼らの多くは、レストランや大衆食堂で出た残り物を、あくる日の早朝に先を争って奪い合いをするというわけで、
「少しでも不潔な感じを与えないで、そんな不幸な人たちに食べてもらえれば……」
という素朴な気持ちから、文子さんは残り物をビニールに包んで捨てていたのです。
どうです皆さん。もうこの一事を見ただけで、文子さんのお人柄がおわかりでしょう。
去る日、私は山本くんに聞いてみました。
「どんなきっかけでプロポーズしたんだ？」
彼いわく、
「オレが風邪をこじらせて休んでいたとき、見舞いにきてくれた彼女が、帰るとき玄関口で足をくじいてしまったんだ。オレはすぐ電話してタクシーを呼び、彼女に千円札一枚にぎらして帰ってもらったんだ」
「それじゃプロポーズにならんじゃないか」
「まァ聞け。それから一週間たったら、小荷物が届いたんだ。見ると彼女からのもので〝タクシーは百円区間でおりて、残ったお金で買いました〟って、なんと座イスのプレゼントだ、これには参っちまった」
「勝手にしやがれ、果報者ッ」
脇役をつとめる三枚目が、いかにつらく悲しい思いをすることかと、肝に銘じた寸劇ではありました。
以上、言いたくてうずうずしている新郎に代わって、悪友代表の私が身代わりのオノロケを申し上げた次第であります。

新郎の同僚
島崎さんおめでとう。さぞかし、ワクワクしていらっしゃることでしょう。

生まれて初めて白羽の矢を立てて、こうして見事に射止められたのは、実に立派だし、お互いに好き合った同士が、こうしてみんなの祝福のうちに結ばれるのは、本当にすばらしいことだと思います。失恋のチャンピオンである僕など、うらやましくも、ねたましくもあります。

僕は大学も会社も、島崎さんの一年後輩ですが、友だち同様の交際を願っております。島崎さんを知ったのは、入社してからですが、入社早々で、柄にもなく堅くなっている僕に、何かと話しかけ、いろいろと仕事のめんどうもみて下さったので、いっぺんで惚れてしまいました。惚れた弱みでほめるわけではありませんが、島崎さんは気っぷがよくて、純粋で生一本で少々無てっぽうなのが玉にキズという、漱石の〝坊ちゃん〟を思わせる快男児です。

わが社の野球部は最近とみに実力をつけ、県下の実業界にその名を馳せるようになりましたが、それはこのエース・島崎投手の右腕に負うところ誠に大と言わねばなりません。打っては四番の強打者で、わがチームの花形選手であります。

新家庭のご円満は、もちろん僕も大いに歓迎するものですが、島崎さんをいつもべったり独占されることなく、同僚であるわれわれのために、また、わが野球部躍進のために、ときどき島崎さんを放免して下さるよう、ご新婦の雪子さんにお願いしておきます。ご聡明な雪子さんのことですから、よもやイヤとはおっしゃいますまい。

雪子さんのことは、島崎さんから、うんざりするくらい聞かされてきましたが、百聞は一見にしかずとはよく言ったもので、こうして直接お目にかかってみますと、聞きしにまさるチャーミングな美人で、島崎さんのゾッコンぶり、イカレぶりが、よく理解できます。

皆さんのお話によりますと、雪子さんは、非常に頭も良く、情も濃いとのことですから、僕は今、鉄幹の〝妻をめとらば才たけて、みめうるわしく情けある〟という歌の一節を思い出しております。そんな一節を自然に思い出させる雪子さんをお嫁さんにするとは、さすがは天下の快男児だと、改めて島崎さんに惚れ直しました。ただ、島崎さんご自慢の見事なおみあしが、花嫁衣裳に隠されていて、拝見できないのが残念でなりません。

天下の快男児島崎さんは、天下のネボ助でもありまして、わが社きっての遅刻常習者でしたが、この結婚を機に、その汚名をきれいさっぱりそそがれることと思いま

す。雪子さんのツルの一声でガバッとハネ起きる島崎さんのさっそうたる姿が目に浮かんで来るようです。

　また、これからは、朝食もきちんと食べられるようになるでしょうから、昼前、食堂にドロンされることもないと思います。

　これは雪子さんにご忠告しておきたいのですが、島崎さんはタバコの喫い方が非常に無神経なので、くれぐれもご注意下さい。ワイシャツやズボンに穴をあけることはしょっちゅうで、昨年の春などは、寝タバコでフトンに大穴をあけ、われとわが身を火葬にしかけたことさえあります。幸い、そのときは煙にむせび、どうにか目を覚まして、ことなきを得たのです。

　あまりこんなスッパ抜きをすると、失恋者のやっかみだなとか、ねたましさのあまり旧悪を暴露して溜飲を下げているんだなと、かんぐられてはいけませんので、ほどほどにしておきましょう。

　サラリーマンにとって最も大切なのは、健全な家庭ではないかと思います。夫が外で自分の能力を十分に発揮するためには、家庭に後顧の憂いがあってはなりません。このような意味から、雪子さんのような方が、島崎さんと協力して家庭を築かれることは、友人として心強く、今後、島崎さんの三段飛びの飛躍が期待されます。

「夫婦生活は長い会話である」と言いますが、お二人ならどんな長い会話も、楽しく愉快に交わされることでしょう。笑いやユーモアのない生活は、どうも殺風景でいけません。

　長い人生の間には、ノーアウト満塁のようなピンチも、たまには訪ずれるかもしれませんが、どんなピンチも切り抜けられる島崎さんであり、雪子さんであることを信じております。

　お二人とも、ますますご壮健で、幸多き人生を送られますよう祈ります。本当にきょうはおめでとうございます。

新郎の同僚

野田君、田尻野絵さんおめでとう。

　できたての若旦那、ホヤホヤの若奥様のご心境は、感激の一語に尽きることでしょう。僕の青白い顔も、バラ色に見えているのではないかと思います。

　僕はいつも眠たい男ですが、きょうばかりは目もパッチリしています。野田君から、燦然と後光がさしているから

であります。

野田君と私は、会社では、いわゆる同期のサクラでありますが、妙にウマがあって、以来五年間、特に親しく交際しております。

野田君は実にマジメな人間で、入社以来、一度もサボったことがありません。きょうは部長もご出席になっておりますので、こんなことを言うと僕のボーナスに響くかと思いますが、野田君とて生身のからだ、時にはカゼもひきます。そんな時、「無理は禁物だよ。サボれよ」などと、いくら僕が、早退や欠勤勧告をしても、「大丈夫だよ」と黙黙と出て働きます。全く融通のきかないくらいマジメ人間です。いや、そのように陰、ひなたのないマジメ人間だからこそ、僕は野田君が好きなのです。

ボーナスは、野田君の方が、いつも三割は多いようですが、文句のつけようもありません。

最近、女性にかしずいてもらおうという保守的な男性がふえているそうですが、彼はそんな人種には、ヘドを催すタイプで、「おれについてこい」とドンと胸をたたく男らしい男です。マジメ人間などと言うと、いかにも四角四面といった感じですが、野田君は丸く角のない人物でだれからも好かれるタイプです。

また彼は休みの日は破れた夢のように野や山を漂流するのが、たまらなく好きだというロマンチックな男でもあります。野田君は、田園育ちのせいか、人一倍自然への愛着が深いのでしょう。天然の美が、次々と破壊され、失われて行くことを心から怒り、嘆いています。

学生時代は、この〝漂流〟が激しく、ご両親にだいぶん心配をおかけしたようです。しかし、野絵さんという十六夜の月もそねむほど愛くるしい〝イカリ〟がついたのですから、もう一人でプカプカ漂流することはないと思います。

野田君は五年前に親元を離れて、一人で食べ、一人で眠り、一人で考え、一人で読み、一人で行動するという一人ぼっちの味けない間借り生活を送られてきたわけですが、きょうからは野絵さんと楽しい楽しい二人ぼっちです。

野絵さんとはまだ二度しかお会いしていませんが、非常に率直で素直なお嬢さんだという感じでした。そういう野絵さんを見て、野田君の心臓が飛び出して行ったのも無理はないと思います。野田君はいつも〝素直で可愛い妻〟を強調していたからです。

野絵さんは野田君に負けず劣らず盛んに食べておられます。これも率直で素直な性格の証拠ではないでしょうか。

アッチとはドッチだなどとヤボな質問をされると困るんですが、食欲の強い方はアッチも強いとか申しますので、日ならずして丈夫な赤ちゃんがお出来になるだろうと思います。

今行くと、いいように当てられてしまいそうですから、もう少し涼しくなってからお邪魔します。その折りは「ただ今蜜月中、無用の者入るべからず」などと言わないで下さい。

あいさつと女のスカートは短いほどよいそうですが、つい下手の長談議になってしまいました。どうもすみません。

香り高い愛の巣を築いて、末長く愉快に、朗らかな生活を送って下さい。

新郎の後輩

山本さん、おめでとうございます。

全く山本先輩にはもったいないような美しいお嫁さんを目のあたりに見て、ヤキモチまじりのお祝いを述べさせていただきます。

花嫁は、もうとうにご存知かと思いますが、ここにご列席の皆さまがたはご存知ないことと思いますので、少々山本先輩の悪口を言わせてもらうことにします。

先輩は、わが社の名実ともに、そして自他ともに認める名物男でありまして、その売り物は、かくれのない〝三大自慢〟であります。

その一、バカ力。

まず、優に五人力はあろうかと思われます。社の連中がアパートの引っ越しというと、謝礼は一升びん一本で山本先輩をかつぎ出すのも、このバカ力の持つ魅力のためです。とにかく、洗たく機でも冷蔵庫でも、ぎっしり詰まったままのサイドボードでも、いとも安直にひょいひょいと運んでくれるのです。

過日、社で社員の健康増進のためにバーベルを一ちょう買い入れましたが、自分の体重と同じ重さを持ち上げたのは、山本先輩ただ一人でありました。私が三〇キロのバーベルでフウフウいってましたら、

「だらしがないぞ、こいつッ」

と、一発、肩口をどやされまして、その痛みが一週間と

れなかったのですから、実にどうも恐れ入ったる力であります。

その二、大食い。ゴメンナサイ……。

神田の神保町に〝いずも〟という椀子そばを食べさせる名物そば屋がありますが、ここのおそばを二十二杯たいらげて店の番付けに名が乗りましたが、この記録のほかに、にぎりずしを五十個、ぎょうざ二十五個という記録は、わが社にあっては永久に塗り代えられない不滅の記録かと思います。これはオマケですが、食前にラーメンを食べ、食後にタンメンを食べるなどは、それこそ朝メシ前なんだそうであります。

その三、大いびき。

私が社にはいって最初の社員旅行で日光へ行った夜のことを、私は永久に忘れません。とにかく一睡もできなかったのですから。まァ、同じ部屋に寝かされたのが不運といえば不運でした。それでも同室の何人かはお酒の勢いを借りて泥のように眠りこけてしまいましたから救いがありましたが、お酒の飲めない私だけが、あわれな犠牲になってしまったのです。

寄せては返す往復いびき、一度テープにとって先輩に聞かせてやろうと思っているのですが、いまだにそれは果たしておりません。

さて先輩——まだ青二才の私がおっかなびっくり大先輩に申し上げられることはただ一つ。

あの大いびきだけは、なんとか努力研究して一日も早く治して下さい。いくらなんでも、ハネムーン早々から——と思うと、お嫁さんが気の毒で気の毒で、想像しただけで私の方が不眠症にとりつかれそうです。

言いたい放題を言ってゴメンナサイ。あとがこわいので、ごあいさつはこれまでにします。

新婦の友人（女性）

山本さん、文子さん、本当におめでとうございます。高校一年のときから今日まで八年間も、仲良くおつきあいをいただいていた文子さんの、いまこうして文金高島田の花嫁衣裳を拝見していますと、なにか自分までが晴れがましい花嫁姿になっているのじゃないか、というような錯覚にとらわれて、さっきからジンジンと胸の中を熱くしている始末です。

うまく言えませんけれど、せっかくご指名をいただいた

のですから、一言、文子さんの素顔の一端をご披露したいと思います。
私たちは高校生のころ、八人ほどのグループで詩の研究会を作っておりました。そして、詩作のコーチをして下さったのが、本席にもお見えになっている竹山一郎先生です。
そして、私たちが卒業したあと、半年ほどたって、私たちの手もとに一冊の詩集が配達されてきたのです。それは、竹山先生の処女詩集でした。
全然知らないうちのことでもあり、知らせていただければ少しはお手伝いもできたでしょうに——と、少々悔まれたことですが、実は、日々ご多忙な先生を助けて、この出版の初めから完成まで、文子さんが夜の目も眠らずにお手伝いをされた……ということがあとでわかって、私たち七人のグループは、本当に驚かされたものでした。
先生の作品百五十編を整理し、レイアウトし、紙屋さんと印刷屋さんに手を回し、そして表紙の写真には、現在マスコミの第一線で目ざましい活躍を見せているカメラマン、○○氏の仕事場へ通いつめて、とうとうその熱心さで、すばらしい写真をタダ同様の値段で頂戴してきたというのです。
一つの計画を掲げると、それが果たされるまで決して節を曲げようとしない文子さんの、強くたくましい意志の力をこれまでにも幾度か見せられてきましたが、そのたびに私は、
（これほど激しい初心実践の精神は、若い男性でさえ持ち合わせていないのじゃないかしら……）
と感心させられましたし、
（この人こそ、男に生まれてくれれば……）
と思ったこともたびたびでした。
その行動面と意志力を見ていますと、まるで男の子のように見事な文子さんだったのですが、またきょうの文子さんの花嫁姿ぶりはどうでしょう。
これほど素敵に美しいお嫁さんができ上がるとは、ゴメンナサイ——これまたいささかショッキングなことでした。
文子さん、これからもあなたのご性格では、家にじっとしていることができないかもしれません。でも、これからはあなたのすぐそばに、すばらしい頼りになる方がいらっしゃるのです。

古い格言で恐れいりますが「嫁しては夫に従え」の精神を大切に、どうぞ模範的な奥さまぶりを見せてくださいね。

一生の思い出になるようなすばらしい新婚旅行のご無事をお祈りして、ごあいさつに代えさせていただきます。

新婦の友人（女性）

優子さん、おめでとうございます。

お二人のすばらしい門出を心からお喜び申し上げます。

優子さんは大変おきれいだから、どんなにか花嫁衣裳がお似合いだろうと、きょうの日を楽しみにしていた私ですけれど、予想以上におきれいで、ただもう見とれるばかりでございます。ほんとに何度も溜息をもらしてしまいました。

優子さんと裕真さんのお二人が、お見合いから、愛し合い信頼し合って、きょうのこの日まで、実に清らかなご交際だったことに、大変感動しております。

結婚式をあげるまで、清らかな交際でいることは、あたりまえといえば、あたりまえのことですけれど、やはり、たたえられ、祝福されてよいことだと思います。

古くさいと言われるかもしれませんけれど、私は結婚する男女が、何よりも互いに相手に与え合うべきものは、けがれなき心とけがれなき肉体だと思っております。夫となり、妻となる人に、身も心も捧げうるということは、この上なくすばらしいことではないでしょうか。

この意味からも、きょうのお二人は、すばらしいし、理想的なご結婚だと思います。

お二人は今、人間として味わいうる最高の感動に身をゆだねていらっしゃることでしょう。

ご覧のように、優子さんは今、花嫁衣裳がすてきによく似合う純日本的な花嫁御寮でいらっしゃいますが、これが洋装となりますと、均整のとれたスタイルと近代的センスが相まって誠にさっそうとしていらっしゃいます。男性はおろか、女の私までホロリとさせられるくらいでございます。

優子さんとは大学に入ってからのおつきあいですけれど、誠に気立てのやさしい、心の清らかな方でいらっしゃいます。私は、優子さんが大声をお出しになったり、お友だちといさかいになる姿など、ついぞお見かけしたことがございません。こんなことを申しますと、優子さんは大変

古風な女性のようにお思いになるかもしれませんけれど、モダンな洋服がぴったりお似合いになるというのも、近代的で明るい性格の持ち主でいらっしゃるからではないでしょうか。

優子さんはお名前のようにおやさしいのはもちろん、非常に心の広いおおらかな方で、つらいことや悲しいこと、それからうれしいことがありますと、だれよりも一番先に報告に行きたいような、そんな気持ちにさせておしまいになる方でございます。

どんなことでも喜んで聞いて下さいますし、親身に相談にのって下さる、大変聞き上手な方でいらっしゃいます。お友だちの中でも私なんか一番、優子さんのお耳をわずらわしたのではないかと思います。ほんとによくご相談に乗っていただきました。これからは今までのように甘えられなくなると思うと心から寂しく、残念でたまりません。

優子さんというと、なんかもう楽しいエピソードでいっぱいで、どのようにお話したら優子さんのお人柄をうまく表わせるかわからないのですけれど、とにかく明朗で、親切で、お友だちのだれからも、まるで恋人のように慕われておられました。

いつも愉快に、ひょうきんなことばかり言って人を笑わしていらっしゃるくせに、自分の心情は決しておおっぴらに表現できず、それを言うときにはわざとおどけて笑い話にしてしまう、いわば〝哀しい人〟でもありました。心の中で泣きながらも、人を笑わせる——そんなサービス精神に富んだ優子さんなのです。

でも優子さん、サービス精神も結構ですけれど、あとでソッと涙ぐむのではつまりません。もうサービス精神なんかきれいにお捨てになって、これからは裕真さんに思う存分甘えて下さい。

寂しくて涙が出たら、裕真さんにふいてもらう、そんな〝甘える人〟になって下さい。

裕真さんにお願いします。どうぞ惜しみなく愛情をふりそそいで、優子さんをきっとしあわせにしてやって下さい。

優子さん、きょうは本当におめでとうございました。香川だった優子さんも、もうきょうから、山本優子さん、どうぞ山本夫人として、末長く、いついつまでもおしあわせでありますよう、心からお祈りして、私の祝いの言葉にかえさせていただきます。

新婦の友人（女性）

ご結婚おめでとうございます。

ただ今、司会者の方から、結婚生活の先輩として、何か体験談をとのことでございますが、私はまだ二年そこそこの経験しかもちませんので、あまり先輩ぶるわけにはまいりません。そこで私は、先輩というより、同性の立ち場から、ご新婦に一つだけお願い申しておきます。

それは、ご家庭にはいられても、これまで親しくしてこられた人たちとは、なるべくこれまでどおり、親しく交際をつづけていただきたいということでございます。

男の方はたいてい結婚後も、独身時代と同じように交友をもち続けますが、女性の場合は、いつの間にか、交友が絶えるようでございます。

このことは、結婚するとき、だれでも希望し、お互いに誓い合ったりするものですけれど、一年、二年と月日が経つうちに、だんだん疎遠になり、数年もすれば、消息さえ知らない赤の他人になったりしがちでございます。

「会うは別れの始め」とか「去る者は日に疎し」とか言いますけれども、これは実に寂しく悲しいことですし、せっかく築いた友情を失うことは、大いなる損失ではないかと思います。

これからご家庭をおつくりになられる方は、夫の友だちとか、妻の友だちとかいった考え方ではなく、夫の友人は妻の友人、妻の友人は夫の友人であるという考え方、つまり〝家庭の友〟という考え方が望ましいと思います。

戦後、日本女性は解放されたとよく言われますけれど、まだまだ、わが国の主婦の多くは、古い因習にとらわれているようでございます。

夫の友人が訪ねてきても、お茶やお食事を出すだけで、さっさと引っ込んでしまうというのも、そうした古い考えが、頭のどこかにこびりついているからでございましょう。女自身に男尊女卑の思想が生きていることは嘆かわしく、誠に残念でなりません。

これは私の偏見かもしれませんが、またそうあってほしいのですけれど、家庭を持ってから、友人とのおつきあいが疎遠になるのは、家事や育児で忙しいということや、わからず屋の夫がいるというようなことも、もちろんありましょうが、夫の収入や地位にこだわるのも、大きな原因ではないでしょうか。もしそうだったら、これほどつまらな

い考え方はないと思います。これでは女性解放、婦人解放を女みずからが妨げていることになります。

お恥ずかしい話ですけれど、実は私も、つまらない〝女の虚栄〟から、親友を失いかけた一人なんです。幸い夫が注意してくれましたので、大いなる損失だけは免れました。

独身時代はボーイフレンドとビールを飲み、あるいは恋人と海や山に遊んで、のびのびと生きてきた女性が、妻になったとたん、家庭や社会のしがらみにもがくのは、なんとしても愚かです。妻であると同時に人間であることを、もっと自覚すべきではないかと思います。

夫の友人がきたら、遠慮なく話の仲間にはいる、時には友人のところにダベりに行く、そして少しずつでも賢い女、心の豊かな女になれば、それでいいのではないでしょうか。前向きの夫なら、そういう妻を望んでいるのではないかと思います。

もっとも、夫の友人を迎えて仲間にはいると申しましても、お粗末きわまる会話しかできないようでは、本人もみじめですし、やはりある程度の勉強は必要となりましょう。

家庭の電化が進み、生活が合理化されましたものの、多くの主婦はまだまだ一日中、家の雑事に追われているようでございます。けれど、どんなに家事が忙しいとは申しましても、向上心さえあれば、自分の教養を深めるための時間をひねり出せないはずはないと思います。

家の中にとじこもり、台所に引っ込んでいるのが、主婦の本分だった時代は過ぎ去ったのですから、自分で自分を家庭や台所にとじこめるような愚は避けたいものです。まず、なによりも古い心から自分を解放することが、新しい主婦の生き方であると言うべきかもしれません。

つい堅苦しいお話になってごめんなさい。

由岐子さん、きょうは本当におめでとうございます。いつまでも、おしあわせに。

新婦の友人（女性）

美佳さん、きょうは本当におめでとうございます。

お二人の感激が、私にも伝わって参ります。どうか、いつまでも、今の感激をお忘れなく、お過ごし下さいますよう、お祈り申し上げます。

承りますと、お二人は、結婚後も当分共稼ぎ（かせ）をなさいま

すとか、お仲間が一人ふえて、こんなうれしいことはありません。

私は結婚して一年ちょっと。ですから、共稼ぎの先輩といっても、はなはだ頼りない先輩でございますが、先輩は先輩ですので、先輩の貴重な体験を少しばかりお話して、お二人へのはなむけの言葉といたします。

私たちは職場結婚ですが、結婚後も夫婦そろって同じ職場で働くのは、やはりなんとなくイヤでしたので、結婚と同時に私だけ退社しました。幸い知人の紹介で、間もなく別の会社に就職が決まり、念願どおり夫とは別の職場で働けるようになりました。

共稼ぎをしておりますと、確かに経済的に楽ですし、ある程度視野も広まって、精神的な成長といった面でも、家に閉じこもっている奥さんたちより幾らか恵まれているかもしれません。

しかし、二人とも仕事で疲れるため、感情が高ぶりがちで、ささいなことで正面衝突することもたびたびでした。

妻は、家事を十分に果たしていないというヒケメを持つ半面、職場と家庭と、よその奥さんの二人分の役割りを果たしているという自負心みたいなものや、「女は損だ」という考えが頭をもたげます。

夫は夫で、妻を働かせているというヒケメを持つためか、妻に対する不平不満をぐっと押さえたりしますので、それが知らず知らず胸にたまって感情的シミになり、ちょっとしたきっかけで、そのモヤモヤした感情が爆発することになってしまいます。

共稼ぎでは、どうしても妻の負担が重くなりがちで、適当に家事の手を抜いても、結構疲れますし、陽気に振る舞おうと思いながらも、ついふさぎこんだりします。

夫は、妻の忙しさを理解し、同情しながらも、かまってもらえないという日ごろの不満は消しがたいようです。おまけに、妻がふさぎこんだり、ブッキラボーな返事をしたりすれば、不愉快にもなるでしょう。

しかし、考えてみますと、よりよき生活をするために始めた共稼ぎですから、その共稼ぎのために、ちょいちょい衝突したり、仲の悪い夫婦になったのでは、お話になりません。

このごろでは、生活の知恵がついて、お互いにだいぶ利口になったようです。

三ヵ月ほど前、私たちは一つの約束をしました。それ

は、どんなに口論しても、絶対に翌日まで持ち越さない、ということなんです。どちらかがあやまるか、仲直りの言葉をかけるわけですけど、そのためには自分に素直であると同時に、相手にも素直でなければなりません。やはり、初めのうちは、メンツにこだわったり、テレくさがったりで、なかなか素直に言えませんでした。しかしもう、最近は二人とも平気です。

どうせ一緒に暮らすなら、お互いに不快な気持ちで暮らすより、いさぎよくあやまって仲直りした方が利口だ、という悟りを開いたのです。悟りというより、あきらめといった方が正直かもしれません。

お陰さまで、最近は〃夫婦戦線異状なし〃でございます。

夫婦の間に、感情的な対立がありましたら、どんなご馳走も、ちっともおいしくいただけませんし、夜もぐっすり眠れません。会社のお仕事だって低下しかねないと思います。

一生がまんできるという自信がない以上、不平不満は、なるべく早く吐き出した方が、本人の精神衛生上からも、相手の人格向上のためにも、いいのではないかと思います。どんな不平不満も、一つ一つ、その時その時に、話し合うようにすれば、解決できるのではないでしょうか。不平不満は、決して大きく育てないことが、なにより大切だと思います。そうすれば爆発することもありません。

お二人も、家庭と職場との二つの生活を、どうしたらうまく調和させうるか、これから二人でよくご研究になって、仲よく、楽しくお暮らし下さいますようお願い申し上げます。

新婦の同僚（女性）

ご指名をいただきまして一言、お祝いを申し上げます。

佐藤文子さん、おめでとう。いやきょうこの席からは山本文子さんになられる〃フーコちゃん〃おめでとうございます。

もう三ヵ月以上も前から、同じ職場にいてたまたま私の机の前に電話が置いてありますところから、土曜日の正午というと、渋い声の男性からフーコに電話がかかってきて、当然のように取りつがなければならない私は、ずいぶん、カッカカッカとさせられたことでございます。

「フーコ、はいお待ちかね……」

と、冷やかし気味に受話器を手渡すと、ポッと頬を染めて乙女らしい恥じらいを見せるフーコを見ては、

（あーあ、もったいないような若いお嫁さんができるんだわ）

と、なにか私たち仲間の共通の宝物を奪われてしまうような気持ちにさせられたものですが、実は、いまこうしてフーコのお隣にいらっしゃる新郎、山本さまの、堂々たる若主人ぶりを拝見して、胸をなでおろしている次第です。

あの、中年紳士を想像させるような渋い声の持ち主が、これほどの若々しい二枚目さんとは、思ってもみなかったことでした。

フーコ、素敵なかたね……。

さて、わが社の総務課には、未婚の女の子が七人ほどおりましたが、お昼のお弁当をきちんきちんと持ってくるのは、このフーコちゃんだけでした。

聞くところによりますと、お料理自慢のフーコは、朝早く起きて電気釜のスイッチを入れ、中学と高校へ通っている二人のお妹さんのお弁当ごしらえをすませ、それから自分のお弁当を作るのが長い習慣となっていたそうですが、このことだけをみても、私たちほかの六人は、花嫁候補落第のような気がいたします。

お昼になれば決まって百五十円のカレーライスか、ミルクとミックスサンドしか食べなかった私たちと比べ、フーコはいつも手作りの栄養も十分なお弁当を食べていたことになりますが、そのうえ彼女は、社のお台所で大変風味豊かなおミソ汁を作っては、私たちに振るまってくれることもしばしばでした。

やたらに見栄をはったり、うらやましがってみたり、妬いてみたりの私たちと比べて、フーコは数段上の立派な奥さまの資格を持った女性でした。

いま考えてみますと、あのお弁当づくりもおミソ汁づくりも、すべては未来の旦那さまのためにお料理の腕を上げる勉強の手段だったのかもしれません。とすれば、ダシに使われたのは私たち……ということになりましょうか、いえいえ恨みは言いません。本当にいつもいつもご馳走さまでした。

かえって、わが総務課からお料理の名人がいなくなるということの方が残念でたまりません。

これからは、味つけも満足にわからない私たちに代わって、最愛の旦那さまへのお料理づくりです。さぞ張り合い

も違うことでしょうし、私たちと違ってご注文もウルサイ？ことでしょうが、どうぞ栄養たっぷりのすばらしいお料理をたくさん作ってあげて下さいませ。

大きなお世話のご挨拶になってしまいましたが、拝見すればいささかおやせ気味の旦那さま、日一日とお太りになっていかれるご様子を、たまに新居へお邪魔して、観察させていただきたいと思います。

フーコ、一日も早く可愛い赤ちゃんを見せて下さいね……。

新婦の同僚（女性）

奈々さん、おめでとう。

きょうの佳き日を、私も本当に心から楽しみにお待ちしておりました。さっきから、お二人のすばらしい晴れ姿を胸いっぱいの思いで拝見しております。

いつも美しい夢に包まれた奈々さんですけれど、きょうは最高の感激に包まれていらっしゃることでしょう。

花も笑顔のこぼれ咲き、といった感じの奈々さんの満ちたりたお顔を見ておりますと、私も早く奈々さんのご幸福にあやかりたいという思いが胸にこみあげてまいります。

奈々さんと私は、三年前、白樺社にご一緒に入社した直後からのおつきあいです。奈々さんは大変きさくでカラッとしたお人柄ですので、すぐ親しくなったのですけれど、奈々さんなんかとお友だちになるんじゃなかったと、こっそり後悔したこともあるんです。と言いますのも、奈々さんはご覧のようにおきれいだし、いつもモテるのは奈々さんだからです。

奈々さんはおきれいというだけでなく、お仕事もキチンとしてソツがなく、文字どおり職場の花でした。

若い男子社員のあこがれだったモテモテ奈々さんが引退されて、これからは私たちも少しモテるようになるのではないかと、ひそかに、そして、大いに期待しているところです。でも当分は、奈々さんのイメージが男子社員の心に焼きついていて、ダメかもしれません。

奈々さんは同僚からどんなにモテても、先輩や上役からどんなにチヤホヤされても、少しもおごりたかぶったり、甘えたりなさいませんでしたし、私たち日陰の花には、細かく気をつかったり、思いやりに富んだ方でした。

私たちが、お食事や散歩に誘っても、よほどの用事がな

い限り、イヤとお断わりにならなかったのは、きっと私たち同僚を大切に扱っていらっしゃったからだろうと思います。

私は、人間的に、ずいぶん多く、奈々さんから学び、本当にしあわせでした。でも、私は、奈々さんに何も与えることができませんでしたので、恥ずかしく思っております。この場をお借りして、奈々さんに感謝するとともに、深くお詫びしたいと思います。

とにかく奈々さんは立体的魅力にあふれた方でした。そんな奈々さんを射止められたご新郎の吉行さんは、たぐいまれな幸運な方だと思います。

吉行さんは、純度の高いフェミニストだとのことですから、お二人のおしあわせな家庭が目に見えるようです。

結婚は人生の花であり、これからお二人の花の生涯が始まるわけですけれど、二人の愛の花を散らさないために、そしてさらに美しい花を咲かせ、それらの花を美しく実らせて行くために、二人の愛を大事にして下さい。

吉行さん、奈々さんをよろしくお願いします。

奈々さんの夢みるようなつぶらなひとみが、いつも、そして、いつまでもほほえみをたたえていられるように、きっと、おしあわせにしてあげて下さい。

どうぞ、末長くご円満に。

きょうは、本当におめでとうございました。

新郎新婦・両家代表

新郎の父

新郎の父として、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、ふつつかな息子の結婚披露のためにお招きをいたしましたところ、お忙しい中を、このようにたくさんご出席いただきまして、誠に有難く、親といたしまして感激のきわみでございます。

紀生、雪絵の両名は、本日、皆さまの祝福のうちに、結婚式もとどこおりなく相すませることができました。これもひとえに、お仲人の神田さまをはじめ、ご列席の皆さまのご厚情とお力添えによるものと深く感謝いたしております。ここに改めてお礼申し上げる次第でございます。本当にいろいろと有難うございました。

ところで本日は、なにかと不行き届きの点、失礼にわた

る点があったことと存じますが、なにとぞお許し下さいますよう、お願いいたします。

先ほど来、皆さまから、二人のために、身に余るお言葉やご訓戒をたくさんいただきまして、新郎・新婦はもとより、私どもも誠に光栄に存じております。

紀生には、平凡なサラリーマンでいいから、家庭の平和を乱したり、妻子を路頭に迷わせるような醜態だけはさらしてくれるなと言い含めておりますし、和田さんのご薫陶よろしきを得ましたところのこんないいお嬢さんを妻にもらったのですから、本人も、そんなバカなことはやるまいと心に誓っていることと思います。

また、きょうの感激を忘れず、皆さまのご訓戒を守って、皆さまのご期待に添うよう、二人力を合わせて努力することとは思いますが、何分にもまだ、社会に出たばかりのヨチヨチ歩きで、正真正銘の若輩でございますから、まだまだ皆さんのご指導、ご援助にたよらねばなりません。はなはだ身勝手なお願いではございますが、どうぞ今後ともご配慮いただけますよう、謹んでお願い申し上げる次第でございます。

皆様、きょうは本当に有難うございました。

新郎の父

私は、邦夫の父・石坂正之介でございます。ここに両家を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中にもかかわらず、多数ご出席いただき、心からお礼申し上げます。

〝長生きすれば恥多し〟とか申しますが、恥多きはもちろんとしまして、私の場合、〝長生きすれば喜び多し〟とも言えるようでございます。

私は自分の子どもの結婚式に出るのは、もうこれで五回目、式そのものにはだいぶ慣れましたが、うれしいような寂しいような妙な気持ちには変わりありませんし、何度やっても感激が薄れるようなことはないようでございます。

私には、もう一人そこにすわっている娘がおりますから、もう一度、このような感激の日を迎えることができるわけで、これからはその日がまた楽しみということになるわけでございます。この娘が嫁ぎ、わが子の結婚が完了しましても、孫の誕生、入学などと、私の楽しみのタネは、いつまでも尽きそうにありません。

愚息邦夫は、浅学非才、加うるに学校を出たばかりの青

二才であり、いわば、おむつがとれたばかりのひねた赤ん坊であります。その赤ん坊が、いつの間にかこんな立派な嫁を自分で捜し出してきたのですから、びっくりもし、喜びもしました。

邦夫は、どう親の欲目でみても、あけっぴろげで気どらない、というだけで、ほかにこれといった取り柄もない男ですから、快く妻となってくれるひろ子さんに感謝したい気持ちでいっぱいです。とにかく邦夫には過ぎた花嫁さんで、私たちの喜びは格別でございます。

しかし問題はこれからです。「結婚はやさしく、結婚生活はむずかしい」——こんな言葉があったかどうか知りませんが、育った環境も性格も違う二人の人間が、リハーサル抜きで、いきなり共同生活を始めるのですから、結婚生活はやはり大変だと思います。

しかし、邦夫は恵まれた結婚をしたのですから、努力さえすれば、恵まれた結婚生活ができないはずはないと思います。

私ども親としましては、二人が健(すこ)やかなる時も病める時も、共に励まし合い、いたわり合って、末長くしあわせに生きてくれるよう祈るばかりです。それにつきましても本日ご出席の皆さまはもちろん、世間の皆さまのご愛顧を仰がねばなりません。

二人とも、きょうの喜びを忘れることなく、皆さまのご教訓を実行するよう努力するとは思いますが、何分にも未熟な二人でございますので、どうぞ末長くご指導下さいますようお願い申し上げます。

きょうは、ご媒酌人の宮崎さまはじめ、ご出席の皆さまから、身にあまるお言葉やご教訓をたくさんいただき、感謝しております。本当に有難うございました。

新郎の叔父

私は新郎の叔父でございます。

新郎側の親族を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、皆さま、大変お忙しい中をこのように多数ご出席下さり、また、多くの方々から愛情にあふれたお祝いの言葉をいただきまして、誠に有難うございました。新郎・新婦に代わり厚くお礼申し上げます。

叔父の口から言うのはなんですが、民夫君は忍耐強くて、誠実で素直な人物です。だからこそ、浪子さんのよう

な美しくて、やさしい、しっかりしたお嫁さんを迎えることができたのだと思います。
結婚して新しい家庭をつくるということは、男性にとっても、女性にとっても、第二の誕生であります。最初の誕生は、本人にはなんの自覚もありませんが、この第二の誕生は、本人の大きな自覚と責任のうちになされるのですから、第一の誕生より意義深いものと言えるかもしれません。
民夫君も浪子さんも、きょうのこの第二の誕生を機に、一人前の社会人としてスタートするわけですが、まだまだ頼りない二人でございますので、皆さまの暖かいご理解とより一層の励ましを仰がねばなりません。
どうか、折りにふれましても、二人を叱咤激励して下さいますようお願い申し上げます。
なおこのことは、両家からも願い申し出ており、私たち親族ともども、くれぐれもよろしくお願い申し上げる次第でございます。
「結婚は、いかなる羅針盤もかつて航路を発見したことがない荒海である」と言った人がありますが、二人の場合、こんな言葉は当分の間、関係のないことかもしれません。
そして永久にそうであることを願うものですが、二人の愛情次第では、荒海のように大荒れすることもありうることを、一応心しておくべきだと思います。
波静かにして心おだやかな結婚生活をつづけて行くには、それなりの努力をしなければなりません。どうか、日日の努力で二人の結婚生活を、より美しいものにして行って下さい。
借りものですが、二人に一つの言葉を贈ります。
「愛せよ、人生において良いものは、それのみである」
本日は、皆さま有難うございました。

新婦の父

私は新婦・理往の父でございます。
きょうはご多忙中にもかかわらず、若い二人のためにご出席いただき、誠に有難うございました。謹んでお礼申し上げます。
先ほどから、ご媒酌人の中野さまをはじめ皆さまから、たくさんおほめのお言葉をいただきましたが、理往はそんなに賢くもなく、美しくもありません。特に友人の方の「デリケート……」のくだりは私まで冷や汗かきました。

また、ただいま、新郎の親族代表の方が、〝もったいないような花嫁〟とおっしゃいましたが、もったいないのは、花婿さんだと思っておりますので、これまたくすぐったい思いでございます。

二人の兄にもまれたせいか、男のような名前のせいか、とにかく理往は、背広を着た方が似合うような女で、小学校のころは、すぐ上の兄貴ドノを何度も泣かして、家内を嘆かせたものでございます。三つ子の魂百までと申しますが、いまだに〝男らしさ〟が抜け切らないようで困っております。

家内は「あなたもソロソロお嫁さんをもらわなくっちゃね」などと、よくからかったものです。

二年ほど前、理往の恋を知ったときは、驚いたり、心配したり、喜んだりする前に、吹き出してしまいました。恋する女になってから、だいぶん女らしくなりましたが、そのころは、どう考えてもピンとこなかったのです。

「わたしたちの恋愛は、一等品の恋愛よ」といつぞや私たちに、おごそかに宣言しましたけれども、理往の側からみれば、こんな立派な花婿さんをつかまえたのですから、確かに一等品の恋愛だったと言えるでしょう。

とにかく、じゃじゃ馬ですので、おとなしくて気のいい聰一郎さんが、うまく乗りこなせるかどうか、少なからず心配になります。

これから、欠点やいたらぬ点がぞろぞろとつながって出てくるかもしれませんが、決して遠慮しないで、どしどし指摘し、どしどし叱ってやって下さい。愛の叱責ならば甘んじて受けるだろうと思います。理往の唯一の長所は、素直でさっぱりしているということですから。

聰一郎さんの教育次第では〝和服の似合うしとやかな女〟にもなるだろうと思います。

聰一郎さん、どうか愛のムチをぴしりぴしり当てて、女らしい女、妻らしい妻に育て上げて下さい。

いつの日か、理往が「わたしたち、一等品の夫婦よ」と威張りに来る日を楽しみに待っております。

どうぞ皆さま、暖かいお心でこの二人を見守り、ときどき励ましのお言葉をおかけになって下さいますよう、お願い申し上げます。

新婦の父

皆さま、きょうは本当に有難うございました。

私は新婦・悠子の父でございます。

きょうは、大変お忙しい中を私たちの子どものために、ご出席いただき、また愛情に満ちたご祝辞をたくさんちょうだいしまして、心から感謝しております。新郎・新婦に代わり、厚くお礼申し上げます。

悠子は、私と妻・悦子との間に昭和十八年九月に生まれた長女ですが、私は、悠子が生まれるころは、兵隊としてフィリピンに行っておりましたし、終戦後引き揚げてきて初めて会ったときは、もう二歳半でだいぶんおしゃべりするようになっておりました。

幼いころのしつけが大事なことは知りながらも、なにしろ、その日その日の食事に追われる有様で、しつけまで手が回らず、心ならずも野放しのような毎日でした。

身も心もすくすく育ってくれという私と妻の願いが通じたのか、ひがんだり、じめじめすることもなく、明るくのびやかに成長してくれたようで、うれしく思っております。親の下手な干渉を受けず、自由気ままに生きて、かえってよかったのかもしれません。

放任していた割りには親思いのやさしい娘に育ってくれました。これからは、夫思いのやさしい妻として生きてほしく思います。

私たち夫婦は、自分の娘を嫁がせるのは、もちろん初めてですが、生き生きした悠子の幸福そうな顔を見ていると、予想していたほど寂しい気は起こりません。悠子にとって理想的な結婚ができて本当によかったという、うれしい気持ちの方がずっと強いようでございます。

これも、昇さんが、若さに似ず包容力豊かな頼もしい青年だから、安心して任せられるという気持ちが強いからだと思います。

先ほどから大分おほめのお言葉をいただきましたが、悠子は大学にも行かず、花嫁修業も何一つ満足にできていませんし、決しておほめいただいたほどの娘ではありません。

悠子はよき妻になる決意で嫁いだようですが、昇さんのもとに参りまして、果たして無事に勤められるだろうかと今から案じております。

どうか昇さん、手をとってリードしてやって下さい。そしてよき妻に仕立てて下さい。

ご両親やご兄妹も、ご列席の皆さまも、いたらぬ点は手をとって導いて下さるよう心からお願いいたします。

皆さま、きょうはどうも有難うございました。

新郎

きょうは皆さま、お忙しい中を本当に有難うございました。厚くお礼申し上げます。

皆さまの暖かい祝福のうちに、新しい人生への門出ができますことを、深く感謝するとともに、心からうれしく思います。

皆さまの心のこもったご祝辞を拝聴して、ずいぶんくすぐったい思いもしましたが、感銘深いご教訓や数々の激励のお言葉には、強く感動させられました。

皆さまのきょうのお言葉が、私たち二人の生活の指針となり、励ましとなりますよう、何度も噛みしめて、肝に銘じたいと思います。

皆さまのご好意におこたえするためにも、私たちは、きょうより二人相たずさえて、恥ずかしくない家庭を築き、末長く睦まじい夫婦として、波乱多きこの人生をたくましく生き抜いて行くつもりです。

きょうの無上の感激を終生心に刻み、皆さまのご期待にそむかぬよう努力をつづけるつもりではありますが、なにぶんにもふつつかな私たちですので、どうぞ今後とも、一層の励ましやご忠告を下さいますよう切にお願い申し上げます。

いずれ落ち着きましたら、改めて、皆さまにごあいさつ申し上げるつもりです。

簡単ですが、私たち二人のお礼のごあいさつといたします。

新郎

皆さま、本日は私たち二人のささやかな結婚披露宴のために、お忙しい中をわざわざお出で下さいまして、本当に有難うございました。心からお礼申し上げます。

先ほどから、皆さまの心のこもったお祝いのお言葉や身にあまるおほめのお言葉をいただき、うれしいやら、恥ずかしいやらで、ポーッとした体に、だいぶん冷や汗をかいたようでございます。

また、貴重なるご教訓や激励のお言葉もたくさんいただき、身にしみてうれしく、感謝にたえません。

きょうのこの感激を忘れることなく、皆さまのご教訓を深く心に刻み、身にたいして、たとえささやかではあって

も、明るいなごやかな家庭を築き上げて、皆さまのご期待に添いたいと思います。

とは申しましても、二人とも健康だけが取り柄のような新夫婦で、何分にも年も若く、人生経験もいたって乏しい二人ですから、今後とも皆さまの暖かいご指導を心からお願い申し上げます。

どなたかのお言葉にもありましたが、このセチ辛い世の中を生き抜いて行くことは、やはり大変なことだと思います。

しかし、私たち二人が、愛と信頼の堅いきずなに結ばれ、力を合わせてぶつかって行けば、おのずから道は開けてくるものと信じます。

寂しさの谷、涙の谷をさまよわぬ者は、人生を知ること少なし――という言葉もありますが、さまざまな苦難に耐え、いかなる試練も乗り越えてこそ、本当の人生を知り、その人生の深い味わいの中に、尽きせぬ喜びが湧いてくるのではないかと考えております。

きょうから手をしっかり握り合って、皆さまのご期待を裏切らぬよう努力することをお誓い申し上げて、お礼の言葉に代えたいと思います。

どうも有難うございました。

新郎

きょうは、私たちのために、大勢ご出席いただいたうえ、身にあまるご祝辞をたくさんちょうだいして、感激しております。皆さま、どうも有難うございました。

結婚はゴールインであると同時にスタートでもあります。私たちも、きょうから第二の人生にスタートするわけですが、きょう、厳粛な結婚式に臨み、改めて責任の重大さを痛感するとともに、決意を新たにした次第です。

皆さまのご教訓は、一つ一つ胸に刻み、肝に銘じたつもりではありますが、時の流れとともに忘れ去ったり、また、忘れないまでも、実行を怠るようなことがあるかもしれません。そのときは、どうか注意してやって下さい。叱ってやって下さい。実行しようと、二人力を合わせて懸命にがんばっているときは、ほめてやって下さい。

「よい結婚はある。しかし、甘美な結婚はない」という言葉がありますが、これは、結婚生活は決して甘いものではないということであろうと思います。私たちは、よい結婚でありたいとは願っても、決して甘美な結婚を夢見ている

わけではありません。
恋愛結婚して、たった二、三年で、相手がハナについてイヤになり、よその男あるいは女にフラフラ参るような軽薄な私たちでないことを、ここで、皆さまにお誓い申し上げたいと思います。
お互いが愛妻家、愛夫家となり、夫の喜びは妻の喜び、妻の悲しみは夫の悲しみとして、喜びも悲しみも分かち合い、もちつもたれつ、これからの長い人生を歩いて行きたいと思います。
「笑う門には福来たる」——笑いにあふれた楽しい家庭を目ざして、一生懸命努力する覚悟ではありますが、まだまだネンネの二人です。どうか今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。
最後にもう一度、心からお礼申し上げます。有難うございました。

新婦
那津子でございます。
皆さま、きょうは、私たち二人のために、お忙しい中をお出でいただき、いろいろと有難いお言葉をちょうだいして、今はただ感謝の気持ちでいっぱいでございます。
皆さまからこんなに祝福されて、最高にしあわせでございます。わたくしはきょうほど、しみじみと幸福感を味わったことはございません。本当に有難うございました。心からお礼申し上げます。
きょうの感激を生涯胸にきざみ、皆さまのご教訓を身にたいして、私たちの生活を築き上げたいと思います。
なにぶんにもふつつかものでございますので、皆さまがたのお力におすがりしなければなりません。どうぞ、幾久しくお導きのほど、いくえにもお願い申し上げます。
皆さま、どうも有難うございました。

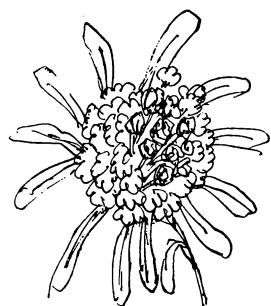
新婦
良子でございます。
きょうはいろいろと有難うございました。
皆さまから、このようにご祝福いただいて、今はただ感激で胸がいっぱいでございます。
ささやかではありましても、家庭はなごやかな憩いのオアシスでありたいというのが、私の妻としての願いでございます。

これからは茂夫さんに従い、また力を合わせて、なごやかな家庭を築き上げ、ともに明るく正しい人生をしっかりと歩んで行きたいと思っております。

ふつつかではございますが、どうぞ、幾久しくご叱正、ご指導下さいますようお願いいたします。

簡単ですけれど、お礼の言葉に代えさせていただきます。

皆さま有難うございました。

祝賀

祝賀の祝辞と挨拶

家庭関係の祝賀

家庭でのおめでたいできごとに対し、いろいろお祝いの会やパーティーを催す場合がある。子どもの誕生日、病気回復の快気祝いなども広い意味ではそれに当たる。

しかしなんといっても、銀婚式や金婚式、長寿の祝いとなると、集まる人たちも年配であり、社会的地位のある集まりになる。そこでは、主催者も列席者も祝辞や挨拶がとり行なわれることになり、このよろこびを共に祝福するのが通例である。長い人生を生き抜いてきた人へのお祝いの言葉は、尊敬の念がこめられてくるのは当然である。

昔から長寿の祝いには、還暦(六〇歳)、古稀(七〇歳)、喜寿(七七歳)、米寿(八八歳)、白寿(九九歳)などがある。六〇歳といっても、現在では企業の現役で活躍中という人も多い。第二の人生としてこの還暦をスタート台にする気持ちで、お祝いをする家庭が多い。

ビジネス関係の祝賀

会社の社屋が新築落成したり、商店を新規に開店したりという開業や開店、そして新築などのお祝いが行なわれる場合はかなり多くある。

いかなる規模のいかなる職種の、という場合を考えると、それは数限りないケースがあると思われる。ここでは、商店のようなある程度私的な意味合いの場合から、企業、公共的な場合までの代表的なケースを紹介する。

私的な意味を含んだ商売関係の場合、祝辞はその商店主なり家族の人たちに対してのよろこびとお祝い、そして、そこに至るまでの苦労をねぎらうという角度の話になる。これが、会社や官庁というと、祝賀の会に参列する人たちも各分野にわたり、話の内容も変わってくる。

会社や官庁関係の場合、祝辞を述べる側も挨拶する側も、個人ではなく各々の会社の信用を背負っているわけであるから、十分慎重に原稿づくりをする必要がある。

プライベートの場合でもオフィシャルな場合でも、その場に応じた話の内容や時間を考えることはいうまでもない。ただし、自分個人の責任で話すか、会社なり官庁の人間として話すかの立ち場の相違は注意が必要となる。

誕生祝・快気祝

誕生祝（友人＝女性）

どうも、おめでとうございます。

ベビー誕生のお知らせに、すぐにも飛んで行って、お二人のしあわせそうなお顔を拝見し、この小さな可愛らしい淑女に「今日(こんにち)は、赤ちゃん」と初対面のごあいさつをしたかったのですけれど、ママの元気回復を待つ意味で、しばらくがまんしておりました。

ホヤホヤパパ、ヨチヨチママのご感想はいかがですか。初めての愛の結晶ともなれば、感激もひとしお、無上のしあわせを味わっていらっしゃることでしょう。

お二人の夢だった「一姫二太郎」の〝一姫〟がまず実現できたのですから、お喜びも格別のことと思います。お二人とも、なんだか急に貫録がおつきになったみたいで、ほほえましい限りです。

平和なしあわせが家中に満ち満ちて、私までいつになくほのぼのと楽しい気持ちにさせられました。笑いの多いなごやかなご家庭が、淑女を一人加えてまた一段とにぎやかになったようでございます。

すばらしいパパとママの愛と夢に包まれて、ベビーちゃんはしあわせなことでしょう。どうか、すてきな名前をおつけになって下さい。

昔から「子にすぎたる宝なし」と言っております。何ものにも代えがたい生きた宝をみつめていると、限りない喜びと希望が、次々と心に湧いてくることでしょう。

こうして、大野家の〝幸福なる家族〟をみておりますと、私もまた、赤ちゃんを愛し育てた日が懐かしく思い出されます。十年ほど前、初めてママになったとき、私もいまのお二人のような幸福感を抱きしめたものでございます。

赤ちゃんが生まれたあとの女の気持ちほどすばらしいものは、この世にないかもしれません。無心にオッパイを吸う赤ちゃんなんて、たまらなく可愛いものですし、もう一度、あのすばらしい経験をしたいとさえ思います。

「家に子なきは、地球に太陽なきごとし」と申しますけれど、まさに子どもは家庭の太陽であり、希望の太陽でございます。

これからのお二人は、このベビーという名の太陽を中心

に回転されるのではないかしら?
ヨチヨチママさんでなにかと心細いでしょうけれど、勇気と知恵をお出しになって、いま流行の育児ノイローゼに感染なさいませんように。ホヤホヤパパさんともども賢いパパ、ママとして、愛の結晶をいつくしみ育てて下さいませ。
十ヵ月後の初節句には、ぜひまたお邪魔して、すこやかな成長ぶりを拝見したいと思います。もちろん、そのころには、すてきな名前もついて、あどけない〝淑女のほほえみ〟にもお目にかかれることでしょう。最後にジブランという詩人の詩の一節を朗読いたします。

あなたの子どもはあなたの子どもではない
彼らは人生の希望そのものの息子であり娘である
彼らはあなたを通じてくるが　あなたからくるのではない
彼らはあなたとともにいるが　あなたには属しない
あなたは彼らに愛情を与えてもいいが　あなたの考えを与えてはならない
なんとなれば彼らは彼ら自身の考えを持っているからである

賢明なお二人には私の気持ちがわかっていただけることと思います。
ベビーちゃんの歩みがすこやかならんことをお祈りするとともに、ますますお二人仲良く、楽しいご家庭を築かれますようお祈りして、お祝いの言葉といたします。

誕生祝（父の謝辞）

きょうは皆さん、お忙しい中をどうも有難うございました。また、皆さんから心づくしのプレゼントをいただき、心から感謝しております。〝無口なレディー〟に代わって厚くお礼申し上げます。
お陰さまで、わが家のレディー・愛もスクスクと育ち、こうして皆さんの祝福のうちに初誕生を祝うことができて、こんなうれしいことはありません。
愛は、チビっ子ながら、わが家のヒロインで、あ、クシャミした、アクビした、笑ったよ、すわったよ、と、この一年、私たち二人の話題を独占してきましたし、これからも当分、ヒロインとしての人気を保つことでしょう。
女性は順応性に富んでいるせいか、女房の恵子は、割りと早くお母さんらしくなり、ママぶりもだいぶ板についた

ようですけれども、ダンナの私は、何事にもギゴチないせいもあって、一年もたつというのに、いまだに二世誕生の実感が湧かず、一向にお父さんらしくなりません。「愛ちゃんのお父さんですか」などと言われると、「ええまア」と頭に手をやってゴソゴソかく始末です。

それもこれも、父としての風格、親としての自覚を欠いているからだと思います。

最近の新聞によりますと、青少年非行化の原因に、父親の権威喪失があげられております。愛が非行少女になるおそれはまだ当分ありませんが、父親として、いつまでもウカウカできん、ここらでぐっと自覚を高めねば……と、初誕生を口実に、こうして皆さんに集まっていただいた次第です。

女房の手料理でたいしたご馳走はありませんが、酒はたっぷり用意しておりますので、飲みかつ食って、〝父親自覚〟のダシにされた腹立ちをお静めになっていただきたいと思います。思慮深き者はたやすく怒らず――チビっ子と言っても、愛はレッキとしたレディーですから、紳士としての思慮分別をお忘れになりませんように。

ところで、〝愛〟などと言うと、即席だなと、お考えになる方もおいでかもしれませんが、どうして、どうして、大学受験なみに頭を使い、お役所仕事なみに長時間費やしてつけた、いわば苦心の作なのです。出産は安産でしたが、名前は大変な難産でした。

なんの変哲もなく、平凡と言えば平凡ですが、「人を愛し、人からも愛される愛らしい女になるように」という願いをこめてつけました。皆さんもせいぜい愛してやって下さい。

私は、長い駄弁は封建時代の遺物だと心得ております し、どうやら、ささやかな祝宴の準備も整ったようですから、これで短い駄弁を終わります。

まず腹ごしらえをしたうえで、先輩パパのご忠告をお聞かせ下さい。パパの資格を持たない方も、ご意見を遠慮なくどうぞ。これからの父親稼業に生かして行きたいと思います。

きょうはご足労、有難うございました。

誕生会（主催者）

皆さん、誕生日おめでとう。

木々の緑もさわやかに、ものみな生き生きと輝く五月、

若さのみなぎる五月、大地の香りがむせ返る五月、私はこの五月が一年のうちで一番好きです。私の一番好きなこの五月に誕生された皆さんに、うらやましさを感じると同時に、特別の親しみを覚えます。

若葉の季節にふさわしく、皆さん、若くて元気はつらつとした人たちばかりで、こんな喜ばしいことはありません。皆さんをこうして見ただけで、さわやかな気持ちになります。

生きていれば、いやでも巡りくる誕生日ではありますが、健康で、それぞれ無事に誕生日が迎えられたことは、やはり、めでたいことと申さねばなりません。

一年一年、巡りくるこの日は、人間としてどれだけ成長したかを反省する日であり、また、あすの人生をいかに生きるか、決意を新たにする日でもあります。

かつては、正月元旦に、日本人みな一緒くたに年をとったものですが、いまでは、それぞれ自分の誕生日に、年をとることになりましたので、いわば、誕生日が、各人の新年でありまして、「一年の計は誕生日にあり」というべきかもしれません。

皆さんも、心中ひそかに期するものがおありのことでしょう。

皆さんは、きょう、年輪を一つ加えられたわけですが、年輪が増すごとに人間は成長してゆきます。人間だれしも、だてに年をとりませんし、また、とってはいけないのであります。

私たち人間は必ず死ぬようにできております。寿命が尽きたときに死ぬのではなく、毎日毎日、時々刻々、休みなく死につつあるのであります。この世に生を受けたときから、その人は死に始めるのであり、六十三歳である私は、六十三年間生きると同時に、六十三年間死につづけてきたのであります。人生は過去になったが最後、死となって消え去り、絶対にとり返しがつきません。

青春が再び還らないように、この日、この時も、再び還ってはきません。

このように考えますと、一日一日、一分一秒が、あだおろそかにできなくなり、時々刻々を有意義に生き、悔いなく死んで行こうという気持ちにならざるを得ないのではないでしょうか。パチンコに時を忘れ、マージャンに我を忘れてはおれなくなると思います。

皆さんも、この毎日の死、刻々の死を大事にして、喜び

と感謝をもって死に続けられる道を捜し出し、このかけがえのない人生を悔いなく生きていただきたいと思うのであります。

おみかけしたところ、ニキビをこしらえている人も、だいぶおられるようですが、ニキビは青春のシンボルであり、老いたる私など大いに妬けるシロモノであります。人に誇りうるような「ニキビの青春」を送って、楽しい「ニキビの思い出」をいっぱいつくって下さい。

笑って暮らすも一生、泣いて暮らすも一生、努めて明るい気持ちをもって心楽しい生活を送らねば損であります。

わが社にとって、皆さんはなくてはならぬ人たちです。皆さんの若い力で、ますます明るい楽しい職場にして行きたいと思います。どうかしっかりがんばって下さい。

何よりも皆さんのご健康を祈って喜びの言葉といたします。

さあ、祝杯を上げましょう。

誕生会（謝辞）

本日は、私たち三月生まれの社員のために、このような楽しい誕生会をお開き下さいまして、私たち一同、心から感謝しております。また、心のこもったプレゼントをちょうだいいたしまして、有難うございました。重ねてお礼申し上げます。

昨年の、やはりきょう、盛大にお祝いしていただいて、はや一年が経ったわけですけれども、社長の励ましのお言葉にもかかわらず、この一年間、ただ漫然と無為な日を送ったにすぎず、赤面のほかはありません。

しかし、私たちも、年を一つ加えたのですから、一つ賢さを加えて、ただいま、社長からいただいた「悔いなき人生を送れ」というお言葉をよく噛みしめて肝に銘じ、きょうからの人生を、仕事の面でも、私生活の面でも、悔いなく生きたいと思います。そして来年こそ、充実した気持ちで、祝福されるにふさわしい誕生日を迎えたいと思います。

この三月は、寒い暗い冬が去って、ものみなが生き返るすばらしい月です。このすばらしい月に、新たな一歩を踏み出す私たちは、大変しあわせだと思います。

社長はじめ、ご出席の皆さま、今後とも変わりなく、ご指導、ご鞭撻下さいますよう、どうぞ、よろしくお願いいたします。

以上簡単ではありますが、本日の誕生会に対するお礼の言葉といたします。どうも有難うございました。

快気祝（謝辞＝女性）

きょうは、本当にようこそおいで下さいました。

こうして、皆さまにおいでいただいて、結構なお祝いやら、お言葉やら、ちょうだいいたしますと、良くなって本当によかったという思いがこみあげてまいります。

初めの容体から考えますと、不思議なほど早く健康を取り戻しましたけれど、これもひとえに、皆さまのご厚情の賜ものと、深く感謝しております。

思わぬ病でございましたし、気の弱い私は、すっかり気落ちして、一時は、それはそれはお恥ずかしいくらいガッカリいたしました。一度難病に打ち勝ったことのある母は、さすがに落ち着いておりまして、「あなたは、いまにも死にそうなことを言ってるけれど、あなたが死にたいと言っても、こんな病気じゃ、死ねませんよ」と笑われたものでございます。皆さまのお見舞いやお手紙には、どんなに励まされ、心を強くしたかわかりません。皆さまの暖かいお心づかいとお見舞いに、心からの感謝を申し述べさせていただきます。本当に有難うございました。

この五ヵ月の療養中は、ずいぶん、ご本も読めましたし、思索の散歩もできましたけれど、やはり健康で働くのが一番でございます。

どうぞ皆さまも、ご自分の健康には、とくにお気をつけられて、すこやかな日々をお過ごし下さいますよう祈っております。きょうは皆さま、いろいろと有難うございました。

快気祝（謝辞）

皆さまにいろいろとご心配をかけ、仕事の面でもさんざんご迷惑をかけた私のために、このようなお祝いの会まで開いていただき、恐縮のほかありません。ただいまは、部長から丁重なお祝いと激励のお言葉をちょうだいして、身にしみてうれしく、心からお礼申し上げる次第です。

また、病中お見舞いをいただいたり、慰めや励ましのお便りをいただいて、本当に有難うございました。この席をお借りして改めてお礼申し上げます。

いま、私は、生きているという喜びをしみじみと味わっておりますが、私がそういう喜びを味わえるのも、皆さま

のお陰だと感謝しております。
医者から〝入院〟の宣告を受けたときは、全身の力がサーッと抜けたみたいにガックリしました。私にとって、健康は、唯一の財産であり、唯一の誇りだっただけに、その唯一の財産、唯一の誇りを喪失したという虚脱感は、たとえようもありませんでした。本当に魂の底まで凍る思いでした。
こんなことを言うと、〝それでも男か！〟とヤジが飛びそうですが、入院第一夜はフトンをひっかぶって、絶体絶命に泣きました。この世の不幸を一身に背負ったような気がして、身も世もあらず悲しかったんです。変な病気をしたトンマな自分が、口惜しかったんです。いま思うと、ずいぶんおおげさに考えたものですが、このまま死ぬのではないかという不安さえ感じました。
なんだか自分が、人生の敗残者のように思われて、しばらく卑屈な日々を送りましたが、皆さまの直接、間接の慰めや励ましをいただくうちに、気を取り直し、幾分心も晴れて、死んでハナミが咲くものか、と考えるようになったのであります。
三度の食事をキチンととって、あとはベッドの上でひねもす寝ていればいいのですから、ハタ目にはこの上ない楽珍にも見えるでしょうが、どこといって痛くもカユくもないからだを、長い時間、長い月日、ベッドに横たえるということは、ちょっとした苦行で、意外につらいものでした。あの病気は、まさに時間との戦いと言っていいかもしれません。
早く大地を歩きたい、活気に満ちた街の空気にふれたい、早く職場に復帰したい……などという思いが次々とこみあげてきて、病院という名の格子なき牢獄を、何度脱走したいと思ったかわかりません。
それにしても、皆さんのお見舞いやお便りほど、うれしいものはありませんでした。どんなに私の心をうるおし、元気づけてくれたことか、筆舌には尽くしがたいほどです。
思えば、自分の健康を過信して、病気を小バカにしていた思い上がりが、こういう病気を引き起こしたのだと思います。私は、病人に対する思いやりなどほとんど持っていませんでしたし、いまさらのように、自分の傲慢さを恥ずかしく思います。
「病んでのち、初めて健康の価値を知る」と申しますが、

本当にこんどばかりは、健康の有難さをしみじみ思い知らされましたし、自分の弱さもつくづく思い知らされました。

病院暮らしは生まれて初めての経験でしたが、少しは得るものがあったのではないかと思っております。しかし、部長のおほめの言葉ほど、成長していないことは、もちろんであります。仕事のカンも狂い、これからも皆さまに何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

「不潔な空気は人を殺すこと刀剣のごとし」――この汚れ切った空気の中で働いておられる皆さまも、健康にはくれぐれも留意されて、私のような失敗だけはなさらないでいただきたいと思います。

長い間、皆さまに、大変ご迷惑とご心配をおかけしたことをお詫びするとともに、皆さまのご厚情を心から感謝して、私のお礼の言葉といたします。きょうは皆さま、有難うございました。

快気祝（上役）

きょうは、森邦夫君の全快祝いにふさわしい、よい天気に恵まれて、こんなうれしいことはありません。森君、本当におめでとう。皆さんを代表して心からお祝い申し上げます。

森君は皆さんもご存知のように、この一年半ほど、青葉療養所において、闘病生活を続けられ、病魔にうち勝って、先日、退院されたのであります。

全快されたとは言え、長い間病床にあっただけに、病後のやつれも残り、まだまだ森君は弱々しいだろうと、私たちは思っておったのですが、なかなかどうして、顔の色つやも私なんかよりずっと良く、おまけに、はちきれんばかりに丸々と太って、貫録倍増といった感じで、私など唖然としました。病気前の、どちらかといえばスラリ型だった森君を知る皆さんも、さぞかしビックリされたことだろうと思います。

このように元気そうな森君を拝見できて、私たち一同、大変うれしく思っております。

長い苦しい闘病生活に耐え、病魔を打ち負かしたという誇りのせいか、これからの人生に意欲を燃やされているせいか、ずっと若々しくなられたし、精神的な落ち着きが加わって、人間的な幅の広がりといったものが感じられま

す。

これから、以前にもまして、わが社のため、ひいては社会のために、ご活躍いただけるものと、心強く思うとともに、大いに期待する次第であります。

とにかく、きょうこうして、森君の元気そうな顔を見、私たちも本当に安心しました。

来月から再び職場に迎えうる喜びをこめて、ただいまから、ささやかながら森君の全快を祝いたいと思います。皆さん、森君を中に、どうぞ、ごゆっくりおくつろぎ下さい。

はなはだ簡単ではありますが、私のごあいさつを終わります。

快気祝（友人＝女性）

きょうは、美恵さんの快気祝いにふさわしく、空どこまでも青く、菊の香りもすがすがしい佳き日で、喜ばしい限りでございます。

美恵さんご本人はもちろん、ご両親やご主人のお喜びは、いかばかりかと思います。

美恵さんのみずみずしいまでに元気で、底抜けに明るいお顔と、皆さまの喜びあふれるお顔を拝見できて、こんなうれしいことはありません。心からお祝い申し上げます。

美恵さん、本当におめでとう。きょうの日を心待ちにしておりました。

人一倍健康自慢の美恵さんだっただけに、入院のお知らせをお受けしたときは、ノンキ者の私も、さすがにショックでした。初めにお見舞いにお伺いしたときは、お顔の色も、ご気分もすぐれない感じでしたし、人知れず心配いたしましたが、その後、お気持ちを持ち直されて、医者のいいつけをよく守り、養生専一のご努力をなさっていると知ったとき、「病を知れば治るに近し」で、私はこれで全快の日は近いと思いました。

そして、私が確信しましたとおり、思ったよりずいぶん早く、この快気祝いをお迎えになったのでございます。いわば、美恵さんは〝病院の優等生〟でいらっしゃったわけで、それだけ早く、ご卒業にこぎつけられたと言っていいのではないかと思います。

それにつけましても、長い闘病の日々は、きびしい修行にも似て、さぞおつらいことだったろうとお察しいたします。それだけになお、長い苦難をじっと耐え忍び、見事に

克服された喜びは、なにものにもかえがたいものであろうと存じます。
美恵さんは、この病中の月日を取り返しのつかない無為な月日のようにお考えかもしれませんけれど、得がたい体験の中で、たとえ目には見えなくても、多くの何かを身につけられたはずですし、それなりの意義はあったのですから、クヨクヨなさらないで、これから始まる新しい人生を、以前のように、明るくたくましく生きていただきたいと思います。
健康の有難さを身にしみて知るだけでも立派な人生勉強ではないかしら?
「闘病生活は人をつくる」と申しますけれど、美恵さんも、たいへんゆったりと落ちつかれて、ひと回りも、ふた回りも大きく成長なさったようでございます。それに、ご病気前より、ずっとお若くなられました。
思えば、美恵さんのお苦しみもさることながら、朗らかで、いつも愉快に笑わしてくれる美恵さんのお顔を拝見できなかった私たちの寂しさ、つまらなさも、たとえようもございませんでした。まるで火の消えたような、という表現そのままの味気なさだったのでございます。
この快気祝いは、美恵さんの不幸へのお別れ宣言でありますとともに、私たちの寂しさ、つまらなさへのお別れ宣言でもございます。
それにしましても、食欲の秋によくなられたことは、幸運でした。おいしいものをいっぱい召し上がって、もりもり体力をつけ、もっともっとフックラした美恵さんになっていただきたいと思います。
「病は治りぎわ」と申しますように、仕上げが肝心でございます。
どうぞ、このうえとも、ご自愛専一にお過ごし下さいますようお願い申し上げて、私のお祝いの言葉といたします。

結婚記念日・長寿

銀婚式(祝辞)

本日は誠におめでとうございます。
お二人が偕老同穴(かいろうどうけつ)の契りを結ばれてから、春秋ここに二十五年、お二人のご結婚の盛儀に連なってから、もう二十

五年の月日が流れたかと思うと、全く夢のような気がします。しかし、一口に二十五年と申しましても、すぎこし方を振り返れば感無量なるものがおありのことでしょう。

夫婦が手をたずさえて、二十五年という長い歳月を恙なく送るということは、やはりめでたいことと言わねばなりません。結婚式と違って、銀婚式を迎えるということは、だれでも享受できるしあわせではないだけに、限りなくめでたいことと思います。

とくに、お二人が結婚されたのは、太平洋戦争真っただ中の非常時でしたし、内野さんは兵隊にとられて死線をさまよわれ、奥さんは生まれたばかりの圭二さんをかかえて、人知れぬ苦労をなさいました。

敗戦の瓦礫の巷で、復員後の体力回復に努めながら、持ち前の闘志で事業を興して、一家を支えられた内野さん、日々の食糧確保に涙ぐましい努力を続けられた奥さん——お二人とも苦難多き人生を生き抜いて、きょうのめでたい銀婚式をお迎えになったのですから、喜びもひとしおでしょうし、次元の高い幸福感にひたっておられるのではないかと思います。

内野ご夫妻は、ここにおいでの梶山さんに指摘されるまで、銀婚式のことはすっかり忘れていたそうでございます。

私たちは、楽しいとき、幸福なときは、時間がたつのを忘れることがあります。結婚生活についても、それが言えると思います。しあわせな結婚生活を送っていると、時の流れをほとんど意識しないのではないでしょうか。内野ご夫妻が銀婚式をお忘れになっていたのは、むしろ当然かもしれません。

年ごとに巡りくる誕生日のお祝いは、内輪だけのお祝いといったようなもので、社会人としての第一のお祝いは、なんといっても結婚式であります。ついでこの銀婚式、それから金婚式などとなっておりますが、銀婚式も金婚式も、明治の中ごろ、西欧文明とともに入ってきたものであり、わが国には古くから、還暦、古稀、喜寿、米寿などの長寿を祝う風習があることは、皆さん、ご存知のとおりであります。

思えば二十五年前、新郎・新婦と呼ばれ、花ならつぼみといったお二人でしたが、社会人としては内野商事の社長夫妻として大成され、家庭人としては、ご子息、ご令嬢三人のつぼみをもつ、貫録十分の旧郎・旧婦になられまし

た。

私は改めて、裸一貫から、今日の成功をかち得られました内野さんの並み並みならぬご努力と卓抜な手腕に敬意を表するとともに、内野さんの陰にあって内助の功を尽くしてこられた奥さんに対しましても、心からの敬意を表し、お二人のご結婚が、だれにでも誇りうるすばらしい結婚であることを申し上げて、心から祝意を表したいと思います。

このめでたい銀婚式に続きまして、内野さんの還暦、さらに奥さんの還暦、さらにまた古稀、喜寿、金婚式へと続き、その間には、ご子息、ご令嬢の結婚式、孫の誕生と、誠にめでたい祝宴がつぎつぎと訪れてまいります。

このうえは、さらに鴛鴦（えんおう）の契りを深められまして、ご自愛、ご自重を重ねられ、さらに二十五年後の金婚式にもわれわれをお招き下さるようお願い申し上げて、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

きょうはどうも有難うございました。

銀婚式（謝辞）

本夕（せき）はお忙しい中を、私たちのささやかな銀婚の祝いにお運びいただきまして、誠に有難うございました。

そのうえ、ただいまはまた、皆さまがたから、暖かいお心のこもったお祝いのお言葉をちょうだいいたしまして、一つ一つ心にしみる思いで伺わせていただきました。心からお礼申し上げます。

いまから振り返ってみますと、この二十五年の間には、私たち夫婦のうえにも、実にいろいろのことがございました。

私たちも、結婚した当時は、戦時中ながら、人並みに人生に対する希望と夢に満ちて社会人の仲間入りをいたしましたが、社会の現実は、思ったよりはるかにきびしく、私たちの夢が、いかに甘いものであったかをイヤというほど思い知らされました。

しかし、幸いに家庭生活の面では、二人仲良く共に手をとり合って、この波風多き人生を戦い抜いてくることができました。

これは〝夫バカ〟のセリフかもしれませんが、戦中、戦後の苦難の時代を、無事に切り抜け得たのも、子どもたちが病気らしい病気もせずにすこやかに成長できたのも、希代子の献身のお陰だと思います。この点、私は、よき妻をもってしあわせだったと思い、私たちの縁結びをして下さ

います林田ご夫妻には、いつも感謝申し上げております。

お陰さまで、長男は今春、大学を卒業して白亜工業に入社しましたし、次男と長女は大学に、三男は高校に、それぞれ元気に通学しております。

間もなく、嫁をもらったり、嫁にやったりしなければなりません。いささか早手回しのようですが、どうぞ年ごろになりましたら、手ごろな口をお世話下さいますように。自分の銀婚式で、息子や娘の縁談のことを頼むなど、あまりカッコのよいものではありませんが、これも親バカとお笑い下さいまして、お許し願いたいと思います。

話が脱線しましたが、私たち夫婦が、浮き世の風雪をどうやらしのいで、今日あるを得ましたのは、なんと言いましても、きょうご出席いただいている皆さまのご援助の賜ものであり、ここに改めて厚くお礼申し上げる次第でございます。

先ほどから、いろいろとおほめのお言葉をいただきましたが、社会的な仕事など何一つ果たしておりませんので、誠に面映ゆい次第でございます。

銀婚式を迎えましたものの、私たちの人生は、まだまだこれからだと思っております。

皆さまの旧に倍するご協力、ご援助をいただきまして、できれば金婚式もあげたいものと考えております。どうか皆さま、今後ともよろしくお願いします。

本日は、せっかくお招きしながら、ごらんのような粗酒粗餐で、誠に恐縮に存じますが、ごゆるりとおくつろぎ下さいますようお願いいたします。

金婚式（祝辞）

本日は、相馬ご夫妻の金婚式のお祝いにお招きいただき、一言、お祝いの言葉を述べさせていただきますことは、私の深く喜びとし、また光栄とするところでございます。

五十回もお屠蘇を汲み交わす間には、正直言って、ケンカの一つ二つは、やられたでしょうし、愛の幾山河があったことと思いますが、こうしてめでたく金婚の日を迎えられて、お二人ともども万感胸に迫るものがおありのことでしょう。心からお祝い申し上げます。

人と生まれて、結婚式をあげない人はほとんどございませんから、結婚そのものは別に珍しいことではありませんが、いかに平均寿命が延びたとはいえ、五十回も結婚記念

日を迎えるということは、やはり容易なことではなく、それだけに貴重で、格別めでたいことと言わねばなりません。

人生のあらゆる浮き沈みを乗り越えて、きょうのこの幸福なお祝いを迎えられたのでございますから、お二人の心のうちは、私どもには想像もつかない深い感激に満たされておいでのことと思います。何よりもおめでたいのは、きょうこうして、おそろいでこの日をお迎えになったことでございます。

長寿の人は、たいてい、よい配偶者に恵まれているようでございますが、仲のよい夫婦は、人生の苦労を共にし、お互いに助け合い、いたわり合って、夫は妻を生かし、妻は夫を生かすすべを心得ているからではないかと思います。

夫婦そろっての長寿は、ただそれだけでも、誇りうるのではないでしょうか。

老年期まで、共に生活をつくりあげてきた夫婦のきずなは、たゆまぬ愛と、歳月だけがつくりあげる、この世でもっとも美しいものだと思います。

「長生きも芸のうち」とか申しまして、「長生き」ということだけでも、おめでたいことなのでありますが、相馬氏の場合は、その長い人生が、すぐれて内容豊かであり、きわめて充実したものでありますだけに、めでたさも一段と輝きを増すのでございます。

相馬氏が歩まれた道は、確かに輝かしいものであり、私どもの称賛するところでございますが、この輝かしい相馬氏の人生に、陰になり、ひなたになり、惜しみなき献身で内助の功を立てられて、きょう、喜びの日を迎えられた奥さまも、心からたたえたいと思います。

もうすでに古稀の祝いも終えられ、これから喜寿、米寿のお祝いをお迎えになるわけですが、長寿を祝ったからといって老いを感じたりなさらず、五十年前の花婿、花嫁当時の気持ちにかえって、いついつまでも若さを忘れないで、今までにもまして、楽しい夫婦生活を営んで下さいますようお願いいたします。そして、老夫婦の歳月のきずなの確かさをしみじみと味わっていただきたいと思います。

どうか、お二人そろって長寿を重ねられ、ダイヤモンド婚式も催されて、私どもに喜びをお分かち下さるよう願ってやみません。

重ねてお祝い申し上げますとともに、今後ともご自愛下

さるよう切にお願いいたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

金婚式（謝辞）

本夕は、私ども夫妻の金婚の日をお祝い下さるために、こんなに大勢お集まりいただいたうえ、情味あふれるお祝いをたくさんちょうだいいたしまして、お礼の言葉もございません。

過ぎし歳月を振り返ってみますと、この五十年間、とくになすこともなく、ただ平々凡々と過ごしてきたにすぎませんので、先ほど皆さまからいただいたおほめの言葉に値するほどのものは何もありません。

皆さまから数々のお祝いをいただいてうれしいやら、恥ずかしいやら……恥ずかしいのはおほめの言葉が身に余ったからでございます。

私どもが大過なく、今日まで無事生きながらえて、皆さまから、このようなお祝いをいただくことができましたのも、ご出席下さいました皆さまをはじめ、これまでご交際いただいた多くの方々のお陰でありまして、私どもこそ皆さまにお礼を申し上げなければならないのでございます。

この席をお借りして、心からお礼申し上げます。

結婚以来、たいしたケンカも口論もせず、ピンチというようなものにも遭遇したことなく、その意味では、私ども夫婦は幸福だったようでございます。

五十年前、私どもは神前で変わらぬ愛を誓い合いましたが、どうやら、そのときの誓いを貫くことができたような気がして、ホッとしているところでございます。五十年の歳月を費やして、やっと夫婦らしい夫婦になれたのかもしれません。

新婚当時はお互いに気心の知れない二人でしたが、所帯の苦しみを分け合って行くうちに、だんだん夫婦のきずなが鍛えられたのか、いつしか、相手の気持ちがわかるようになりました。初めピンとこなかった〝一心同体〟という言葉の意味が、最近になってどうにかわかってきたようでございますし、やっと心の底からいたわり合い、助け合うことができるようになったようでございます。

五十年前のきょう、私は自分が才子であることを生まれて初めて知りましたし、妻は妻で、自分が佳人であることを初めて知って、ビックリしたようでございます。

しかし「才子多病」「佳人薄命」と言いますから、今日

まで終始ピンピンと生きてきた私どもは、才子でも佳人でもなかったのであります。
「人間にあって最も貴重なもの――それは生命である。それは人間に一度だけ与えられる。あてもなく過ぎた歳月だったと胸をいためることのないように、卑しい、そして下らない過去だったと恥に身をやくことのないように、この生命を生き抜かなければならない」――これは、ある小説の一節で、私の好きな言葉の一つですけれども、そこは凡人の浅ましさ、結局、カラ念仏に終わって恥に身をやくことになってしまいました。
　にぎやかなことの好きな私は、ただ大げさに、仰々しく生きてきたにすぎないのであります。
「からっぽの容器ほど大きな音を立てる」と申しますが、私の人生もからっぽなのかもしれません。
　結ばれて　泣いて笑って　五十年
　句になっているかどうか知りませんが、もっぱら笑ったのは私で、泣いたのは妻かもしれません。
　実を言いますと、私は、家庭にあっては、割りと暴君で、夫唱婦随を強引に押し通してきましたが、それも妻がいつもやさしく折れてくれたからにほかなりません。
　きょう、皆さまからお祝いいただいたのを契機に、暴君の汚名をすっかり返上して、遅れ馳せながら、良き夫になることを皆さまにお誓いいたします。
　これからも、たとえ名もなく、貧しくとも、せいいっぱい美しく生きて、皆さまの有難いご祝辞を無にしないよう努めたいと思います。
　きょうは皆さま、有難うございました。本当に有難うございました。
　粗餐でございますが、どうぞ、たくさん召し上がって大いににぎわい、心おきなく本夕をお過ごし下さいますようお願いして、お礼の言葉といたします。

還暦（祝辞）

ご指名によりまして、一言ごあいさつ申し上げます。
きょうは成瀬君の還暦のお祝いに列席させていただき、誠に喜びにたえません。まずはおめでとうございます。
実は私、成瀬君とは多年おつきあいを願っており、一昨年の私の還暦祝いにはお祝辞までちょうだいしたのでありますが、ごらんのように、成瀬君があまりに若々しく、元気はつらつとしておられますので、きょうの還暦など、ご

案内をいただくまで、すっかり失念しておりました。

戦後、医学の進歩、食生活の改善などにより、日本人の平均寿命は、二十年も延びたということであり、「人生わずか五十年」などと言われていたことが、ウソのように思われて、いまさらながら隔世の感を深くする次第でございます。

還暦と言えば、長寿の祝いの一つには違いありませんが、六十歳では長寿とか、老人という言葉は、全然ピンとこなくなってまいりました。成瀬君も私が彼の長寿をのみ力説して祝ったら、心中ひそかに苦笑されるのではないかと思います。

しかし、還暦は、俗に本卦還り(ほんけがえり)といって、干支が六十一年目に生まれた年と同じに還って、再び赤ちゃんに戻るということで、第二の誕生を意味しますので、還暦の日は第二の人生に旅立つおめでたい日なのであります。つまり還暦のお祝いは、六十年を無事に生きてこられたことを祝うだけではなく、第二の旅立ちを祝う意味で、意義深いのではないでしょうか。

成瀬君は気分が若いうえに、もともと童顔なので、赤い大黒帽も、赤いチャンチャンコも、なかなかよく似合っておりますが、少々威厳が邪魔をしておるようでございます。

皆さまもご承知のとおり、成瀬君は家庭にあっては、三人の男のお子さんに恵まれ、今はお三人ともテレビや新聞のマスコミ第一線でご活躍になっておりますが、そのお子さん方には、それぞれ二人のお子さんがあって、いまや成瀬君は、六人のお孫さんのよき友であります。

また、社会にあっては、名産婦人科医として、その名も高く、多くの生命を世に送り出されてきたのであります。

いつぞや成瀬君は「息子はみんな逃げて行ったよ」と笑っておられましたが、自分の道を継いでくれないからといって、少しも嘆いたり、悲しんだりなさらないサッパリしたところが、たまらない魅力であります。

きょうからの第二の人生も、貴い生命の誕生に全力を尽くされるとのことで、こんな喜ばしいことはありません。成瀬君の真価はまだまだこれから発揮されるものと、大いに期待しております。成瀬君の胸中は、おそらく、自分の仕事はこれからだという思いで、満たされていることでしょう。

今後まだ古稀、喜寿、米寿と続きますが、お互いに元気

で招いたり、招かれたりしたいものと考えております。
どうか成瀬君、
きょうを記念して、さらによりよい人生をたくましく歩まれますようお願いいたします。
何よりもご自愛を祈って、お祝辞に代えさせていただきます。

還暦（謝辞）

きょうは皆さま、何かとお忙しい中を、私の還暦をお祝い下さいますために、かくも多数お集まり下さいまして、誠に有難うございました。ただもううれしくて、感激のきわみでございます。

また、先ほどから、お心のこもったお祝辞をいただき、さらにまた、この上ない記念の品々をちょうだいして、なんとお礼を申し上げてよいやら、言葉もみあたらぬ思いでございます。厚く厚くお礼申し上げます。

「七乞食」といって、人間の一生のうちには、七度も乞食のような境遇に陥ることがあると申しますが、幸か不幸か今日まで、そのような艱難辛苦の憂き目にも会わず、曲がりなりにも平隠の日々を過ごし得ましたのは、ここにご出席いただいている皆さまのご厚情の賜ものだと、深く感謝しております。

改めてかえりみるまでもなく、この六十年間、なんらなすこともなく、いたずらに年々歳々馬齢を加えてきたにすぎませんし、後悔の念にかられるとともに、自分の無知無力を嘆かずにはおれません。

「起きて働く果報者」にすぎなかった自分を恥じております。

日本人の平均寿命は戦後急に延びて、いまでは〝人生七十年〟、「四十、五十はハナたれ小僧」と言われてもおかしくない時代になりましたが、いかに平均寿命が延びたとはいえ、六十歳ともなれば、一応老境にはいる入り口ともいうべき時期ですから、この機会に自分が越えてきた人生の幾山河を静かに振り返り、さらにきたるべき第二の人生をいかに生きるか、決意を新たにする意味で、このように一席の宴を張ることになったのでございます。

また、このささやかな祝宴には、次のような還暦の一般的な意味も含めていることを申し添えたいと思います。

つまり、もう一度赤ん坊に還って、赤頭巾をかぶり、赤い着物を着て、新しい人生にスタートするということであ

ります。

私は今夜生まれたばかりの赤ん坊というわけですが、可愛らしさが少しもないのではないかと心配しております。

なにしろ、六十一の赤ん坊で、少々ひねておりますが、心機一転、これから、何もかもやり直す心意気で、第二の人生をがん張ってみたいと、大いに張り切っております。少しでも世のため、人のためになるようなことをしなければ、きょう生まれ変わった意味がありません。

皆さま、どうかこのひねた赤ん坊をいつくしみ育てて下さいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

口下手で意を尽くしませんが、これでお礼の言葉を終わります。本日は、いろいろと有難うございました。

喜寿（祝辞）

ご指名にあずかりましたので、一言、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

山村氏が、喜びそのものを表わす、いわゆる喜の字のおとしを迎えられ、本日、そのお祝いの宴をもうけられましたことは、誠におめでたい限りであり、心からお祝いを申し上げたいと思います。

人間の寿命が延びて、「人生わずか五十年」は、今は昔の語り草となりましたし、人生七十年も別に稀ではなくなって、「古稀」の影はやや薄れた感じがしますが、七十七歳の「喜寿」は、まだまだ多くの人が望んで得られるものではありませんし、それだけに、めでたさもひとしおと言わねばなりません。

一概に長寿と申しましても、それが病床にあったり、病床にないまでも、外出も思うにまかせぬようでは、長寿の喜びもないようなもので、健康であって、はじめて心から長寿を喜び、祝福しうるのではないかと思います。

また、いかに肉体的に健康でありましても、夫婦ゲンカが絶えず、親子ゲンカに明け暮れるような乱れた家庭に、長寿の喜びがないことは、いうまでもありません。

もちろん、山村氏は、単にご健康というだけでなく、いまなお矍鑠（かくしゃく）として、壮者をしのぐものがあり、弱々しい私など、ご壮健な山村氏にあやかりたいものと、常々思っている次第でございます。

まだ、白髪らしいものも目立ちませんし、とても〝喜寿の人〟とは思えぬ若々しさで、この宴を「還暦祝い」と呼んでも、少しもおかしくないのではないかと思います。

一老いてますます盛ん」という言葉は、山村氏のためにあるようにさえ思えます。そのうえ、奥さまも、山村氏に劣らずご健康で、オシドリそこのけのご円満ぶりとお聞きしておりますし、喜寿を祝うにふさわしい山村氏でいらっしゃいます。

人生の真実にふれ、人生のなんたるかを悟って「人生の味」を深く深く味わうには、やはり、六十年、七十年、あるいは八十年の長い歳月を重ねてみなければならないということが、還暦を二年後に控えたいまごろになって、やっとわかりかけてきました。

そして、この喜寿をはじめ、長寿をお祝いする慣習が、今日まで伝えられ、さらに後世に引き継がれて行くだけの立派な慶祝事であると考えるようになりました。

年老いた人の顔は、それなりの年輪が刻まれていて、私の心を引きますけれども、若々しいとはいいえ、山村氏のお顔には、とくに、なんともいえぬ風格があって、格別味わい深いものがあります。それも、みがき抜かれた精神の輝きがあるからでしょうが、長年の風雪に耐え抜いたこの風格こそ、何ものにもかえがたい貴いものと思います。

山村氏が、これまでの生涯にしるされた数々の業績は、長く後世に残って多くの人々にたたえられるにちがいございませんが、今後もわれわれ後進の師表として、私どもの先頭に立ち、末長く大いにご活躍下さらんことを心からお願い申し上げるとともに、いよいよご健勝で、この上とも長寿を重ねられますよう、お祈りする次第でございます。

米寿のお祝いにも列席させていただくよう、きょう、ご予約を申し込んでおきます。口無調法で失礼しました。

喜寿（謝辞）

今夕は、私の喜寿を祝って下さるため、こんなに大勢お集まりいただいて、誠に有難く、厚くお礼申し上げます。

先刻来、皆さまからお祝いの言葉を数々賜わり、ただただ感激のほかはありません。しかし、おほめの言葉が分に過ぎましたので、柄になく恐縮し、大いに恥じ入っております。

人間も、七十七ともなれば、長年風雨にさらされて、面の皮も厚くなり、鉄面皮とは相成って、十七、八の少女のようにポーッと赤くなることはありませんが、鉄面皮の内側はだいぶん赤くなっているはずでございます。

私が今日まで生きながらえて、こうして晴れがましく、

喜寿を祝っていただく幸福を味わうことができましたのも、これひとえに皆さまのお陰にほかなりません。皆さまあっての私であったと思うのであります。ここに改めてお礼申し上げます。

私は、本当によき先輩、よき友、よき知人に恵まれておりますことをいまさらのように思い返し、そのしあわせをしみじみと噛みしめております。

過ぎし自分の人生を振り返ってみますと、確かにさまざまな思い出があり、喜びも悲しみも幾歳月、という思いがこみあげてまいりますが、口にできるようなライフ・ワークは、何一つやっておりませんし、何度振り返ってみましても、そちらのほうはナッシングでありまして、穴があったらの心境でございます。

残したものはナンニモナイ私にも、誇りが全くないわけではございません。皆さまには少々ご迷惑かもしれませんが、私の誇りと申しますのは、皆さまとの交友であり、皆さまが私の唯一、最大の誇りなのであります。

そういう皆さまから、こうして祝っていただくことは、この上ない喜びでございます。

私がこの誇りを終生失わないですみますように、どうか、今後とも、私を年寄り扱いなどなさらず、これまでどおり、友だちとして、仲間として、親しくおつき合い下さるよう、切にお願いいたします。

本日は、お忙しい中を私のために、貴重な時間をおさき下さいまして、誠に有難うございました。ここに重ねてお礼申し上げます。

これをもちまして、お礼の言葉に代えさせていただきますが、最後に、はなはだ粗酒、粗肴で、誠に申し訳ありませんが、分量だけはたっぷり用意してございますので、どうかごゆるりとおくつろぎになって大いにご歓談のほど、お願い申し上げます。

米寿（祝辞）

村上英吉翁が、このたび、めでたく米寿を迎えられましたことは、長年交誼（こうぎ）を賜わっている一人といたしまして、誠に喜びのきわみでございます。

私は、先年還暦を祝っていただきましたが、いかに寿命が延びた現代とは申せ、還暦や古稀とは違いまして、米寿を迎えられる方はきわめて少なく、今夕（こんせき）のようなお祝いのお喜びにあずかる機会には、めったに巡り会わせないので

はないかと思います。

私もこれまで、還暦や古稀、それから喜寿のお祝いには、いくたびかお招きいただきましたが、米寿のお祝いにお招きいただいたのは、この年になって、きょうが初めてでございます。

この初めてのお喜びをお分かち下さいました村上翁に対しまして、有難くお礼申し上げますとともに、この長い年月を積み重ね、積み上げてこられた村上翁に深い敬意を表します。

この多難きわまりない人生の幾山河を乗り越えて、七十、八十と生き抜いてこられた人は、それだけで、人生の勝利者であると、私は思います。しかるに村上翁は、単に浮き世の風雪に耐えられてこられただけではなく、自分を投げ出して、社会的に意義のある多くの功績を残され、いわゆる功成り名遂げられた方だけに、人生の勝利者として、心からたたえるにふさわしいお方だと思います。

村上翁は、そのご長男と、そのまたご長男と三代そろってご夫婦健在とのことでございますが、これまた珍しい、大変おめでたいこととお喜び申し上げます。いまではお孫さんが三十二人、曾孫さんが二十二人に及んでいるということですから、まさに〝めでた、めでたの若松さま〟でございます。

すでに人間として、やるべきことをやり、残すべきものを残して、心おきなく悠々自適され、奥さまと仲良く長寿を楽しまれておいでのご様子を拝見いたしますと、長寿というものが、やはり人間にとって、またとない宝という気がいたします。

古木や古石を思わせる村上翁のおかしがたい気品は、やるだけのことはやったという心の満足がおありだからだろうと思います。

俗に「長生きすれば恥多し」などと申しますけれども、村上翁に関する限り、「長生きすれば幸多し」ではないかと存じます。

越えられてきた人生の山襞は深く、その深い山襞には、誇らかな思い出が数知れず秘められていることと思います。

六十を越した私にも、何がしかの山襞はありましょうが、そこには貧しい人生の、むなしい思い出だけしかありませんし、村上翁の人生の豊かさ、心の豊かさが、うらやまれてなりません。

おだやかなまなざしといい、真白い髪といい、人間的年輪の深さが美しくにじみ出て、高砂の翁のように〝老いの魅力〟がたっぷりでございます。世間でよく〝いい顔〟と申しますが、村上翁のお顔こそ、〝いい顔〟と申すべきでしょう。

村上翁の福々しいお顔に接しておりますと、私もぜひ翁にあやかって、長寿を楽しみたいと心から思う次第であります。

村上翁と比べますと、私などまだまだハナたれ小僧にすぎませんが、これから大いに村上翁の熱と意気の誇り高き人生を見習って、わが山襞（ひだ）にも、ささやかな誇りを秘めるべく、一働きせずばなるまいと、決意を新たにした次第でございます。

この意味でも、村上翁には、これからまだまだ長く、ご健在でいていただかねばなりません。この気持ちは、私だけでなく、ここにお出での皆さまも同じお気持ちだろうと思います。

どうか長寿を重ねられて、ご夫婦四代のおめでたを実現され、ダイヤモンド婚、白寿のお祝いも恙（つつが）なくお迎えになりますよう、お願い申し上げて、私のごあいさつを終わります。

米寿（謝辞）

本日はお忙しい中を、大勢お集まり下さって、私の米寿をかくも盛大にお祝い下さったことを深く感謝申し上げます。ただいまは、多くの方から心暖まるご祝辞をいただき、また、すばらしい記念品をお贈りいただきましたことも身にしみてうれしく感謝申し上げます。

かえりみますれば、春風秋雨八十八年、いたずらに過ごしてきた歳月の残骸（ざんがい）ではございますが、「いみじくも、我はここまで、来つるかな」の心境なきにしもあらずでございまして、さすがに感無量なるものを覚えます。

ただ私は、自分自身と家族の口すぎ、身すぎという程度のことしかやっておりませんので、先ほどからの皆さまのおほめの言葉には、ただただ恥入るばかりでございます。言うなれば、私の人生は恥多き〝犬生き〟でありまして、死ねば当然〝犬死に〟ということになるのであります。

歌人吉井勇は「長生きも芸のうち」と喝破しましたが、称賛に値するライフ・ワークを持たない私も、「芸」としての長寿だけは誇っていいのではないかと思います。しか

し、このミミッチイ誇りさえも、皆さま方のご厚情あってのことでございまして、深く感謝申し上げる次第でございます。

さすがにこの年になりますと、「長寿の秘訣」をよく問われますけれども、早寝早起きくらいなもので、これといった秘訣は何もございません。しいてあげれば、夫婦仲良く、親子仲良く、まあまあ楽しい家庭生活を送れたということでしょうか。

光陰矢のごとしと申しますが、その矢のごとき月日の流れに押し流されて、今日まで、ウカウカと馬齢を重ねたにすぎないのでございます。

実を申しますと、いつまでも生き長らえて、恥多き人生をいたずらに延ばしたくはないのでございますが、これも天より与えられた命とあきらめ、老醜をさらしている次第であります。

年寄りは、とかく、がん固一徹で、ぐちっぽく、なんとなくいやらしくなりがちなものでございますが、なんとかそうなりたくないと思いながらも、つい、なるようになるようでございます。

私は努めて、そのようにならないよう心がけ、皆さまのご厚情におすがりして、これからの余生を送り、天寿をまっとうしたいものと考えております。

きょう、皆さまからいただきました有難いご祝辞をむだにせず、一層自愛、自重いたしまして、皆さまのご好意に報いたいものでございます。簡単ではございますが、私の謝辞といたします。

皆さま、今夕（こんせき）は誠に有難うございました。重ねてお礼を申し上げます。

開店・開業・開設

開店披露宴（来賓）

開店おめでとうございます。

本日は、カラリと晴れた上天気で、開店日和とでも申しますか、誠に幸先のよいスタートで、こんなおめでたいことはありません。

この盛大なお祝いの席にお招きを受け、かつまた、お祝辞を申し上げる光栄を得まして、ただただ感激のほかなく、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

当地には、百貨店形式の店舗がなく、以前からスーパーマーケットを望む声は非常に高かったのでありますが、はからずもこのたび、内田さんのご英断によりまして、本日開店されますことは、当地に住むすべての人々の喜びと申せましょう。

現代は、消費時代と言われ、流通経済の革命期と言われますが、スーパーは、いわば流通経済の改革者であり、現代に最もふさわしい販売形式として、新しい小売業の担(にな)い手でもあります。

より良い商品、より新しい商品を、より安い価格で消費者にサービスするスーパーは、まさに時代の申し子であり、その前途は誠に洋々たるものがあります。

いずれにしましても、当地に、このように立派な近代的スーパーマーケットが出現しましたことは、消費生活の面ではもちろん、街全体の発展のためにも、喜ばしい限りと申さねばなりません。

人格見識兼ね備えた内田さんのことですから、これまでの雑貨屋時代と変わることなく、「お客さま第一」のモットーを堅持されて、信用ある店づくりに励まれ、消費者の人気を独占されて、街の発展にもお力添え下さることを信じております。

内田スーパーの開店を祝い、順風満帆の発展をお祈りするとともに、常に〝お客さまの店〟であられるようお願い申し上げて、私のごあいさつといたします。

開店披露宴（友人＝女性）

いづみさん、おめでとうございます。

長い歳月にわたる涙ぐましいまでのご努力が、ここにめでたく実を結んで、どんなにかおうれしいことでしょう。あなたの無上の喜びが、私にまで伝わってまいります。

さっき拝見させていただきましたけれど、本当に感じのいい、上品でシックなお店で、いづみさんの夢が店内いっぱいにあふれているようでございます。

ショー・ウインドーの飾りつけもインテリア・デザイナーにご依頼になったというだけあって、実にお見事で、客足を止めずにはおかないだろうと思います。

また、ロン洋装店という店名も、実にチャーミングだし、きっと若い女性の心をとらえて放さないことでしょう。

長い間、東京の、それも一流のお店で、腕と感覚をみが

き抜かれたいづみさんのこと、日ならずして、ロン、ロンと評判をおとりになって、次々のお名ざしに悲鳴をお上げになるのではないかと思います。
　いづみさんの現代的な色感と個性を生かすデザインは異彩を放たずにはおきません。それになによりも、いづみさんは、大変親切で、誠実なお人柄だし、ロンの人気は心配ございませんが、メクラ剣法ではお店がたって行きませ
ん。十分ソロバンをおはじきになって、名実ともにご繁盛なさいますよう祈っております。
　ただ、健康だけは、お気をつけて下さいまし。お店がどんなに繁盛しても、からだをこわしたのではなんにもなりません。
　心からロンのスタートを祝し、いづみさんのご健闘をお祈りして、私のごあいさつを終わります。

開店披露宴（商店会長）
本日は誠におめでとうございます。
白銀商店街の皆さんを代表して一言お祝いを申し上げます。
　このたび、山根さんが、きょうの佳き日を卜して、螢雪堂開店のお祝いをあげられるにあたり、私どもまでお招きをいただき、このように手厚いおもてなしにあずかりまして、誠に恐縮に存じます。
　新しい店を持つということは、商人の夢でございますが、夢というだけあって、その実現はなかなか大変でございます。
　山根さんにおかれましても、長年の夢がようやく実を結んだと申すべきで、本日、ここに開店のお祝いをあげられますことは、一人山根さんのためばかりではなく、わが町内の発展のためにも、誠に喜ばしい限りでございます。
　東京の好文館と言えば、本のデパートとして、全国にその名を知られた書店界の大御所でございますが、そういう信用あるお店に十二年間勤められ、その間、たった二、三日、病気で休まれたにすぎないとお聞きしただけで、山根さんのお人柄が知れようというものでございます。
　一店員として、そのように誠実に、勤勉に勤め続けてこられるくらいですから、自分の店ともなれば、以前にもまして、誠実、勤勉にお働きになるでしょうから、経営者として、立派に成功なさるだろうと思います。
　最近、近くにマンモス団地ができてから、当地は、東京

のベッド・タウンという性格がますます強まり、当商店街もにわかに活気を帯びてまいりましたが、残念ながら、書店が一軒もなく、私どもも大いに不便をかこっておったのでございます。
幸い、螢雪堂の開店によりまして、そういう不便も取り除かれ、商店街の体裁も整って、私たち一同心から喜んでおる次第であります。
当商店会は、結成以来日も浅く、企画、運営万般にわたり、まだまだ未熟ではございますが、会員のまとまりという点では、他のどんな商店会にも、ひけをとらないという誇りを持っております。
私はここに、商店会を代表いたしまして、螢雪堂さんに対し、心から歓迎の意を表わすとともに、持ち前の誠実と勤勉で螢雪堂を盛り立て、当商店街発展のためにもご尽力下さるよう、お願いして、私のお祝いの言葉といたします。

開店披露宴（店主）

私が、このたび当ご町内にレコード店〝鈴蘭堂〟を開店させていただくことになりました主人の杉原正雄でございます。
皆さま、本日は、なにかとお忙しい中を、わざわざおいで下さいまして、誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。
私は、商業高校を卒業いたしましてから先月末まで、東京・銀座の友隣堂にあしかけ十五年間、勤めておりましたが、主人のお許しとご援助を得まして、当ご町内に独立開店させていただくことになったのでございます。
店とは申しましても、お恥ずかしいような店でございますし、私自身、友隣堂に勤めさせていただいた十五年の経験は持っておりますものの、経営者といたしましては全くズブのしろうとで、一人歩きのできるような力もなく、ご当地の案内にも暗い私でございますから、ご町内の皆さまの足手まといともなり、今後、何かと、ご厄介をおかけすることと存じますが、後輩が一人ふえたと思し召して、なにとぞ、一人立ちのできますよう、よろしくご指導、ご鞭撻のほど、いくえにもお願い申し上げる次第でございます。
私が、当ご町内を独立開店の場所として選びましたのは、ご当地が東京のベッド・タウンとして、今後ますます発展の見込みがございますことと、当町内に同業の方がい

らっしゃらないこと、さらにまた、ご町内の商店連合会の皆さまが、一致団結して、まれにみる立派な商店街をおつくりになっていらっしゃること、この三つが、私の心を強く引いたのでございます。
力不足の私ではございますが、皆さまの一員に加えていただき、この商店街発展のために、働かせていただく覚悟でおりますので、どうか皆さま、よろしくお引き回し下さるようお願い申し上げます。
なお、このたびの開店に当たりましては、商店連合会長をしておられる竹内さまにひとかたならぬお世話になりまして、誠に有難うございました。この席をお借りして心からお礼申し上げます。
きょうはせっかくのお運びをいただきながら、なんの風情もなく、誠に恐縮ではございますが、ごゆるりとご歓談いただければ幸いに存じます。
はなはだ簡単ではございますが、これをもちまして、開店のごあいさつといたします。

ストア開店祝賀会（社長）

本日より、当白河地区にも、わが赤沢ストアが、開店することになりました。
赤沢チェーン、第五軒目のストアであります。
実情を申し上げますと、今度のストアは、開店に漕ぎつけるまでに、非常に苦労しました。
二百台分の乗用車の駐車場を確保しようとしたために、この地所に決め、買い取るために、一年有余の間、ゴタゴタの解決のために東奔西走、六軒の地主さんと役所の間を駆け回らなければなりませんでした。
土地問題がやっと片付き、いざ建築となって、私は、急に設計を変えることにしました。
それまでは、従来の四軒と同じ大きさ、同じ構えで、ただ駐車場がふえただけの構造を考えていました。他の店でなじんだ人には、それが便利だと思ったからです。
しかし、駐車場をご利用になるお客様のためには、入り口を一つふやすべきだと考え直して設計を変更することにすると、トイレの位置も、エレベーターも変える必要が出てくる大変更になり、またそれが施行のミスを誘う結果となったりして、終わりには突貫工事で夜間作業までする大騒ぎになってしまいました。
途中、何度開店をあきらめようとしたことか、私の口べ

たでは、申し上げられない苦労を重ねたものであります。つまり、赤沢ストアを始めて以来、こんな苦労して開店に漕ぎつけた店はないのであります。

それだけに、困難を乗り越えてきょうの日を迎えた、私や幹部一同の喜びは、ひとしお、切実なるものがあるのであります。

皆さんの中には、既に四軒も店があり、その四店が、それぞれに他に比類のない好況を呈して営業中であるにもかかわらず、なぜそんな苦労を重ねてまで、また一店ふやそうとするのか、疑問をお持ちの方も、おいでのことと存じます。

疑問を持たれない方は、持たれないままに、「当たり前だ。一店ふやせば、それだけ売り上げがふえる。仕入れ原価もそれだけ安くなる。従業員のやり繰りも、楽になる。将棋でいえば、持ち駒がふえることなのだ」

などと考えておられるに違いないと思います。理屈は、そうでしょう。でも、その条件の、どの一つを取り上げても、そう簡単に割り切れるものではありません。

売り上げを増すのが目的なら、一店増設に要する金を、今までの四店の宣伝にかけた方がずっと得なのです。得失ばかりではない。確実なのです。

従業員のやりくり云々（うんぬん）、とおっしゃる方があれば、失礼ながら、現在の人事を知らない、頭の古い方だと申し上げたくなる。一人のポジションを替えるのでさえ、慎重を要するのが、現状です。まして、従業員諸君に対して、やりくりなんて、品物同然の考えを持っていたのでは、一人もついてきてくれなくなります。

では、私が、なぜに無理をしてでも、この店を増設したのか？

それは、一昨年アメリカ視察旅行の途次、私の考えが、変わったからです。営業はかくあるべし、と悟るところがあったからです。

私がアメリカで触れたのは、大企業の電子計算機をフルに利用した、オートメーションリサーチという、最も新しい経営方式でありました。

何十というチェーンストア、その中のAという一店が、最大量のアイスクリームを売るためには、幾つ仕入れたらよいか？　ということも、電子計算機ではじき出されるのです。

それには、その店のある土地の気候、温度の統計も、ア

イスクリーム工場の製造量も、原料品の価格変動の統計も、全部計算しつくされるのです。
日本の規模から言えば、国営事業でもおぼつかないと思われる膨大な組織が回転しているのです。
それを目のあたりにして、日本の小企業の経営者は、どう感じたか？　と申しますと、あんな電子計算機を買い、使う人間を雇える金があったら、その金を銀行に預けて、利子で暮らした方が、よっぽど利口なのではあるまいかと、思ったのであります。
いくらアメリカの生活費が高いといっても、アメリカだって、そうした方が楽に暮らせるのです。
それでも、なおかつ、アメリカ人は商売をやめようとしない。毎日を、社長が先頭に立って、全力投球で働いている。私は、なるほどと思いましたねえ。
アメリカの今日の繁栄の元とは、豊富な地下資源に恵まれた、そのことだけではない。
根本は、このアメリカ精神なのだ！
ひるがえって、私が、最初に本店を開いた時のことを反省してみました。
私の前半生は失敗の連続でした。いわば、七転び八起きの連続だった。失敗を重ねているうちに気がついたことがありました。
「私は、自分が儲けることばかり考えるから、失敗するのではなかろうか!?」
苦心のすべてを、お客様が儲かる方法だけを考えることにしたら、どうなるだろう。
ひとつ、やれるだけ、やってみよう、と思って、最後の力を注いだのが、当たったのです。いや、人に言わせれば、当たったのだけれども、私としては、半生の血のにじむような苦労が、苦労の結晶がモノを言ったのであります。
苦しかった。一店が二店となり、四店となって、どうやら楽に採算が合い出しました。金にも暇にも、余裕が出来ました。
名目は視察などと偉そうなことは言っても、どうせ税金に取られる金だから、外国旅行としゃれこんで箔を付けてやろう。そのくらいの気持ちで、アメリカに行ったのです。
再度、申し上げます。そこで悟ったのです。四つの店の経営者になって、安心するなんて、おれは、なんてケチな男だったのだろう。これっぽっちの男になるために、あん

な苦労を重ねたのか、と思い、腹の底から、アメリカ人に負けてたまるか、という気が湧いてきました。
安閑としていられなくなったので、それからの予定を、全部放棄して飛んで帰りました。
赤沢チェーンを最も要求して下さる地区を調べました。その第一着手が、当店です。決定して、丸二年。やっと開店に漕ぎつけた次第なのでございます。
本日、開店祝いにご出席下さいましたお客様方にも、働いて下さる従業員の皆さんにもお願いします。
「どうしたら、お客様の得になることが出来るか？」
この精神が、当赤沢チェーンを繁盛させていることを、なにとぞ心の片隅にとどめておいて下さい。
よろしく、お願いいたします。
開店の都合上、お早ばやとおいで下さいまして、誠にありがとうございます。
なお、従業員の皆さん！　皆さんは、これからの一週間の売り出しで、クタクタになることでしょう。要領は、機敏に、交代でチョクチョク休むことです。体に気をつけて下さい。高く積み上げた荷物もあります。自分も、お客様もケガのないよう、十分注意して下さい。お願いいたします。

医院開業（来賓）

このたび、かくも立派な医院が設立され、本日、祝典をあげられましたことは、私どもにとりまして、無上の喜びであります。
いかに、ご自分の郷里とは申せ、社会の発展から取り残されたようなこの田舎（いなか）町に、あえて開院下さったことを、私ども町民一同心から感謝しております。
パチンコなどの遊戯施設は十分すぎるほどありながら、私たちの生活に欠かせぬ医療施設は、歯科は別としまして、これまで、大原医院だけで、人口の割りには貧弱というほかはなく、町民等しく心細い思いをかこっておったのでありますが、この津村医院開業で、その心細さもキレイにぬぐわれたわけで、こんなうれしいことはありません。
立派な医院があり、有能な医師が近くにいて下さることは、なんとしても心強く、日々、心安んじて働けるというものでございます。
食料品店や菓子店と違いまして、〝ご繁盛を祈る〟とは申し上げかねますが、新進気鋭の津村先生に加うるに、こ

の立派な設備、優秀な職員の方々と、三拍子そろっておりますから、将来の発展は、期して待つべきものがあると信じます。必ずや多くの病人を救って下さることでしょう。

どうか、ますますご自愛のうえ、私たち町民の健康の守護神として、末長くご尽力下さいますようお願いいたします。

本来なら、これから恩恵に浴する私たちのほうで、ご招待すべきところを、このように、逆にお招きにあずかって、大いに恐縮しております。しかし、せっかくのごちそうですから、きょうは喜んでちょうだいいたします。

本当にきょうは、お招き有難うございました。

医院開業（院長）

皆さま、本日はご多用のところ、本院の開院式にかくも多数ご来席下さいまして、誠に有難うございました。厚く厚くお礼申し上げます。

このたび、皆さま方の、絶大なるお力添えによりまして、ささやかながら、当地に医院を開業することができましたことは、私の無上の喜びでございます。

当地に生まれ、当地に育った私は、いつの日か故郷で開業し、微力ではありましても、故郷の皆さまのお役に立ちたいというのが、私の長年の夢でございました。はからずもきょう、その夢が、実現したわけですけれども、これひとえに、皆さま方のお引き立てによるものと、深く感謝しております。

「人は病の器（うつわ）」と申しますように、人間は病み、傷つきやすい存在でありまして、この病気ほど、人間苦を生み出すものはなく、人間を不幸におとしいれるものはありません。

私たち医師は、病気による不幸を少しでも追放すべく、日夜努力してはおりますが、医者も施設もまだ絶対数が不足しており、助かる命も見殺しにしているような現状でございます。

日本の現代医学は、世界一流とは申しましても、まだまだ一般大衆の共有財産にはなっておりません。

たとえば、現代医学をもってすれば、ガン患者の八割は救えるというのに、日本は逆に八割を死亡させております。こうした手遅れは、ガンに限ったことではありませんが、それだけになお、医者として、人間としての口惜しさを覚えます。すみやかに医学の大衆化を図り、少なくと

も、こうしたムダな死をゼロにすることが、私たち医師の使命であり、社会的責任であろうと思います。
もちろん、本院も「現代医学を大衆のものに」という考えに立って開業するものでありまして、微力を尽くして診療に専心し、医師としての崇高な使命をまっとうしたいと念じております。
どうか、皆さま、本院の使命達成に、今後とも暖かいご支援、ご鞭撻下さいますよう、心からお願い申し上げます。
はなはだ訥辞ながら、これをもって私のごあいさつといたします。
本日は誠に有難うございました。

保健所開所式（来賓）

本日は、当青海保健所の開所式に参列する光栄を得まして、心から喜びを感じております。
私たち保健関係者はもちろん、町民の皆さんすべてが、その実現を待望してやまなかった保健所が、ここにめでたく誕生して、こんなうれしいことはありません。
皆さん、本当におめでとうございます。
今日のように複雑化した社会の中にあっては、自分だけが健康でありたいと願っても不可能であります。子どもたちの学校生活や仲間との交友、主人の職場勤務、主婦の買い物や近隣との交際など、私たちの生活は、地域社会を抜きにしては考えられません。個人の衛生と公衆の衛生とは不可分の関係にあり、地域社会の健康なくして、個人の健康はありえないのであります。
一人ひとりが自分の健康を守る努力をすることは、もちろん大切ですが、自分だけの力で、健康を守り抜くことは、できなくなっております。
みんなが自分の住んでいる地域社会の健康に深い関心を払い、みんなで力を合わせて、より健康な村や町にして行くことが、何より大切と言わねばなりません。
公衆衛生は、国や公共団体が、その責任を負うべきものであり、行政を離れた公衆衛生はありえません。このような公衆衛生の問題を社会問題として取り上げ、すべての国民の日常生活の中に導き、実践して行くのが、衛生行政であります。
保健所が、その衛生行政の第一線機関として、地域の衛生状態を高め、私たちの健康を守るために、重要な任務を

果たしていることは、皆さんも、よくご存知のことでしょう。

保健所は、いわば、〝公衆の医者〟とも言うべきで、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなの健康を守る砦として、公衆衛生のさまざまな仕事をしております。

結核、性病、寄生虫の予防、伝染病の予防接種をはじめ、成人病や母子保健、育児相談や健康相談、食品衛生や、精神衛生、カやハエ、ゴキブリを退治する環境衛生など、保健所の仕事は全く広く、かぞえあげればきりがありません。

もちろん、予算の関係など、いろいろ事情があってのことではありますが、このように重要な保健所が、間もなく市になろうという当町に、今日まで設置されなかったのは片手落ちといった感じでした。

遅すぎたうらみはありましても、私たちの町に、このようなすばらしい保健所が設立されましたことは、なんとしても心強く、誠に喜ばしいことであります。

これから、母子の健康相談も、育児相談も、そしてレントゲン検査も受けやすくなります。ネズミやゴキブリ退治の相談も手軽になります。また、衛生関係、営業のほうの届け関係も便利になります。

私が何よりうれしいのは、保健の殿堂にふさわしい陣容であります。よく「仏つくって魂入れず」と申しますが、学識経験豊かな初代所長の前川氏をはじめ、これを助ける陣容も、みな技術、指導に秀でた練達の士ばかりで、この殿堂には、見事な〝タマシイ〟が入っております。

私たち町民は、これらの方々を信頼し、その指導に従い、一致協力して、保健所開設の目的達成に努力して、その実を上げたいと思います。

青海保健所の誕生を祝し、今後のご活躍を祈って、私の祝辞を終わります。

保育所開所式（来賓）

きょうの佳き日に、あすなろ保育所の開所式が挙行されますことは、誠にめでたく、喜びにたえない次第であります。

また、私までこうしてお招きを受け、意義ある開所式に列席できたことを大変光栄に思っております。

きょうは、お母さん方もたくさんお出でになっておりますが、待ちに待った保育所の誕生で、喜びもひとしおのこ

とでしょう。本当におめでとうございます。あすから心おきなく働けるという喜びが、皆さんのお顔いっぱいに広がっております。この保育所開設には、ここにお出での久間さんご夫妻のご活躍に負うところが多く、改めてご夫妻にお礼を申し上げたいと思います。

ご夫妻は、共働きの家庭がふえるにつれて、保育所の必要性を痛感され、一年ほど前から、お母さんたちの先頭に立って、町当局に働きかけるなど、実に献身的にご活躍になったのであります。一年にわたるその献身的な努力が実を結んで、きょうの開所式となったのですから、ご夫妻の感慨、喜びは格別であろうと思います。本当に有難うございました。

町当局も少ない予算の中から、真に大切な事業を始められたわけで、当局のご理解、ご努力に対しても、深く感謝する次第であります。

昔から「三つ子の魂百まで」と申しますが、最近の研究でも乳幼児時代の育て方が、その子の人格や、個性に大きな影響を及ぼすことを明らかにしております。もし、この時期に育て方をあやまると、一生取り返しはつきません。

保育所は、その三つ子をお預かりして、正しい立派な子に育てる使命を持っております。責任も大きい代わりに、育てる喜びもまた大きいと言わねばなりません。

教育というと、たいていの人は小学校から始まるように思っているようですけれども、それは大変な間違いでありまして、生まれたその日に始まるとさえ言ってよく、少なくとも、三つ子の時代から始めなければ遅いのであります。

保育所は、家庭教育と学校教育をつなぐものとして、両者の仕事をあわせ行なう大切な教育の場であり、躾の場であります。

まだ聞き分けの乏しい子どもたちをお預かりになる園長さんはじめ、職員の皆さんの任務と責任は、並みたいていのものではないでしょうが、どうかいつまでも、〝人つくり〟の大きな使命と、きょうの感激を忘れないで、大いにがんばっていただきたいと思います。

教育には、何はおいても〝人〟が大切であり、〝愛〟が必要であります。

職員の皆さんのご苦労は、さぞかし大変だろうと思いますが、皆さんの円満な人格と教育愛で、心身ともにすこやかにお育て下さるよう、心からお願い申し上げます。

終わりに、あすなろ保育所の発展を心から祈念して、私の祝辞といたします。

ボーリング場開設祝賀会（来賓）

本日、ボーリング場開設記念大会を催すに当たりまして、ボーリング愛好者の代表として一言ご挨拶させていただきます。

日本におけるボーリングの歴史は、意外に古く、遠く大正の昔にさかのぼるのでありますが、「大衆性」というボーリング本来の持ち前から申しますと、本格的な普及は、やはり戦後からであります。

そのころは、

「アメリカのマネさえすれば、なんでもよいと思ってる奴のすることとだ」

とか、

「子どもだましのたまころがしを、面白がる奴の気が知れないね」

などと、盛んに悪口を言われたものです。

やっと流行の兆が見え出したころになると、今度は、

「ボーリング場ってのは、不良の集まる所だそうだ」

と、悪い評判も立てられました。

皆さん、お笑いになっていらっしゃるけれど、実は根拠のないことではなかったのです。

不良はおろか、警察の追及を受けた凶悪犯人、産業スパイ等が、続々とボーリング場に詰めかけた時代があったのですよ。

もちろん、それを追って変装した刑事たちも来る。更にそれを消そうと、殺し屋も来る。時には、ピストルの撃ち合いも始まって、広いボーリング場も、硝煙と重苦しい空気に息もつけなくなってしまう。

――つまり、映画やテレビのスリラーものでは、必ずボーリング場ロケの一場面を挿入する時代があって、世間の誤解を産んだのであります。

それほど、ボーリングの登場は、颯爽としていた証拠でもあるのであります。

ボーリングは、確かに子どもでもやれる。また、家族連れでも出来る。いわゆる、とっつきやすいスポーツなのです。

しかし、それだけでは、すぐ飽きてしまうはずです。それでも、いまだに飽きてやめた人の話を聞いたことがあり

ません。

それは、一見単純でいながら、技術をみがく楽しさ、というものがあるからです。ところが、その技術に、他のスポーツと異なる大変な特徴があります。

ボーリングの技術には、すごくメンタルな面があります。よく、

「偶然、ストライクが出た」

と言ってるのを耳にしますが、果たして、本当に偶然だったのでしょうか？

一方、

「ストライクは、ねらって出るものではない」

と、格言のように言われています。しかし、ボールを投げる時、だれ一人ストライクをねらって投げない人はいません。ボーリングとは、ストライクをねらって投げるものなのです。

これは、どういうことかと言いますと、

「無心で投げてこそ、ストライクは出る」

ということなのです。このことは、大変なことなのでして、昔、武士道花やかなりしころ、真剣勝負を生涯の生き甲斐とした武芸者が、澄み切った心境をこそ、到達点とした。それと同じものを言っているのです。

ボーリングを楽しむ、ということは、へたながらも、人間の達しうる、最高の心境を、チラリチラリではあるけれども、味わいうる、ということなのです。

この点が、ボーリングが日本に定着する、ゆえんなのではないか、と私は考えております。

だから私は言いたいのです。

「不良の子を持った親御さんがいたら、どうか、その子と一緒に、ボーリング場にいらっしゃい」

と。初めは、ただ面白いだけでしょう。それに引きずられて、チラリとでも、無心の境地が味わえるようになったら……もう、その子は、不良になる資格が消えてしまっているのです。また、親子の精神的な断絶の壁も、同時になくなっているでしょう。

とにかく、ボーリングは、楽しいスポーツです。男も女も、子どもも年寄りも、みんな楽しめるスポーツです。

ボーリングの効用の一端を申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきます。

空手道場開館式（来賓）

私たちの町に、初めて空手道場が建てられる運びとなりました。

道場師範酒井先生後援会の発起人有志の一人として、誠に僭越でありますが、一言ご挨拶申し上げることは、私の光栄とするところでございます。

そもそも敗戦によってもたらされた戦後思想界の混乱は、付け焼き刃の民主主義に名を借ること、あたかも虎の威を借る狐のごとく、民主、民主と唱えることにより、社会の道徳もいらぬ、日本の伝統もいらぬという風潮に流され、国家の将来をになうべき青少年の、魂のより所を一切取り去って、しまったのであります。

確固たるものを失った若者が不良化の傾向に崩れ行くのは当然であるのに、社会はその根元にメスを入れることなく、いたずらに不良化防止の弥縫策を施すのみにて、やれ、あれもいけない、それ、これをするなと、ひたすら若者を縛り上げることに狂奔するのみであります。

熱い血の流れる若者を縛ろうとすれば、結果は明白であります。そこに生ずるのは、反抗心だけであります。

「おとなの考えは、古い」
「おとなは、私たちを理解しない」

口々に叫んだ若者たちと、おとな、つまり、社会との断絶は、日を追って深刻化の一途をたどり、若者たちの反社会的行為が事件にまで発展するのも、日常茶飯事となってきたのであります。

この現実を、黙視するに忍び得ざる者、有志数人が打開の策を語り合いまして、

「ひとつ、若者の娯楽場を作るか」
「社交場を作ったら」
「その前に専用の運動場を――」

等々、議論の途次、一斉に気がついたことは、私たちの町には、武道の道場が、一軒もない、ということでありました。

そうだ、武道道場こそ、体育としても、血気の吐け口としても、そして魂のより所にもなるのではないか!?

ひとつ、道場を建てよう、と具体策を練り出したころ、酒井先生にお目にかかる機運に遭遇したのであります。

酒井先生は、青年時代は、大学空手部の副将として活躍されたあと、いつの日か道場をお開きになる野心を秘めつ

つ、保険会社に勤務されるかたわら、職業を利用して全国を回遊され、斯道の腕をみがかれてきた方であります。ちょうど、私たちの捜し求めていた条件に、ピッタリの方でした。

ところが、いざその準備を始めますと、このような情勢の下で空手道場など作ったら、不良に武器を与えるようなものだ、いや、間もなく不良の巣になってしまうに違いない、などという、反対論が興ったのであります。

いかにもしろうと受けのする理屈でありますが、これは全く酒井先生の人徳を知らず、空手を知らない言であります。

日本の空手の源流は沖縄であります。沖縄の源は、大陸にこれを求めることが出来ます。

伝によれば、インドから渡来した達磨大師が面壁九年の後、河南省に少林寺を開山しました。禅宗であります。少林寺の僧は、大陸六百余州を遍歴して行脚托鉢の修行をしなければならない。盗賊に会うこともあろうし、猛獣に襲われることもある。時には暴力をもって弱い者いじめをする無頼漢も相手にする。

寺を出る時は五体満足で出た僧が、外で殺されたり、不具になって帰ってきたのでは修行にならない。そう考えた大師は、大陸古来の拳法に、インドの拳法を組み合わせ、両方の長を取り、短を捨てて独自の拳法を創造し、徒手なお武器を持った敵を倒すに足る修行を授けてしかる後に、外に出すことにしたのであります。

これが少林寺拳法であります。根本精神が、簡単に言えば、正義を守るための修行におかれているのであります。だから、相手のうかつにしているすきになぐったり、武器を手に闘ったりはしません。

武器を持った敵の中に、裸一貫でおどり込んで行くのが、空手であります。こんなことは、単になぐる技術を教わっただけで、出来ることではない。心に正義を燃やし、純真無垢、俯仰天地に恥じない、澄み切った心境で練り上げた技術だけが、勇敢に実行出来るものであります。

もちろん、酒井先生は、不良だからといって、入門を拒絶されたりなさらないでしょう。むしろ歓迎されることと思います。なぜなら、先生の目には、不良も真面目も、そういう面の区別がない。道を求める若者の姿が映るだけなのであります。

不良の質が、空手を習ったら、もっと低下するというの

は、全く杞憂に過ぎないことは、おわかりいただけたことと存じます。

当道場が出来たから、この町の不良が一切消えてなくなるはずはありませんが、当道場により、たとえ一人の青年であっても、人生に処する何ものかをつかみ得たとしたら、これぞ一粒の麦、と言ってよいのではありますまいか!?

終わりに臨み、当道場の開館を祝し、発展を祈ると共に、あわせて皆様のご理解あるご後援をお願い申し上げる次第であります。

第二工場開設祝賀パーティー(社長)

創業以来、わずかに五年。わが社は、この新工場を増設する運びとなりました。

誠にメデタイ! これは、ひとえに従業員諸君が、不肖の私を助けて打って一丸となり、奮闘努力した賜ものであります。

私の気持ちとしては、今この場で、堅っ苦しい演説をぶったりしたくはない。むしろ、余興の皮切りとして、得意の端唄の一つでもうなって、渋いノドを聞かせたい心境です。

しかし、私の横には、横井専務がいる。諸君もご存知のように、彼はファイトの固まりのような男です。きのう、私をにらみつけて、

「あすは、是非社長からも一言、挨拶をして下さい」

と言った。私も

「よかろう」

と言ってしまった。

——駟馬も舌に及ばず

平ったく言えば、

——男子の一言、金鉄のごとし

のたとえもある。約束してしまった以上、ちょっとばかり、堅い話をしようと思う。

最近よく、「グループ・ダイナミックス」ということが言われる。日本語に翻訳すると「集団力学」

つまり、人間が集団となった時に持つ、力を分析して、その性質を明らかにしたあげく、その力をコントロールして、変化させる学問のことなんです。それを、どう利用するかというと、集団生産性を向上させる技術として体系づけ、「社会工学」とか、「管理技術」とかに発展させて応用

しようというのが、ねらいになっている。
理屈で言ってるとむずかしいが、具体的に例をあげると、大したことではない。
宣伝部で、
「いちいち、すべての印刷物を印刷に出すのは、めんどうだから、印刷機が一台あれば、いろんな面でプラスになる」
と言う意見が出たとする。
「もっともだ！」
と会社が直ちに印刷機を買うと、
「この機械は、使いにくいし、能率が悪い」
「能率はとにかく、これだけの金を払ったら、もっと精度の高いものが買えたはずだ」
甲論乙駁（ばく）、不平不満が、必ず出て来る。満点の機械なんて、あるものじゃないのだから。ひどいのになると、
「資材課は、リベートを取って、こんな高い機械を買ったに違いない」
などと言い出す。
ところが、もしこの印刷機を買い入れる前に、宣伝部の意見を十分聞いて、それから買ったとしたら、結果はどうなるだろう？
だれ一人、文句を言う者がない。
なぜか？
グループ・プレッシュア。つまり、集団の持つ圧力が、宣伝部員の一人ひとりに作用するからである。
大体、こんな考え方をして、会社を経営して行こうというのが、グループ・ダイナミックスということなんです。
私は、こういう考え方に、真っ向から反対なのです。資材課は、責任を持って、最適の物を買えばよい。宣伝部は、宣伝にこそ、総力をぶち込めばよい。そりゃ、私だって時勢には遅れたくないから、こういった近代経営学の勉強はします。しかし、こんなことで、日本の中小企業が、うまくやって行けるなんて、甘い考えは、毛頭持つべきではないと思います。
では、私は、何を頼りに会社を経営して行くのか？
私が、
「これだけは、ぜひ守らなければ、会社の発展はあり得ないぞ」
と、常日ごろから、自分自身に言い聞かせていることは、

は、幾多の山や、川を越えなければならないと思います。
その時、
——人の和
が、充実していれば、山も楽しく、川また面白く越えて行けることを確信する次第であります。
……そろそろ、お時間もよろしいようで。と、まア、私の話は終わりとします。
どうか諸君、きょうは、あすからのエネルギーを蓄積するために、大いに楽しんで下さい。

新築・落成・記念日

ストア新築祝賀会（来賓）
天高く、馬肥ゆる秋。
空気清涼たる多摩丘陵の一角、首都圏の一環として、爆発的発展を遂げようとしている当地に、赤沢ストアが新築されました。
おめでとうございます。
およそ商店と申しますものは、たとえ海外と電報電話で

——人の和
と、いうことです。
こう言うと
「なんだ、そんな単純な」
とか、
「なんだ、古くさい」
と笑う人がいるかも知れません。
それは違う！　と、私は思う。
この言葉ほど、追求すればするほど、複雑な言葉はないのです。
この言葉ほど、いくらでも新しく解釈出来る言葉はないのです。
もう一つ。最も良いことは、われわれ日本人にとって、こんなわかりやすい言葉はないのです。
日本語の特徴は、ピンとこなければ、通じたとは、言われないのであります。
「人の和！」
どうです。だれにでも、ピンと来るでしょう。
わが社は、この五年間、非常に順調に伸びてきました。
将来も、ますます、成長発展するでしょう。そのために

取り引きを済ませているような、貿易商社でありまして も、一歩その店の中へはいりますと、その店が繁盛してい るかどうか、わかってしまうものであります。

そのメドは、何か?

と申しますと、そこに働く人の目であります。次はその 店の構造であります。

私はこの壇に上がる前に、店の中を一通り拝見させてい ただきました。その時、感じましたのは、よくもここま で、お客様の便利ということを主眼にして、設計に取り入 れたものだ、という感嘆であります。

それと共に、店員の皆さんの、目の輝きであります。真 剣に光って、いらっしゃる。

——どうしたら、お客様に満足して買い物をしていただ けるか?

という、商売の基本精神を、身につけている目でありま す。

お客様が、よく申します。店へはいって品物を物色中 に、店員がジロジロ見ていると、ゆっくり考えることも出 来ない。いやだ——。

だからといって、店員がよそを向いてると、

「どうせこの格好じゃ、大した買い物をするお客じゃなさ そうだ。相手になるだけバカらしい。放っとこう」

と、思っていると、誤解されても仕方がない。

見ては、いけない。見なくては、いけない。

では、見て見ない振りをして、横目でチラチラと見たら ……こんなことを女の店員さんがしたら、男のお客様一遍 に錯覚を起こして

「おや、このカワイ子ちゃん、わしに気があるのじゃない かな」

と思ってしまう。

仕方がない、下を向いて、しおらしくうつむいていたら ——? 店員がそろって首を垂れている店なんて、薄気味 悪くって、はいれるものじゃない。

そうかといって、皆が上を向いていたら

「この店の天井、もしかしたら落っこちてきそうなんでは、 なかろうか!?」

と心配してしまう。

——一体、どうしたらよいか?

当然、お客様の方に注意して、見ているべきものなので すね。要は、見る時の精神、つまり心構えなのですね。

近ごろ、盛んにサービスという言葉が使われています。

——二割引きのサービスをいたします。

——景品をサービスします。

——サービスに〇〇の招待券を差し上げます。

これは、本当の「サービス」ではありません。便宜上、サービスという言葉を使っているに過ぎないのであります。

本当の「サービス」とは、お客様に品物を売る時に、お金のかからない無形の物、つまりお客様への「心づくし」を一緒に添えて上げる、ということなのです。

——日本語はいいですね。「心づくし」——こんなデリケートな言葉があります。

話を戻します。

お客様をジロジロ見るのは、かまわない。その時に、このサービス精神に満ち満ちていれば、お客様は不愉快になるどころではない。

「あそこの店の店員は、商売熱心で気持ちがいい。変な格好して行った時だって、いやな顔もしない」

ということになる。

今、皆さんの顔を見ると、目が光っています。サービス精神に充満している目であります。

これは、社長さんの営業精神が、ピンと貫かれているからに違いありません。

私は、占い師ではないけれど、はっきり言えます。

「この店は、繁盛疑いなし」

——心から、新築を、お祝い申し上げます。

おめでとうございます。

店舗改築披露会（来賓）

本日は、紅屋さんの店舗改築落成のお祝いに、数ならぬ私どもまでお招きいただきまして、心から感謝申し上げますとともに、謹んでお喜び申し上げます。

紅屋さんから店舗改築の話を聞いてうらやましく思いましたのは、ついこの間のようでございましたが、しばらくご無沙汰しているうちに、こんなに立派になって、本当に夢のようでございます。

さっそく、改築のあとをつぶさに拝見し、さすがは卓抜なアイデアをお持ちの紅屋さんと感嘆いたしました。

面目一新と言いますか、外観も店内もあざやかな変わりようで、店舗として非のうちどころのないすばらしい出来

栄えと申すほかなく、紅屋さんのご苦心のほどが伺われます。

世はまさに創意工夫の時代と言われておりますが、時流に乗って、創意工夫を生かした新築なり改築をするのが賢明な経営者というものでしょう。このハイカラな当店には、紅屋さんの創意があふれておりまして、紅屋さんの、時代に一歩先んずる気概が満ちております。

このように立派な改築なら、改築自体が新聞の折り込み広告や街頭の看板よりはるかにすぐれたPRではないかと思います。改築することは、繁盛している証拠のようなもので、それは街行く人々の目を通し、さらに口を通して宣伝されますから、まさに生きたPRであり、地元の知名士を大勢お招きになってこのように盛大な祝宴を催しになることもまた、生きたPRと言わねばなりません。

老舗などで、まァまァ繁盛しているからと、長年放ってコケむしている店がありますが、これでは日進月歩の時代にいつかは取り残されてしまいます。

とは申しますものの、繁盛中のお店を改築することは、なかなかできるものではありませんし、このたびの紅屋さんのご勇断には感服のほかはありません。

このお店を見まして、私どもの店が急に見すぼらしくなったように思えますので、一つ発奮して、紅屋さんにあやからねばと思っております。

これまでのお店も、それなりに味わいがあり、買いよい店という評判のお店でございましたが、こんどのお店は必ず「買いよい店」という評判に輪をかけて大繁盛することでしょう。

また、ショウ・ウインドーの飾りつけといい、店内の陳列といい、あくまでもお客様第一の配慮が払われており、紅屋さんのお客さまに対する感謝の気持ちや、〝信用を売る〟〝真心を売る〟という信念がありありとにじみ出ていて、ほんとに私までうれしくなってしまいます。モダンで明るく、親しみやすいこういうお店こそ、現代人にマッチする近代的店舗の見本というべきではないかと思います。

紅屋さんのご主人はいうに及ばず、店員の方々も明るく朗らかで誠実なお人柄だし、おまけにお客さま第一のモットーをよくわきまえておられますし、「勇将のもとに弱卒なし」をもじりまして、私はよく、「知将のもとに愚卒なし」と申しますけれども、紅屋さんほど、その感じの強いところはほかにございません。

立派な経営者、立派な店員、そしてここに立派な店舗と、三拍子がキレイにそろって、紅屋の一層の発展は約束されたようなものだと思います。

いずれにしましても、新装開店ということはおめでたいことで、心からお祝いを申し上げますとともに、今後ますますご奮闘され、信用を売り、真心を売って、だれからも愛される店として、末長くご繁盛されますようお祈り申し上げて祝辞といたします。

小学校新築落成式（来賓）

待ちに待った新築校舎が、いよいよ完成いたしまして、本日ここに、新設新柳小学校の落成式を迎え、皆さんとともに心からお喜び申し上げます。

思うに、私たちが本日、この喜びをともにすることができますのも、町長さんをはじめ、当局の方々の長い間のご苦労と地主各位、ＰＴＡ、その他関係者の皆さまのひとかたならぬご協力の賜ものであり、そしてまた、平山建設の奉仕的ご努力にほかならず、ここに改めて、心から感謝申し上げます。

私の子どもたちも、この小学校にお世話になるわけですけれども、起工式が行なわれましてからは、まるで自分の家でも建つような喜びようで、たびたび工事ぶりを見に行くなど、きょうの落成を心待ちにしていたようでございます。

その待ちこがれた校舎が、いまこうして立派に完成したわけで、子どもともども、自分の家ができあがったような喜びを味わっております。

このあたりは、まだ緑も多く、静かで、交通量も少なく、誠に理想的な環境で、校舎は外観といい、設備といい、実に立派な出来栄えであります。そのうえ、経験豊かな諸先生をお迎えできたのですから、この学校で学ぶ子どもたちの喜び、しあわせは限りないものであろうと思います。そしてまた、その喜びやしあわせは、私たち親の喜びであり、しあわせであることはもちろんであります。

私たちは、この恵まれたしあわせをムダにしてはなりません。せっかくこのような立派な校舎ができ、立派な先生たちを迎えたのですから、生徒の皆さんも、ＰＴＡの皆さんも、大いに努力、大いに協力して、立派な教育の実を上げなければなりません。

半月後に迫っている四月一日には、新一年生の入学式が

行なわれます。二年生から六年生までは入校式であります。

生徒を代表して出席しておられる五年生の皆さんに、一言だけ申し上げたいと思います。

皆さんもよく知っているとおり、この柳町は、人口の増加が激しく、住宅がドンドン立ち並び、そのため地価はうなぎ登りの状態です。そんな事情にありながら、このように広々とした校地を持ち、スマートで近代的な鉄筋校舎が建てられ、運動、その他の施設も、完全に近いほど整備されたのは、ここの土地を持っておられた地主さんたち、学校の設立者である町役場やPTAの方々、そういう人たちの教育に対する深い愛情やご理解があったからではないでしょうか。皆さんもそう思いませんか。

ところで、皆さんは間もなく、六年生として、この新しい学校で勉強されるわけですが、いまどんな気持ちですか、校舎が新しいことだけを喜んでいるような人はいないでしょうね。

皆さんは、この新柳小学校の第一回卒業生になるわけですから、先生たちのいいつけをよく守り、大いに勉強して、あとに続く生徒の手本になって下さい。どんなに校舎が新しくて、立派でも、中身が悪ければ見かけ倒しで少しも誇りになりません。学校をよくするも悪くするも、中身である皆さんの心がけ一つです。皆さんがよい生徒、立派な生徒になってこそ、この校舎は一段と光り輝きます。

先生たちや、お父さん、お母さんみんなからほめられるよう、がんばって、皆さんの手で、だれにでも誇れるような立派な校風をつくって下さい。新柳小学校の校風も伝統も、皆さんがつくって行くのです。新柳小学校の歴史は、皆さんたちが書き始めるのです。それを思ったらボンヤリできませんね。

どうかすばらしい校風をつくり、すばらしい歴史を書いて下さい。私たちは皆さんに期待しております。

最後に申し上げたいのは、私たち住民としての心の持ち方であります。この新柳小学校は町立であり、町が管理することになってはいますが、事実上利用するのは私たち住民ですから、私たちみんなが、設立の意義を噛みしめ、校舎に対する愛着を深めて、子どもたちに落書きなどのイタズラをしないよう言い聞かせ、この美しい校舎がいつまでも美しい校舎であるようにしなければならないと思います。

私は、ここに重ねて、この立派な学校の完成にご尽力下さった皆さまに、心から感謝の意を表するとともに、校長先生はじめ諸先生方のよきご指導によりまして、この立派な校舎、この新しい学校から、健全なる社会人、有能な人材がぞくぞくと社会に送り出されますようお祈りして、私のごあいさつといたします。

中学校舎落成式（来賓）

秋晴れのきょう、桜中学校の新校舎落成式にのぞみまして、一言、皆さまにお祝辞を申し上げたいと思います。

老朽校舎の改築ならびに増築工事の起工式が行なわれて、基礎工事のクイ打ちのごう音がとどろいたのは、八ヵ月ほど前になりますが、着々と工事が進んで、早くもここに落成をみましたのは、誠にうれしい限りであります。

白く光る鉄筋のモダンな校舎は、まさに白亜の殿堂であり、伝統に輝く本校教育のシンボルともなろうかと思います。

私でさえ、こんなにうれしいのですから、これからこの真新しい校舎で学ぶ生徒さん、それから、校長先生はじめ、諸先生の喜びはいかばかりかとお察し申し上げます。

これもひとえに、町長はじめ、関係当局の皆さま、ならびに工事担当の皆さまのご努力の賜ものでございまして、ここに改めて、心からお礼申し上げます。

申し上げるまでもなく、中学校教育は小学校教育とともに、義務教育とされており、ここに学ぶ児童・生徒に、快適な教育環境と施設を与えることは、私たちおとなの義務であろうと思います。

もちろん、教育は校舎の外観や設備よりも、先生の教育熱とか、生徒の学ぼうという意欲とか、そういう中身といいますか、内容のほうが、大事であることは言うまでもありません。しかし、設備が充実すれば、教育効果が上がることは、都会と農山村の児童・生徒を比較すれば、容易にうなずけることであります。設備の貧弱な学校に学んだ児童・生徒はどうしても立ち遅れております。

この意味におきましても、このように立派な校舎が新築され、立派な設備が数多く設けられましたことは、喜ばしい限りで、教育効果のうえで、必ずや目をみはるものがあろうと思います。

聞くところによりますと、こんどの増築によって、これまでのすしづめ教室が完全に解消されるばかりでなく、新

しく理科教室、視聴覚教室、ランゲージ・ラボラトリーなどの特殊教室が設けられ、また、これまで、職員室の一隅で小さくなっていた図書室も、独立したうえグッと充実したとのことですから、教育内容が深化し、読書の秋ともあいまって、生徒さんたちの読書欲も深まり、教育効果が高められることは間違いありません。

学校は、いわば、地域の文化センターであります。学校が名実ともに立派な学校として成長すれば、地域の文化もそれだけ向上するはずです。この地域は、この桜中学の発展とともに、ますます発展して行くことでしょうが、私はそのような意味からも、桜中学の限りなき前進を期待しております。

生徒の皆さんのお顔は、この陽光に映える新しい校舎にも負けないくらい、生き生きと希望に輝いていて、誠にたのもしい限りです。新しい校舎での新しいスタート、そして、皆さんの新しい意欲、桜中学の未来は明るく輝いております。

どうか、皆さん、先生方や父兄の方々と手をたずさえ、うって一丸となって、この白亜の殿堂に、よりよき内容を盛り込んで、さらに価値ある殿堂、教育の殿堂にしていただきたいと思います。

ともあれ、新校舎が落成して、こんなうれしいことはありません。皆さんとともに心からお喜びして、私のつたない祝辞を終わらせていただきます。

公民館落成式（来賓）

私たち町民が、長年待ち望んでおりました新しい公民館が、ここにめでたく落成しましたことは、限りない喜びであります。

このおめでたい日を迎えましたことは、町当局の社会教育に対する深いご理解や、教育委員の並み並みならぬご努力もさることながら、公民館長以下職員の皆さまが、学校の片隅での窮屈な間借生活にもかかわらず、ひたむきな情熱で立派に公民館活動を遂行してこられた実績が、町民間に公民館新築の声を起こし、盛り上げたのではないかと思います。ほんとに長い間、ご苦労さまでした。

はなはだ乏しい町財政の中から、相当額の経費がこの公民館に投入されたのも、私たち町民の強い要望があったからでありまして、この公民館は、文字どおり公民である私たち町民みんなでつくったものであり、私たちみんなのも

のであります。

とかく、教育と言えば、学校教育に片寄って、社会に出たあとの教育、教養の向上は、なおざりにされがちでありますが、今日のように社会生活が複雑化し、文化や科学がいちじるしく進歩発展する時代においては、とくに社会教育は欠かせぬものであります。

公民館は、社会教育施設、文化施設として、社会教育の振興、ならびに市町村の文化興隆を図るものでありまして、世間で考えられているような単なる集会所ではありませんし、また、そうあってはいけないのであります。

成人式や結婚式、また、母の日や敬老の日の行事に利用するのも大いに結構ですが、公民館は、いわば地域の総合的な文化教育センターですから、それにふさわしい事業、たとえば、講演会、講習会、討論会、作品展示会、映画鑑賞など、さまざまな学習活動や文化活動の機会を提供するものでなければならず、個人でも集団でも、自由に利用できるよう開放される施設でなければなりません。

つまり、公民館は、慰安、娯楽の場、さらに社交の場、討論の場、学習の場として、私たち住民の教養を高め、情操をつちかい、住民相互の親睦を図って、生活文化の向上、地域社会の建設発展を図るものであります。

このように重要な使命をもつ公民館が、きょうここに、装いも新たに生まれ変わったことは、誠に意義深く、全町民の喜びと言わねばなりません。

当公民館は、規模もさして大きくなく、別にスマートでもありませんが、町民の要望にこたえうるだけの施設・設備は十分備えており、公民館本来の活動ができるようになったのですから、当町の公民館活動は飛躍的に充実発展し、よりよい町民づくり、町づくりが本格的に進むことでしょう。

町民の皆さまは、当公民館を、あるときは勉強部屋として、またあるときは応接間として、さらには茶の間として活用し、わが家のように親しんでいただきたいと思います。

最後に、町当局、町教委ならびに公民館関係の皆さまに一言。

どうか今後とも、町民の要望にこたえて、さらに施設・設備を整備し、運営を充実強化して、わが町の繁栄と町民の生活文化の向上発展に寄与されますよう、心からお願いいたします。

新築の意義大いに上がることを念じ、皆さまのご健闘をお祈り申し上げて、祝辞といたします。

児童公園開園式（来賓）

きょうは皆さん、大勢お集まり下さいまして、誠に有難うございます。

私は、もっぱら、きょうの主賓であり、公園の主人公である坊ちゃんや嬢ちゃんにごあいさつしたいと思います。皆さんが待ちくたびれたこの平和児童公園も、きょうめでたく開園式を迎え、皆さんの遊び場として開放されることになりました。

皆さん、さぞかし小さな胸をおどらせていることでしょう。

このあたりには、皆さんがのびのびと遊べるような広場がなく、道路は危険がいっぱいで、遊びたい盛りの皆さんを、家にとじ込めてしまうのは、かわいそうだと胸を痛めておりましたが、これで私も安心しました。

青草の上で、自由にのびのびととびはねて下さい。青空の下で、思いっきり、駆け回って下さい。勉強も大事ですが、のびのびと遊ぶことも大事です。

私たちが小さいころは、「よく学び、よく遊べ」と言われましたが、皆さんもよく学び、よく遊んで下さい。どんなに勉強ができても病気ばかりするようなヒョロヒョロのモヤシっ子ではつまりません。元気よく遊んでからだをきたえて下さい。テレビのつまらぬ番組なんか見るひまがあったら、ここでみんな仲良く、元気に遊んで下さい。

この児童公園は、あまり大きくはありませんが、幸い自然が生かされていて、小川も沼もあり、木もたくさんあります。こうした自然にふれ、自然とともに遊ぶことはすばらしいことです。木に登ったり、小川でドジョウをすくったり、まさに子どもの天国です。

この公園は、確かに皆さんみんなのものです。しかし、皆さんだけのものでもありません。これから生まれる皆さんの弟や妹、さらには皆さんの子どもたちみんなのものです。

だから、自分の家や自分の学校のように、大事に使って下さい。この公園をつくってくれたおじさんたちから喜ばれ、皆さんのお父さんやお母さんからほめられるように、上手に使って下さい。いつも気持ちよく遊べ、そして、いつまでも美しい平和な公園であるようかわいがって下さ

い。

この平和児童公園が、皆さんの喜びと幸福の場所となるよう、祈っております。

新社屋落成式（来賓）

誠至社の新社屋完成を心からお喜び申し上げます。

言うまでもなく、誠至社は、出版界の中堅であり、主婦の憩いの友、若い女性の教養の友、さらには児童の心の友として、日本文化興隆のために、指導的役割りを果たし、その発展に多大の貢献をされております。

このたび、一年五ヵ月の歳月を費やして建設されましたこの新社屋は、躍進する誠至社のシンボルでありまして、誠に喜びにたえない次第であります。

新社屋のこざっぱりした部屋にドッカと腰をおろして、今後ますます献身的努力を重ねられ、誠至社の伝統ある歴史を、さらに光輝あるものにして行かれることでしょう。

しょうしゃで明るいビルは、ひときわ輝いて早くも道行く人々の注視の的となっておりますが、街の景色を引き立てる大きな魅力ともなって、街の発展にも大きな力を発揮するのではないかと思います。

この新社屋落成を飛躍台として、社長をはじめ、社員の皆さんが、出版文化のため、日本文化の発展のため、一致団結、大いに奮起精励されて、いよいよ社業を盛り立て、読者の期待にこたえられますよう、心からお祈りいたしまして、私のお喜びの言葉に代えさせていただきます。

工場落成式（来賓）

本日は、遠路はるばるとお招きをいただき、大変光栄であります。高木社長の雄大な構想が結実し、最新の設計、最新の設備による当工場の落成は、単に業界注目の的であるばかりでなく、貿易自由化を目前にして、日本工業界のとるべき、積極策の一道程となることと信ずるのであります。

さて、私はただ今、遠路はるばる、と申し上げましたが、これは感覚的に少しおかしいと、自分でも思うのであります。

戦争中のことであります。私は当地にありました軍関係の工場に勤務していたことがありまして、よく東京と連絡を取りに、行き来したのでありますが、そのころは夜明けと共に出発しても、結局は東京一泊となってしまった思い

出と結びついていたのでこう申し上げたのであります。
戦後たった二十数年、きょうの午後は出席しなければならない会議を東京に控えておる私が、全然不安を感じておりません。
つまり、現代は、あらゆる事物、事態に対する感覚を、時代と共に敏感に変化させて行かなければならない時代なのであります。
その最も良い例が、当工場の完成であると申せましょう。今まで東京のあちこちに分散していた製造機能の一切を、一ヵ所に集中すべく、当地を選んだ英断に、私は、これあるかと、心からの拍手を送るのであります。
ハイウエーインターチェンジまで、たった十分。輸送能率の点だけでも、従来の数倍に当たることは、門外漢といえども、十分納得の行くところであります。
さらに重要なことは、従業員の皆さん、並びにその家族の皆さんの健康問題であります。
灰色のスモッグに包まれた首都工業地帯の生活と比べれば、オゾンの匂う当地にきたというだけで、黙って十年の寿命が伸びるのではありますまいか。
加えて、工場の背後には広大な蔬菜（そさい）栽培地帯が展開しています。南には太平洋の、豊富な魚介の倉庫が控えています。新鮮な野菜と、新鮮な魚類が、全従業員諸氏の能率を、目に見えてアップさせることも、必然であります。
大体、会社の内容いかんをいう時には、従来は、創業何年ということを、一つの大事な条件にしたものであります。だから、戦後出来た泡沫会社が、創業三百年などと、尾にヒレをつけて宣伝したりしました。聞きようによっては、戦国時代から電気器具の製作を始めたように、受け取れないこともない。
この会社は、社長が一代で築かれたものであります。歴史は決して古くはない。それでいて、これだけの発展、これだけの信用を築き上げたのは、社長が経営方針を立てるに当たって、常に頭の中が新しかったからであります。また変なことを言い出したようです。古くから、新しい、などとは、ずいぶん矛盾している言葉だと思われるかも知れません。
しかし、真理とは、そういうものなのです。
古い経営者は、従業員を出来るだけ安く、出来るだけコキ使うべきだと考えている。しかし、この社長のように、頭の新しい経営者は、従業員にどうしたら豊かな、文化的

な生活を確保させるか、苦心さんたんするのであります。

皆さん、六韜三略という中国の古い兵書をご存じでしょう。文王と太公望との問答形式で書かれている「六韜」の第一巻に、次のような言葉があります。

「天下は一人の天下に非ず。すなわち、天下の天下なり。天下の利を同じくするものは、即ち天下を得」

これを工場に当てはめれば、従業員の利益を考えて経営しなければ、工場は発展しないということなのです。

真理は、常に新しいということ、真理は永遠であるということの一例であります。

新しいといっても、目先の新しさもあります。真理なるがゆえの新しさもあります。

この工場は、本当の意味の、新しい頭脳の結晶であります。

新設を、おめでとうと申し上げると同時に、皆さんの奮闘により、ますますみがきのかからんことを祈って、お祝いの言葉といたします。

住宅新築祝（来賓）

きょうはおめでとうございます。

新しい木の香りや新しい畳の感触は、やはりいいもので、本当にすがすがしい気持ちになりました。

海を見下ろす高台だけに、眺望絶佳、おまけに、都会の喧噪がウソのように静かで、生き返ったようなさわやかさを覚えます。

こんな空気のおいしい閑静な所に住んでいたら、寿命がグーッと延びるのではないでしょうか。

最近は、不必要に自然の美観をこわす建て物がふえて、しばしば苦々しい思いをさせられますが、自然を愛する佐野さんだけあって、さすがにこの家は、自然とよく調和しております。〝光と風の中に立つ家〟といった感じで、自然によって生きる家、自然を生かす家、とでも言いたいくらいです。

外観は、しゃれたデザインながら、白と黒が基調となっているため、純日本的感じがよく出たのではないかと思います。室内も、クラシック、モダン双方の豊かなご趣味が巧みに生かされ、実に見事な調和を保っております。壁や天井などの色調も斬新で、かつ渋く、この家のいたるところに佐野さんのセンスが生きております。

また、愛妻家であり、子煩悩でもある佐野さんだけに、

キッチンは、広々として日当たりがよく、子ども部屋も、思いやりが行き届いていて、ほほえましい限りです。

狭苦しいアパート住まいで、何かと不便をかこっている私などは、まるで御殿にでも来たような気がして、やたらにうらやましく、さっきからタメイキばかりついております。

あぶく銭や不浄な金で建てられたナントカ御殿と違って、コツコツと血と汗を流して建てられたこの御殿は、なりは小さくても、ドッシリと落ち着いて、グッと重みがあります。

いずれにしましても理想的、合理的設計でさぞかし住み心地がいいことでしょう。

佐野さんの人柄を反映して、リューッとした割りに、一向にとりすましたところがなく、のんびりくつろげる感じで、ゴロッと寝ころんで、歌の一つも歌いたいような気持ちにさせられます。

ほんとに、ちょいちょいお邪魔したくなるような、親しみやすいムードがいっぱいです。

住まいというものも、そこに住む人の性格や生活を現わすものだとつくづく感じました。とにかくこの家には、お仕着せの建て物と違って、一度見たらいつまでも忘れられない個性があります。

冬は銀世界を見渡し、夏は青い海原を眺め、春は新緑、秋は紅葉を見下ろす生活なんて、快適ではありませんか。お庭も広く、それだけに、心ものびやかになられることでしょう。

自分の家を建てるということは、男子一生の仕事とも言えるものですが、その家ができ、自分の安住の場所ができてしまうと、なんとなく気がゆるみ、物の考え方が保守的になったり、仕事に対する情熱を失ったりしがちと聞きます。

もちろん、佐野さんには、そんな心配はないと思いますが、この静かな家を、魂の安息所とし、あすの活躍の根拠地として、今までに倍してご活躍下さいますよう、お願いいたします。この静けさに包まれてよく眠り、このさわやかな空気を胸いっぱい吸っておれば、健康この上なしです。

まだまだ遠い遠い先のことですが、いずれ私も、佐野さんを見習って、マイホームとやらを建てたいと思っておりますので、その節は、設計のコツ、住んでみてのご感想な

どお聞かせ下さるよう、いまからお願いしておきます。
きょうは、すてきな新居を拝見させていただいたうえ、とんだご馳走にあずかって、本当に有難うございました。

新築祝（招待主）

感激いたしました。先輩、後輩、こんなに大勢集まっていただけるとは、夢にも思えませんでした。集まって下さった皆さんは、全部、それぞれに忙しい方たちばかりです。

私としましては、もっと広い場所がほしかったけれども、広さよりも交通の便を優先にしたのが、やっぱり成功だったと実証されたようなもので、嬉しいと思います。

私もこれで、やっと一国一城の主になれたと、思いたいところですが、住宅といってもピンからキリまであるように、城といっても、いろんな城があります。

この城は心の城で、実体は作業場であります。

ただ今、吹っ切れない何物かがあるように、言われました。これは大変な好意をもって、表現して下さったものと思います。吹っ切れるどころか、この数年、私は、野心の塊りでありました。野心といっても、かのボーイズ・ビー・アンビシャスといった優雅な野心ではありません。「なんとかして、仕事の出来るスペースが、ほしい」という、極めて現実的な、他人からみればわびしい、私にとっては切実な野心でありました。

とにかく、保存しておきたい資料はもちろん、大事な本までも、半年に一度は処分してしまわなければ、身の置き所に窮するような生活だったからであります。

率直に申しまして、私の喜びは、口に出して表現出来ないほどです。

ご覧の通り、許せる限り、壁というものをなくしてしまいました。全部戸棚です。実質だけに徹した、おかしな家です。それでも私は、御殿にいるような気持ちです。

十分、仕事が出来ると思います。ご期待に添えるような仕事かどうかは、わかりませんが、思う存分のことは、やってみたいと思っております。よろしくお願いいたします。

本日は、せっかくお集まりいただきながら、碌なおもてなしも出来ませんが、とにかく、これだけのメンバーが顔を合わせる機会は、ザラにあることではありません。ノドを潤すに足るだけのものは、用意してあります。大いに語

り合って、楽しくお過ごし下さるよう、お願いいたします。

新築祝のパーティー（先輩）

本日は、お招きにあずかりまして、ありがとうございます。

ご新築、謹んでお祝い申し上げます。

この、そこはかとなくただよう木の香をかいでおりますうちに、

「新築は、新婚にまさる」

こんな言葉を作ってみたくなりました。

新婚も、希望に満ちた、嬉しくも楽しいものに違いないけれど、その裏に何%かの不安があります。お互いが、わかっているようでわからない不安です。これから、きびしい社会へ、所帯を持って出発、という不安もあります。

ところが、新築には、不安がありません。社会生活に踏み出して以来、ようやくにしてつかんだ、自信の具体化であります。

どっしりと、腰を落ち着ける根拠地が出来たのであります。戦国でいえば、城持ち大名になったのであります。

城持ち大名とは、ずいぶん大げさな表現に聞こえるご列席の方々もあると思いますが、われわれ仲間の、いわば業界から申しますと、どうして、大名以上の幅が利かないと出来ないことであります。

イラストレーターという職業は、一見派手な職業であります。その代わり、競争者も無数にいる。世評の矢面に、身をさらして戦っている。まさに戦国の荒武者同然の気概なくしては、一日たりとも暮らせる商売ではないのでありましょう。

実は、今度君に城が出来たことに、二重の喜びを、私は覚えるのであります。

あからさまに言うと、今までの君は、鬼才をもって鳴る存在でした。鬼才必ずしも悪くはないけれど、君の才能を知る者にとっては、この呼び名は、いささか物足りない。

心のどこかに、何か吹っ切れないものがあるから、正々堂々と正面から押し切ろうとしないのではないか？　そういったことを感じているのです。

もちろん、人間が更に一次元を進めようとしても、努力だけで出来るものではありません。

転機――が、必要です。この城の落成が、その転機にな

る、そういう予感があります。

根拠地が出来て、そこから颯爽と打って出るであろう君の武者振りに、私は満腔の期待を寄せるのであります。

簡単でありますが、お祝いの言葉として、一言しゃべらせていただきました。

胸像除幕式（彫刻家）

熊井であります。

三年前の夏の日、カンカン照りの夕方でした。同窓会の幹事の方が三人そろって、私を訪ねておいでになりました。

上山女史の、お若い時、壮年大活躍の時代、お亡くなりになる数日前など、十数枚の写真を示されて、胸像の原型を造れ、ということでした。

それらのお写真を拝見しながら、私は考えこんでしまい、しばらく、返事を保留していただくことにしました。

なぜ、私が躊躇したかと申しますと、上山先生が、まれなる美人だったからであります。

大体、この種の記念像を彫刻するには、ぶ男、ぶ女の方が造りやすいのであります。

まずい容貌の人が、人生の荒波を乗り越えて、功成り、名遂げた暁には、他の人には全く見られない、その方独特の輝きが、出来上がるものであります。ですから、私共は、その特徴をとらえることにさえ専念すれば、なんとかなるという、見通しがつけられるものであります。

つまり、的はただ一つなのでございます。

それが、上山先生の像となると、的を一つに絞れない。

美人であるという、絶対的な事実をはずすことが、まず一番に出来ない。

それから、もう一つ問題がありました。

お若いころのお顔にするか、晩年のお姿にするか、これが決まっていませんでした。

並みの人なら、若い時なら、若さの美がある。むしろ、それだけであります。ところが先生の若いころのお写真を拝見すると、若くて美人であるばかりでなく、当時既に内蔵されていた意志と才知が、キラリと光っている。

晩年のお顔となると、問題はさらに多くなって来る。

ほぼ一ヵ月、考慮の期間をいただいて、結局引き受けることになってから、どのようなお性格の方だったかと、いろんな人に会って聞いてみると、不思議なほど、人によって意見が違うのであります。

「それは、お優しい方でした」
と言う方、
「お側にいるだけで、恐ろしいような、威厳のある方でした」
と言う方、
「神経の細やかな方でした」
「勝気な方でした」
などと、人それぞれに、全く違った印象を持っておられる。
とにかく、私は引き受けてしまった。引き受けた以上、造り上げなければならない。
では、だれの意見を基本にして造ったら、よいのだろうか？
美人で、優しい人？
美人で、威厳のある人？
聡明さを、表面に出すべきか？
強くたくましい意志の人とすべきか？
このように、心を千々に乱した末に、私は決心しました。
「結局は、私の感じ取った、上山先生を造るしかないのだ」
と。
私は、先生に関する一切の資料を読み、遺品に接し、生前をご存知の方にお会いして、話を伺うことにしました。
一年を夢のごとくに過ごし、さらに半年がたちました。
脇目もふらず、先生の面影を追い求めて暮らすうちに、いつしか、私自身が先生に、どこかでお目にかかったことがあるような、そんな気がしてきました。
ある時は、私が私的なことで悩んでいると、
「熊井さん、つまらない取り越し苦労はやめて、ありのまま、実行すればよいのですよ」
と、心に呼びかけて下さったこともありました。
「いよいよ、制作に取りかかる時期がきたようだな」
私は、自然に、そう思えました。そして、制作を始めたのです。
もちろん、手を着けてみると、ビンのふくらみが思うように出来なかったり、頭の形が、その年代より若すぎたのが不つり合いだったりして、迂余曲折はございました。
出来上がると、たびたび訪ねてこられる幹事の方たちも、

「先生そっくりです」
「優しいところも、きびしいところもあって、本当に生きているようです」
と、おっしゃって下さいました。
　未熟な私ではございますが、この胸像だけは、上山先生の霊魂の導きによって出来たような気がいたします。
　偉大なる上山先生の胸像制作の光栄に浴させていただいた者として、いささかの感想を述べて、祝辞に代える次第でございます。

工事殉職者殉職碑建立（関係有志）

　A号隧道の建設は、予定に遅れること一年余、六年の歳月を費やしてようやく完成しました。
　この隧道の貫通によって、短縮せる線路の距離はわずかに十六キロに過ぎませんが、大正十三年鉄道開通以来、風雨、風雪により不通となるのは年中行事に等しく、犠牲者を出した雪崩事故も、十数回に及んだ山腹の迂回線は廃絶されることになり、今後の裨益においては、計り知れないものが、あるのであります。
　そもそも、この工事の計画は、今を去る三十年以前、すでに着想されていたのであります。計画を立てては、そのつどさたやみとなってしまった原因は、いろいろとあるものの、最大、根本的には、調査によって判明していた、地脈の錯雑性にあったのであります。
　戦後発達した各種工事機械と、向上した技術陣が、ようやくこの難工事への挑戦に踏み切る原動力になったのであります。
　およそ、かかる山嶽重畳たる奥地の隧道工事にあっては、多少の犠牲者が出るのはやむを得ないというのが、常識化した関係者の考えであります。しかし、最新鋭の科学をもって工事を始めた私どもは、この常識を非常識にすべきだと決心しました。つまり、技術陣目標の第一を、無事故においたのであります。綿密なる測量調査、無理のないスケジュール、可能の限りの機械化、司令部と現場との密接な連携。一人の負傷者も出すまいとして、安全対策重点主義をもって臨んだのであります。
　開削進行中には、不慮の湧水あり、落盤あり、危険には幾度か見舞われたものの、無事に切り抜けることが出来たのは、全く安全第一主義のしからしめるところであると、意を強くして、推進して参ったのであります。

好事魔多し、と申しますか、遠く四国に台風が上陸したと聞き、間もなく消失したと聞いて、安心しているところに、突然集中豪雨に襲われたのであります。これだけの難工事に、一名の負傷者も出さず完成を目前に控えていながら、従業員宿舎の流失という、惨事の勃発となったのであります。

共に働いた仲間七人を、一夜にして失った私どもは、ぼう然自失してしまいました。

七人の全部が、現場の第一線で活躍していた、岩村組の方たちであります。全国から集まった、作業歴五年以上の、ベテランぞろいでありました。

落盤の時も、湧水の時も、事故に対処する用意があったとはいえ、現場の先頭に立つ者の機敏な処置があったからこそ、犠牲者が出なかったのであります。

工事に参加し、工事に殪れずして、洪水に逝くとは、君たちも、随分残念だったことと思います。

現地に建てられた殉職慰霊碑の前に立って、共に建設に当たった仲間を代表しまして、弔問の言葉を述べる次第であります。

ここに謹んで、哀悼の意を表し、心からの冥福をお祈りいたします。

創業十周年記念祝賀会（社長）

皆様、ご多忙中のところを、かくも盛大にご来会下さいまして、感謝にたえない次第でございます。

昔から、よく十年ひと昔と申します。十年もたつと、世の中はガラリと変わるものだ、ということです。

うちの会社も、この十年で、ずいぶん変わりました。十年前のそのころ、私は名前こそ同じ社長でしたけれども、兼運転手、兼配達係、兼掃除係。つまり、働き手は女の事務員さんのほかは、私とここにいる専務の二人だけだったのであります。

公団が建つというので、ほとんど強制的にたんぼを買い取られてしまった私は、一生遊んで食う金もなし、手に職もなし、一時は途方に暮れてしまいました。迷いに迷ったあげく、自動車の運転を習い、プロパン屋に勤めて商売を習ったのです。半年たって、独立しました。

当時は競争相手も少なく、商売にはなったけれど、なにしろ半年の経験しかない生かじりの商法です。失敗もあったし、ムダな苦労もしました。それでも、さらに一年がん

ばってみると、多少の自信も出来たし、見通しも明るくなったので、大きく拡張することに、踏み切ったのでありま す。実際には、その時になって、今日の基礎が出来たのであります。

それから、年を越すたびに、競争相手がふえ出しました。農協が、――四年目でした――プロパンを扱うことになりました。そのために、代の変わった会社もあり、つぶれた会社もありました。

その時に、この会社ばかりはほとんど影響を受けないで済んだのは、たぶん、バカの一つ覚えで「お得意様に親切」をモットーとしてきたせいだと思います。

私は、先祖から代々、土に生きてきた百姓の出であります。農業というものは、掛け引きのないものです。人をごまかすことは出来ても、稲をごまかすことは出来ません。肥料が足りなければ、伸びません。水が足りなければ、枯れてしまいます。手間をかけて、可愛がってやれば、秋には必ず、その成果を見ることが出来ます。雨が降ろうが、風が吹こうが、自分のことを二の次にしてめんどうを見てきた者が勝となる。それが農業であります。

百姓上がりの私は、要領は悪いし、機敏でもありません。ずるいことをしたくても、する度胸もないし、出来る器量もありません。

商売のコツは、まだわかったとは言い切れませんが、長い目で見れば、正直に、親切にするのが勝のようです。つまり、商業も農業も、大して変わらないような気がします。

今は、社員も五十人を越えました。

急がず、あせらず、確実な商売を続けていると、ありがたいもので、お得意様も徐々にふえています。

若い社員には、このような地味な営業方針は不満に思えるかも知れませんが、とにかく私たちの扱っている商品は、危険物だということを忘れないで下さい。

あせったり、あわてたりすれば、必ずそのシワ寄せが、どこかに現われます。大事を起こす心配があります。

幸いに、この十年間、うちでは無事故で通しました。この無形の信用こそ、この商売には、最大の資本なのであります。

しかし、実際のところ、のろのろと、まるで牛のように一歩ずつしか歩かない、ということは、私のような年の者にさえ、楽ではないことです。

十年たった、この辺で、一区切りをつけ、あすからは、また出発点についたつもりで、出直せば、少しは気が楽になりはすまいか？
そう考えて、計画したのが、きょうの十周年記念日です。ですから、私は老人でくよくよ昔のことを話しましたが、皆さんは、過去を反省したりするよりも、新しい会社が出発するお祝いだと思って、思い切り陽気に飲んで下さい。
それから、申し遅れましたが、ご来賓の皆様方に、改めて申し上げます。
本日は、ご多忙中のところ、よくお出で下さいました。ありがとうございます。
今後も、ご指導、ご忠告のほど、よろしくお願い申し上げます。なにぶん祝賀会とは申しましても、内祝い同然の集まりでございまして、大したご馳走もございませんが、十分くつろいで、飲んでいただければ、幸いこれに過ぎたものはございません。
もうしゃべることも、なくなりました。
皆様、よろしくお願いいたします。

創業十周年記念祝賀会（来賓）

本夕、ご招待にあずかりました上に、何か一言をと、ご指名いただきました。僭越ながら、高い所から、ご挨拶申し上げます。
私はまず、
「十周年記念日、おめでとう」
と申し上げます。
ただおめでとうだけでは、いかにも決まり文句に過ぎないようでありますが、この十年間の当地の人たちの変遷を知る私にとりましては、万感交々（こもごも）胸に迫る思い出が、この一文句にこもっているのであります。
私どもは、首都圏近郊の農家の出であります。古きは三百年、五百年の歴史を持って、土地を耕してきたのであります。有名な太田道灌よりも、もっと古くからであります。
その歴史が、十年前に、切断されたのでありました。具体的に言えば、百姓がやって行けなくなったのであります。事情に多少の違いはありますが、とにかく一斉に、百姓で食っては行けないような事態におかれたのでありま

す。

人目こそ、土地ブームに便乗して雨後の筍のように続出して成り金になったのでありますが、当人の胸中は、暴風にさらされたたんぼの案山子のように、大揺れに揺れていたのであります。

税金の関係で、一刻も早く家を新築しなければならない。あわてて、近代的な住宅建築の研究に取り組む人も大勢いました。なにしろそれまでは、新しい建築様式などとは、縁もゆかりもなかった人たちばかりです。ない知恵を絞って出来上がってみると、だれが見ても、伊豆の温泉宿そっくりだった、などという喜劇もありました。あくどい建築屋に引っかかって、未完成のままで、放り出された人もありました。

そうして出来た、住み心地の落ち着かない家の中で、今後どう暮らすべきか、考えなければならなかったのです。

人におだてられるままに、都内にキャバレーを始めた人もいます。美容院を新しい二号に建ててやって、左ウチワで暮らそうという粋な計画を実行した人もいました。

猛勉強の末、不動産売買の資格を取って、不動産屋を始めた人もいます。雑貨屋を、酒屋を、食料品店を、理髪店を、ガソリンスタンドを、ありとあらゆる職業を選んで、人それぞれの商売を始めたのであります。中には、金を銀行に貯金したまま月給取りになった人もいますが、そうして、人生第二の出発をしたのであります。

商売が当たって景気が良くなったばかりに、酒や女で、家庭さえもつぶしてしまった人も、一人や二人ではありません。詐欺に引っかかって、借金の山を築き、土地にいられなくなった人もいます。息子に自動車を買ってやったばっかりに、遺産をなくした人は、案外と多いようでございます。

大部分は、残りの土地を売って借金の穴埋めに当てがっている、青息吐息の人たちです。

同じスタートラインから走り出していながら、落後者は、続出しました。なにしろ、トレーニングを十分積んだ選手の、一人もいないアマチュアばかりの運動会なのです。

その中でも、成功者はいます。こちらも、その数少ない成功者の一人です。

なぜ、成功したか?

それは申し上げるまでもありません。社長の人柄であ

り、人柄のままの営業方針が、あぶな気のない橋を、着実に渡ってきたからです。

それから、もう一つ敬服することがあります。社員の採用基準であります。

一切の学歴を無視する人事というだけなら、他にもあることであります。こちらでは、これだけ激しい労働でありながら、体が弱くても採用すると耳にした時には、本当に驚き、心配しました。

正直なところを申し上げれば、商売があまりにトントン拍子でうまく行くので、社長はとうとうのぼせて、頭にきてしまったのではないか？　と思ったのであります。

とにかく、小学校時代からの親友であります。放っとくわけに参りません。すぐにとんで行って話を聞いてみました。そして、一応は頭が狂ったのではないとわかって、戻ったのであります。

その時の社長の意見は、こうでありました。

「労働が激しいといっても、百姓に比べれば、物の数ではないだろう。私も昔は弱かったけれど、百姓で鍛えて丈夫になった。別に病人の背中を鞭でたたいて働かせようというのではない。要は本人にやる気があるのにそれを通さしてやるのを、会社が助けるかそれとも、うるさがるかだと思うね」

ただ今、この高い所から見渡しますと、社長の意見は正しかったようであります。一人として弱そうな顔を、見つけ出せません。それぞれ陽に焼けて黒々と光っている上に、一筋、筋の通った面魂が並んでいる。

もう一度、最初の言葉を繰り返させていただきます。

「創立十周年記念日、おめでとうございます」

・会社創立記念日（社長）

本日は、創立四十周年記念日であります。四十年という年月の間には、会社もいろいろなことがありました。

申すまでもなく、日本歴史始まって以来の、敗戦というヤマ場がありました。進駐軍の干渉を、どうやら切り抜けたあとには、ストライキ並びに処理問題があり、さらに追い打ちをかけるように、業界全般の不振という、のがれようのない危機が襲って参りました。

現在は、どうやら小康を保っている状態であります。

この小康状態の兆が見え始めたころ、それまでの心労の積み重なりで、初代の社長がお亡くなりになり、続いて二

代目が翌年、お亡くなりになりました。

私は三代目であります。

——売り家と唐様で書く三代目

川柳の通り、私は現場について、詳しくありません。ただ、売り家と書くようになっては、先代、先々代にも済まぬし、皆さんに対しても、謝っても追っつかないことになると、戦々恐々ひたすら職務を全うする努力を続けているのであります。

ただ、私は長らく会計畑にいた関係上、下から上がって来る数字をにらんでいると、さまざまのことがわかります。危い橋を渡らぬよう、さりとて因循姑息に陥らぬよう、舵を取っているのであります。

私は、私のような、英雄でも天才でもない者が社長のイスにすわっている限り、会社の発展などということは、考えるべきではないと思っております。徐々に、内容を充実させて行けば、会社というものは自然に発展して行くものだと考えているのです。

内容の充実と申しましても、各方面があります。経済方面もその一つです。これは、私の専門であり、月日と共に確実に、一歩一歩進んでおりますから、ご安心いただけます。

営業方面はどうかというと、派手に流れぬように、数字よりも信用を、という方針が効を奏して、着々と進展しております。

労務関係も、毎回の折衝中こそ、ゴタゴタはするものの、大体スムーズに行っているようであります。

人事方面は、人事担当者に人を得ている当社としては、表面だって、とやかく言うような事態は、全くありません。

しかし、この方面に関しては、数字となって出てこないのでありますから、私としてつかむ手がないのです。

私は、凡庸な社長でありますが、朝起き出すと、まず「うちの社員は、今朝も張り切って起きただろうか?」と考えます。夜、床につく時には、「うちの社員で、今、安心して寝つけないような者が、いないだろうか?」

そう考えずに、眠れないのであります。

皆さんの幸福は、私の幸福であります。皆さんの不幸は、私の不幸であります。そう考えずにいられないのが、社長というイスなのであります。

今までは、創立記念日というと、来賓をお招きして、おごそかな式典を挙行したものでありますが、ことしは、そういう形式的なことはやめにし、お世話になった会社外の方たちには、記念品をお送りするだけにしました。

これから始まるのは、水いらずの祝賀パーティーであります。辛い物も、甘い物も用意してあります。余興もあります。飛び入りも歓迎します。

皆さん、お互いに胸襟(きょうきん)を開いて、大いに語りましょう。大いに楽しんで下さい。

歌って、踊って、笑顔でこの会場を埋めて下さい。

会社創立記念日（部長）

きょうの記念日を祝しまして、私も一言祝辞を述べさせていただきます。

私はいわゆる戦中派でありますが、社員歴から申しますと、戦後派であります。だから、感傷を好まない、現実主義者であります。

私のただ今の職責は、一口で言いますと、皆さんにハッパをかけて、シリをたたいて業務成績を向上させるのが、仕事であります。

人はそれぞれ、向上心があり、各人各様に出世をもくろんでいるものであります。私のポストもだれかにねらわれている、と承知しています。私も将来は、もっと出世して重役になりたいと思っています。単に出世したいばかりでなく、私は仕事をすることが好きであります。私の趣味は、仕事です。だから、麻雀をしない。碁も将棋も、ボーリングもしない。一切、趣味というものを、持つ気がしないのであります。

だから、私のきらいなのは、自分の責任を投げ出すことです。その日、その時、すべきことは必ず果たそうと決心し、それを実行しています。

きょうは、何をしなければならないか？　と申しますと、社長の言われるままに、飲んだり、食べたり、余興を見たり聞いたり、とにかく楽しく過ごすことであります。大体、人間の知恵とか、エネルギーには限界があります。

頭が良いと言われる人は、巧妙に頭を休ませて、必要なところに集中出来る人ではないかと思われます。

名人と自他共に許す落語家が、意外にもそそっかしかったり、世界的な大学者が、家では忘れん坊だったりするの

は、その証拠なのであります。

エネルギッシュだと言われる人も、その通りで、眠る時には人の何倍かの深さで熟睡したり、一つの事にいつまでもクヨクヨしないで、じょうずにエネルギーを使っているのだと思います。

戦争中、私が海軍兵学校にいたころは、飯を食うのも国のため、夜眠るのも国のため、だから食う時には食うことだけを、眠る時には眠ることだけを考えろ、と教えられました。

これこそ、エネルギーのじょうずな使い方だと思います。こういう考えでいてこそ、仕事中は、仕事に熱中出来るのではないでしょうか？

きょうは、大いに楽しむ日です。楽しむべき時に楽しむのも、仕事の時に仕事に没頭するためであります。

これから、大いに羽を伸ばして、楽しみましょう。

準備も万端整ったようであります。

簡単ながら、これで終わりとします。

出版祝賀パーティー（友人）

先日、友人の堀君を訪ねました時に、たまたま私が野草関係の本を手にしているのを見て、彼が、

「君が野草に関心があるのなら、こんな写真は、どう？」

と言って、一冊の写真集を取り出してきました。

「いわゆる、雑草と称するものばかりを撮った珍しい写真集なんだ。戦前は小児科、つまり子どものポートレートばかり撮った専門家だったけれど、戦後はカメラを捨てて商売人になってしまったと思っていたら、四年間だれにもしゃべらずに、それこそ黙々としてこんなものを撮っていたんだ」

彼の説明を聞きながら、私は、そのページを開きました。

元来、私は特別の写真以外、写真集というものが、きらいなのです。私自身、多少写真に関しては、趣味を持っているのですが、写真構図の研究をする中に、自分で撮ることをやめてしまったからです。人の写真を見る以上おろそかには見たくない。じっくり見る。そして、その構図に不満があると、自分自身がいらいらして来るのです。

しかし、この写真集は、最初の一枚からひきつけられました。

アタッチメントで撮って拡大された名も知られぬ花が、画面のギリギリいっぱいに咲いていました。
「雑草というなかれ。良く見れば、これだけの美しさが、あるのだぞ」
とばかりに、自負を絢爛と誇りながら、語りかけていました。寄り具合いもピッタリ。その構図の安定感は、ながめる人を吸いつけるだけの魅力がありました。
私は、堀君に誘われるままに、見ず知らずの、この出版祝賀会に、出席を承諾してしまいました。会を少しでも盛大にしようという、堀君の友情に、添いたかったからであります。
そして、私にも一言と言われた次第でありますが、本夕は、著者ご本人を前にしていることですから、ほめるのはやめにして、少し悪口を言ってみたいと思います。
今まで、他の方たちのお話を伺っているうちに、著者が秋田の方だということ、支店まで持つD・P・Eの忙しいお店のご主人でいらっしゃること、家庭では非常に優しい良き夫であり、良き父であること、などの彼についての知識を持ちました。その環境で、これだけの写真をお撮りになったのは、東北人特有のネバリ強い性格のなせる技ではないかと、だれかがおっしゃり、著者もうなずいておられました。
しかし、私は思います。金をためることなら、四年間ネバルことが出来ます。しかし、いかにネバろうとも、ネバりだけで四年間、同じペースの写真を撮り続けることは、不可能なのでは、あるまいか。私は、ノウと断言したい。
著者は、類希なる贅沢家なのです。
自分の一番気に入った、本当に好きな美しさ、でなければ、我慢出来ない、恐るべきわがまま者なのです。
ある日曜日、昼寝から起き出して庭先へ出、便所へ戻るのがめんどう臭いので、立ち小便をしたら、その小便の飛沫の先に、雑草があった。おんばこの、青い棒だったかも知れない。先の方に、白い粉がついていたので、何気なくつかみとってみた。手にして、良く見ると、粉と思ったのは白い小さな花の集まりで、しかも、その小さな花の一つ一つは、根元の方が、かすかに赤く可憐に染まっている。
雑草の悲しさは、一度地面から離されてしまうと、見る見るうちにしぼんで、美しい白も赤も、はかなく色褪せて行く。
「花の命は短くて……」

だれも気がつかなかった美に触れた喜び、花びんにさしてさえ、観賞することを許されない短い命。そう考えてきたら、彼には、他の一切の美は、目に映らなくなったのでありましょう。そして、自分の気に入った美だけを、四年間追い続けたのではないか?

身は商売人でありながら、金を無視し、多忙な店主の身でありながら時間を無視し、——その言い方が酷であるというなら——多忙な体を、まさに休養すべき日曜日にも酷使しながら、好きなこと以外、脇目を振る気も起こさず四年。こういう人を、意志の強い、努力家であるというお世辞は、決して申しません。

まさに贅沢家であります。

写真集も贅沢に、オール・カラーで出来ています。

贅沢の結晶が、出版されたのです。

おめでとうございます。

サッカー優勝祝賀会(選手代表)

皆様! ありがとうございます。お陰で優勝し、栄えある赤鹿旗を持って参ることが出来ました。ご厚志に甘えて、この盛宴に出席させていただき、私たち一同、優勝の感激ひとしお新たなるものがあります。

この機会をお借りして、わがサッカー部の歴史に一顧を試みるも、意義浅からぬものがあるのではないかと存じます。もとより若輩のことでございます。先輩たちから、もれ承った話を骨幹として、簡単に申し上げたいと思います。

わが社にサッカー部が誕生したのは、今を去る十五年前で、社会人チームとしては、先駆的な役割りを果たしてきたものであります。しかし、そのころは、いざ他社と勝敗を争う段となりますと、常に最下位に甘んじていたのであります。

その原因は多々ありましょうが、当時は選手といっても、ボールを蹴った経験があるというだけの、言わば好きなものの集まりに過ぎなかったのでありますから、試合に出ても、最後まで続けるだけが精一杯の有り様だったのであります。

ところが八年前になりまして、社長の音頭取りで、社内のスポーツ熱が勃興して参ったころであります。その年たまたま課長に昇進された安井部長が、実は名門校のフルバックとして部下に勇名を馳せた名選手だったことが明るみ

に出るや、直ちに社長命令で、監督兼コーチに就任することになったのであります。
時あたかも、後援会の結成となり、私たち新米社員は、応援団の第一線に立つことになったのであります。
毎日、作業終了と共に、グラウンドの片隅に集まり、声をからし、手に豆を作って応援の練習をしていると、ある日、私たちの所に安井部長がきました。にらむようにして、練習振りを見ていたと思うと、大声で練習を中止させ、「おい君！　前に出てきたまえ。君も。君もだ」
と二十数名を指名して前に集めました。
呼び出された私たちは、何をしかられるのかと、ビクビクしていました。なにしろ新米社員が、大声で呼び出されたのです。
「おれについてこい！」
部長は、クルリと背を向けると、走り出しました。あの横幅の広い部長が、すごいスピードの持ち主であった驚きは、今でもまざまざとよみがえって参ります。グラウンドを一周しないうちに、三、四人が落後しました。三周目には、大方半分になっていました。四、五周して、足を止めると、部長は残った十幾人かに言い渡しました。
「お前たちは、きょうからサッカー部員だ」
その日から、猛訓練が始まったのです。猛訓練と簡単に申し上げましたが、本当に基礎の第一歩から、教えて下さいました。教え方は懇切丁寧。小学時代とて、こんなに親切に教えられたことはありません。文字通り、手とり足とり、足首の曲げ方まで、くせの直るまで徹底的に絞られました。
その間、後援会の皆様の公私両面、陰になり陽になっての暖かいご援助も、忘れることは出来ません。各人各様に胸に秘める思い出の数々を残しております。
苦節七年、最低のチームも、やっと優勝を勝ち取ることが出来ました。
しかし、優勝したとはいえ、幾度となくピンチにも陥り、ツキに恵まれた点もございます。技術的にも、精神的にも、チームの力としては満足の出来る段階ではありません。
今後も一層、団結を固め、健全なるサッカー精神を発揮出来るように、がんばるつもりであります。
本日のご後援に深く感謝すると共に、何分ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

市長当選祝賀会（来賓）

司会者のご指名のままに、不肖を顧みず、祝辞を述べさせていただきます。

これまで、社会福祉事業に、また教育環境向上のために、長年献身的な努力を続けてこられた皆川君が、このたび数多の競争相手と闘った末に、見事市長に当選されたことは、誠に欣快至極のことと存じます。

これは同時に、当地民主化の第一歩として実に意義深甚なるものがあると、感ずる次第であります。

ご存じのごとく、当市は県内交通の要衝にあり、商業発展の将来性を嘱目（しょくもく）されている土地であるにもかかわらず、当市ほど保守的なる旧勢力と、革新的なる台頭勢力の確執の激しい所はございません。

財閥地主を背景として、牢乎（ろうこ）抜くべからざる潜勢力を持つのが保守派であり、一方中央より招致されたる大小各工場の勤労者の組織力を代表する革新派は、ことあるごとに対抗意識を燃やし、市政を牛耳るべく、虎視眈眈（たんたん）たるものが、あるのであります。

両派共に、市の発展のためを思っての勢力拡充闘争に、異論をさしはさむ余地など、一片もないはずでありながら、その闘争こそは、当市のガンであることは、衆目の等しく認めるところなのであります。

この転移性ガンの害毒たるや、工場地帯の下水工事に、河川浚渫（しゅんせつ）工程に、中学増設問題に、市政の末端に至るまで浸食を及ぼし、懸案山のごときにかかわらず、今日なお解決の見通しも皆無のまま、放置されている実情であります。

市民の願望は、いつの日か、だれかが現われて、新旧両派の調和を計り、党派を越えて、市のため、民衆のための市政を取り戻すことに、あったのであります。

皆川君の当選こそ、その願望の表現以外の何ものでもないのであります。よって、新市長のとるべき態度は、決まっております。

自ら、高所大局に意識の基礎を据え、党利党略、私利私欲から脱却し、真に公明、かつ、正大なる市政をまとめ上げることなのであります。

これはいわゆる、言うはやすく、行なうは難い問題ではありますが、市民としては、ここに皆川君を得たことに、唯一の希望を託しているのであります。

しかし、諺にも申します。曰く、孤掌鳴(なら)し難しと。皆川君の意気壮なりとするも、彼をバックアップするに足る背後の力なくして、そのまま戦場に送り込む時は、いたずらに新旧両派から、そっぽを向かれ、得るところもなく退陣か妥協を迎えられるは、必至であります。

よって私は、「市政を守る会」を全市民によって結成し、正義の背景力を組織することを提唱し、もってこのご挨拶の結びといたしたいと思うのであります。

いささか、竜頭蛇尾(だび)の終わりとなりましたが、次に「市政を守る会」の発起人有志を代表する、古谷君を、ご紹介申し上げ、降壇することにいたします。

古谷君も、同志の士でありまして、五尺の熱血をたぎらせ、市政改善のためには、不惜身命の闘魂の持ち主であります。

よろしく、お願い申し上げます。

祝日

祝　日

祝日の意義を知ること

戦後の日本は民主主義国家として生まれ変わった。国民の祝日もその意義において設定されている。国民の祝日に関する法律の第一条で「自由と平和を求めてやまない日本国民は、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、ここに国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日を定め、これを『国民の祝日』と名づける」とある。

祝日に各々の意義があり、それに従って祝いごとがなされるのであるから、その日の意義に反しない話を組み立てる必要がある。話の内容はあくまでも明快に、みんなでこの日を祝い、この日の意義を確認するという立ち場を忘れてはならない。

国民の祝日について

国民の祝日に関する法律の第二条では「国民の祝日を次のように定める」としてある。

元　日＝一月一日（年のはじめを祝う）
成人の日＝一月十五日（おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます）
建国の日＝二月十一日（建国をしのび、国を愛する心を養う）
春分の日＝春分日（自然をたたえ、生物をいつくしむ）
天皇誕生日＝四月二十九日（天皇の誕生を祝う）
憲法記念日＝五月三日（日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する）
こどもの日＝五月五日（こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する）
敬老の日＝九月十五日（老人を敬い、いたわる）
秋分の日＝秋分日（祖先を敬い、なくなった人々をしのぶ）
体育の日＝十月十日（スポーツとしたしみ、健康な心身をつちかう）
文化の日＝十一月三日（自由と平和を愛し、文化をすすめる）
勤労感謝の日＝十一月二十三日（勤労をたっとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう）

国民の祝日

成人式（来賓）

皆さん、おめでとうございます。

皆さんにとって、きょうは、一生忘れられない日となることと思います。皆さんにお祝いの言葉を申し上げる私にとりましても、一生忘れられない日となることと思います。と申しますのは、私事にわたって申し訳のない話でございますが、故郷を出て十数年、都会に出て商売を始め、最近になってやっと将来のメドがついたのを機会に、帰って参りました私でございます。私は、こうして成人式に参加される皆様を、毎年毎年、うらやましいと思って過ごして参りました。私たちのころには、成人になったからといって、お祝いするなんて習慣は、全くありませんでした。

成人式をよく戦前の徴兵検査に比べる人がいますが、あれは全く別物でございます。甲乙丙と等級をつけられ、甲となれば二年絞られなければならず、甲にならなかった時の肩身の狭さ、これはまた格別なものがございました。

成人式に匹敵するものは、昔の元服でありましょう。たもとを縮めた留袖の、肩あげ、つまり、肩のギャザーをおろした着物を着て、あの前髪若衆といった前髪を剃って月代になる。そうなるともう、子ども扱いにはされない。その代わりに、言うこと、なすことに責任を持たなければならない。つまり、責任を持つべき区切りが、元服でありました。

形は違っても、成人式は元服そっくりでございますね。成人式を迎えて、責任を持つ立場に立つ、ということは、一面国民としての権利を持ったということであります。

皆さんは、きょうの日の来るのを、首を長くして、待ちに待ったと思います。私も、子どものころ、一番いやだったことは、子ども扱いされることだったのを覚えています。

けれども、成人になったからと言ったって社会人として、一人前になったのではありませんよ。一人前になるのは、大変です。努力がいります。

商売、その道によって賢し、と言いますが、人からそれぞれの専門家だと認められるまでには、苦労がいります

よ。
一番簡単そうな商売、たとえばラーメン屋さんを想像してみて下さい。
ラーメンを何杯作っても、いつも同じ分量に作らなければ、商売になりません。これだって、やさしいことではありません。
二人連れのお客様に、
「はい、お待ちどうさま」
って、ラーメンを出したら、片方が大盛りで、片方が少なかったら、少ないお客は怒ってしまいますよ。
味だって、むずかしいですよ。きのうのは甘かった。きょうのは塩辛い。そんなことは出来ませんよ。細かいお客様になると、自分の丼の中と、隣の人の丼の中を、そっと横目でにらんでる人もいますよ。
「おや、私のチャーシュウは、隣のより少し薄いんじゃないかしら」
なんて——。
お客様がはいってきた時
「いらっしゃい……」
と、景気よく声をかけることだって、年期がいるものです。なんでも声が大きければよいというものでもありません。
「いらっしゃい……」
「ああ、びっくりした！」
——とたんに、食欲がなくなってしまった。
これでは、商売になりません。
今の皆さんは、ラーメン屋とすれば、開店したばかりです。
一杯の丼に、どれだけスープを入れるとおいしいかも、ばく然と想像出来るだけです。なぜなら、まだ自分で作って、お客様の評判も聞いていないからです。
これから、どんな気前のいい、アベックか何かがはいって来るかもわからないし、酒癖の悪い酔っぱらいがはいってくるかも、わかりません。
ことによると、せっかく材料ばかりたっぷり用意したのに、お客様は一人もこないかもしれません。
不安です。
しかし、開店の時、不安でションボリしている店の主人なんて、いませんね。
なにしろ、一軒の店を開けば、自由です。世間も信用し

てくれます。今までは、小僧と呼ばれても仕方がなかったのが、今は曲がりなりにも、ご主人様です。
　長い間、計画を練りに練ってきた上の開店だから、張り切っています。
　うちのスープの味は、きっとお客の舌を満足させるに違いない。お客だって、油くさい古い店より、清潔な新しい店の方がはいってみたくもなるだろう。利益は薄くってもいい、盛りをよくして、サービスするんだ。
　あれやこれや、想像して、張り切っています。
　そうです。皆さんは張り切って、一斉にスタートラインに着いたのであります。
　皆さんの胸の中には、若い夢が一杯つまって、はじけそうです。
　人生のランニングは、運動会と違います。用意……ドンと鳴って、走り出す方向は、四方八方！　それぞれの方向に向かって、前進するのです。そして、それぞれの専門家になるのです。目標は、その道のプロになることです。立派な文化国家の国民として、成長して行くのです。
　前途に谷があれば渡り、山があれば越えるのです。雨風なんて、進む気さえあれば、しのげるものなのです。
　どうか皆さん！　張り切ってがんばって下さい。

成人式（来賓＝女性）

　きょうは、おそろいで成人式をお迎えになられて、誠におめでとうございます。
　皆さんは、法律的にも一人前であることが認められ、選挙権が与えられ、すべて自分自身の考えで自由に自分自身の進路を決めてゆくことができます。晴れがましく、輝かしい出発の日であると申せましょう。
　私もまた、ちょうど十年前のこの日、この講堂の式典に列席して、先輩方の祝辞を受け、成人手帳をいただきました。今、私はその時の新鮮な感動をまざまざと思い出します。
　しかしその時、私は、同時にちょっぴり、おとなの社会という未知の世界に踏み込むことに戸惑いを覚えたことも事実です。というよりは、何か荒海の航海に船出するときのような、不安な恐ろしい感じすら抱いたと申し上げた方が一層正確でしょう。おとなとしての責任をもって生きていくということが、具体的にどういうことか、見当がつかなかったのです。おとなの社会というものを、家庭の両親

や親戚、あるいは、学校の先生がたなどを通じてしか知ることができませんでしたが、それもやはり子どもとしての立場から見ていた世界です。あとは本や映画などを通して、いわば間接的に半ば想像の中で感じとっていたにすぎません。

おとなの社会を、頭ではわかっていたつもりでいても、いざ自分がその一員となってその中で生きていくということについて、心の態度をどう決めたらよいのかわからなかったのです。

早くおとなになりたいという気持ちの底に、気楽な少女時代に対する感傷も潜んでいたのでしょう。

さて、成人式を迎えて、私はいやおうなくおとなの仲間入りをしたわけですが、これを境目として、確かに私は一人前のおとなになったことを実感させられました。

まず、家庭での私に対する扱いが、変わってきました。どことなく、私の考えを尊重してくれるような態度が周囲の人々に感じられるようになりました。

お友だちの間でも、夢のような話題ばかりではなく、おとなとしての現実性のある話が真剣に語り合われるようになりました。恋愛の話なども、具体性をもって身近に感じられるようになってきました。

異性も単なるボーイフレンドとして済まされなくなってきますし、結婚という重大な事柄が人ごとではなくなってくるのです。

私は、やはり十年前にこの講堂で成人式を迎えた日からはっきりおとなになったことを、今改めて思い返すことができるのです。

皆さんも、きっときょうを境目として、私と同様な感じを抱かれるに違いないと存じます。先ほど申しましたように、皆さんは、ことし、生まれて初めての選挙権を得て、清き一票を投ずることができます。ことに女性の皆さんは、良い男性に巡り会い、結婚され立派な母親になる日が身近に迫りました。その準備の時期にはいったのだと申せましょう。もちろん、結婚だけが人生のすべてではなく、職業をもち、仕事を通じて人生の喜びを見い出してゆくことも女性の生き方の一面であることは、いうまでもありません。しかし、なんと申しましても、女性の最大のしあわせは、よい結婚生活の中に求められることでしょう。

自主的な判断力をもち、深い愛情をたたえたおとなとして女性として、あなたがたは社会の活力と潤いの源泉にな

らなければなりません。
どうぞ皆さん、この成人の日の感激を忘れないで、のびのびと明るく、苦難に打ち勝つ強い力をもってしあわせな人生を築いていって下さい。
まだ年若い私が大変口はばったいことを申し上げましたが、皆さんに近い年齢の先輩の一人として、お祝いの言葉を述べさせていただきました。皆さん、これからは一緒に力を合わせて住みよい社会のために努力いたしましょう。よろしくお願いいたします。

成人式（成人代表）
きょうは私たちのために、成人式を挙行して私たちの新しい出発を祝って下さいましたことを、心から感謝いたします。
私は満二十歳を迎えるに当たって、ひとつの決意を固めました。現在従事している農業の仕事を自分の一生の仕事として貫いてみたいということです。
私は農家の長男として生まれ、高等学校を卒業後も、多くの友人たちが大学へ進学し、あるいは都会へ就職して行きましたとき、いわば家業を継ぐという形で土地に残りました。
そのころの私は、そのような自分の立場に不満であり、友人たちがうらやましくてなりませんでした。
私は、農閑期を利用して、東京の親戚の家や友人たちをたずね、都会生活の一端を知ることができましたが、そこで話をいろいろと聞き、自分の人生について考えてみました。
都会でサラリーマンの生活をすることも、そこには仕事の面白さや、楽しさもあるかもしれません。しかし、よく考えてみると、自分の生き甲斐としては、私にはピッタリしないものを感じました。私にはやはり両親も祖父母も生き抜いてきた大地がある。この大地の安心感の中に自分の生き甲斐が生み出せるのではないかという考えが強く頭をもたげました。
現在、農村は急速に変わりつつあります。時代の波の中で激しく新しい農村の形態を求めて生みの苦しみをしているときであります。
現在の農業の仕事は、昔、農村の人たちが百姓とか農夫とか呼ばれていたころと違って、そのイメージは著しく変わりました。みんなが農業労働者であり、経営者でもあり

ます。
農村の機械化・合理化が年ごとに進められています。
昨年、関西方面の農村のあり方、実際の農業生産の方法・技術について見学する機会があったのですが、私たちの村は、まだまだ遅れており、それに追いつき肩を並べていく努力が要請されていることを知りました。
私は生産品目の多角化を目ざして、昨年、小さいながらもビニール・ハウスをつくることに全力をあげ完成しました。これを第一歩として、私の夢は、現在の仕事の上に大きくふくらんでおります。
今、私は、はっきりと、農業の仕事を自分の人生として生き抜こうという覚悟を決め、その気持ちをもってきょうの成人式に臨むことができました。
先輩の皆さん、今後、よろしくお導き下さいますようにお願いいたします。

成人式（成人代表＝女性）
満二十歳を迎えての感想を、ということでございますが、私が現在一番考えますことは、社会と自分の関係についてです。
これも以前考えていたような抽象的な問題としてではなく、現実に現在自分が働いている職場と自分、家庭と自分、それから、未来の自分のあり方などについて具体的に考えるようになりました。これはやはり、満二十歳という年齢のなせるわざなのでしょう。
よくおとなの方々がおっしゃいますように、私たちは、全くの戦後っ子でございます。戦時中のことはもちろん、戦後の最もひどい窮乏生活のことも話に聞いたり、本やテレビで見たりして想像するだけです。私たちは、戦争の悲惨さを実際には知らないで平和な時代に育ち、きょうおとなになったわけです。
明治百年と申しますが、歴史を見ますと、この百年の間に、日本はずいぶんたくさんの戦争を経験してきました。そうしてどんなに多くの方々が戦争による苦しみや悲しみをなめつくしてこられたことでしょう。私たちより数年先輩の方々の中には、戦争でお父さんを失ったり戦災で家を焼かれた記憶をもつという人がたくさんいらっしゃいます。
しかしながら、ちょうど私たちが生まれ育ち、こうして成人式を迎えるまでの間、日本は全く戦争のない時代を過

ごしてまいりました。

私は、私たちの時代のしあわせをつくづく考えてみました。それとともに、一日も早くこの地上が、戦争のない平和な住みよい世界になるように心から願わずにいられません。

私は、まず一番身近なところから、自分の生活範囲のなかで、人と争うことをやめようと思います。身の回りの人たちの直接間接の恩恵なしに自分は一日たりとも生きてゆけないことに気づくようになりました。それならば、自分もまた人のために尽くしてあげるべきなのです。もちつもたれつで自分が存在しているということを強く意識いたします。

自分がこれからおとなとして世の中に生きていく上で、この考え方が私の生活の信条になるように思います。成人式を迎えるに当たって、私ははっきりとこのことを肝に銘じることにいたします。人を愛し、人を許すということは、よく考えてみますと、自分を許さず、自分にきびしいことです。自分にはとっても大変な難問題で、実行していけるかどうか心細い限りですが、努力していきたいと思っています。それが本当に自分を愛することにもなるのでしょうから。

皆さん、どうぞよろしくお導き下さい。

春分の日

「自然をたたえ、生物をいつくしむ」というのが、春分の日を祝日と定めた趣旨であります。

詳しく申し上げれば、昭和二十三年七月二十日から施行されている、国民の祝日に関する法律によって定められているのであります。それまでの、戦前の法律では「春季皇霊祭」と言っておりました。

天皇が、歴代の天皇の霊をお祭りする祭日だったのであります。つまり、国家の宗教であった神道の祭日だったのであります。それが国民の祝日として祝う日と変えることになったので、春分の日と名称も変わり、名目も変わったのであります。

しかし、春分そのものは、戦後に出来た日ではありません。元来、天文学上、この日につけた名前であります。

紀元前五百年ごろ、つまり、春秋戦国の時代には、かなり天文学も発達しておりました。

一年を二十四の気——天気の気であります——に分類す

ると共に、それぞれの気には、ちゃんと名前がつけられていました。
　初めから申し上げますと、立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小満、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、処暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒。以上二十四気は、その当時のままの名で、現在も残っております。
　なぜ、そんな昔に、これだけの分類が出来たのかと考えてみますと、答えは明白であります。
　北半球の温帯に住んでいた農耕民族だったから、いや応なしに季節感が発達したのであります。季節感は、人の心を豊かにします。心が豊かになりますと、自然に対する観察も細やかになるのであります。
　物質文明の発達途上にあっては、文明の発達のためには、人間の感情を否定しなければならないと考えられた時期もありましたが、今、そんな考えを持っている人はありません。高度の文明を目ざすためには、私たちの感情が、より豊かな心の表現であるより繊細な感情が、発達して行かなければならないことを、皆が知っております。
　つまり、物質文明の発達は、物質文化の向上だけでは不足なのであります。
　すべての人間が、ビルに住み、ビルで働く時代となっても、いや、そういう時代になればなるほど、人は季節感を身に染めたくて、休日を野外の自然の中で過ごすようになるでしょう。
　また人間を個人の側から観察しても、最近の進歩した医学は、人間の心身の健康を蝕むものとして、近代社会がもたらす不安、緊張、自己疎外などの心理的な要素が、重大な関係にあることを、明らかにしつつあります。
　自然に対しても、生物に対しても、優しい感情で接しよう、という春分の日こそ、より高度の文明への、道標とも言えるのではないでしょうか？
　きょうから、いよいよ本格的な春が始まります。
　人それぞれの思い出をもって、自然と自分との関連に思いを至してみるのも、春分の日を意義あらしめる、一つの試みとして、面白いと思います。
　文明のひずみを受けた、社会からの逃避として、自然に親しむ人もいます。
　満たされぬ征服欲の吐け口として、自然に挑む人もいます。

自然に親しむことから始めて、近代社会を正しく見直そうとする人もいます。

人さまざまであります。そのさまざまの人が集まって、社会を構成しています。

その複雑な社会の一員である私たちが、自然の悠久に接して、「一」を観ずる心の「多」を思うのは、面白いことであります。

一即多であって、多即一である社会も、観じきたれば、自然の一つであります。

今日、昼の長さと、夜の長さとが、全く同じである原因は、太陽が春分点という天上の一点を通過するからであります。

この偉大な自然の現象を、知ることの出来る人間が、社会を、国家を営みながら、戦争だ、平和だと叫ぶ現象は、原因をどこに求めたらよいのでありましょうか？

この答えは、人さまざまでありましょう。しかし、その上、春秋戦国の時代に発見された春分点も、現代社会に至ってもなお、その認識を新たにすることが出来ないという点に、私は解決の鍵が隠されていると思うのであります。

春分の日に、自然との関連を考えてみる意義の面白さは、意義をして意義あらしめて、価値が生ずるのであります。

春分という、偉大なる現象を知る人間の心は、大我であります。大我で自然を観ずるのであれば、大我で、何故人間は自分の社会を見ないのでしょうか？ 今までの科学が、小我で自然を見ることが、実証主義的観測だと誤解してきたからであります。これは、科学が、まだそこまでしか発達していなかったと言い替える方が本当かもしれません。

最近、日本の科学者で、大我的認識に立脚しようとする人が、出てきています。

真の科学の芽が、日本で生まれつつあります。私は、世界の平和も、科学の発達にかかっていると、想像するものであります。

春分の日に当たり、いささか、自然と社会と科学の方向を探って、祝辞に代える次第でございます。

天皇誕生日

天皇誕生日をお祝い申し上げる国民として、天皇がすばらしい方であらせられることを、誇りと思い、またこの天

皇を象徴として仰ぐ日本という国に生まれたことを、皆様と共に喜びたいと思うのであります。

思い出すのは、日本民族が歴史始まって以来初めて経験した、あの敗戦という難局に直面した時、天皇が示された行動と、国民が天皇に示した、あの感情であります。

当時の世界の戦勝国は、日本占領と同時に、天皇を裁判にかけ、戦犯の判決を下し、殺してしまおう、と決めておりました。

ただ、日本占領軍の司令官マッカーサー元帥だけは、反対でありました。

「私は反対した。もしそうなれば、百万の援軍が必要になるから」

こう彼は言っております。軍事上から、反対したのであります。

そのマッカーサーが、天皇と会見した時の模様を、彼の回想記に書いております。

「私を、大きな感動がゆさぶった。死をも伴う責任、私が十分に知っている諸事実によっても、明らかに天皇のものでないと分る責任を、進んで引き受けられようとする態度に、私は骨の髄まで感動した」

そうして、この占領軍司令官は、天皇という地位を抜きにした個人としても、日本最高の紳士と向かい合っていることに、気がつかざるを得なかったのでありました。

しかし、占領軍が占領軍たる権威を発揮するためには、国民が天皇を尊敬していては都合が悪い。そこで占領軍のホイットニー准将が指揮をとって、国民の前に天皇を小さく切り詰めて見せる工作が、着々として進められたのであります。その一部を拾ってみますと、

皇室の職員を切り詰めること。

天皇への食料の配給を最小限にすること。

国家の宗教である神道に対し、一切の国家補助を打ち切らせること。

学校で日本歴史を教えさせないこと。

キリスト教の宣教師を、出来る限り日本にこさせること。

日本語に訳した聖書を一千万部刷って配布すること。

天皇に、人間宣言をさせること。

天皇と国民を、出来るだけ接触させ、普通の人間に過ぎないことを、国民の前にさらけ出して見せること。

これは、占領軍が日本占領中に、最も重点的に施行した

政策でありました。これだけのことをすれば、天皇という存在は、国民の中に蒸発してなくなってしまうだろう、というのが、ホイットニー准将の思惑でありました。

しかし彼は、ほどなく自分のやったことが全部逆効果しかもたらさなかったことを知ったのであります。それのみならず、世界の日本占領政策の批評家から、ドン・キホーテに擬せられることになったのであります。

世界的な海洋生物学者でもあらせられる天皇へ寄せる国民の尊敬は、お召しになる車が古かったり、おかぶりになる帽子が古かったぐらいで変わりはしませんでした。国民との接触は、天皇と国民との感情を一層緊密にしてしまいました。

皇居が荒れれば、清掃の無料奉仕を願い出る国民の数は、帳簿に満載となり、順を待つためには、一年、二年先を予約しなければならなくなりました。ことごとくが、無名の民であります。

世界で一番キリスト教について知っている民族は、日本人ということになりました。日本歴史は読んでいなくて、も、聖書を読んだことのない日本人は少ないと言われます。それでいてキリスト教徒になり手の少ないのも、今やキリスト教国では、謎（なぞ）とされております。

神道は、つぶれませんでした。荒れれば奉仕隊が現われました。祭りは年々歳々盛んになる一方で、かえって戦前を上回る地方も少なくありません。

今や、若干の基地を残して、占領軍は去りました。

国民は天皇誕生日を祝いながら、世界一勤勉な国民として働く一面、スポーツにレジャーに豊かな生活を楽しむ民族として、躍進を続けております。

天皇のご健康を真心から祈って、きょうの佳き日をことほぎ申し上げます。

憲法記念日

本日の憲法記念日に際しまして、私はそれが国民の祝日の一つでありながらも、率直に祝辞を述べるについては、いささかの躊躇（ちゅうちょ）を覚えざるを得ないのであります。

ご承知のごとく、目下日本国内は、ただ今の憲法に対して、賛否両論真二つに分かれているのであります。

論争の焦点は、憲法の第二章、第九条、戦争の放棄、軍備及び交戦権の否認、であります。

わが国としては、この一条項の存在によって、朝鮮戦争

にも、近くはベトナム戦争にも巻き込まれることなく、かえってこの戦争によって、戦後経済界の建て直しに、多大の利益を得てきたものであります。

この点につきましては、憲法維持論者は無論、憲法改正論者にあっても、異議のないところであります。

このことあるにもかかわらず、なおかつ憲法改正の動きのあるのは、極東を巡る世界情勢の変化ではありますまいか？

国の四面を海に囲まれた軍備なき日本は、漁業権問題において、北方領土、沖縄基地問題において、外交上常に低姿勢の屈辱に甘んずるのほかはないのであります。

国民は、墓参、遺骨収集すらも果たし得ないでおります。

憲法発布当時は、さしたる海軍力も持たなかった韓国、北鮮、中共等の国々は、今や隠然たる海軍力を充実させ、ことあるたびに日本及び日本人をして、戦力なき国家の悲哀を自覚せざるを得ざらしめている現状であります。

軍備及び交戦権を持つということは、そのまま直ちに戦争の危機を生ずるものでないことは、国民のすべてが知っていることであります。

軍備あれば軍人あり、軍備強大となれば、軍人の地位また向上という悪循環を、どの点において断ち切ることが出来るか？　その問いに、なんらのメドもないままに軍備に踏み切ることは、国民大多数の不安であることも無理のないところであります。

戦前軍人が愛読した戦陣訓には、

「惟うに軍人精神の根本義は、畏くも軍人に賜わりたる勅諭に炳乎として明かなり」

とあり、その軍人勅諭には、

「……世論に惑わず、政治に拘らず、只々一途に己が本分の忠節を守り……」

と、明記してあったのであります。上は元帥から下は一兵卒に至るまで朝夕唱えて、行動に誤りはないか、精神にたるみはないかと反省した軍人勅諭を、軍の上級幹部は平然として踏みにじったのであります。権力に奢る者にして、武力を擁した場合の恐ろしさは、かくのごときものであります。

国民が膚に感じた軍の横暴は、飢餓生活中でありました。軍人なるがゆえに、酒や砂糖を入手し、軍人なるがゆえに高歌放吟する姿は、誠に見苦しい限りでありました。

一方、憲法改正反対の先頭に立つ革新陣営の方に目を転ずる時、国民はまた彼らの示す道に足を踏み出す気には、なりかねるのであります。

「スイスのごとく、軍備なく、外侮の歴史もない国こそ、日本の行くべき道である」

などと、戦争放棄の賛歌が打ち出されたのは、まだ耳新しい二十年代のことでありました。しかし、間もなくスイスが国民皆兵の国家であることがわかると、このスローガンを引っ込め、代わって中共万能時代が訪れました。

中共が国をあげての再革命に突入するや、振り飛ばされ、こんどはソ連に靡き、北方領土が問題となり出すと、確固たる定見の発表もこれを避ける状態であります。

彼らの言うことは、理想論であり、正しさは認めても、そのまま行けば、また他国による占領下の生活に戻る不安も、国民は覚えざるを得ないのであります。

以上申し上げたのは、理論上の両派の違いでありますが、国民が疑惑の目を向けざるを得ないのが、憲法をうんぬんという国家の将来を決する重大問題が、真に国家を憂うる人たちによって論じられているか、どうか？　ということであります。政党の党利党略の餌であったり、利益追求を目的とする武器商人の仮面では、ありはすまいか？

国民は知っております。米ソはもとより、世界を制圧するに足るだけの軍備を持ち、交戦権を持ちながら睨みを利かすにとどまって、世界の平和に貢献する国家に、日本が成長すれば、申し分なしであります。しかし、それだけの大前提を掲げる器量を持った政治家は、左右両陣営ともにいません。

ひそかに案を練りながら、機会あるごとに既成事実を積み上げて行く政策が、日本人的であるはずはないのです。国民の納得する政治ではありません。

その半面、有識者の国民に訴えるところは「良識」ある行動を国会に要求しろの一言に尽きております。これまた空論であることは、国民が知っております。

憲法問題を巡って、国民の政治不信、学問不信は、日々増大しつつあります。

この時に当たって、日本の指導層にあって、奮起一番の気概を示すことなければ、歴史はかつての戦争責任者と同様に、国に不忠なりの烙印を押さざるを得なくなるのではありませんか？

憲法記念日に当たり、最後に私は一言申し上げたいこと

がございます。

日本はもう一度、新憲法公布記念式典にいただいた、勅語の精神にかえらなければならないのであります。

勅語を拳々服膺する精神なくして、日本の日本らしい発展はありません。日本らしくない発展はすべて、日本における限り誤りであります。

指導層が、憲法の正しい運用を示せば、国民は納得するのであります。それをおろそかにしていると映る限り、国民は指導層の甘言も巧言令色と受け取ります。

甘言なれば、口に苦くとも甘んずるのが、日本人の本質であります。

承詔必謹の政治が行なわれる時、日本にとって憲法改正の必要があれば、それは国民の総意として、民主議会に反映するものであることを、日本国民は知っているのであります。

「勅語の再認識」――このことを申し上げて、私の話は、終わりといたします。

子どもの日（幹事）

皆さん、きょうは「子どもの日」ですね。五月晴れのよいお天気で、本当におめでとう。みんなニコニコしていますね。皆さんの喜びがピリピリ伝わってきますよ。

五月五日のきょうは、昔から「端午の節句」といって、男の子の成長をお祝いする日で、男の赤ちゃんが生まれた家では、どこでも鯉のぼりを空高く立て、家の中には武者人形を飾ってお祝いしたものです。

この風習は今でも続いておりますので、皆さんも空に泳ぐ鯉のぼりや、ヨロイ、カブトを身につけた武者人形を見たことがあることでしょう。また、『背くらべ』の歌に「ちまき食べ食べ兄さんと……」とあるように、ちまきなどもこしらえてお祝いしましたが、最近はちまきをつくったりする家庭はめっきり減ってしまいました。でもこの中には、ちまきを食べた人もきっといることでしょう。あ、やっぱりいましたね。

「端午の節句」は男の子のお祭り日でしたが、では皆さん、女の子のお祭り日はなんて言ったでしょう？　そう「桃の節句」、三月三日のひなまつりです。皆さんはきれいなヒナ人形も知っていますね。

そのように、昔は男の子、女の子と区別してお祝いしましたが、戦後になって、正確に言うと昭和二十三年から、

男女の区別を避け、きょう五月五日を「子どもの日」として男の子も女の子も一緒に仲良くお祝いするようになったのです。

別々のほうがよかった、なんていうヘソ曲がりな子はいないでしょうね。

「子どもの日」は、皆さんのすこやかな成長を喜び、健康を祝福するとともに、これからも、さらにすこやかに心正しく育つように、みんなでお祈りする日です。

皆さんは国の宝であるとともに、私たちおとなの希望です。皆さんはやがて大きくなって、この日本という国を背負って立たねばなりませんが、弱いからだや空っぽの頭ではとてもこの日本を背負って立つことはできません。しかし、皆さんがしっかりからだを鍛え、しっかり勉強して立派な人間になれば、日本はいやでも立派な国になります。

立派な国といっても、武力で弱い国をいじめるような強い国のことではありません。それは腕力で弱い者をいじめるような人間が立派な人間でないのと同じです。

立派な国というのは、男と女、おとなと子どもの区別なく、すべての国民、人間の一人ひとりを大切にする国のことです。国民みんなが豊かな生活をして本当にしあわせになれる国のことです。世界のどの国とも仲良くする平和で明るい国が立派な国なのです。

よい子の皆さん、どうか立派な人間になって、立派な国をつくって下さい。お約束しましたよ。

ではこれから仲良く合唱したり、演奏したり、劇をしたりして、子どもの日をみんなで祝いましょう。お父さんやお母さん、お兄さんやお姉さんに笑われないよう元気いっぱいやりましょうね。

皆さんが大変上手にやれたら、あとでお母さんたちが、ごほうびにおもしろいお話や珍しい手品をして下さるそうです。さあ、お母さんたちから楽しいごほうびをいただけるよう、しっかりやりましょうね。

お父さん、お母さん方もこのたくさんの子どものすこやかな成長を喜び、前途を祝う意味で、きょうはひとつ童心にかえり、幼き昔をしのんで、無邪気に楽しくこのひとときをお過ごし下さいますようお願いいたします。

皆さんすっかりお待たせしました。どうやら舞台のしたくもできたようですから、さっそく幕をあけることにいたしましょう。では始まり、始まり。はい、皆さん、拍手して下さい。

敬老の日（来賓）

本日、敬老の日にあたり、この上もなくおめでたい会にお招きいただき、皆さんの明るい元気なご様子を拝見いたしまして、何よりのこととお喜び申し上げるとともに、皆さんのご長寿を心からお祝い申し上げます。

きょうは皆さん、本当におめでとうございます。

お年寄りの集まりと申しましても、皆さんこぞって血色がよく、〝お年寄りでないお年寄り〟ばかりで、こんな喜ばしいことはありません。

本日は、皆さまのお知り合いで、ご家庭のつごうや、おからだのぐあいが悪くて、この席に来られなかった方もあろうかと思いますので、皆さんから、この会の模様などお話になっていただき、来年はぜひ連れだっておいでいただきたいと思います。

皆さんもよくご存じのように、わが国は、昔から、孝道が尊ばれ、敬老精神の発達した国でありまして、古来、長寿を祝う行事として、敬老の会合や、還暦、古稀、喜寿、米寿などの賀寿の風習があり、竹取物語や養老の滝などの説話も伝えられております。

ところが、戦後、国民の道徳は退廃し、老人を敬う習慣またとみに薄れ、家庭においても、ごく一部ではありましても、ジジ抜きババ抜きなどと親を軽視する傾向がみられますことは、誠に遺憾にたえないところであります。

私も、民主主義、自由主義をはき違えた、かかる風潮を嘆かわしく思っている次第ですが、ここにお集まりの皆さんは、おしあわせそうな方ばかりで何よりと存じます。

このごろは、医学のいちじるしい進歩、国民生活の全般的向上などにより、平均寿命もぐっと延びまして、七十、八十になっても、なお矍鑠（かくしゃく）として元気に働くお年寄りの姿もよくお見かけしますが、皆さんも、どうぞ、若い心をお持ちになって、〝人生はこれから〟の意気に燃えていただきたいと思います。

敬老の日が制定され、こうした敬老会も全国で開かれるようになって、老人の福祉と老人自身の自覚を促すことになりましたのは、誠に意義深く、喜ばしいことと存じます。しかし、諸外国に比べますと、わが国の老人福祉はまだまだ不十分でありまして、政府の強力、かつ、すみやかな施策が強く望まれる次第でございます。

戦後の家庭で強くなったのは、女房と子どもで、逆に弱

くなったのは、亭主族とお年寄り、などと申しますが、確かに戦後のお年寄りは家族制度の改革で、家庭内の地位を失い、生活の安定さえ失いかけておりますし、おまけに社会保障もいたって不十分ですので、お年寄りの座はいまなお揺らいでおります。

このような実情にかんがみまして、国民すべてが謙虚にかかる誤った風潮を反省するとともに、老人を敬愛する思想と老人福祉への関心を深め、老人に対する、十分な社会保障制度の実現を促して、憲法の保障する「健康で文化的な明るい生活」を営めるような社会の建設に努めなければならないと存じます。

この敬老の日に、敬老、慰安の行事を行なって、老人を慰め、励ますとともに、老人自身もまた、自分の地位を自覚、反省する日とし、愛される老人、尊敬される老人となることが大切でありまして、そこにこそ、敬老の日の意義があると言えましょう。

これからは、お子さんやお孫さんのよき相談相手となり、力強い一家の柱となって、ますますお元気で長寿をまっとうされるようお願いいたします。

きょうは、全国各地でいろいろな集い（つど）が開かれておりますが、この会場でも、いろいろ催しものなど用意されているようでございますから、皆さんもごゆっくりお楽しみ下さい。

それでは、本日の意義ある会にのぞみ、皆さんの余生のご多幸と一層のご健康をお祈りして、私のお祝いの言葉といたします。

敬老の日（主催者）

本日ここに「敬老の日」を迎え、皆さんの長寿を祝福し、敬老会を開催するに当たりまして一言、ご祝辞を申し上げます。

年に一回とは申せ、こうして皆さんの元気なお顔を親しく拝見できますことを、心からうれしく思います。これは、私の気のせいかもしれませんが、皆さんのお顔が、年ごとに明るくなるように思われて、喜ばしい限りでございます。

終戦とともに、世の中は大きく転換し、民主主義の世の中になりましたが、この民主主義をはき違えて、老人をうやまい、いたわる精神が薄れ、老人軽視の傾向さえ見られましたが、近年、経済の安定に伴いまして、国民の間に、

敬老精神がよみがえりつつあることは、誠に喜びにたえません。
しかし、老人福祉に関する施策は、お粗末きわまりなく、欧米の社会保障に比較しますと、月とスッポンでございます。
皆さんも、このような状態には、さぞご不満のことと存じますが、わずかながら改善されつつあることに希望をお持ち下さいまして、ご自愛のうえ、さらに長寿を重ねられますようお祈りいたします。
人間と生まれてきて、長生きを望まぬ人は、まずありません。口では「早く死にたい」などと言う人も、心の中では長寿を願っているのではないでしょうか。それが人情というものでしょう。
ほかの人より少しでも長生きすれば、それだけ余計に、人生の幸福をさずかったことで、決して恥ずべきことではなく、それだけ余計に、世の中のために働いてまいったのですから、むしろ長生きを誇りとして、余生を楽しんでいいのではないかと思います。
「長生きすれば恥多し」などと卑屈になってはいけません。人より余計に血と汗を流して働いてこられた皆さんは、誇りを持って、一層の長生きを心がけられるよう祈ってやみません。
二度とこられる世界ではございませんから、じっくり腰をおろして長寿をまっとうして下さい。
私たちは、あなたがた先輩から受け継いだ有形無形の遺産を、よりよいものとして、次代の人々に継承することを皆さんにお誓い申し上げるとともに、皆さんが、ますますご壮健で、私たち若い者をいつまでもお導き下さるようお願い申し上げます。
本日は、長年のご苦労に対する感謝と敬愛の情をこめて、いささかなりとも皆さん方をお慰めしたいと存じまして、このささやかな催しを開いた次第でございます。
これからのひとときを十分おくつろぎのうえ、ゆっくりお楽しみ下さるようお願いいたします。

秋分の日（来賓）

こうして皆さんの前に立ちまして、お話申し上げる機会を与えられました私は、国民の祝日であるきょうをお祝いしましょう、と言って降りてしまうだけではつまらないと思うのであります。それで、皆さんと一緒に考えながら、ポ

ッポツ日ごろ考えていたことどもを、お話し申し上げよう。そう思うのであります。

秋分の日とは、天文学的な説明を加えてみますれば、太陽が秋分点にきた日であります。

え？　だれでも知っている!?

秋分点とは、黄道と赤道との交点の中、太陽が北より南に向かって赤道を通過する点を言う……と、本に書いてある。

天文学上の説明は、このくらいにしまして、国民の祝日としての趣旨を、法律的に研究いたしますと、昭和二十三年七月二十日施行の「国民の祝日に関する法律」第二条。秋分の日のところに、「祖先をうやまい、なくなった人をしのぶ」と、出ているのであります。

昔の人は、危い目にあった時、たとえば台風がきて屋根が傷んだので修理に屋根に登った。そうしたら、足をすべらしてドスン！　と落ちてしまった。幸いに少し腰を痛くしただけで、たいしたケガもしないで済んだ。こんな時には、両手を合わせまして、

「ご先祖様！　私をお守り下さいまして、ありがとうございます」

と拝んだものであります。丁寧な人は、仏壇の前まで行って、お灯明を上げました。

そして、「ああよかった」と心から思ったのであります。

皆さんは、笑っていらっしゃる。

その通りです。現代人には、その心がない。

霊魂なんてものの存在を否定するのが、科学の発達した現代に生きるものの姿勢であると思っているから、危難を救ってくれる力が、ご先祖様にあるなどとは、思えないので、あります。

現代人は、ピンチに立って、それを切り抜けた時には、どう考えるかと言うと、

「ピンチを切り抜けたのは、自分の力と、プラス偶然だと、科学的に考えるのが、迷信を信じない現代人らしい考え方である」

と、自分に言い聞かせて、満足するのであります。

そして、努力と偶然と、いずれの力が大きかったかを、計量器にかけて計って見る時、個人の力は限界があり、偶然は、社会機構が複雑になればなるほど、無限に近づく。無限に近づくということは、数学上、個人の力はゼロに近

づく。

つまり、現代人は偶然の中で生きている、ということになるのであります。

もちろん、そういう危険を防止するために、人間は、あらゆる知恵を絞っています。法律がそれであり、社会秩序が、それであります。

では、それで安全に守られているかというと、安全性は、平均値であります。平均値としての、安全性でしかない。話が平均値となると、こんな話があります。

ある航空会社の宣伝文句に、

「飛行機は、車よりはるかに安全である。その走行距離に対する事故件数を見れば、小学生の算数でも、高い安全性を確認出来る」

というのが、ありました。

自動車の安全性を強調する人もいます。

「十年前の自動車台数に対する交通事故死の人数を考えてみれば、交通事故の犠牲者は、激減しつつある」

というのであります。

しかし、現実の交通事故の犠牲者は、年々増加しつつあり、平均値の安全率さえ低下しつつあります。

昔の侍は、刀を、戦争の時以外にも差していました。一言の言い間違いがあったりすると、相手を斬ったり、自分が切腹したりしたものです。「人命尊重」どころか、命を軽く見ること、鳥の羽のごとく思えということになっていたのであります。そういう武士を含めて、武士と共に生活していたのが、昔の人たちでありました。

それでいながら、仏様や神様を信じて、昔の人たちには、安心の生活があった。ところが、現代の日本人は、戦争もない、武器の所有も禁じられ、警察も完備している社会で暮らしていながら、偶然の中の、無限の不安の中で暮らしているのであります。

大学生、という身分は、同じ国民の中でも家が貧乏で進学出来なかった人たちからみれば、天国にいるような生活を送ってよいはずの人間たちであります。それが勉強そっちのけで、暴れ回ったりする。根本は、この社会のもたらす、不安なのであります。

不安は、人間を、じっくり落ち着いて考えさせることが出来ないようにしてしまう。すぐにカッとなり、ワッと行動させる。

では、科学が進歩した文明社会は、そんな社会に生きる

には、この不安感に包まれなければ、生きられないものなのか？
この問題は、社会をここまで進歩させた科学を考えなければならない。
科学で解明されないものは、すべて迷信として信じまい、とする科学の認識、科学的な認識は、本当に科学的なのだろうか？　そう突っ込んでみたくなるのであります。
ニュートンが万有引力を発見する前は、リンゴは、下から上へ飛び上がって……そんなことはありませんね。ニュートンが生まれる前から、リンゴは上から下へ落ちていた。
人類は、そのことをいつから知っていたのか？　決してニュートンに教えられたのではない。昔から、知っていた。だから高い所のリンゴを取る時は、棒でたたき、落ちて来るのを受け止めればいい、ということも、知っていた。
つまり、科学というフィルターを通さなくても、人類は自然の法則を感じて、自分のものとして利用する「能力」を持っていたのです。
この能力を、昔の人は「祈る」ことによって、フルに発揮出来るという方法を知っていたのであります。「祈る」というのは、現代的に言えば、精神力の集中統一ぐらいの表現をしていますが、もっとすばらしいことらしいと、漸次わかりかけています。
現代人は、この「祈り」を捨ててしまったついでに、この「能力」も捨ててしまったのであります。それが、科学的な、思考方向だと思ったのであります。
ところが、本当の、科学者は捨てていません。真の科学者ほど、科学の限界を知っている者はいないのです。そういう科学者ほど、未知の世界の大きさを知り、開かれた感受性を、自分自身のものにしようと、努力しているのです。だから、発明があり、発見があるのであります。
一切の未知なるものに対して、自分の限界を知る心が、つまり謙虚ということであります。
ですから、未知なるものに対して、謙虚な「祈り」を行ずることこそ、真の科学者の生き方なのであります。
行ずる、といいましたね。逃げずに、立ち向かって行く行為の積み重ねですね。
この、謙虚な祈りを行ずる科学者の生き方こそ、真の現代人の生き方、科学時代の現代人の生き方ではないか？

と、私は考えるのであります。

国民が国家の法律を尊重するのは当然でありますが、今日が、先祖を敬う日と法律で決められているから敬う、というのでは、意味がないと思います。

人が先祖を敬うから、一つ私も敬おう、というのも、文化国家の民として、自主性のない話であります。

人それぞれに、違う考え方はありましょう。しかし、敬うということは、自分自身に謙虚な心がなくては、出来ることではありません。

その謙虚という言葉の意味するものも、時代によって、移り変わるものであります。

本日は、「科学を踏まえての謙虚」というものを、皆さんとご一緒に考えてみました。

私の考えの至らぬ点は、皆さんが更に、ゆっくりと考えて下さるように、お願いいたします。

体育の日（体操講習会で）

その日、私は朝飯をとったあと、食休みの一服をしておりました。何気なくテレビをひねってみますと、画面に討論会が映って参りました。両側に分かれた三、四人ずつの男女が議題にしているのは、小学生の成績順位を発表することは、是か非かということでありました。

賛成側の一人の男の人が、時によっては、たとえば、中間テストのような、仮に成績が悪くても、その成績に刺激されて勉強すれば、もっと上になることが出来るような修正の利く場合ならば、必ずしも悪いことではないと申しますと、反対側の女の人が手を上げました。

司会者にさされたその女の人は、小学校の現職の教員ふうに見受けられました。

下位の成績を取った子どもが、成績を発表されたことにより、どれほど傷つけられるものであるかと、縷々として、訴えながら、成績の発表がいかに有害無益のものであるかを説明しました。幾分感情的ではありましたが、理論も整然としていて、この論争も、これで終止符が打たれたかに見えたのであります。

すると、前の男の人は、ニヤリと微笑してみせて、こう言ったのであります。

「教育には、智徳体の三つの教育があるはずであります。運動会などでは、走ってきた子どもに、先頭から一番、二番、三番と順位をはっきり書いた旗を渡しているではあり

ませんか？　衆人環視の中で、席順を発表しているのですよ」

こう言い終わった時でした。それまで司会者の横で黙って双方の話を聞いていたゲストの人がいましたが、その人が、憤然として身を乗り出して

「あなたは、体育を、本当に、勉強と同じに考えているのですかッ？」

と、決めつけるように、言いました。

有名人でもあるゲストの人から、突然横槍がはいったので、成績順位発表賛成側の人は、すっかりドギマギしてしまいました。

反論する気も消え、しどろもどろの弁解ぶりに、座はすっかりしらけ切りましたが、その場は司会者の機転で、討論はどうやら別の観点から続くことになったのでありますs。

しかった有名人は、有識者かもしれないけれど、教育の専門家ではありませんでしたし、しかられた人も、教育に関係はあっても、専門家ではない様子でした。両方が専門家ではなかったものの、少なくともゲストの人は、放送局が、教育問題のゲストとして呼んだだけに、世間では良識ある人として認められている人だと思いますし、私としては、少し引っかかるものが、残ったのであります。

まず、それだけの人でも、体育とスポーツとの境界線が明白に引かれていないのか？　と思いました。

体育とは、身体を運動させて立派なからだに育て上げる、つまり、体位向上のための教育なのですが、そのゲスト氏は、いくらか「遊び」の観念のはいりこんだスポーツと混同したもので、神聖な知的教育の討論の場に、レクリエーションに類する「遊び」を持ち込んだ不真面目さに、腹を立てたのだと思います。

もっとも、しかられた人の方も、運動会即体育ぐらいの、おおまかな神経の持ち合わせしかなかったのですから、満更、濡れ衣を着たとばかりは、言えなかったようでした。

学業成績に順位をつけるのが問題ならば、運動会にあって順位をつけるのも、また一考の余地のあるところではないでしょうか？

けれども、その討論場のすべての人々は、だれ一人、そのことを考えてみようとはしませんでした。

体力の差を衆人環視の中で見せつけることに、子どもは

傷つけられないと思っていたのではありません。

体育が、それだけ等閑視されている風景を私が、たまたま見てしまったということであります。

以前よく言われた言葉に、

——健全なる精神は、健全なる身体に宿る

というのがありました。

この原語はメンズ・サーナ・イン・コルポーレ・サーノ（Mens sana in corpore sano.）というラテン語でありましたが、本当の訳は、

「健全なる精神が、健全なる身体に宿るのだったらなァ！」

ということなのです。

この正しい訳が世間にわかり出したころ、からだが丈夫であることに越したことはないけれど、なんと言っても知識が一番、となってしまいました。いや逆に、そのことを言わんがために正しい訳語が発表されたのかもしれません。

そうして、この考え方は、大体世間に定着してしまいました。受験、進学などの現状もこの考えを便宜的に肯定してしまいました。

しかし、最近の大脳生理学は、発見をしています。

健全な精神を持つためには、健全な身体の発育が、必須条件であることを——。

人あるいは言うでありましょう。偉大なる芸術家、偉大なる学者でからだの弱かった者は、たくさんいるではないか？　と。これも事実であります。すぐれた精神力で、肉体の弱さをカバー克服し、偉大な業績を残した人も少なくありません。その逆に、幼児天才、神童と呼ばれながらも、長じてはレベルにも達し得なかった人は、その何倍、いな何万倍いるかもしれないのであります。天才などと騒がれない幼児であって、長じて精神的欠陥が社会への適応性を持ち得なかった例となれば、更にその幾十万倍に昇るでありましょう。

また、体育尊重の風潮も、一方には存在します。ところが、これらの人々の多くに見られる欠陥は、体育の本質を知らず、スポーツ選手育成のための、スポーツ人口増加の底辺層の拡大充実を体育そのものの振興と感違いしているところにあります。

オリンピックにみじめな負け方をした種目に関係ある人たちほど、この傾向が強いようであります。

人間の頭脳は、強迫観念に捕われると制止力が働き、流

動性がなくなるものであります。

負けた！　この次のオリンピックにも負けたら、どうなる？　そう思いこむと、体育の精神も、スポーツ魂も、オリンピック精神もすべて制止の袋に閉じこめられてしまって、ただ焦慮の末、発見した、底辺人口という、数多の条件の中のたった一つの条件にしがみついてしまうのであります。

その結果はピークに存在する選手を、宝物扱いにして、本来アマチュアであるべき選手を、プロ並みの待遇に近づけることを考えたり、高額の賞品を出して、世評の顰蹙（ひんしゅく）を買ったりしているのであります。金メダルの数が、その国家の繁栄のバロメーターであるというのも、一理ありとうなずかざるを得ないのが、目下、国内の現状であります。

これらの行為は、科学精神への反逆であります。このようなことでは、仮に優勝したところで当事者の満足があるだけで、国民の体育には、マイナスであります。

本当に体育の必要な肉体の弱い青少年が捨てられて行きつつあるのですから、将来を考えれば、恐るべき指導者の誤謬（ごびゅう）として指摘せざるを得ません。

ゆがんだ精神像は、体育の等閑視がよって力あり、という、科学によって裏付けられた事実を、日本人全体が考えなければならない時期がすでにきたのであります。

オリンピック結構、スポーツ選手育成結構ではありますが、力強い底辺の拡充には、体育の真の意義に徹して、青少年教育に当たらぬ限り、スポーツ界の発展はもとより、国家の未来も暗黒なのであります。

体育の日の祝日に際しまして、祝辞に代えて一言申し上げる次第でございます。

文化の日（主催者）

国をあげて平和をたたえ、自由をたたえ、文化祭を催す、などという国は、世界ただ一つ、日本だけであります。

今日の佳き日は晴れています。日本文化の花が咲く日であります。全国民の祈りが、きょうの天気を、晴天にしたのであります。

わが市でも、他所（よそ）に負けずに盛大な企画が立っております。公民館では、書道展、絵画展が開かれております。その他写真展、歌会、句会、茶会、生花会など、全市の各所で、それぞれ同好の士を集めて開かれております。

そして、この体育場では、大音楽会の幕が切って落とされようとしております。

参加団体五十二組。学校、組合、商店会、青年団、婦人会、警察、自衛隊、消防団。すべてのサークル、クラブ、団体の代表であります。

申し上げるまでもなく、この音楽会は、きょうから三日間にわたって行なわれる文化祭の一部として挙行するものであります。後続としては、舞踊大会、観能大会、武道大会。豪華絢爛たる大会の数々が控えております。

戦後わが国が文化国家として出発して以来、わが国の文化活動は、日を追い年を追って活発になって参りました。由来、文化と申しますと、ややもすれば文化生活、などと称し、近代化された機械的設備を重視するの風潮なきにしもあらずであります。

伝統なくして、真の文化はありません。また、一部の階級のみが優雅な生活を満喫し、一部の国民がその陰に塗炭の苦を呻吟するような状態であっても、真の文化とは言えないのであります。

近代マスメディアの発達は、地方都市の文化水準を著しく向上させました。中央の文化は急速に、時によっては直接に、地方文化の吸収するところとなっております。

一面、大都市の宿命とも言うべき、過剰人口の中から揉み出された塵介のごとき腐敗文化にも影響されること少なしとしないのであります。因襲打破に名を借りて、伝統を軽んじ、エリートと称して民衆を軽蔑するがごとき、腐肉に類する悪臭も、地方都市にただよう恐れなしとは言い切れないのであります。

その流行に戦々恐々たる都市あり、その横行に公害と諦め、手をこまねいて時の去るのを待つ都市もございます。

奇しくも、わが市にありましては、爾来その類の流行の侵入を被ったことがありません。

健全にして、水準の高い文化が、受けつけなかったのであります。

――悪貨は良貨を駆逐する

まさに、その反対だったのであります。

きょうの大会は、単なるコンクールではありません。お祭りであります。国民が、国民のために自ら楽しむ集会であります。

思えば十一月三日という日が、天長節、明治節、文化の日と三度名称が変わるまでに、私たちは、その時代、その

環境なりの苦難を乗り越えてきました。全市民がこぞってきょうの大会に参加されたことは、真に意義深いことであります。

お祭りにふさわしく、景気よく、大会の幕を開けようではありませんか!!

勤労感謝の日（来賓）

国民の祝日であります。勤労感謝の日にお招きをいただいて、光栄であります。

一言、お祝いの言葉を、とのことでございますので、思いつくままに、述べさせていただきます。

本日は、元来、新嘗祭（にいなめさい）でございました。その年に穫れた新しいお米を、神様にお供えする儀式が、宮中で執り行なわれる日でございます。それが、戦後は勤労感謝の日となったのでありますが、言葉こそ変わりましたものの、意味は同じなのであります。

神に供えるお米とは、日本が農業国家時代の表現でありまして、現代ふうに言えば、国民が孜々（しし）として働いた成果の象徴であります。

神を祭るということは、敬い謹んで、社会全体に知らせる、ということであります。

そうすることで、命令抜きの自発的な感謝の念を醸（かも）し出させようという、古代の知恵なのであります。

それから、案外誤解されている向きが多いのは、勤労感謝という意味のはき違えであります。

まるで、物を生産する労働者に対して、生産に従事していない者が感謝をするというふうに解釈している人が、立派な学識者の中にさえいるのであります。

百姓が鍬を振るい、大工が金槌（かなづち）を打つのが勤労であると共に、大学教授が教壇に立ち、外交官が外国人と折衝するのも、みな勤労であります。

統轄（とうかつ）して言えば、国民が仕事を一心にすることは、みんな勤労であります。

その勤労をすることを立派なことだと思い、その成果についてお祝いをし、お互いに違う分野の仕事の価値を認め合って、感謝し合うのが、きょうの祝日の趣旨であります。

勤労を尊ぶこと、生産を祝うこと、お互いに感謝することと。このようなことは、皆さんには、当然のことと思われるでございましょう。

しかし、別の考えを持つ人もいるのです。

俺は感謝なんてしようと思わない。俺は、俺の力で、たくましく生きているのだ。殊勝らしい顔をして感謝なんて言っている他の者だってそうだ。自分が食うために、金を儲けるために働いているのではないか。感謝しなければならないとしたら、本当に己を捨てて、国のため、社会の人のために尽くした人に対してだけだ。

こんなに考えている人も、結構いるものであります。

こういう人の理屈は、理屈としてはもっともであります。こういう人が、別に社会に害を与えるわけでもなし、国民としても、立派な国民の一人であります。

では、間違いは、どこにあるのか？　と申しましても、別段間違っているわけではありません。ただ、理屈を言っているに過ぎないのであります。

そんな人でも、ご馳走を食べれば、おいしいと思うでしょう。妙なる音楽を聞けば、楽しい、美しいと思うでしょう。すでに感謝しているのです。

そういう人は、気がついていないのです。感謝の気持ちを持っている心の豊かな人に囲まれているからこそ、安隠に暮らしていられるからこそ、甘えて屁理屈を言っているのです。

その人が、気がついて感謝の気持ちを持てるようになったら、その人はそれだけ心が大きくなり、人間的に成長したのであります。そうなれば、その人の人生は一層楽しく、仕事は一層面白くなるでしょう。

昔の人は、巧みに言いました。

――実るほど頭を垂れる稲穂かな

農業国家を脱皮した現代に生きる私どもとしては、表現の古臭さにこそいささかの抵抗感がありはするものの、寓意の巧妙さには、頭が下がる言葉であります。

そうなのです。国民の一人ひとりが成長する。それが積もって国家が成長するのです。

私たちは、何事に対しても批評する精神を持たなければならないことは、実際であります。

しかし、批評だけに終わっては、高級低級の差こそあれ、畢竟、ヤジ馬であります。批評は、自己を成長させ、人を成長させるものであってほしいものであります。

きょうは祝日であります。豊かな心で、お祝いいたしましょう。

きょうは勤労感謝の日であります。フランクに感謝しましょう。

教育

学校教育関係

生徒や学生に対して

現在日本の教育制度は六・三・三制といわれるもので、小学校の六年間と中学校の三年間が義務教育に当たる。教育基本法では、いかなる目的で教育活動が行なわれるかの根本精神を掲げている。

その第一条（教育の目的）は「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行なわなければならない」とされている。

憲法の理想精神にのっとっての教育目的であり、次代の担い手を育てる基本的な方針がここに示されている。この点を念頭においておく必要があろう。

話す側と聞く側と

学校教育関係の式辞挨拶というと、入学式や卒業式がその代表的なものである。教師の側からのもの、生徒の側からのもの、そして来賓の挨拶や祝辞というのがこの場合のプログラムになる。

教師の側からの話は、入学式にせよ卒業式にせよ、あくまでも教育者という立場をふまえたものでなければならない。とくに、中学生や高校生を対象にする場合、かなりデリケートな年代であるので、相手に与える影響を事前によく考えておく必要がある。つねに、教育は単なる知識の伝達ではなく、人間形成という重大な課題をもっていることを忘れてはならない。

教師は生徒や学生の教育上、学問上のリーダーである。知識と人格によって次の世代を育てて行くのであるから、自信と愛情のこもった態度で話すことが相手の心に残るであろう。

来賓の場合、PTAの役員とかその地方の教育関係者が話すのがほとんどである。生徒に対しては直接的な触れ合いがないが、学校教育に対する自分の立場を考え、教師や生徒たちに期待や忠告を与えることもできる。

いずれにせよ、大多数の聴衆が年少者であることに注意して、誠意のこもった話をしなければならない。

幼稚園

幼稚園入園式（園長）

今年は、六十三人のお子様を、お預かりすることになりました。去年は四十八人、一昨年は四十二人と、振り返ってみますと、園児の数は年ごとにふえる一方でございます。

こうしてお話申し上げるお母様方の数も、それだけふえる一方でございます。

私としましては、それだけ話し甲斐もあるというわけであります。

ご存知のように、幼稚園は学問や技術を教育するところではありません。小学校へはいる前の子どもたちに、小学生になるための準備をさせるところであります。

一口に言えば、集団の生活に慣れさせる所であります。では、園児たちを集めて毎日遊んでいればよいかというと、なかなか、そうはゆかないのであります。

園児は、私たちおとなの目から見ると、ずっと小さい可愛らしい幼児たちですが、人間の子どもです。大勢集まると集団となり、そこに社会を作ります。単なる子どもの集まりでなくなります。

私たちが社会に生きているように、社会に対して貢献すると共に、社会からそれぞれのものを吸収して、生活するのです。

だから、遊ばせておけばいいと思っていると、それはとんでもない間違いだと、すぐわかります。子どもたちは遊ぶことが好きです。でも、この遊びは、おとなの遊びとは違うのです。遊びは、彼らの生活の場なのです。ですから遊びを楽しみながらも、それからいろいろなものを吸収して行きます。まるで、砂ばくが雨をしみ込ませるように、どしどし吸収するのです。吸収しながら、反省したり、悩んだりする一方、勇気を持つことを覚えたり、我慢することと、努力することを身につけます。

団体行動をとるために、服従することの必要性も、人を使う方法、人と人を調停することさえも、とにかく社会で生活するために必要な生活の知恵は、すらすらと身につけて行きます。

私どもは、絵を描いたり、歌を歌ったり、折り紙を折っ

たりすることを教えはしますが、子どもたちが、実に些細なことから、経験を身につけて行く速さには、追い着きかねる場合が少なくありません。

こうして園児たちを観察して参りますと、幼稚園は、小学校へ上がる準備をする場所どころではありません。

彼らは、幼稚園を最高度に利用して、既に社会に出て社会人となるための準備を、自分自身の力と、自分たちで作った社会の力とをあわせながら、勝手に始めているのです。

こう考えて参りますと、私どもが教えているつもりの歌、折り紙、遊戯などは、実はそういう手段を通じて、彼らの相談相手になってやっているのだ、ということがよくわかります。

指導などと、口幅ったいことの言えた義理ではありません。教えられているのは、こちらであります。

お疑いの方は、保母さんをご覧になると、よくおわかりいただけることと思います。一年でも長く経験を積まれた保母さんほど、知識も豊かになってきているばかりか、人柄がそれだけ成長しています。それだけ子どもたちが、多くのことを教えてくれたのであります。

こんな話をすると、この幼稚園は、子どもを入れるには入れたものの、ずいぶん心細い幼稚園だなア、とお考えになる方もいらっしゃることでしょう。

けれども、教育というものは、本来そういうものなのであります。

どれほど立派な先生であっても、神様ではありません。長所もあれば、欠点もある。自分の知ってる限りのことを教えたくても、しゃべったことを、全部覚えてくれる生徒もあり得ないし、また知っていることを、全部しゃべれるものではありません。

生徒は、先生から、先生のしゃべる言葉以外に、先生に接しただけで、必要なものを吸収する能力を持っているのです。

それは、数学者が学生に数学を教えたところで同じです。偉大な大学者についた学生が先生から教えてもらう貴重なものは、学問ではなくて、学問する態度であります。良い先生とは、生徒のほしいものを感じとれる先生です。もっと良い先生は、生徒の良いところを引き出して、伸ばしてやる。

幼稚園でも、全く同じです。

園児を指導したり、園児に教えてやろうなどと思った

ら、失敗します。園児の心は、よそへ行ってしまいます。心を開いて、園児と一緒に遊ぶのです。つまり、彼らと一緒に生活するのです。
家庭では、お父さんもお母さんも仕事があります。一日子どもの遊び相手はしていられない。子どもは不満です。だから、お父さんやお母さんに相手をしてもらいたいと、知恵を働かせます。
「この子は、わがままで、いうことを聞かなくて困ります」と言って、お母さんが訴えて来る子どもを見ると、私たちは一目で
「は、はァ――」
と、わかります。
利口そうな良い子です。そして、社会に、いや世の中に、つまり自然を含めた一切のものに、一杯の疑問を持っています。あれも知りたい、これも知りたいと思って、相談相手を求めています。だけど、子どもだから、それを表現するだけの知識は、まだ身につけていません。
私たちは、そういう子どもと、一緒になって歌ったり遊んだりします。その間を縫って、その子は成長します。心が豊かになると、心が開けてきます。不満が消え、素直になり、表現の知識も身につけます。
私たちだけでなく、お父さん、お母さんも、この子どもの心の中を知って下さったら、変わるのは速いですよ。一月もたたない中に、コロリと変わります。変わる、といっても、その子どもが変わるのではありません。心が開いて来るのです。
性格だと思っていたのが、性格ではなかったとわかる場合も、少なくありません。ひねくれた性格、強情な性格なんてものは、ないのです。
悪い環境にまだ汚されていない子どもの性格は、私たちがしょっちゅうお手本にしなければならないなァ、と思うほど、美しいものです。
悪い子ども、というのは、おとなの目にそう見えるだけです。子どもなりに、悪戦苦闘している格好なのです。
ただお母様方に注意していただきたいのは、健康です。からだが悪い子どもは、可哀相です。伸びたい気持ちが一杯でも、伸びかねます。
からだにだけは十分に気をつけてやって下さい。
とにかく、私たちは一応専門家です。それに、この仕事はお金儲けや、月給目当てに出来る仕事ではありません。

朝に夕に
「あの子は、どうしたら伸びるかしら!?」
と、そんなことばかり考えて暮らしています。
子どもについて気がついたことは、どんどんおっしゃって下さい。そして私共と一緒に、どうしたらよいか、研究して下さい。
私は最後にお願いします。
子どもが出来たからお母さんになった、というのではなく、お母さんのプロ、お母さんのベテランになっていただきたいと思います。
大勢の子どもを育てるだけが、ベテランになる道ではありません。どれだけ熱心に育てるか、ということであります。
そうなったら、子どもにとって、これ以上の幸福はないのです。
よろしく、お願いします。

幼稚園入園式（園長）
皆さん、こんにちは。そして、おめでとう。きょうから皆さんは、この草葉幼稚園のよい子になるのです。園長先生はじめ先生たちは、皆さんを心から歓迎します。
いままではおうちで、お母さんやお兄さん、お姉さんと遊んでいましたが、きょうからこんなに大勢のお友だちと、この幼稚園で、元気に楽しく遊ぶことになりました。
一度に、たくさんのお友だちができて、ほんとによかったですね。
ここでは、やさしい先生が、皆さんのお母さん、お姉さんの代わりをして下さいます。皆さんはおうちで、お母さんのいいつけをよく聞いていましたか？　はい、元気な声でよくお返事ができましたね。みんないい子です。これからも先生のいわれることをよく聞いて、ますます、いい子になって下さい。
おうちで何か困ったこと、してもらいたいことがあると、すぐ「お母さん」と言っていましたが、この幼稚園では「先生」と言って下さい。やさしい先生が皆さんの言うことをよく聞いて、なんでもして下さいます。ここでは先生が、みんなのお母さんですから、ちっとも遠慮なんかいりません。わかりましたね。
お外には、大きなブランコやすべり台があるでしょう。それから、相撲をとったり、砂遊びをする広い砂場もあり

ますね。まるで公園みたいでしょう。

お部屋には、ピアノや木琴やボールや積み木などたくさんあって、皆さんと早く仲良く遊びたいと、首を長くして待っていますよ。楽しく自由に遊べるものがこんなにたくさんあって、皆さんうれしいでしょう？

皆さんはいい子だから、お外でも、お部屋でも、みんな元気に遊べますね。

元気に遊べると思う人、ちょっと手を上げてみて下さい。はい、どうも有難う。みんな手を上げてくれましたね。園長先生が思ったとおり、やはりみんないい子です。

皆さんはあすからここで、先生やお友だちと仲良く運動したり、お遊戯をしたり、絵を書いたり、それからお歌を歌ったりするんですよ。みんなおもしろくて楽しいことばかりでしょう？

近いうちに、みんなで手をつないで動物園に行きますよ。だれが一番動物の名を知ってるかな？　ライオンやトラを見て泣き出すような弱虫さんはいないでしょうね。お鼻のすごーく長い動物は？　そう、象さんです。皆さん、よく知っていますね。

夏休みには、この運動場で花火大会もあります。みんなで、きれいな花火をいっぱい上げるんですよ。

秋になったら、楽しい楽しい運動会があります。この中には、カケッコ自慢がいるでしょうね。それとも、みんなカケッコ自慢かな？

さあ、あしたから、この幼稚園で、みんな元気に遊びましょう。みんな元気でこれますね。幼稚園にこれないような弱虫さんは一人もいませんね。

だれが一番元気にやってくるかな？　一番早くやってくるのは、どの子かな？　園長先生はそれを楽しみに見ています。

皆さんが大変お行儀よく、静かにお話を、聞いてくれたので、園長先生はうれしくてたまりません。

こんどは、皆さんのお母さんたちにお話がありますから、もう少しがまんして下さいね。がまんできますね。

皆さん、きょうのご入園おめでとうございます。いつくしみ育てられたお子さんが、きょうこうして、社会に第一歩を踏み出されまして、さぞかしお喜びのことと思います。

昔は、子どものことを、よく〝お宝〟と言ったものですが、たとえどんなに世の中が変わりましても、子どもが

〝お宝〟であることに変わりありません。

山上憶良という昔の歌人も「しろがねもくがねも玉も何せむに　まされる宝子にしかめやも」と歌っております。子どもにまさる宝はないというわけですが、本当に、子どもこそ、何ものにも変えがたい宝だと思います。その尊い宝を、こんなにたくさんお預かりするのですから、その信頼と期待を思えば、無上の光栄と重大な責任を感じないではいられません。

皆さんはよくご存知のことと思いますが、幼稚園教育は、日常生活における基本的な生活習慣を身につけ、豊かな情操を養い、健康で安全な生活ができるようにして、激しく進展する社会でもたくましく生きる力を養うことを目的としております。わかりやすく言いますと、人間性の基礎をつちかい、大勢と親しく交わる社会性と、自分のことが自分でできる自主性を育てるのが目的なのであります。

小学校の予備校ではないのですから、準備教育みたいなことは一切いたしません。幼稚園は、学問や技能を教えるところではないことを、はっきりご認識いただければ幸いだと思います。

せっかく入園したお子さんを、いやがるからなどと言って、すぐ退園させてしまうお母さんがありますが、そういういやがったりするお子さんこそ、この幼稚園教育が必要なのであります。

幼児教育は、幼稚園教育だけで達成されるものではありません。幼児の教育の場は主として家庭にあって、家庭でのしつけや教育が大切なのであります。つまり、幼児教育は、家庭教育と幼稚園教育とが相まって、はじめて完全に果たされるものなのです。この点もよくご理解願いたいと思います。

私たちは、皆さんの尊い宝を誤ることなく、そこなうことなく、導き育てて行くために全力を尽くしますが、どうか、ご家庭の皆さんもできる限りご協力下さいますようお願いする次第であります。

皆さん、これで、園長先生のお話はおしまいです。

幼稚園修了式（園長）

皆さん、きょうはご卒業、本当におめでとう。皆さんが、先生の言われることをよく聞いて、みんな仲良く、元気にのびのびと幼稚園生活を送ってくれたので、先生たちみんな大変喜んでおります。お母さんたちも、後ろでニコ

ニコしていらっしゃいます。

皆さんは、雨の日も風の日も、また汗がたらたら流れる暑い日も、雪やみぞれが降る寒い日も、元気に楽しく通ってくれましたが、きょうがこの幼稚園最後の日です。

あと十いくつか寝ると、皆さんはもう楽しい一年生です。新しいランドセルや新しい靴を買った人もいるでしょうね。皆さんが一年生になって、小学校の門をくぐるころには、桜の花もきれいに咲いて、皆さんの入学を祝ってくれますよ。桜の花まで〝おめでとう〟と皆さんの入学を喜んでくれるんです。

もちろん、皆さんのお父さんやお母さんは、もっともっと喜んでくれます。それから、おじいちゃんやおばあちゃん、そしておにいさんもおねえさんも、みんなみんな喜んで下さいます。

皆さんとお別れするのは、ちょっぴり寂しいけれど、間もなく、みんな立派な小学一年生になるんだと思うと、先生たちも、とてもうれしいし、喜んでこの幼稚園から送り出そうと思います。

小学生になってからも、ときどき幼稚園に遊びに来て、先生たちに元気な顔を見せて下さいね。皆さんは、このマドカ幼稚園の立派な卒業生ですから、大威張りで遊びに来ていいのです。

皆さんは、この一年なり二年の間に、みんなと仲良く遊べるようになったし、自分のことは自分でできるようになったし、本当にいい子になりました。

この幼稚園で身につけたことが、みんな、小学校でのお勉強に役立つんですよ。この幼稚園でいい子だった皆さんは、小学校に行っても、きっといい子になります。園長先生がそう言うのですから、間違いありません。胸を張って堂々と小学校の門をくぐって下さい。

小学校では、皆さんのように、幼稚園を出たお友だちが、あちこちからたくさんやってきて、一緒にお勉強するのです。皆さんはだれとでも仲良く、元気にお勉強できますね。園長先生とお約束のできる人は、手を高く上げて下さい。はい、どうも。みんなお約束できるんですね、えらいなァ。ほら、先生たちも〝みんなえらいなァ〟というようにニコニコしていらっしゃいます。

皆さんなら、きっと、立派な一年生になって、マドカ幼稚園の弟や妹たちの、よいお手本になってくれることでしょう。元気にしっかりがんばって下さい。

きょうは、皆さまのお子さまが教育の第一歩を終えられて、元気に幼稚園を巣だって行かれる誠におめでたい日であり、皆さまのお喜びもひとしおだろうと思います。心からお祝いを申し上げます。

あるご家庭は、夫婦共働きをしているから、またあるご家庭は、いたずらばかりして困るし、協調性を身につけてほしいから、さらにあるご家庭は、人の中へ出ても恥ずかしがらないよう集団生活になじませたい——などというように、皆さまがお子さまを幼稚園にお入れになった理由はさまざまなことでしょう。しかし、理由がどうでありましても、ある程度は皆さまのご期待に添い得たのではないかと自負しております。

私たちはお子さまを〝みんな仲良く、元気で、のびのびと〟を教育目標に最善の努力を払ってまいりました。また、お子さまたちが、キレイ好きになるように、そして、利己的でなく、親切で誠実な人になるように、悪い習慣や欠点の矯正に努力してきましたし、それなりの効果はあったものと信じます。

お子さまたちは、いよいよきょうから、私たちの手を離れて、小学校という一段高い集団の中に入って行かれるわけですが、どうか皆さま、今後は小学校の先生方と一致協力され、強くて美しい性情を持つ立派なお子さまにお育てになるように、心からお祈り申し上げる次第でございます。

小学校

小学校入学式（来賓）

みなさん、入学おめでとう。

指折り数えて待っていたきょう。みなさん嬉しそうですね。学校ってすばらしいでしょう。いよいよ小学一年生になって、きょうから、この学校で、毎日お勉強をしたり運動をしたりして、先生からいろいろなことを、たくさん教えていただくのですよ。

きのうの晩は、ランドセルやお帽子やハンケチや、きょうの準備をきちんとそろえて寝ましたか。もう、みなさんは幼稚園の園児ではないのだから、自分のことは自分でするようにしてください。みなさんが、自分のことは自分でできるようになれば、小学生になった立派な証拠になりま

す。

みなさん、嬉しいきょうの出来事をいつまでも覚えていてくださいね。私はこんなに大きなおとなですけれど、小学校に入学した日のことをはっきり覚えています。

もう三十年も昔のことです。けれど、覚えているのです。それほど嬉しかったのです。

みなさん、クラスのお友だちとは仲良くしてください。きょう初めてお友だちになった同士ですね。これからは、お互いに親切にしましょう。右も左も前も後ろも、みんな助け合って、楽しく勉強するのです。意地悪をしたり、いじめたりすることは、大変悪いことです。ひとりぼっちで、寂しそうにしているお友だちがいたら、親切に仲間に入れてあげましょう。

それから、先生のおっしゃることはよく聞いて、言いつけをしっかり守るのですよ。皆さんの入学式を、一番喜んでくださっているお父さん、お母さんに、きょうからは、立派な小学生になったことを見せてあげてください。いいですか。自分のことは自分でやり、お友だちと仲良くして、先生の言いつけをしっかり守ること。これができる人が立派な小学生です。

では、皆さん、きょうは本当におめでとう。

小学校入学式（校長）

皆さん、入学おめでとう。

皆さんはきょうから、このヒマワリ小学校の一年生です。この学校は皆さんの学校です。広い運動場も大きなプールもありますよ。これから毎日、元気よく学校にきて、みんなと仲良く勉強したり、遊んだりしましょうね。

もう皆さんは幼稚園の園児ではありません。立派な小学生です。皆さんが立派な小学生になったので、お父さんやお母さんもうれしそうにニコニコしていらっしゃいます。

きょう、お父さんやお母さんと一緒にきた人も、あしたからはお兄さんやお姉さんか、近所のお友だちと元気よくきて下さい。「お母さんと一緒でなきゃ、いや」などと、だだをこねるような甘えん坊はこの中には一人もおりませんね。みんないい子です。本当にいい子です。みんな元気な一年生ばかりなので、先生たちもうれしくてなりません。

皆さんなら、ランドセルも自分一人で背負えるし、靴も

自分ではけるでしょう。学校にも自分一人で来れるかもしれませんね。先生が名前を呼んだら、「ハーイ」と大きな声でお返事ができますね。お返事ができない人がいるかな？　ああ、やっぱりそんな弱虫さんは一人もいませんね。みんな偉いなァ。

皆さんはいままでおうちにいて、お父さんやお母さんのおっしゃることをよく聞いていましたね。これからは学校にきて、先生のおっしゃることをよく聞いて、ますますよい子になるのです。

それでは、これから皆さんの担任の先生をご紹介しますから、お顔とお名前をよく覚えて下さいね。先生が皆さんの前に立ちます。さあ、どの先生が皆さんの担任かな？

では、まず月組から。いま月組の前に立った人が月組担任の永利先生です。次の雪組は毛利先生、そして花組は滝先生です。みんなやさしくていい先生ばかりです。

さあ、みんなで担任の先生にごあいさつしましょう。大きな声で

「こんにちは」

はい、大変上手にできましたね。これからは担任の先生のおっしゃることをよく聞いて、賢い一年生になりましょうね。

この学校には、今紹介した三人の先生のほかに、やさしい先生が二十一人もいらっしゃいます。校長先生もいれると二十五人です。

学校では先生が皆さんのお父さん、お母さんです。困ったことがあったら、いつでも先生にお話しましょうね。「ママァ」などと泣いてはいけません。二年生から六年生までの上級生は、皆さんのお兄さん、お姉さんです。学校ではたくさんのお父さん、お母さん、それからお兄さん、お姉さんが皆さんと仲良く遊んでくれます。

たくさんのお友だちと一緒に歌をうたったり、絵をかいたり、算数や国語を習ったり、楽しい毎日がこれから始まるのです。遠足もあれば運動会、学芸会もあります。みんなで一緒に給食もいただきます。うれしいですね。

校長先生は小学生のとき、先生から「自分のことは自分でせよ」と教わりましたが、皆さんも自分のことは自分でするようにしましょうね。洋服を着たり、からだを洗ったり、靴をみがいたり、自分のことはなんでも自分でするようにしましょう。校長先生と約束できる人は、ちょっと手を上げて下さい。おやおや、みんなの手が上がりました

ね。みんな約束してくれるなんて、うれしいなァ。
　では、こんどは先生たちに手を上げてもらいましょう。ことしの一年生は立派だと思う先生は手を上げて下さい。ほう、男の先生の手も、女の先生の手もみんな上がりましたよ。先生みんなが、皆さんを立派な一年生だと思っていらっしゃいます。もっともっとよい子になって、先生たちをびっくりさせて下さい。
　きょうは、これから皆さんの入学をお祝いして上級生のお兄さんやお姉さんたちが楽器演奏やお遊戯をして下さいます。早く聞いたり見たりしたいでしょうが、お父さんやお母さんたちとちょっとだけお話しいたしますから、がまんして待っていて下さい。
　ご父兄の皆さま、おめでとうございます。きょうこうして入学のよき日を迎えられたことを心からお喜び申し上げますとともに、きょうから六年間、責任をもってお預かりすることをお約束申し上げます。
　小学校に入りますと、今まで家庭中心だったお子さまの生活が学校中心となり、環境の急変によって非常にお疲れになるお子さまもおられますから、健康には十分気をつけていただきたいと思います。まず早寝、早起きの習慣をつけ、たっぷり睡眠をとらせることが大事です。また食事に気を配ることも大事だと思います。
　申すまでもありませんが、ご家庭の皆さまのご協力がなくては、小学校教育は成り立ちません。子どもの教育にはご家庭での教育やしつけが大変重要であります。
　学校の先生に任せっきりになさらず、どうか皆さまも〝家庭の先生〟として、お子さまのよき話し相手となり、心身ともにすこやかで、明るい元気な子どもに育てていただきたいと思います。
　これまではぐくみ育てられたご苦労は大変だったでしょうが、これからも小学校と一体となり、よりよいお子さまの成長のためにお励み下さいますようお願いして、私のごあいさつといたします。

小学校卒業式（来賓）

　卒業おめでとう。きょうは、皆さんの栄えある門出の式に列席できてうれしくてなりません。
　皆さんが六年前、この学校の校門をお母さんがたに手をひかれランドセルを背負ってくぐったときのことが、きのうのことのように思い返されます。皆さんにとっては長い

六年間だったことでしょう。長いと感じることはいいことなのです。それだけ、六年間には、たくさんのことがあり、忘れられないことがどっさりあって、それらがみんな、血となり肉となって皆さんの成長を助けてきたのですから。私のようにおとなになって年をとってきますと、一年間が大変短く感じられるようになるのです。

現在の皆さんは、本を読むこともできるし、むずかしい算数も解くことができる。世界の国々の様子や、宇宙の天体のありさまなども知っていますね。絵も相当じょうずに描けるでしょうし、音楽の音符も理解していますね。こうしたことは実に大変なことです。皆さんは、ただ体が大きくなったばかりではなくて、大変にたくさんの知識や能力を身につけたのです。

世の中に出て一番大切な常識を、この六年間でだいたい覚えてしまったのです。これは、皆さんが、元気で努力した賜ものですが、それができたのも、お父さんやお母さんが一生懸命働いて、皆さんを学校に通わせてくださったからです。それから、校長先生をはじめ、たくさんの先生がたが、力いっぱい皆さんを導いてくださったからなのです。

六年前は、皆さんの後輩の一年生、可愛らしく、まだいろいろなことがよくわからない一年生、あの一年生と皆さんは同じだったことをよく考えてみてください。今はこんなに立派な卒業生になったのですが、これまでにしてくださったかたがたのご恩を皆さんは決して忘れてはいけません。

きょうで皆さんは、小学生とはお別れです。そして四月からは、いよいよ憧れの中学生になります。この小学校で身につけた実力を生かして、立派な中学生になってください。

小学校卒業式（校長）

卒業生の皆さん！　皆さんは、よくこの六年の間、がんばってきましたね。六年の間には、嬉しいこともあったろうし、悲しいことも、苦しいことも、つらいことも、いろんなことがあったろうけれど、皆さんはよく勉強もしたし、よく遊びもして、大きくなりました。

皆さんは、これから中学生になるのだから、早く中学の生活に慣れたくて、うずうずしていることと思います。先生は、皆さんに六年の間教えてきたけれど、まだまだ

教え足りないことがたくさんあります。まァ、それは中学の先生にお任せするとして、お別れに一つ、お餞別(せんべつ)の言葉を、贈り物にしたいと思います。

「立志」ということです。

志を立てる、ということです。私は大きくなったら、なんになりたいと目標を決め、それに向かって、全力を集め、ついに目的を達することです。

お医者さんになりたい。飛行機のパイロットになりたい。いや商売人になりたい。会社に勤めるのだ。職業は、世の中にたくさんあります。

社会に出て、おとなとなって暮らして行くには、職業を決めて、その職業で仕事をしなければなりません。だから、早く将来の職業を決めるのは、大事なことです。

しかし、ただ職業を決めるだけでは、「立志」とは言いません。

幕末から明治にかけて活躍した人に、福沢諭吉という学者がいました。まだ鎖国を解いて、やっと世界と交通を始めたばかりの時代に、早くから英語を勉強して、西洋の事情をどんどん紹介して、日本が進歩するために、非常に役に立った学者です。日本全国から、福沢先生の名を聞いて集まってきた生徒たちには、慶応義塾という塾を開いて、学問を教えました。その塾が発展したのが、今の慶応大学です。

その先生が、言いました。

人には、三通りの人がある。

第一は、人のため、世の中のために一生懸命に働く人。

第二は、人のためには何もしないけれども、人には厄介をかけないように、暮らす人。

第三は、人に迷惑をかけて、暮らす人。

この三通りの人の中で、どの人が一番偉い人か？　それは説明するまでもありませんね。

職業には、上下の差別はないけれど、同じ職業にたずさわっている人の中にも、この三通りの人がいます。

皆がおとなになったら、それぞれ違った職業を選んで、仕事をするでしょう。好きな職業についてる人もあれば、いやな職業に仕方なくついてる人もありましょう。初めはいやでも、慣れてから、好きになる人もいるでしょう。いやでも好きでもなく、その職業についてる人も、中にはいるかもしれませんね。ただ、その職業を、どんなにしてやっているか、そこの違いは大きいですよ。

だれだって、偉くなりたくない人はいませんね。しかし、まず志を立てて、しっかり目標を定めて、見失わないようにしながら進まないと、偉い人になれません。

皆さんは、小学校で、六年もの間、過ごしてきました。でも、六年の年月でも、過ぎてしまうと、案外短いものです。

中学は三年しかありません。その上、新しい学課も勉強しなければならないし、三年はすぐたってしまいます。早く志を立てておかないと、気がついた時には、中学も卒業です。

そうかといって、志はあわてて立てるものではありません。ゆっくり考え、研究して立てるものです。

自分は体が丈夫で、しかも手先が非常に器用だし、物を研究しながら作ることが大好きだ。中学を出たら、大工さんになろう。人からは名人と言われ、家を建てたら

「本当に住み良い家を建ててくれて、ありがとう」

と、人から感謝されるくらいの大工さんになろう。

そう決心するのも、立派な「立志」であります。

中学を出たら、上の学校へ行って、大学を出てからも大学院で研究を続け、国のためになる発明や発見をする学者になろう、というのも立派な「立志」であります。

では、大工と学者と、どっちが偉いか？ と申しますと、両方偉い。決して遜色はありません。けれども、

「そんなこと言ったって、学者の方が偉いに決まってるさ」

と、考えてる人の方が多いでしょう。なぜ、そう考えるかというと、学者になるには、早くから志を立てて、学者になろうと決心をした上に、一心に勉強しなければなれません。

けれど、大工さんには、

「お前は勉強が出来ないから、上の学校へ行ったってダメだ。大工にでもなれ」

と、親から言われ、いやいや仕方なしに、大工さんになってる人が多いのです。もちろん、こんな大工さんに頼んだって、良い家が建つはずはありません。

近ごろは、偉い人の子どもで、学校の勉強が出来ても、上の学校へ行かず、

「僕は、大学なんか行くより、コックさんになりたい」

と言って、コックさんの修業を始める人もいます。コックさんの修業というと、まず皿を洗うのが仕事です。学校

で一生懸命勉強した算数だって、国語だって、この時期には全然役に立てようもありません。それどころか、お皿を洗って、ピカピカにみがき上げなければならないのに、うっかりしていて一枚でも汚れの落ちてないのがあったりすると、頭からどなりつけられてしまいます。学校の先生やお父さん、お母さんのように、優しく教えてくれたりしません。つらい、苦しい修業です。それでも、我慢出来るのは、立派な、日本一の、出来れば世界一のコックさんになって、お料理を食べた人たちから、

「実においしかった」

と言われるまでになりたい、と、志を立てたからであります。

もう一度、言います。職業に上下はありません。

偉い人というのは、人のため、世の中のためになろうと、一生懸命に努力する人です。

先生は、皆さんが、それぞれ、自分に一番適した職業を見つけて、その仕事で、世の中の役に立つ人になってもらいたいと思います。

それが、「職業を生かす」ということなのです。

では、卒業生の皆さん！

お元気で——。

中　学　校

中学校入学式（来賓）

中学にそろってご入学、おめでとうございます。

この中学校には、○○小学校の卒業生がたくさん入学していますが、お隣の小学校からはいられた諸君も、少なくありません。

○○小学校の卒業生諸君も、そのほかの小学校の卒業生諸君も、ひとたびこの中学校の校門をくぐって中学生となったからには、もう、ひとつの学校の生徒として、お友だち同士になったのです。しかも一段とおとなに近づいた新しい気持ちで、お友だち同士になったのです。

これから始まる中学生活の中では、勉強も運動も、言うまでもなく大切なことですが、よい友だちができて、しっかりした友情を結ぶということも大切なことなのです。

中学生活の三年間は、人間の一生にとって大変大事なときです。皆さんは、少年少女から、この三年間を通して

立派な少年へと大きく成長し飛躍していくことでしょう。中学生時代は、人間の一生の中で、一番伸び盛りの、みずみずしい若木の時代です。激しく伸びていくエネルギーには、栄養がいりますね。体の栄養には食べ物がありますが、心の栄養には何がありましょうか。

勉強も運動も、立派な心の栄養になりますね。それは皆さんよくご存じのとおりです。この心の栄養をおろそかにしますと、体ばかり大きくなっても、心は貧しいつまらない人間になってしまいます。伸び盛りの皆さんには、この心の栄養がふんだんに必要です。このことをよく自覚して、この三年間、一人ひとりが自分で努力して、心の栄養をたくさん吸収してください。

さて心の栄養には、勉強や運動のほかにまだあります。それは、人間同士のお互いの交流の中にあるのです。勉強や運動も、ひとりだけでやれるものではありませんね。いろいろ指導してくださる先生がたがあり、励まし合う友だちがあり、助け合いながら進められるものなのですね。この人間同士のつながりが、大切な心の栄養になることを忘れないようにしてください。

私が、中学生となられた皆さんに申し上げたいことは、先ほども申しましたように、よい友だちをもつこと、そして自分もまた相手に対してよい友だちになること、このことに心がけていただきたいのです。どんな人も必ず、いい面、長所を持っているのです。その長所を、お互いに発見し合って、立派な友情を育ててください。

皆さんが、これからの三年間で、立派な友情を育てることは、ひいては、この学校全体の心のきずなが、なごやかな明るい空気の中でしっかりと結ばれることであり、勉強も運動も、いやが上にも向上していくことになるのです。

そして中学生の間につちかった友を愛する心は、これからの皆さんの人生行路で、一生心のなかで失われない宝物となることでしょう。同時に、それが未来の人間社会の大切な柱となるときがくるのです。

世界の平和も、まず皆さんの身近な友情が源となるのです。私は、入学のお祝いを述べるとともに、まず皆さんが、友情について考えてみてくださるよう心から希望する次第です。

中学校入学式（校長）

桜咲き誇る春らんまんのきょう、生気はつらつたる皆さ

んをお迎えしたことは、誠に喜ばしい限りであります。

皆さん、入学おめでとう。本校は輝かしい伝統を持った学校ですから、皆さんの喜びも格別のことと思います。新しい制服のボタン以上に、皆さんの瞳はキラキラ輝いていて、頼もしい限りです。どうか、その喜びをいつまでも忘れないで、悔いなき中学時代を過ごして下さい。小学生気分は、きょう限りサラリと捨て、中学生としての自覚と誇りをもって、これからの中学生活を送っていただきたいと思います。

中学では小学校より勉強もずっとむずかしくなりますし、生徒である皆さん自身が自主的に勉強しなければなりません。自ら進んで学ぶという気構えが大切です。

これからの三年間は一生の進路のだいたいの方向が決まる時期であり、皆さんの一生のうちでも最も大切な時期ですから、最善の努力を尽くしてしっかりがんばって下さい。

小学校よりむずかしくなるとはいっても、一年生の初めに十分気をつけて基礎をしっかり身につけておけば、あとは実に楽です。「楽あれば苦あり」と言いますが、逆に「苦あれば楽あり」とも言えましょう。初めに苦労して勉強しておけば、あとは楽珍です。三年後の進学や就職にもちっとも困りません。

いずれにしても中学校は義務教育の最後のしめくくりをつけるところですから、この間に勉強にいそしみ、スポーツに励んで、よき社会人となる基礎を十分つちかっていただきたいと思います。

また、この三年間に、皆さんのからだはぐんぐん大きくなります。ぼんやりしているとからだはおとなになったが、心はまだ子ども、というおかしなことになってしまいます。うかつには過ごせません。光陰矢のごとしというように、三年くらいまたたくまに過ぎ去って行きます。「あしたがある」などとノンキなことを言っていると、あとで後悔しなければなりません。

その日その日を大事に過ごすことが大切です。人と競争するより自分自身と競争して下さい。去年よりことし、きのうよりきょう、自分はどれだけ伸びたか、それが大事なことです。伸びたのは身長や髪だけというのでは困ります。

私は、きょう中学生になった皆さんに、一つだけお願いがあります。それは〝強い人間〟になって下さいというこ

とです。私のいう強い人間とは、腕力が強いことをいうのではありません。男子は腕力も強いことに越したことはありませんが、腕力が強いからといって弱い者いじめをするような人間は、本当に強い人間ではありません。そんな人間に限って自分より強い人間にはペコペコするものです。

また、勉強に強いだけが、強い人間とは言えません。どんなに勉強ができても、病気ばかりしたり、陰でコソコソいたずらするようでは、弱い者いじめする人間と同じように、弱い人間です。

本当に強い人間は、弱きを助け、強きをくじきます。また、悪いことなんか決してしません。誘惑をはねのける強い心、怠け心を押さえる強い意思、不正不義を憎み、正義を愛する心、悪い欲望に打ち勝つ力を持っているからです。さらに病気に負けない強いからだを持っています。そのように強い心と強いからだを持った人間が私のいう強い人間です。

最近ふえている非行少年は、悪い誘惑や自分の怠け心に負けた弱い少年たちです。きょう本校に入学した四百二十名の皆さんの中には、非行化するような弱い人間はいないと思うし、また、いてはいけないと思います。

これからの三年間、勉強や運動、あるいは日常生活の中で、強い心をはぐくみ、強いからだを鍛えて、強い人間になって下さい。皆さんの一人ひとりが強い人間になることが私の願いであるとともに、この筑紫中学の誇りともなるのです。しっかりがんばって下さい。

これをもって皆さんのおめでたい入学式のごあいさつといたします。

中学校入学式（校長）

本校が、戦後教育の新しい理想のもとに、展望のきくこの台地に建設されてから、ちょうどこの春で第十八回目の新入生を迎えることになります。

ことしの新入生は、二百六十五名です。近村の三つの小学校の卒業生がほとんどで、五組に編成され、本校の生徒として新しい中学生活に踏み出すことになりました。

家庭の大切なお子さまがたを預かり、これまでに育てあげ、ご指導くださった各小学校の校長先生並びに担任の諸先生がたには、厚くお礼を申し上げるとともに、このように、改めて本校にお預かりいたしました以上は、義務教育の総仕上げに当たる私たち教職員一同、全力をあげて大任

を果たしてゆきたいものと考えておりますから、ご安心いただきたく存じます。
　さらに、ご家庭のお父さま、お母さまがたも、いわば子どもからおとなへと向かう大切な時期の教育に、なにとぞご協力のほどをお願い申し上げます。
　さて、新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの回りには、きのうまでのお友だちのほかに、たくさんの新しいお友だちがいますね。今までに一度も顔を見たことのない人がたくさんいますね。けれども言うまでもなく、みんな言葉も習慣も違う外国人ではなくて、同じ日本人です。しかも、同じ県の、隣村同士の人たちばかりなのです。すぐに仲良しになることができます。
　中学では、皆さんを子ども扱いにしません。だから、勉強ができない、運動ができない、いじわるされた、などということで、めそめそ泣いたりしても、知らん顔しているかもしれません。皆さんの一人ひとりが、元気いっぱいに、自分で自分を鍛えるつもりになってください。悲しいこと、つらいことがあったら、「よし負けないぞ、私はもう中学生なのだ！」という気概をもってください。
　先生がたはそういう皆さんの手助けをして指導します。勉強もむずかしくなりますが、このことを十分おなかに入れておいてください。
　中学校では、それぞれのクラスの担任の先生のほかに、教科を受け持っている先生がたがおられます。国語、数学、理科、社会科、音楽、美術、体操など、別々に、専門の先生がたが教えてくださるのです。皆さんの努力次第で、豊かなたくさんの知識や能力をいくらでも身につけることができるのです。
　学校の勉強のほかに、課外のクラブ活動がさまざまにあります。皆さんは、自分の意志で自由に好きなクラブに参加することができます。そこでは、勉強や運動や趣味などを中心にして、互いに励まし合い、向上していく集団生活があります。
　では、皆さん、中学生となったきょうの感激を忘れないで、明るい健康な本校生徒となって、しっかりがんばってください。

中学校卒業式（来賓）

中学の卒業は、同時に、義務教育をとどこおりなく卒業したことになります。皆さん、おめでとう。

このまま、社会に出て行って、生活戦線の中に自己の道をきり開こうとする人々も、さらに高校へ進んで勉強をつづけようとする人々も、とにかく、日本人として、いや、人間として、一番大切な基礎の教養を、すべて学びとったことになるのです。

今、胸を張ってここに並んでいる皆さんの一人ひとりが、これからの社会をになっていく人々だと思うと、こうしてお祝いの言葉を述べながらも、私の胸に強い感動が湧いてくるのを押えることができません。

皆さんをここまで育てあげてこられたご両親の愛情、たゆみなく指導をつづけてこられた学校の先生がたのご苦労、そのかたがたのきょうの感激はさぞやと想像するにあまりあります。

これから、就職しようとされている皆さんは、期待と不安で頭がいっぱいのことでしょう。はっきり言って、期待よりも、不安の方が大きいかもしれませんね。まだ成人式にも達しない皆さんを社会に送り出す私たちもまた、しっかりがんばってほしいという祈りのような気持ちがあります。現代は、宇宙時代とも、コンピューター時代とも言われて、科学が高度に発達した時代です。私たちおとなも、この人間社会の未来については、期待と不安をもちながら、なんとかよりよい社会にしたいものと、願いをかけ、努力しているのです。

ただ、ここではっきり言えることは、人間社会がどのように変化していこうとも、人の真心には変わりがないということです。皆さんがこれからどんな職業につこうとも、どんな環境にはいっていこうとも、皆さんの真心を貫き通せば、必ずそこから何か大切なものが生まれてきます。時代のめまぐるしい移り変わりに気をとられすぎて、希望を失ってはいけません。長い時間をかけて努力してみなければ、人間は本当のことがよくわからないのです。だから、まず、計画を立てて、目的に向かって地道に努力することです。真心をこめて、努力をつづけていると、やがて、目に見えてわかってくることがあります。一生懸命に生きていくことが、希望をつくっていくことになります。心配も少なくなります。どうか、このことを忘れないで、勇気をもって、社会に進んで行ってください。

進学組の皆さんにも、このことは、あてはまります。皆さんは、お友だちがすでに社会に出て行って、おとなたちと一緒になって働いていることを、いつも思い出すように

してください。そして、勉強できるコースを進んでいる自分の立場をしっかり考えて、力いっぱい勉強に励んでください。

中学校を卒業するということは、身体も頭脳も、一番強くたくましい青年へ向かっての出発なのです。就職する人も、高校へ進学する人も、ともに身体を鍛え、読書して、自分をみがくことをつづけていかれるようにお願いします。そして、自分の両足で大地に立ち、自分の考えでものごとを判断して、決して周囲のいいかげんな流行には押し流されない人間になってください。

以上のお願いを申し上げて、私のお祝いの言葉に代えさせていただきます。

中学校卒業式（校長）

春うららかなきょう、大勢のお客さまのおいでをいただき、本校第二十回卒業式を挙行できましたことを、心からお喜び申し上げます。

卒業生の皆さん、おめでとう。皆さんに最後の言葉を贈ります。

今、皆さんの胸は過ぎし三ヵ年の感慨と明るい未来への希望とで、さぞかしいっぱいのことでしょう。

皆さんのきょうの喜びと感激は、皆さん自身のたゆまない努力もさることながら、ご両親をはじめ、ご家族の皆さまの限りなき愛情、さらには幼稚園から小・中学校にわたる諸先生の熱心な暖かいご指導の賜ものですから、そのご恩を深く胸に刻み、改めて心から感謝するとともに、今後に臨む決意を新たにしなければなりません。

学校に進むにせよ、社会に出るにせよ、皆さんがこれから歩く道は、はるかに遠く、また、けわしいかもしれませんが、この三年間、本校でつちかってきた不屈の闘魂をもって突き進んでいただきたいと思います。けつまずいても、ころんでも、すぐまた起きるたくましい皆さんであることを信じています。

「世界で一番未開の領域は、お前の帽子の下にある」と言った人がいますが、「お前」という言葉を「自分」という言葉に置き替えて、自分の頭こそ一番未開の領域であるという謙虚な気持ちを常に失わずに、精進していただきたいと思います。

皆さんは確かに義務教育を終えましたが、まだ教育の基礎を修めたにすぎません。ここで勉学の意欲を失い、向上

心を失ったら、中途半パな人間となり、やがては人生の落後者になるでしょう。

皆さんはこれからも勉学に励んで、自分の知性をみがき、人間性をより豊かに開拓して、頭も心も世界で一番開けた領域にしていただきたいと思います。自分の手と自分の心で、新しい自分を開発するのです。

勉強といっても、何も机の上の勉強だけが勉強ではありません。いい小説を読んだり、すばらしい名曲に耳を傾けるのも一つの勉強です。親友と人生について論じ合うのも勉強です。悪い遊びはいけませんが、良い遊びを学び、それを実行することもやはり一つの勉強だと思います。

皆さんにはあふれるような若さがある。その若さを存分に生かして、充実した日々を送って下さい。

皆さんの人生のキャンバスはまだ純白です。その真っ白いキャンバスに、純真な気持ちで、素直な明るい絵をかいて下さい。だれにも負けない暖かい絵をかいて下さい。

この三年間の中学生活には、つらいこと、悲しいこともあったかもしれませんが、一年、二年と日が経つうちに、あの日、あの時の、つらい悲しい思い出も、みんな懐かしくなるものです。この太陽中学の三年間の思い出を終生大事にしてほしく思います。太陽中学は皆さんの心のふるさとです。

喜びにつけ悲しみにつけ、いつでも気軽にこの学びやを訪ねてきて下さい。私たちはいついつまでも皆さんの行く手を見守っています。

ご父兄の皆さまに一言申し上げます。

いつくしみ育てられたお子さまが、三ヵ年の中学生活を無事に終えられ、こうしてめでたく卒業されることになり、本当におめでとうございました。皆さまのお喜びもひとしおだろうと思います。

しかし、義務教育を修了したとはいえ、まだ中等教育の前期分を終わったにすぎませんし、まだ後期中等教育が残っております。高校に進んで勉強を続ける人も、社会に出て働く人も、家の手伝いをする人も、これからが実は大変なのです。本当の勉強はこれからといってもいいでしょう。勉強に終わりはありません。

きょう限り一応お手もとにお返ししますが、今後ともよき話し相手となっていただいて、お子さまが、さらに大きく豊かに成長されますようお祈りいたします。

きょう卒業して行く皆さんは、ご父兄の皆さまのお子さ

までであると同時に、私たちの大事な教え子でもあります。私たちの大事な教え子はあくまでも大事にしてもらわねばなりません。よろしくお願いします。

では最後に、この学窓を巣立ち行く皆さんのご健闘を祈り、前途を祝して、お別れの言葉といたします。

中学校卒業式（校長）

昔の諺に「可愛い子には旅をさせよ」というのがありました。

旅とは旅行のことである、などというと、皆さんはすぐ修学旅行のことを思い浮かべて、「昔のお父さんも、わりかし気前が良かったと見える」などと思うでしょうが、とんでもない話であります。

昔の人が旅行に出るには、まずむずかしい手続きを取って、手形をもらわなければなりません。今の身分証明書です。これがないと、関所を通らしてもらえません。今は自動車で行けば、パトロールカーが走っています。鉄道で行けば、鉄道公安官が目を光らせています。昔の街道で目を光らせているのは、ゴマのハエと呼ばれたスリたちでした。乗り物は駕籠と馬ぐらいのもの。その駕籠かきや馬子がまたまともな人間ではない。悪いことをして自分の村に住んでいられなくなった連中で、空行く雲のように、流れ歩いているので、雲助と呼ばれていました。客から金をもらうと、それを唯一の趣味とも言える酒と賭博の元銭にしてしまう。

弱い客と見れば、寂しい道に連れ込んで、身ぐるみはぐのは、常習行為であります。

その上、旅館も宿場にわずかあるだけで、やっとたどりついても、満員で断わられる場合も少なくないのであります。そんな時には、神社の縁の下にでも眠るほかはなく、そこで親切に言葉をかけてくれる旅慣れた男がいたら、実はゴマのハエで、懐中物はすっかりすられたなどの話も、これまた少なくない。懐中物ばかりでなく手形でも一緒に盗まれたら、もう家へは帰れません。それこそ雲助か、乞食になって食べて行くほかはなくなるのであります。

実に、子供を旅に出すとは、苦労させるのと同じ意味です。それなのに、なぜ旅をさせるのかと言うと、家で甘やかしてばかりいては、世間知らずのバカ息子になるだけで、子どもの将来のためにならないからという、親心でありました。

私の現在の心境も、今は同じであります。

皆さんは、小学校の六年に続いて、中学の三年の義務教育を終えられた。私は、おめでとう、と言って送り出したい。そうしなければなりません。しかし、心の中は、もっと学校に引き止めておいて、世間の荒波に当てたくない気持ちが、しきりであります。

皆さん、義務教育が済むと、世間の風当たりは、激しくなりますよ。あすからは皆さんの歩む道は、旅であります。

上級学校へ進学すれば、落第もあれば、停学も退学もあります。試験も多いし、ビシビシと点をつけ、順位も決まります。

社会人として就職すれば、先輩の叱責その他、失敗するたびに、そのはね返りは、必ずわが身に返ってきます。

しかし、苦しくつらい旅にも

「旅は道連れ、世は情け」

という諺もあります。現代ふうに言えば、仲間意識というような意味合いです。

明治の熱血詩人、与謝野鉄幹は歌いました。

——友を選ばば　書を読みて

六分の俠気　四分の熱

情に厚い良い友人を作り、互いに救い、助け合いながら、世間の荒波に漕ぎ出す姿が、あすからの皆さんであります。

皆さんが、三年間に身につけた学問は、学問ともいえない、初歩のものであります。学問の基礎であります。

しかし、基礎がある、ということは、かけがえのない強みであります。皆さんの意志次第で、いくらでも高い建て物を、その上に築き上げることが、出来るのであります。

その建て物は、必ずしも学問とばかりは限りません。社会に伸びて行くために、それぞれの職業について、専門知識を身につけるに際し、この基礎がモノを言うのであります。

残されたものは、努力であります。健康に十分注意して、努力を続ける限り、皆さんの行く手には、希望の星が輝いております。

どうか、最後の勝利を手に収めるまで、奮闘されることを祈ります。

中学校卒業式（答辞）

きょう、この待ちに待った卒業式に臨み、校長先生をはじめ来賓のかたがたから、お祝いと激励のお言葉をいただき、ありがとうございました。

振り返ってみますと、小学校を卒業して中学生として本校の校門をくぐってから、三年間が夢のように過ぎ去りました。まだ背丈も低く、ただ中学生となったことが嬉しいだけであった入学当時が、ついきのうのことのように思い出されます。

しかし、現在の自分たちをみつめてみますと、単に体が大きくなっただけではなく、この三年間に、身につけたこと、学びとったこと、直接間接に蓄積したものの大きさが、はかりしれないものであることに気づきます。学業として学んだもののほかに、人間として心得ておかなければならない大切な事柄をしっかりとつちかってきたと思います。これはひとえに、諸先生がたのお導きの賜ものであり、また私たちをのびのびと勉学させてくださった両親のお陰です。校長先生はじめ諸先生がたには、今ようやくそのご恩がわかるようになったときにお別れしなければなりません。

このご恩返しは、今後の私たちの生き方によってなされなければならないと考えます。いま中学を巣立つ私たちは、就職組も進学組も、それぞれ離れ離れになって散っていきます。しかし私たちは、一生、自分たちの学舎（まなびや）であった故郷のこの中学を忘れることはできないでしょう。ここで学んだこと、また、導いてくださった先生がたのことが、これから先の長い人生において、私たちを励ましつづけることでしょう。

私たちは、この三年間にいつのまにか育てていたそれぞれの夢に向かって前進します。この夢が、大きな実りとなって実現していくためには、この中学で学んだことを発展させていくほかありません。

ここに深い感謝の気持ちをこめ、以上をもって答辞といたします。

高等学校

高校入学式（来賓）

厳格な入学試験を見事パスされて本校生徒となった諸君、おめでとう。

諸君は、ひとつの試練を克服しました。入学試験を中学のとき経験された人もありましょう。けれども大部分の人にとっては、おそらくこのたびの難関突破が、生まれて初めての狭き門への挑戦だったことと思います。

試験地獄にはプラス面もマイナス面もあります。確かに、不安にかられたり、苦しんだりして学業に対する意欲を失わせてしまうような場合には、マイナスです。せっかくのすぐれた才能が、精神的な負担に耐えきれずに伸び悩み、いじけてだめになってしまうということも考えられます。あるいは、幸運にもパスしてから、当人が必要以上におごった心をもつようになったり、苦しさの反動からなまけものになったり、点取り虫のエゴイストがふえたりと、かんばしくない面があります。

一面また、諸君が経験されたように、努力して競争にうちかつ自己練摩の場所ともなるのです。大事なことは、この試験地獄をどう受け止めるかという本人の心がけにあるわけです。諸君は、幸いにも、苦しみのあとの喜びを得ることができました。諸君の前途は、ひとつ開かれたのです。何が開かれたのでしょうか。私は、エリート・コースに一歩近づいたなどという意味で言っているのではありません。あるいは、中学卒業よりも、高校卒業の方が、社会に出て有利だなどという考え方で言っているのでもありません。これからの社会は、必ずしも学歴がある方が有利だというような考えを許さないようになってきています。私が言いたいことは、ひとつの目的を目ざしてそれを果たした諸君の心の世界についてです。やればできるという自信についてです。入学試験だからといって、ことさらに苦しまないで、ゆうゆうと入学できた人もおられるでしょう。そういう人は、ふだんよく勉強している結果が現われたのです。いずれにしても、入学できるだけの備えがあったからです。

この晴れの入学式で、あえて試験地獄についてくだくだしく申し上げるのは、これからも、諸君の行く先に、幾つ

も試験や、あるいはそれに類するような試練が待ち構えているので、それらを着実に踏み越えて行くために、今回の経験を十分にかみしめておいてほしいと思うからです。「なせばなる」という努力の態度をこの際、腹に据えておいていただきたいと思います。

さて、高校生活は、諸君の自主的な生活の開幕です。中学までは義務制の教育の中にはいっていました。しかし高校はすでに違います。あくまでも、諸君の向学心によって諸君が選びとった学業の場所です。ですからなまけていれば、高校に入学したかいはないのです。諸君は、自分自身の責任において勉強することになります。

諸君の輝かしい未来をつくる土台は、この三年間の高校生活にあるとお考えになって、充実した日々を過ごされるようお願いします。そして一番純粋にものごとを考えることができるこの時代に、人生にとって最も大切なものをつかみとってください。

一流大学を卒業し、一流会社に就職する、それが幸福へのパスポートだと、考えておられる人も多く、現に世間のおとなたちもそのように口にしているようです。諸君はどう考えますか。賛成の人も、反対の人もいらっしゃるでしょう。今、あわてて結論を出すことはありませんが、たとえばそんな問題も、この三年間に、じっくり考え、自分の進路をさだめることができるでしょう。

高校生となった諸君、諸君が実力をもってひとり立ちする日のための唯一の準備期間の高校生活を、悔いなく自分自身のものとして下さい。

高校入学式（来賓）

皆さん、入学おめでとうございます。

入学式といっても、皆さんが小学校へ入学された時は、まだ夢のように現実性が薄く、ただ周囲の人たちが祝ってくれるのにつられて、嬉しがっていたのではないかと思います。

中学校入学の時は、どうだったでしょうか？　恐らくは、これから始まるむずかしそうな科目の数々に、ひたすら緊張しておられたことと思います。

このたびは、入学試験という、競争場裏での初陣に、勝って入学されたのであります。自分の力ではいった学校となると、学校への愛着も感じることでありましょう。これは、いわゆる愛校心の芽ばえであります。

どうしたら、この学校を良い学校に出来るか？　それには、自分の成績を良くするばかりでなく、部活動も活発にしなければなるまい、などと、希望は果てしなく広がりつつあるのが、今の皆さんの心中だと思うのであります。事実、そうした種々の実践行動を通じて、皆さんは、どんどん成長して行きます。

体だけではありません。精神面の成長も、大変なスピードで進んで行くことでしょう。

自分の周辺に対する批判力が、格別鋭くなるのも、この時代の特徴であります。中学生時代には、好きとか、きらいとかの程度だった先生に対する認識も、堂々と理論的にその理由を発見し、またそれを発表する能力も身につけ始めるのであります。

ただ、そのころの弱点は、自分の展開した理論に対して、客観的な見方をするまでには、なかなか到達するに至らないことであります。

その極端な例として私が聞いたのは、ある高校の卒業式で、せっかくいただいた免状を破り捨てたとか、式後に先生を取り巻いて暴力をふるった事件などであります。そういう特別なのは例外でしょうが、卒業式騒動は全国二十三都府県に及び、学校も六十校に達していると報道されております。

このような事件は、きょう入学された皆さんには、夢にも考えられないことでありましょうし、この学校でそのような事件の起きたためしもないのでありますが、なぜそのような事態になるのか？　なるのは、生徒がわがままだからなるのだ、で片付けてよいものであろうか？　と考えて参りますと、私は答えは別の所にあるのではないか？　と思えるのであります。

昔の人の言葉に、経の師は会いやすく、人の師は会い難し、というのがあります。

経というのは、四書五経の経でありまして、学問ということであります。つまり、学問を習う先生には、すぐに出会うことが出来る。だが、人間としての道を教えてくれる先生には、一生のうちに一人でも会えれば、幸いとしなければならない、ということであります。

では、昔の人は、そういう、人の道を教えてくれそうな先生に会えた場合、生徒はどのようにして教えられたか、というと、東漢の魏昭という人の話が、一つの典型として、よく取り上げられるのであります。

東漢という時代は、中国の歴史の上でも、偉い学者が輩出したので有名であります。

黄憲、陳蕃、荀淑、李国、李膺などの名士と共に、郭泰という人がいました。

李膺が、郭泰に会った時、

「吾、士を見ること多し、その聡識通朗、高雅密博、いまだ郭泰のごとき者あらざるなり」

と感心し、進んで友人にしてもらったほどの人物であります。

魏昭という少年が、この郭泰の人物を知って、その生徒になりました。学校もない時代です。先生の家に住み込んで、雑用をさせてもらうのが入門することでした。ところが先生の郭泰ときたら、学問を授けるどころか、酒ばかり飲んでいる。そのあげく飲みすぎて腹をこわしてしまいました。

魏昭がそれを知って、粥を作って持って行くと、先生は、いきなり粥をたたきつけ、

「バカ！　この粥は、目上の者にさし上げようと思った粥じゃない。普通の粥だ」

と、怒鳴りつけました。

魏昭は、なるほど、粥を煮るにも、心構えがいるものか、と思って、改めてうやうやしい気持ちで慎重に粥を作り直して持って行くと、また怒鳴られてしまいました。

「バカ！　お前は、わしの言うことがちっともわかっていないわい」

そして、また茶碗ごと地面にたたきつけてしまったのであります。

魏昭は、仕方がない、また考えを新たにして粥を作り、先生の所に持って行くと、

「お前は、わしがしかっても、一度も顔色を変えなかった。教え甲斐があるぞ」

と言われ、改めて学問を教わることになったのであります。

この話は、何を語っていると思いますか？　先生と生徒の間柄というものは、双方の魂と魂がぶっつかり合って、初めて相通ずるものが生じるというのが、眼目の話なのであります。つまり、生徒の方に、先生の心を汲みとるだけの心構えがないと、先生から教えられるものは、知識だけでしかないのであります。

知識だけ教わるのでしたら、先生はいりません。テープ

やラジオ・テレビの教育番組を、テキスト片手に静かに聞いていた方が、ずっとよく頭にはいるのであります。

近ごろはよく、教育のことを、英語ではエデュケーションと言うが、Educate とは Bring up つまり、摘み上げるということであって、教育とは、生徒の持っている良いところを引き出すことなのだ、などと言います。

これは、昔の教育が、生徒をなぐってでも、知識を詰め込むことだと考えられていた時代、新しい考え方として言い出されたに過ぎないのであります。

つまり、先生側の考え方であります。

生徒が、これを鵜呑みにしていると、

「お前はなまけ者だ。そんなことでは、落第だぞ」

と威かされると、

「それは先生の引き出し方がへただからだ。自分のへた糞を棚に上げて生徒ばかりのしるとは、人権尊重なんて口でばかりうまいことといって、自分の方こそ、先生の資格がないじゃないか!?」

そうも、言ってみたくなるものであります。これは、生徒側が先生側の見方、考え方をしているから、間違った結論が出たのであります。

生徒側から見た場合、「教育される」ということは、決して自分の特徴を引き出してもらうことでは、ないのであります。

皆さんは、学校に月謝を払っています。その上、青春の貴重な、黄金や宝石にも代えられない、輝かしい時間を、学校で過ごしているのであります。引き出されるのを待っているとは、情けない話であり、損な話であります。

デパートの特売場ではないが、先生の頭脳の中に手を突っ込んでかき回して、良さそうなところを、どんどん吸い取らなければダメなのであります。

それが「教育される」ことであります。

指をくわえて見ているばかりで、

「あの先生は、引き出してくれない。私には良いところが、たくさんあるはずなのに――」

といって、先生を恨んでいるなんて、古くさいし、みっともないではありませんか?

先生の良いところを、引っぱり出すのが教育されることだと言っても、先生にだって人権があります。うまくやらなければ、労して功なし、であります。そのタイミングは、皆さんもほかのことでならよく知っておいでなので

す。

ノーアウト満塁。カウントはツースリー。だれが見たって、ヒット・エンド・ラン。野球でこうなったら、ピッチャーのねらいは、コーナーすれすれのストライクを投げて三振に打ち取るしかない。ピッチャーは、ホームをにらんで、全神経を集中、と見せかけ、さっと三塁に牽制。飛び出したランナーは、あえなくはさみ打ちで、アウト。

試験問題だって、そうです。先生の講義を聞いていれば、まず絶対に出っこない、そういうところがわかります。その中に、

「ははァ、これは出すつもりでしゃべってるぞ」

と、ピーンときたら、そっと赤丸を付けといて、試験の時は、澄ました顔で、満点をとる。粋なものです。スマートです。今の言葉で言えば、カッコいい！

ランナーを刺す時には、まずその気になれということです。勉強だって、まず先生の講義を聞け、そしてどこを取ろうか、とねらわなければ……ピーンときません。わかりますね。

本日は、入学式に当たりまして、ただ今ご列席の皆さんの全部が、粋な高校生として出発されるよう、私は心から熱望して、祝辞の終わりといたします。

高校入学式（校長）

入学試験という、人生関門の一つを突破して、高校生となられた諸君は、それが最初の体験であるだけに、欣快の情、これにすぐるものはないと、感慨にひたりたい時と思うのであります。

それにもかかわらず、諸君の面上には、不安の影が、ありありと見受けられる。

このまま、三年たったら、どうなるであろうか？　皆の顔には、そう書いてあります。

その不安の核心は、現在ジャーナリズムに特ダネを提供しつつある、大学紛争にあることは明らかであります。

この問題について語らず、頬かぶりしたまま、めでたい、めでたいと美辞麗句を述べたてたとて畢竟空論に過ぎないと思いますゆえに、私はこの際、出来るだけわかりやすく、私の意見を述べてみたいと、思うのであります。

大学紛争に限らず、思想運動の傾向のある紛争は、中心というものがあります。

大学紛争も、例によって例のごとく、革命家の指導があ

るのであります。その革命家たちが、あすにでも革命に突入するようなことを言いふらすものだから、若い大学生たちは、勉強に手がつかず一緒になって騒ぎ立てる。それが現状であります。

集会を開けば、一万、二万の大学生が全国から集まって来るけれど、中心はわずかなものなのであります。私は、この連中が、声を大にして叫んでいる革命などというものが、間もなく起こるなどとは、思っておりません。

その理由の一つは、古今の革命の歴史をひもといても、学生は革命の原動力にはなり得ないと言うことであります。彼らの中にも、このことに気づいていて、火つけ役になるのだと、悲壮に聞こえる表現を用いて、世間の同情を集めようとする者がいますが、これは言いのがれであります。革命が勃発(ぼっぱつ)するほど、国内が矛盾に満ちた時には、導火作用は、あらゆる事件を巻き込むことが出来るのでありまして、自然発生的に生ずるものであります。火つけ役などと計算することも出来ないし、そんな宣伝の手間暇もいらないものなのであります。

次の理由は、革命近しという宣伝についてであります。

中国国民党の総統であり、創始者である孫文は、異民族の支配機構であった清朝を倒した革命家で、国民から「国父」と尊敬されている人でありますが、彼がまだ同志を求めて世界を放浪しながら、亡命生活を送っていた時代の話であります。

ロンドンの宿で、たまたまロシアの革命家と一緒になると、尋ねられました。

「あなたは中国の革命家だそうだけれど、中国では、いつごろ革命が起きると予測して運動しているのですか?」

そう聞かれて、孫文はちょっと困った。そんなことを考えたことがなかったからです。しかし、正直にそう言ったら、無計画な男だと思われやしないかと思って

「まァ、三十年ぐらいたったら――」

と返事をしました。するとロシアの革命家が

「ほう、そんなに早いのか!」

と感心したので、孫文も少しばかり恥ずかしくなって

「ロシアでは、どのくらいに考えているんですか?」

と聞いてみた。ロシア人は答えました。

「私たちは、私たちが死んだあとだとしか、考えていないのです」

この返事を聞いて、孫文はすっかり感心してしまったの

です。革命とは、そういうものなのであります。革命を成功させて、あわよくば次の政権の首領になってやろう、大臣になろう、なんて考えるのは、もはや革命ではありません。反逆であり、国賊であります。

本当に苦しんでいる人民の姿を見て、よし、名誉も、地位も、金も、生命も、まして幸福な家庭なぞもいらない、私の一生を、それに捧げよう。そういうのが革命家であります。だから私自身は、赤でもないし、革命に賛成もしていないけれど、真の革命家は尊敬します。そして、あすにでも革命が起きるような気で騒ぐ人たちを、誠にお気の毒に思っております。

次の理由は、革命理論についてであります。およそ革命というものは、人民の中で、少なくも心ある人たちが、なるほどとうなずくに足る理論がなければ、革命には持って行けません。ことに日本のように、人民のほとんどが文字を知っている国では、ひとりよがりのドグマで、説得性もない理論をふりかざし、わからないと言えばバカ者扱いにしていて、革命は出来っこないのであります。

その次の理由は、革命の客観的な時期であります。革命は、戦争と変わらぬくらい人民の犠牲を強いるものであります。いや、同胞相打ち、肉親相闘うのですから、その悲惨さは、日本人には想像に絶するものなのであります。ですから、人民が困りに困り抜いて、それでも生きて行けないほどの時が到来しなければ、革命を起こしても、肝心の人民がついてきてくれないのであります。昭和元禄などといわれている日本には、革命につながる素地が皆無なのであります。

最後の理由は、人権尊重の精神についてであります。革命運動の基本も、精神は人権尊重の精神であります。人民が苦しんでいる、それを救おうという基本精神が、人権尊重の精神で貫かれていなければ、それは偽物であります。勝手な熱を吐いて、自分と同調しなければ、もう敵だと決めつける。それが偽物の証拠であります。

人民を救うためには、自己をむなしく出来るような人でなければ、革命家の資格はゼロであります。

第二次大戦中、日本はまだ日支事変と呼んでいたころです。日本軍に攻めたてられた中国の国民党政府は、ついに奥地の重慶に移って行きました。この上は、昨日まで匪賊呼ばわりしていた、中国共産党とも協同して、日本と戦おう、ということになって、国民党の総統蒋介石と、共産党

の領袖毛沢東は、重慶で会談しました。その間の一日、二人は肩を並べて芝居を見物し、人々に両党が手を握ったことを示したのであります。毛沢東の奥さんと子どもは、その前に蔣介石につかまって、殺されています。しかし、毛沢東は、そんなことはおくびにも、出しませんでした。人民のためなら、不倶戴天の仇でも許す。これだけの人物なればこそ、革命家といえるのであります。

大学紛争は、依然続くでありましょう。紛争の見通しがつかないのは、これを革命につなげようとしているからであります。しかし、鍍金ははげるものであります。革命が起きるどころか、嘘を嘘で塗りつぶしていけなくなった時、大学問題は、本来の大学を進歩させる問題に戻って来るのであります。

その時、バカだったと気がつくのは、偽の革命家に踊らされた学生たちであります。

新入生の諸君！　目前の情勢につれて、右顧左眄するのは、昔から大志あるものの、恥とするところであります。

先生は、諸君の中から、革命家が出るのであったら、尊敬するに値するような革命家になってほしいと思います。

また、これは革命家に限ったことでなく、スケールの大小は問いません。人民のために役立つ、責任をもって仕事の出来る、温かい人情と、深い学問を身につけた人に、諸君が成長してほしいと思うのであります。

きょうは、ともあれ、めでたい入学式であります。あまり長々と話も出来ないし、諸君と対話することも出来ません。

きょう私が話したことに関したことでも、それ以外のことでも、諸君が話したいことがあったら、今後、私はいくらでも時間をさくつもりでおります。

また諸君の持つ悩みで、私が相談に乗ったり、解決したり出来ることでしたら、いつでも時間をさきましょう。

わが校の生徒は、不安を未解決のままいだいていないで、すっきりした気分で勉学に励んでもらいたい。

それが、私の念願であります。

高校卒業式（来賓）

栄えある卒業式を迎えることになった皆さん、おめでとうございます。

皆さんの胸の中は、過ぎてきた三年の月日にまつわる、それぞれの思い出と、明るい将来への希望で満ちてい

られると思います。
皆さんの中には、上の学校に進学される方もありましょう。またすぐに社会に出て職業につかれる方もありましょう。
どちらにしましても、若い皆さんの行く手は洋々たるものであります。どうか、人それなりに、ある限りの力を発揮して、前進を続けて下さい。
皆さんの前途を妨げる、何物もありません。世の中は、皆さんのためにだけ、存在するのであります。
私はきょう、皆さんにおめでとうを言いたかったから、この壇に登ったのであります。でも、言いたいことだけ言って降りてしまっては、申し訳ないので、皆さんが後日、私の話を聞いておいてよかったと思い出すようなことを一つだけ申し上げようと思います。
——朱に交われば、赤くなる
という言葉を、たぶん皆さんも知っていますね。私も学校で習った覚えがあります。
悪い友だちを持つと、自分も悪くなる。このことは、確かに事実です。でも、自分がしっかりしていれば、必ずしもそうなるとは、限りません。そんなことを恐ろしがっているようでは、この社会を突っきることはむずかしい。私は、もっと積極的に考えた方がいいと思います。
私の友人に、刀の鐔を集めている人がいます。布にくるんで、箱にしまってあるのを、時々取り出しては、吹いたりさすったりしています。それを見て私は、「収集マニアって、仕方のないものだなァ。どうせ集めるのなら、昆虫とか鉱物でも集めた方が、少しは学問にも貢献するだろうに」と思わざるを得ませんでした。ある日、とうとうたまらなくなって、その通り言ってやりました。
すると、友人は首を振って、標本を集めるのと、鐔を集めるのは意味が違うんだと言って、説明してくれました。
「鐔には、昔の人の心が感じられるんだ。じっとみつめていると、この鐔を打った鐔師の心、またその鐔を刀につけて腰に差していた侍の心が通って来るのだ。いざという時には人も切り、自分の腹も切らなければならない刀に、つけるものでありながら、ここに彫られている模様が、なんとも言えない美しさを持っているとは、何を物語っていると思うかね？　これだけ立派な鐔を刀につけていた侍は、きっと強い侍だったに違いない。それでいながら、こんなに優しい美しさを理解出来る心も持っていたのだ。私は、

強く、しかも優しいその心に触れて自分の心を豊かにしたいから、鐔を集めているのだよ」

その友の話を聞きながら、私は私なりに、良い友人を持っているしあわせを、感じていたのです。私が皆さんに申し上げたいのは、これです。いい友だちをお捜しなさい。そして、そんな友だちを見つけたら、大事にして、一生付き合うようにしなさい。

友だちといえば、もう一つ大きな友だち、同級生がいますね。同級生も、大事にしなければならない友だちなのです。もちろん、大勢の中だから、きらいな同級生もいるでしょう。顔を合わせただけで、けんかをせずにいられない同級生もいるでしょう。しかし、それもきょうまでです。

五年たち、十年過ぎ、年を取ればとるほど、同級生は、いい友だちになります。

それは、不思議なのです。同級生だったということだけで、飾り気なしの交際が出来るものなのです。こんな関係の友人なんて、めったにいるものではないのです。

しかし、同級生の友人が、どんなに尊いものかは、今の皆さんには、わからないかもしれません。でも、お互いに住所だけは忘れずに知らせ合っておくことを勧めます。きっと、皆さんの人生に、潤いを増す日がきますよ。

これで、私のお話は終わりです。

青春の血に燃えている皆さんには、つまらない話だったかもしれません。

けれども、私は満足しています。何年か後には、きっと役に立つ、良いプレゼントを差し上げられたと――。

高校卒業式（校長）

私は、こうして皆さんの顔を見渡しておりますと、春風とともに、すくすくと萌え出した、若草を思うのであります。

離々たり　原上の草
一歳に　一枯栄あり
野火焼けども尽きず
春風　又吹いて生ず

という、白居易・楽天の詩を思い出すからであります。

皆さんは、きょうはまだ高校生であります。しかし、あすはもう、高校生ではありません。同じ人間が、きょうとあすの間に引かれたカッキリした一線をもって、自分も変わったのを自覚し、人もそれを認めるのであります。

柔らかい若草は、指先で摘めば根ごと抜けてきます。それが太陽を浴び、雨水に潤って育ってゆくと、指で摘むどころか、人影をも覆うに足る丈となり、大地の土石を堅く抱えた強い根は、暴風にも耐えるようになるのであります。

しかし、若草は、やがて秋となり冬ともなれば一度枯れるのでありますが、皆さんは、年ごとに成長を続けます。進歩します。

ただ私は、この進歩が、単なる知識のかき集めや、経験の吹きだまりであっては、ならないと思うのであります。地上に出た蟬が殻を脱ぐように、蚕が蛹になり、更に蛾になるように、人間としての飛躍がほしい。

それでなければ、人生なんて、つまらないものです。

では、飛躍するには、何が必要かと申しますと、勇気であります。

皆さんがこれから進む道は、各人各様に異なるのでありますが、その途中には、必ず難問に直面しなければならない時がきます。

その時、勇気が必要なのであります。勇気をもって、勇敢に問題を解決して、初めて一次元進んだ、次の人間に成長出来るのであります。

昔、虞詡という人がいました。たびたび正論を吐くので、上の人から煙たがられていたところ、ある日突然、朝歌県の知事に任命されました。知事になったと聞いて、友人が集まって、お祝いにきたのですが、赴任先が朝歌と聞いて、

「それは大変だ。命あっての物種だ。すぐ辞退しなさい」

と、そろって、行くのを反対しました。朝歌という所は、昔の都のあった所ですが、そのころは、ほとんど匪賊の巣窟のようになっていたのです。

その時、彼が言ったのが、有名な文句として、後の世までも残りました。

「盤根錯節に遭わずんば、利器を分つなし」

縦横無尽に引っからんだ根っ子の塊にぶっつかってこそ、刀の切れ味はわかるのだ。まるで虹を吐くような痛快な言葉であります。

敢然として朝歌県に乗り込んだ虞詡は、それだけで一編の小説が出来るようなスリルとサスペンスに満ちた匪賊との闘いがあって、ついに平和な県に戻すことが出来、県民を安心させたのでした。

難問に直面した時には、場合によっては、方向転換して、これを避ける必要もあります。しかし、乗り切った時、人間は成長します。
目下の世界情勢は、大戦争こそ、核のブレーキで抑止されていますが、混々沌々、いつ、どこで、何事が勃発するか予断を許しません。
わが日本も、その間に存在する以上、この情勢を度外視して存続することは、許されません。一朝事ある時、国家の力はかかって国民一人ひとりの力いかんに帰するのであります。
皆さんは、是非大きな、力強い性格を持った国民に成長して下さい。
皆さんの前途を祝して、本日の卒業式に一言申し上げました。

高校卒業式（答辞）

本日は私たちのために、かくも盛大な卒業式をおあげ下さいまして有難うございました。厚くお礼を申し上げます。
また、ただいまは校長先生をはじめＰＴＡ会長、それに在校生代表の皆さん方から心のこもった祝辞や激励の言葉をいただき、私たち一同感激しております。
私たちが胸をはずませ希望に燃えて、あこがれの本校に入学したのは、つい先日のことのように思われ、あれから三年という長い月日が流れ去ったことが、夢のように思われてなりません。巣立つ喜びと別れ行く寂しさ、まさに万感胸に迫るものがあります。
この三年の高校生活には、勉強に、運動に、いろいろつらいこと、苦しいこともありましたが、諸先生の暖かいご教導により、無事学業を終え、栄えある卒業の日を迎えることができましたことを心から喜ぶとともに、厚くお礼を申し上げます。
また、先生方が私たちの卒業間際まで、寝食を忘れて進学指導、あるいは就職運動に全力を上げて下さったことを深く感謝し、ここに改めてお礼申し上げます。
私たちは本当によき師に恵まれ、大変しあわせでした。
きょう限り私たちは懐かしい学窓を離れ、ある者は大学に進んでさらに学問を続け、ある者はこのまま社会に飛び込んで、自分の腕で働き、自分の力で生きて行くわけですが、進み行く道は異なっても、私たちは諸先生の日ごろの教え

を堅く守り、きょういただいた激励の言葉を心のささえとして、よき学生、よき社会人として強く正しく生き抜く覚悟であります。

本校で植え付けられた「努力・忍耐・誠実」の種子は、この三年の間に私たちの心にがっちりと根をはっております。どうかご安心下さい。

また私たちは、よき師に恵まれただけでなく、本当によき友にも恵まれました。議論もケンカもしましたが、文化祭、運動会、合宿訓練、修学旅行など、思い出すことは皆楽しく、懐かしいことばかりです。

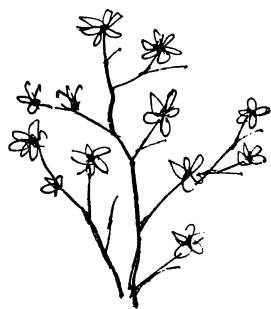
わが家のような懐かしい母校を去り、父母のようなよき師のもとを離れ、そして兄弟のようなよき友と別れることは、誠に寂しくつらいことではありますが、卒業生として懐かしい母校と結ばれ、教え子としてよき師と結ばれ、そしてさらに、同窓生としてよき友と結ばれ、共に学び、共に遊んだ高校時代の思い出や師弟、交友関係をいつまでも大切にしたいと思っております。

校長先生はじめ諸先生、長い間、本当に有難うございました。私たちは新たな決意と大きな希望をもって巣立ちして行きます。

どうぞいつまでもお元気で、私たちの前途を見守っていて下さいますようお願いいたします。

また、在校生の皆さん、皆さんとは一年あるいは二年のおつき合いでしたが、皆さんとの友情もまた、私たちの忘れがたい思い出となることでしょう。皆さんとの友情のきずなも大事にしたいと思います。また、私たちは、皆さんが、名誉ある本校の伝統と美しい校風をさらに輝かしいものにして下さることを期待しております。

最後に、諸先生のご健康と在校生の皆さんのご健闘を祈ってお礼の言葉といたします。

懇親

懇親会・歓送迎会

新年会・忘年会・クラス会など

日本人は宴会好きといわれているが、それとは別に、新年会や忘年会、同窓会など定期的に毎年催される集まりも多い。これはもちろん、気の合う者同士が誘い合って集まる場合と、会社や官庁、学校などで主催する場合とがあろう。

新年会というと、だいたい新しい年のスタートに当たってということで、その年への希望や計画をまじえた建設的な挨拶が一般的である。そして、気分を新たにして団結して仕事にとり組もうという角度になる。話の内容はビジョンと力強さにあふれたものが必要となってくる。

忘年会の場合は、この一年間をふり返っての反省、努力と苦労を謝しねぎらい、来るべき年への一層の前進を約束する、というような内容のものがひとつのパターンとなる。

クラス会や同窓会などは、卒業して数年しか時がたっていない場合は、まだ学生時代のコンパ的な雰囲気が最初から盛り上がってくるが、これが、卒業後二十年、二十五年となると、やや雰囲気も変わってくる。若い年代であれば、互いに将来への夢を語り、現在を批判したような挨拶でも場の雰囲気にはマッチする。しかし、年配者の集まりとなると、何よりこの何十年間かお互いに社会の苦労をくぐって、今日の地位と生活を築いてきたという実績がある。話の内容も、しみじみとした学生時代への懐かしみや互いの無事をよろこび合うものがぴたりとくるであろう。

しかし、いずれの場合においても、何か共通の目的なり、共通の話題をもった人々の集まりが懇親会なのであるから、互いに力を合わせて、より一層の努力をするということに結論をまとめると無難であろう。

結婚披露宴での祝辞の場合もそうであるが、新年会などでも何かことわざ、名言・名句のようなものをひとつ話の中に生かすのも有効である。ただし、こういうものの引用は一度の話の中にいくつも入れては効果がない。ひとつだけ、自分の話がより生き生きとするような名言・名句を選ぶことも話のテクニックとして大切である。

新年会・忘年会

新年会（社長）

新年、おめでとう！　結構ですねえ、この、おめでとうと言う気分！

私は、日本人は、いつからきょう、おめでとうと言うことにしたのか、調べてみたことがあります。

「それは、何百年か、ことによると千年以上前のことではないか」

と思うかもしれませんが、チョット待って下さい。私が調べようとしたのは、新正月のことです。昔は旧の正月を祝っていたのですよ。

調べてみると、すぐわかりました。明治六年の正月からでした。

二百二十八年の間、太平洋の隅っこの島で眠っていた日本が、やっと目をさまして、キョロキョロと世界をながめ回してみると、自分たちは世界の文明に、すっかり遅れてしまっているのがわかって、これは大変だ、うっかりしていると、とんだことになるぞ、と決心せざるを得なくなったのが、明治という時代の始まりでした。

さア、世界の歩調に合わせるためには、あれも変えよう、これも変えなくてはと、気づいたことを、どんどんと変えて行きました。

その一つが暦だったのです。

明治政府は、明治五年十一月に太陽暦に変えることを発表すると、翌六年の正月から、もう使い出しました。

天文学が、国家にとって最も大事な学問であるという考え方は、遠く古代中国の舜の時代から受け継がれてきているとはいえ、西暦六百四年に宋の元嘉暦を採用して以来、改良を重ねながらも、実に千二百六十九年の間使ってきた太陰暦を、サラリと捨てたのですから、まさに大英断と言わなければなりません。

そのころは、東京天文台もまだ出来ていません。東京帝大に星学科、つまり、天文学科が出来たのも、明治十二年であります。

これは、世界の国々と交際をして行くためには、どれほどプラスになったことか!?　計り知ることも出来ない大きなことでした。

大部分の日本人は、それも、上も下も、太陽暦って、どんなものか、全く知らなかったのですから、今日考えてみると、驚くべきことです。

そんな時代に、明治政府は、なぜ太陽暦に踏み切ることが、出来たのでしょう。

学者を信頼していたからです。

学者に、信用があった、とも言えます。

この、互いの信頼があったからこそ、日本発展の基礎は、早手回しに、しかも間違いなく築かれたのであります。

新年の初めに当たって、なぜ私が古い明治の物語りを持ち出したかと言うと、この「信頼」ということを、言いたかったからであります。

わが社発展の原動力は、わが社の優秀な技術陣をトップとする従業員の皆さんであります。会社は、諸君を信頼しないで、他に信頼すべき、何があるでありましょう。

昔の経営者は、何かと言うと、「人の和」ということを持ち出しました。もちろん、そのことに異議をはさむ余地は全くありませんが、その「人の和」も、お互いに慰め合えば足れりとするような「人の和」では、もうやって行けない時代になっております。

世界市場の「場」において、世界を相手に角逐するわが社は、「人の和」も、互いの「信頼」を第一義としなくては、成立しないのであります。

一年の計は元旦にあり、といったのも、もう昔の話であります。ことし一杯の計画は、もう昨年中に出来ているのが、わが社の現状では、ありませんか!?

私の希望は、この出来上がった計画が、こわれることであります。新しいアイデアが出てきて、こんな計画は、もう古い、変えようということになることであります。

わが社の盛衰は、あすの日本の盛衰に関与するところ、大なるものがあります。

皆さんの一挙手、一投足も、またわが社の社運に影響するところ大であります。ことしは、互いの信頼の上に立って、大胆かつ細心に活躍したいと思います。

多忙な私は、皆さん全体と、こうして顔を合わせる機会が、滅多にありません。

この機会に際して、日ごろの考えを申し上げて、新年の祝辞といたします。

新年会（社長）

皆さん、新年おめでとうございます。

ことしもまた、こうして元気に顔を合わせることができましたことを、皆さんともども、心から喜び合いたいと思います。

昨年は業界全般に不況の波が押し寄せ、わが社も例年になく苦しい年でしたが、皆さんのたゆまぬ努力によって、所期以上の成果を上げることができ、きょうこうして希望に満ちた新年を迎えることができて、こんなにうれしいことはありません。本当に有難うございました。ここに改めて皆さんに厚くお礼申し上げる次第であります。

さて、わが社はいよいよことし、創立二十周年を迎えます。新緑もえいずる五月に満二十歳の〝成人式〟を迎えるわけですが、ものみな生き生きと輝く希望の五月に喜びの日を迎えることは、社の洋々たる前途が約束されているようで、誠にめでたい限りであります。

しかし、いまや産業界は食うか食われるか、寸時の油断もできません。着実に発展の道をたどっているとはいえ、いまだ中小企業の域を出ないわが社のごときは、その感一層深く、まさに油断大敵であります。

幸いわが社は、皆さんの一人ひとりが「我に七難八苦を与え給え」の気概をもって下さいますので、たとえどんな不況の波に洗われようと、いかなる不況の嵐に吹きまくられようと、おぼれず、ゆるがず常に安泰、堅実な前進を続けることは間違いありません。

皆さんの努力、皆さんの協力なくして、わが社の発展はありません。発展どころか存続することさえできないのであります。

この社を不動のものにするために、そして皆さんの生活をより安定し、より豊かにするために、この二十周年を契機にぐっとタヅナを引き締めて一大飛躍を期したいと思います。

私たち経営の衝に当たる者も懸命の努力を続けますが、どうか皆さんも一層努力して社業を盛り立てて下さるようお願いいたします。

この一九七〇年がわが社にとっても、皆さんにとっても、良い年でありますよう、さらには日本の、ひいては世界の平和と幸福の年でありますようお祈りしまして、私の新年のあいさつといたします。

新年宴会（幹事）

旧年を送って、新年を迎えると、なんとなく心が改まり、また、なんとなくおめでたい気分がするものですが、こうして皆さんの晴ればれとした顔に接することができて、めでたさも上の上なりおらが春、ほんとに心がポカポカしてきます。

この「新年」がなかったら、この人の世は年の暮れも元旦もなく、ただ果てもない一日一日の繰り返しがあるだけで、牛のヨダレのようにダラダラと実にしまりのない、単調な日々の連続だろうと思います。

「新年」がなければ、われわれはこのように新年宴会を開いて新年をことほぐことも、新年が去り行くからと忘年会を開くこともできないのであります。昔の人はよくぞ新年をつくってくれました。

私のようなだらしのないぐうたら人間も、元旦ともなると、新しい年を感じて、何かしら反省もし、覚悟を新たにしようという殊勝な気になるから不思議です。

さてただいまから、第六回目の新年宴会を始めることにいたしますが、ことしも皆さんとこうやって元気に新年を祝えることのしあわせを心から喜びたいと思います。

きょうは集うべきわれらが友の全員が馳せ参じました。いわばオールスターキャストで、幹事としてこんな喜ばしいことはありません。皆さん有難う。

幹事をやるからには、奇にして珍、珍にして奇な趣向をこらして、名幹事の名をいただくべく、昨年のまだ秋も浅きころから、ロダンの考える人そこのけに考えたのでありますが、「下手の考え休むに似たり」で、とうとうこれといった名案も浮かばぬまま、きょうの日を迎えてしまいました。

そこで私は、せめてもの罪ほろぼしに、お酒だけはふんだんに用意しましたし、ご馳走も奮発しましたので、どうかごかんべん願いたいと思います。また、下戸の皆さんには、ジュース、コーラ、サイダーなど各種とりそろえておりますので、お気に召すまま、気の向くまま、存分にお飲みいただきたいと思います。

ご馳走を目の前においての長談議は、精神衛生上よろしくありませんし、目の毒、気の毒と存じ上げますので、そろそろ引っ込むことにします。実は私のノドも腹の虫もグーグー鳴いてまいりました。

では、大いに飲み、大いに食らって、古きよき友情を暖めるとともに、英気をたっぷり養っていただきたいと思います。そして、よりよき社会、より豊かな生活を築くために、このひととせもお互いにがんばろうではありませんか。

さあ愉快にやりましょう。まずは乾杯です。

忘年会（幹事）

ちょっと、ご挨拶申し上げます。

――どうも、盛大なる拍手を賜わり、ありがとうございます。私がよほど雄弁家らしく見えたのではないかと、自信が出て参ります。

この自信のまま、二、三時間演説をしてみたい心境となったものの、すでに皆さんのノドの奥もくすぐったいご様子に見受けられますから、簡単に切り上げます。

忘年会の世話係が、毎年頭を痛める問題は、会場の選定であります。近年来は、ことに好景気の波に乗ったせいか、もはや選定どころの騒ぎではなく、あいた所がありさえすれば満足しなければならない状況であります。その上、会社の営業部のがんばりによって、暮れも押し詰まってから注文が殺到し、現場は嬉しい悲鳴をあげる有り様となり、一時は忘年会どころか、ボーナスを使う暇さえ無くなるのではないかと、懸念される仕儀でありました。

その結果、忘年会の日取りも延び延びとなり、決まったのは、わずかに五日前のことであります。あわてて、会場を捜すこととなり、電話帳と首っ引きで、片っぱしから会場に当たってみると、片っぱしから断わられてしまいました。

思い出せば十年の昔、結婚式場がどこも満員で、「これはあきらめて、仏滅にでも挙式しなければ、結婚式はあげられないかもしれないぞ」と、ひそかに彼女に打ちあけたところ、頭からしかられてしまった時の口惜しさ。

あの時のお陰で、いまだに女房に頭が上がらないのであります。が、今度の相手は一人ではありません。会場が見つからなかったら、会社の全員に頭が上がらなくなる。これはえらいことになったぞ。

思わず便所で吐いた溜息を、社長に聞きとがめられたのが、運のツキ始めでありました。

ありのまま、白状しますと、社長も、

「これだけ皆に無理働きをしてもらって、忘年会ひとつ出来なかったら、わしだって皆に頭が上がらなくなる」
　とおっしゃって、友人関係を八方当たってくださいました。
　なんでも、小学校の同級生の方の、姉さんの嫁ぎ先の、つまり義兄の方の後輩が、このホテルを経営してる人の友だちだそうで――。
　かくて、やっと会場が出来た次第でございます。残念ながら、社長は本日、重要な取り引き先との会談があって、ご出席になれません。
　その代わり、社長のお言葉を、ご披露申し上げます。
「忘年会とは、年を忘れる会である。だから、いったん会場にはいった以上、重役も課長もいない。全部が同期の新入社員であるべきであるから、先輩後輩を抜きにして、存分に騒ぐように」
　ということであります。もっとも、このお言葉は、毎年同じでありますから、皆さんすでにご存知のことと思いますが、せっかくのお言づてゆえ、責任上申し上げる次第でございます。
「計りごとは、密なるを要す」
と申します。余興その他に関しましては、一切予告しないことにいたします。
え？　少しは発表しろ？
結構です。チラリズムで申し上げます。
――呑舟の大魚は、枝川に住まず。
これだけ大きなホテルで、ケチな福引きは出来ません。大きな顔をして、家に持って帰れるだけの景品は、用意してあります。
どんなに酔っぱらっても、これさえ持って帰れば、たちまち、ニッコリ！
　では、これから、年忘れといきましょう。

忘年会（幹事）
皆さん、どうもお待たせしました。
笑ったり、泣いたり、喜んだり、悲しんだり、いろいろなことがあった一九六九年も、いままさに去らんとしております。
　この年の瀬に立って過ぎし一年を振り返り、実り多き年であったと満足している人もいるでしょうし、悔い多き年であったと後悔のホゾを噛んでいる人もいるだろうと思い

ます。
わたしなんぞいつも後悔のホゾを噛む組ですが、何をクヨクヨ川端柳、クヨクヨしたとてどうなるものか、過ぎた昔は帰りゃせんと、キレイサッパリ割り切ることにしております。
わたしのように悔多き一年を送った人は、来年こそ実り多き年にしようではありませんか。
また、ことし実り多き年を送ったしあわせな人は、この一年の経験を生かして、来年はさらに実り豊かな年にしていただきたいと思います。
今宵一夜は無礼講でございますから、大いに飲んで騒いで、年忘れの一夜を楽しんで下さい。年忘れの妙薬である酒はたっぷりと用意しておりますので、心おきなく飲んでいただきたいと思います。
不愉快な思い出はさらりと流し、日ごろのうっぷんをカラリと晴らして、すがすがしい気持ちで、きたるべき新しい年を迎えようではありませんか。
下は七色のパンティーから、上はキラキラ輝くシャンデリヤまで、福引きによるプレゼントをどっさり用意しております し、ノド自慢から芸自慢、自称くろうとがゾロゾロつながって出て、にぎやかに余興を繰りひろげますから、どうぞご期待下さい。ではさっそく忘年会の幕をあけましょう。

その他の懇親会

御用納め（上役）
昭和四十四年もいよいよ本日をもって御用納めとなりました。一年は一年、三百六十五日で別に長くも、短くもないはずですが、過ぎ去ってみれば、なんとなく短いように感じられる一年であります。
本校の一年の業績を振り返ってみますと、鉄筋三階建ての偉容を誇る校舎三号館の一部が完成、さらにその第二期工事が目下着々と進行中であります。また教育面を振り返りますと、工業科が開設され、わが西都高校の画期的拡充が期待されるに至りました。
これら数々の偉大な業績は、もとより細心周密な校長の豊富な政治的手腕に負うところが多いのですが、この校長の企画に従って、勤勉、忠実にその職務を遂行されまし

た、ここにおられる皆さんの力もまた、決して見過ごしてはならないものだと感ずる次第であります。それぞれ、もてる力をフルに発揮して、ご協力いただきました皆さんに対し、校長に代わって厚くお礼申し上げます。

しかし、目を将来に転じますと、まだ安閑とすべきではないことが、身にひしひしと感じられてなりません。すなわち、施設面においても、また教育面においても、本校の再建拡充は、今ようやく緒についたばかりで、本番はこれからという気がするのであります。

正月早々、まだトソの香もさめないうちから、二号館の増築計画が脚光を浴びてくるでしょうし、老朽化の激しい一号館の改築も既定の事実となってくるでしょう。

職を事務局に奉ずる我々としては、これらのことを十分頭に入れて、今後に対処していかなければならないと思います。

しかし、なんと言いましても、我々はからだが資本であります。どうか、この年末年始の休暇中も十分健康に留意され、来年も、思う存分活躍できるよう、英気を大いに養われますようお祈りいたします。

皆さん、どうぞよい年をお迎え下さい。

クラス会

まずこれだけ全員に近い人数を集めてくれた幹事に、「ご苦労様でした。ありがとう」

を、言わせてもらう。

同窓会に出席するのは、これで結構むずかしいものだ。われわれ、都会生活者は、毎日の仕事をかかえている。かかえる一方、仕事に追われていて、常にどれかを残さなければ、食べる暇も、寝る暇もなくなる。どうしても片付けなければならない仕事さえ、放っといたり、あと回しにしたり、いわばやりくりの生活だ。

その中で、「どうしても」の部類には、同窓会ははいらない。そのくせ、仕事の息抜き、という点から言っても、一番出席したいのが、同窓会なんだ。

この心理のポイントさえ、うまくつかまえてくれたら、だれでも出てくるに違いない。

今度は、幹事がうまくやってくれた。宝石屋なんかには、惜しい才能だ。

正月六日、午前十一時、うまい食事。よほど、差しつかえのない限り、出て来るぞ、と思った。果たして、会いた

い顔がズラリと並んでいる。
　同級生って、良いものだ。顔を見ているうちに、だんだん若く、昔の顔に近づいて来る。自分の顔もそうなんだと思うと、ますます嬉しくなる。
　色彩学に、二重残像の実験というのがあるのを、皆知ってるかしら？
　真っ赤な背景の中に、一人の女がいる。顔色は黒で塗りつぶされていて、唇はグリーンが塗ってある。この絵を一分間みつめていて、視線をパッと、白い紙に移すんだ。移したばかりの時は、ただの白い紙なんだが、十秒、二十秒経つと、ハッキリ、すごい美人がいるように見える。ピンクの顔に、唇がイチゴのように赤いんだ。背景もブルーに変わっている。
　色でなくても、心理的にも、残像という現象が、あるのではないかと思う。皆の顔は見れば見るほど、子どもの時の顔になって来る。
　若いといえば、この前O君が
「わしの髪は、普通より濃いらしい。床屋へ行くと、いつも梳いてくれるんだ」
　と自慢らしくないように、自慢していた。
　きょうは、ヨーロッパに出かけてて、日本を留守にしてるから、あばいてやるんだが、床屋に確かめたら、自慢の種どころじゃないんだ。
　床屋の腕は、薄くなった後頭部を、薄く見せないように刈るのがコツで、そのために、回りの濃いところを梳いて、バランスをとるんだって、言ってた。理屈が通る話だ。
　殷鑑遠からず、わしは、もう若く見える自慢はせんことにした。
　しかし、人の振り見て我が振り直せ、というのは投網の打ち方からきてるそうだけれど、近ごろ、新聞やテレビで
「近ごろの若い者は……」
と言う人が、やたらにふえたような気がする。
　わしらも、若いころはよく言われて、覚えてるけれど、ああいうことを口に出す連中は、若い時から、よっぽど老けこんでいたんじゃないか？　だから、自分は言われた覚えがないんだ。
　正直に受け取れば、そうじゃない？
　それとも、言われたの、忘れてしまったか。

あるいは、中年のずうずうしさってので、自分のこと棚上げして、ああ言って、若いのを押えようってのかな。それはへただよね。

近ごろの若い連中、なかなかしっかりしてる。アルバイトで、世間を知ってるね。

まごまごすると、わしら以上だ。この間も、

「いいネクタイですね。物ばかりじゃない。色彩感覚が、すばらしい」

なんて、面と向かって、お世辞を言われたものだ。これなんて、今でもわしには、ちょっと言えない科白だ。

それとも、戦前のんびり育ったわしらの方が、本当のセンスがあるのかもしれない。

今の連中は、帽子もかぶらないし、皆はどう思ってるのかね？　わしも、今はかぶると爺むさいようでかぶらないけれど、若いころは、イタリアのボルサリノしかかぶらなかった。形も好きだったけれど、にわか雨に会ったって、ひと振りして拭けば、しみ一つ残らないし、丈夫で実用的だった。それと同じで、靴はドイツ・ボックスに決まってた。いいものは、いい。安かろう、悪かろう、さ。

その悪い方の典型が、今の大学だ。六三三制も、似たようなものだ。学生のレベルだけ、落とせるだけ落としといて、試験だけむずかしいんだから、真面目な連中は、恋愛する暇もない。カスはカスばかり集まって、ろくな遊びをしないんだから。今の若いものは、可哀相だ。

社会党がガタガタしてるんだから、自民党は、この際、アメリカの落とし種を、きれいにすればよい。政府の憶病には、あきれるばかりだ。

ジクジクしてれば、水だって腐る。どうしようか、こうしようか、迷ってないで、断行すれば、学生だって、国民だって、ついて行く。

わしらも、ぼつぼつ、政治家にコネつけて、ハッパかけても、若僧扱いされる年でもないと思うが、この会で、そんな相談してみるのも、面白いんじゃないかい。

金だって、暇だって、皆で分担すれば、ある程度のことは、出来ると思うがね。

とにかく、このクラスは、暴力行為公認で育ったお陰で、曲者ぞろいだ。皆が知恵を集めたら、へたな圧力団体より、リキはある。

ぼつぼつ、持ち時間超過だ。この問題は、改めて、時間をもらうよ。大正育ちが、動く時期が来てるんだから――。

団地歌発表会（主催者）

当団地がこの春の三月をもって、人口二万を越えたことは、皆様のすでにご存じのことでございます。

第一次入居以来、早くも十二年の歳月を閲しました。その間には、低価牛乳の獲得に、青果直売運動に、住民の団結はいや堅く、輝く未来に向かいつつ、新日本建設の一翼をになって前進して参りました。

世間ではよく、団地族といえば、個人主義者の集合場所のように言ったり、ひどい場合には、鍵のある牢獄などとけなしつけております。

そのような団地も、数の中にはあるかもしれませんが、これは団地の実態を知らぬ者の当て推量と申すものであります。その証拠には、私たちの団地にありましては、PTA活動が市内一番の活発さを示している一方、バレーチーム、ピンポンチーム、囲碁チーム。どのチーム一つを見ても、勝負強さについて、常にジャーナリズムの話題をさらっている、この現実が、個人主義でどう説明出来るものかどうか、考えていただければわかるものと思われます。

その他のクラブ活動についても、決して他に引けを取るものではありません。手芸、洋裁、和裁等の実用方面のほか、登山クラブあり、ダンスクラブあり、ボーリング、サイクリング、ハイキング。枚挙にいとまのない有り様でございます。

この、私どもの住み良い団地の団結を、一層高める一助として、このたび団地歌の歌詞を募集しました。その時応募された総数は、実に二百七十五編に達したのでありました。

私どもはこの全編を印刷し、全戸に配布いたしまして、公明正大、全住民の投票をもって、完全な民主主義的選抜を行ないました結果、圧倒的多数の人気を集めた一編をもって当選と決めました。

C地区十二号棟にお住まいの堀内さんの作品でございます。

この詞の作曲を、どうするか、相談の上、とにかく、これも募集してみることにしました。主催者側といたしましては、作詞はまだしも、作曲となると、並みの音楽ファンの出来ることではなし、応募者があるかどうかさえもあやぶんだものでありますが、意外、三十二曲も、それも立派な曲ばかりが集まったのであります。実にわが団地は多士

済々、人材にこと欠かぬ有能の士の集まりであることを、改めて認識した次第であります。

この三十二曲を、B地区に住んでおられます、レコード会社の宣伝部の大柳氏のご紹介で、有名な作曲家高田先生にお目にかけて、選曲をお願いしましたところ、誠に心やすく引き受けて下さいました。

私たちが、選者に高田先生を選びましたことは、露骨に申せば、儲けものでございました。

「公の、学校か何かの選を頼まれたのなら、この曲は必ずしも一等ではないけれど、少し手を入れれば、これが一番面白いから」

と先生がおっしゃって、選んだ上に、修正までして下さいました。

市場の間口さんの曲でございました。

このようないきさつで、団地歌は出来上がったのであります。

本日は、晴れの発表会であります。

お歌いになりますのは、当団地で最も早くグループ活動を始めました、ご存じ「母の歌」会の皆さん。

音楽は、高校生グループ「モジレーター」の皆さんで、あります。

覚えやすい、良い曲であります。皆さんも、すぐ覚えられると思います。

覚えたら、何かにつけて、歌っていただきたいと思います。先ほどは、団地の団結を強めるための団地歌などと、ぎょうぎょうしいことを申し上げましたが、気軽に歌って下さい。

たとえば、お料理の講習会ででも結構だと思います。

「さア、これから講習会を開きます」

などと、物理学の講座でも開くような、堅苦しい宣言をなさる前に、皆で合唱されるのも、面白いのではないでしょうか?

バレーやピンポンの試合の時に、応援歌として歌えば、そのききめもまたすばらしいと思います。

ご挨拶に代えまして、発表までのいきさつを中心に、報告さしていただきました。

同県人会

とうとう、自己紹介の順番がきてしまいました。しゃべるのが苦手で、皆さんには会いたし、こんなふうにしゃべ

らなければならないのが恐ろしいし、それで、今まできたことがなかったのですが、立ち上がってみたら、何かしゃべれそうな気になってきました。

私は、ご存じのように、絵を描いております。よく、なぜ絵かきになったのか、と聞かれます。この質問を受けると、私は返事に困ってしまいます。

「お前のような絵のへたくそな奴が、どうして、絵なんか、描く気になったんだい？」

と、聞かれているような、気がするからであります。

お聞きになる方は、どうして自分に絵の才能があることを発見し、絵かきになるには、どんなプロセスでなったのか、興味があってそう言われるのだと思いますが、この説明も、私としましては、はなはだ申しにくいことであります。

大体、絵かきになる人の大部分は、多少なりとも、経済的にゆとりのある人が多いのであります。外国へ行って、目を養い、腕をみがいて来る人も少なくありません。

ところが、私は、田舎の貧乏農家の次男坊。経済的にゆとりがあるどころか、上の学校へさえ、上げてもらえない始末でした。

田舎では食えないので、東京へ行けば、働き口があるだろうから、と考えて、出てきました。

学歴もない、コネもない田舎者の働き口など、たかが知れています。花やかな都会の生活を、ながめる余裕すらなく、職業を転々と変えながら暮らしました。無器用者で、口べたなものですから、失敗ばかりするので、一軒の家では、すぐ勤めづらくなるのです。

私はそのころ、よく不良にならなかったものだと思います。しかし、考えてみると、不良になるだけの、ゆとりが無かったのです。不良のグループと付き合う金もなかったし、少しは格好いい洋服を着たかったけれど、それを買う金はなし、無心する親類もありません。これでは、不良の方でも、仲間に引っぱり込む魅力が、無かったに違いありません。わびしく、不良になれる仲間を、うらやましがっていたのが、当時の私でした。

転々と、働き口を変えながら、東京の空気になじんできました。若いから、ただ働くだけでは、物足りません。少しはこづかいぐらい使えるようになったころには、不良と付き合う興味も消えていました。転落した仲間の、口先ほどすばらしくもない事実も、何件かまのあたり見ました。

私は、ただ、非常に孤独でした。自分を慰めるために、夜になると、外へ出て歩きました。夜の散歩が、習慣になり、趣味になりました。

そんな生活が半年ばかり続くうち、街かどでふと、絵を教える夜学の看板を見つけました。冷やかし半分にはいってみると、そこには、絵を勉強している若い仲間がいました。

試験もなし、経験もいらない、というので絵を習い始めました。

無器用でパチンコにも興味はなし、喫茶店にはいることも、田舎者で出来なかった私でしたから、こづかいの全部を使って、絵を習い続けました。

当時は、絵を描いても、あまり面白いと思うようなこともありませんでした。

こづかいがたまると、チョットした絵かきの卵のような顔をして、画材店に行き、絵の具を一本か二本買って来る。その時の興奮だけが、たった一つの楽しみでした。もちろん、絵がうまいなどとほめられたことなど、一度もありません。

二年ばかり通ううちに、やっと油絵が描けるようになりました。

写生旅行に行ける身分でもなし、住み込みの店員部屋の片隅で、ポッツリ、ポッツリと描いて行きました。暇も少ないし、絵の具を買う金も限られていましたから、ゆっくり描くのには、ちょうどいい環境でした。

都会生活の孤独を、裏町の風景に託して描くうちに、三年、四年とたって行きました。

私は、アッチコッチの店を転々としたお陰で、知り合った仲間は、たくさんいます。その中の一人が、そのころ、画商の店に勤めるようになりました。私の絵が、二十枚ばかりたまったころのことです。持って行った彼が、主人に見せると、その主人がきて、変わった絵だから、個展を開いてみないかと、勧めました。

都会の孤独を描いた絵は多いけれど、私が農村育ちのせいか、その孤独にたくましく立ち向かっている点が、珍しいのだと、説明してくれました。

展覧会に出品したこともなければ、従って賞をとったこともない絵かきの個展が、逆に珍しがられて、会は予想外に成功しました。

店員の目から見た、都会の孤独などというものは、一番

平凡な感覚なのに、絵を買うような人たちから見ると、珍しさも珍しいし、非常に斬新なものに受け取られたらしいのです。私としては、正直なところ、皮肉ともいえる、矛盾を感じずにはいられませんでした。

もう一つ、私の感じる矛盾があります。

あんなに喜んで、絵を買って行ったお客さんの中に、だれ一人として、

「うまい絵だ」

とか、

「うまく描いてある」

とか、言った人がいなかったことです。

大家の中には、うまい、といってほめると、

「私は、職人ではない」

と、きげんを悪くする人もいるそうです。けれども、私はちょっとばかり、寂しい気持ちがせずにいられませんでした。

最近の私は、絵を描くことに、楽しみを感じています。描きたい、と思うものもあります。その一つは、郷土の風景です。それも、一見平凡な農村風景でありながら、私たちの田舎だけにしかない風物です。

それは、そこに生まれ、そこに育った私だけにしかわからない、エックス。つまり、私たちだけの、共通の言葉のようなものであります。私たちには、至極平凡なものであります。

それを、私は、例によってポッツリ、ポッツリ、と描いてみたいと、思います。

一人で、案外長くしゃべってしまいました。ご静聴、ありがとうございました。

在外支店勤務の歓送会（上役）

今夜は、浜田君の栄転をお祝いする歓送会であります。

浜田君の上司として、一言祝辞を述べさせていただきます。

以前は、海外勤務の日本人は、まず、

「外国人に、バカにされるな」

と激励されて、出かけたものであります。

国威発揚が、合い言葉でありました。

まるで、敵の国に乗り込むつもりで渡航したもので、その意気込みたるや、悲愴なものがあったのであります。現地にあっての奮闘努力もめざましく、外国商社の社員に

は、驚異の的でありました。実績も、それ相応に伸びたものであります。

その結果は、どうなったかと申しますと、世界の日本人を見る目が、

「日本人には気をつけろ。彼らはユダヤの上を行くものだぞ」

と変わり、日本の海外活動は、すべての面で敵視されることになったのであります。

戦後の商社マン、特に若い人たちには、私たちが捨てようとしても捨て切れなかった、小さな国家意識が、全くありません。

現地の人たちとも、簡単に友人となれるナイーヴな面を持っています。ことに未開発国に在住した場合、現代の日本人ほど現地人とうまくやって行ける国民は、ないのであります。しかも、技術的にも文化的にも進歩した国からきているのですから、尊敬もされています。

会社の方針も変わりました。以前は、優秀な人材はことごとく本社にとどめておいて、外には放出しなかったものであります。

海外支店は、いわゆる「海外に飛ばされた者」の集まりで、その代わり骨のある豪傑も少なくなく、快談奇談にこと欠かない有り様であったのです。

現在は違います。交通も便利になりました。優秀な社員を、どしどし海外に送ります。本社にあっても、海外生活の経験がないと、幅が利かないという空気さえあります。

その悪い面も出始めています。海外ずれのした社員が、ふえつつあります。海外では、上役との間隔が接近します。これは悪いことではないけれど、はき違えると責任範囲外を独走したり、上司の意向を無視したりして、やがては統制を乱す、もて余し者に、なりかねないのであります。

それに、海外生活は勤務時間がルーズになります。これは、日本を基準とするからルーズなのであって、その土地の風習に従うから、そうなるのであります。

浜田君が海外に行けば、存分に活躍することは、今さら期待を云々するまでもないことでありますが、今ここに、三つのことを、老婆心ながら付け加えます。

第一は、早く現地になじむこと。言葉は半年一年もあれば、自然にわかります。あせってもダメです。けれども、風俗習慣、なかんずくエチケットは一日も早く、一つでも

多く身につけることです。そうすれば、各方面に行動の自由圏が広がります。まず自分が楽になります。ストレスも解消されます。生活の面白さも、吸収出来ます。「知らぬは一時(いっとき)の恥」で、なんでも、疑問が出たら、だれでもつかまえて聞いて覚えることです。覚えたら、やってみて、身につけるのです。

第二、日本に帰ってきたら、これも早く、日本の風習に戻ること。

これは、「私は日本人だから、楽に戻るはずだ」などと思っていると、かえって時間がかかり、そのうちに抜けなくなってしまいます。まだ出かけないうちから、こんな話を、と思われるかもしれませんが、帰ってからでは、間に合わないのです。私の知っている方で、帰国して十年にもなるのに、人前で音を立てて鼻をかむ人がいます。明らかに、その人にとってはマイナス一点です。

第三は、健康に気をつけることです。空気の温度、湿度、気圧、全部が変わります。水が変わります。世界一、水のうまい国に育って、水の有難味を知らないのが日本人です。食い物が変わります。慣れなければならないけれど、用心が必要です。

若いし、体力も抜群の君だからこそ、体力に任せた無理をしないように、このことを強調するのです。

在外勤務は、会社の最前線であります。営業部当面の成績が、そこにかかっているばかりでなく、将来の社運にも、影響するところ、甚大であります。

あくまでも、文明国家の国民である衿持を失うことなく、スマートに、フェアに勤務されることを希望して、終わりといたします。

元気で、行ってらっしゃい！

在外支店勤務の歓送会（謝辞）

今宵は、私のために歓送会を催して下さいまして、恐懼(く)に耐えません。

それに加えて、ご厚篤な送別のお言葉までいただきました。皆さんが、これほど私ごときに関心を示して下さるなどとは、ついぞ考えてもおりませんでした。これまでを反省し、日ごろの放縦不羈(き)不謹慎を、深く後悔する私でございます。

実は、海外行きが決まった時以来、私は私なりに考えていたことがございました。

急に変なことを申し上げるようでございますが、今まで、私は日本人として日本に生まれ、日本の中で、日本人の間で成長して参りました。このことは、何をしても、何を言っても、相手も自分も日本人同士という、気安さがあったのだなァ、と痛烈に思います。

海外で暮らすとなると、生まれて以来の、この気持ちを、まず清算してかからなければ、ならないのではないか？　とふと気づいたその瞬間から、私は別の私になったような気がしてきました。

ジャーナリズムの受け売りで、「日本人は、プライバシー尊重の観念が希薄なのではないか？」などとまるで文明評論家になったような気分で気炎を吐いたことが、心の一隅から浮かび上がってきます。私が海外で生活するとなると、たとえ勤務時間外であっても、私のすることは、良いにつけ、悪いにつけ、「日本人がした」と受け取られるとなると、私の自由というものは、どこへ行ってしまうのでしょう。

のんき者の私が、一挙手、一投足に、日本人ということを、忘れずに暮らすことが出来るでしょうか？

それとも、海外に行けば、だれでも出来るようになるのでありましょうか？　いや、人は出来ても、私は常に忘れそうです。

どうせ、メッキははげる。いっそ日本人であることを忘れて暮らしたら、どうでありましょうか？

私には、私なりの私がございます。私は、私で暮らすのが、一番私に適した暮らし方なのでは、ないかしら？

「そうだ！　どこへ行っても、相手は同じ人間なのだ。人間を相手にする以上、私は私なりに良心に従って暮らせばよいのだ」

そこまで、一応の結論を出したあとは、私の心は、知らぬ土地、知らぬ人々に接触する興味が、先行してしまいました。

資料室から、借りられる限りの資料を借り出して、読んだり、写真をながめたりすることに無上の楽しさを覚えながら、ここ数日を過ごしたのであります。

ところが、ただ今皆さんからお話を伺っているうち、急に「いや、これは大変だぞ――。もう少し気持ちを掘り下げておかないことには、向こうに着いてから、あわてなくてはならないぞ！」と気がついたのでございます。

私は、私であればいいというのは、いかにも安易な考

え方でございました。私一人が、力んでいるに過ぎません。

私を、私なりの私を発表するには、やはり言葉も必要だし、現地の風習も身につけて、現地式の表現法で発表するテクニックが必要なのでは、ありませんでしょうか?

――海外出発となって、うろたえる若い者の心理が、こんな単純な場を彷徨しているのを聞かれる皆さんは、さぞおかしいことと思います。

とにかく、いろいろとご忠告有難うございました。私には、まだとっさに咀嚼しきれません。しっかりと記憶にとどめておいて、ことあるごとに反省の糧といたしたいと存じます。

時間も迫りつつあります。今や、私に残された道は、定跡をたどることのみであります。

日本人であるという自覚を忘れないように、会社の名をはずかしめないようがんばるべく、皆さんのご期待にそむかぬよう努力をする決心を固め、勇敢に出発します。

勇敢であっても、当たって砕ける気はありません。当たって、何があっても、なんとかくぐり抜けますゆえ、皆さんもご安心下さい。

皆さん、ありがとうございます。

送別会(上役)

私は、ここにお集まりの皆さんを代表して、今般家庭の事情により、二月二十日付けをもって勇退される成井美津子さんに一言お別れの言葉を申し上げます。

顧みますと、成井さんと私共との交際は、昭和二十二年から今日まで二十余年の長きに及んでおります。その間、成井さんは入社以来、一貫して総務部会計係の事務に専念し、本社発展の基礎を固められたことは、皆さますでにご承知のとおりでございます。

成井さんが、本社に残された功績は限りなく大きいのでありますが、この際、私が強調したいのは、成井さんが老母と二女をかかえた寡婦の身をもって、昭和三十年以来、会計係長の要職につかれ、文字どおり粉骨砕身、よくその職責を全うされたことであります。

見事に家庭と職場を両立されたその努力と辛苦、これこそ風雪に耐えて咲き出でた高嶺の花一輪ともたたえられるべく、無言のうちに残した成井さんの業績は芳香馥郁として後世までの語り草となるものと信じます。

しかしながら、今、現実に女子社員の象徴的存在として役の上下、性の男女を問わず、会社の全社員から敬愛されていた成井さんを余儀なき事情ながらも、ここに、本社社員の中から失うことは誠に寂しい限りでございます。

きょうこうして、わが社には一応形の上では離れることになられるのでありますが、私共といたしましては長い間、喜びも悲しみも共にしてきた心の友だちとして、いつまでも変わることなくおつき合いできますよう、切望してやまないとともに、今後ともいろいろとご協力賜わりますようお願い申し上げる次第でございます。

重ねてここに成井さんの長年にわたるご功績に対しまして、感謝するとともに、今後のご健勝とご幸福とを心からお祈りしてお別れの言葉といたします。

送別会（上役）

このたび山田事務官が、十二月末日をもって、この大学を勇退されるに当たりまして、長年同じ釜の飯を食った我我として惜別の情限りなく、有志相謀りまして、その送別会を計画しましたところ、事務系職員全員の賛同を得ましたので、本日ここにささやかながら送別会を開くことになりました。

年末ご多忙のさ中、お差し繰りご出席いただきました山田さんはじめ、ご参会の皆さんに心からお礼申し上げます。実は山田さんと私との交わりはそれほど長くもありませんが、山田さんが過去二十五年の長い間、大学に籍をおいて、大学の発展に尽くされましたご功績の偉大さは、その履歴書をひもといただけですぐにわかるのであります。

すなわち、山田さんは、昭和十九年十一月工学部の巡視を振り出しに、二十一年八月農学部巡視に転じ、以来三十二年までの十三年間、大学の警備に任ぜられていたのであります。

山田さんはさらに昭和三十二年七月、農学部の用務員に配置換えになり、林学科の特殊な勤務につかれて今日に至ったのであります。その間、一意専心、林学科のために尽くされた功績もまた没すべからざるものがあると思うのであります。

文字どおり林学教室の縁の下の力持ちとしての苦心は、ここから始まったのでありますが、その後十二年間、甘んじて、報いられることの少ない作業員としての職務に専念、ある時は、教官からこっぴどく叱られたこともありま

しょう。また、ある時は、大変ほめられた時もありましょう。

しかしながら、山田さんは、叱られたからと言って、やけっぱちにもならず、ほめられたからと言って有頂天にもならず、終始黙々として教室の発展に尽くされたのであります。

山田さんの献身の賜ものとでも申しましょうか。今や林学科の盛名は学内外に非常に高いのでありますが、その陰の功労者としての山田さんの働きは、我々後進の学ぶべきところが非常に多いと思うのであります。

いささか駄弁を弄し過ぎましたが、この機会に山田さんの多年の功労を称賛して、山田さんの人徳にあやかりたかったからでございますので、ご諒恕願います。

本日はせっかくご出席いただきましたものの、文字どおりの粗酒粗肴、戦争中の野戦料理でも味わうような気持ちで、時間の許す限りご歓談下さいますればしあわせでございます。

新人教師歓送会（友人）

山本君、僕は心から君のきょうの日のために、おめでとうを言いたいと思う。

本来なら、われわれ教職課程を経て新たに教職の道を選んだものの多くが、東京都内または関東近県の中学、高校を希望し、その目的が達成されたときに、心からおめでとうを言うべきだろうが、君の場合だけは事情が違っていた。

つまり、君は学校の教師になるべくこの大学を選び、そして当初から赴任地を北海道の僻地と心に決めていた純情素朴な詩人であり、単身、無医村に赴く医師に似た強い意志と勇気の持ち主であったからだ。

思えば短い四年間であったが、日夜、勉学とアルバイトの間隙を縫って、君と僕とは、幾たび将来の人生計画について語り明かしたことだろうか？

「十人ぐらいしか生徒のいない山奥の分校で、兄弟のような、親子のような学級を設けて、やがて僕の手から離れていく子どもたちと、死ぬまで付き合っていけるような、人間関係を作り上げていきたいんだ……」

君のそんな台詞から、

「なんとチャチなことを」

とか、

「文学青年を気取るのもいいかげんにしてくれ」とか、
「すぐ飽きて、やめてしまうだろうよ」
など、口さがない声も聞かれた。
しかし、僕は君の不撓不屈の精神と、清純無垢な魂をだれよりも理解している友人の一人であると、自負している。
中傷や批判の幾つかは君の耳にも届いたことだろうが、君の決心はいささかも変色しなかった。教職志望者のほとんどが、東京都の窓口に殺到している中で、君だけは目標を一本に絞って悠々としていた。
いま思い起こすと、そんなことで乱痴気騒ぎを演じていた僕らの姿は、君の目になんと滑稽に映ったことだろう。僕はいま、かろうじて赤面をこらえている……。
二年と三年の長い夏季休暇を、君がいかに過ごしていたかを、おそらく知っている者は少ないのではないだろうか？
君は郷里岩手県へ帰省していた。しかし、懐かしい親もとへ帰って父母の膝下で安穏としていたわけでもなく、郷土料理に無為の舌つづみを打っていたわけでもない。君は、自ら買って出て、田舎の子どもたちのために自宅の一室を開放し、無料の勉強塾を開き、学問と精神練磨の道場を開いていたのだ。
われわれ同窓生の中のだれに、これほど学問への情熱を持ち合わせている者がいただろうか。真の教育者として自分の目ざした道を地味に開拓している君の姿勢に、だれが「チャチな思想だ」とか「キザな文学青年だ」などという中傷を投げかけることができただろうか？
――卒業試験が終わって数人のグループが、渋谷の焼き鳥屋で小さなテーブルを囲んだとき、僕たちの胸はあすへの期待で充満していたし、かすかな危惧と無限に広がる希望とで、瞳をぬらしながら語り合った。君は、得意の詩を吟じ、和歌を朗詠したっけな。
来年も再来年も、僕たちはまた、君のあの詩吟を聞きたいし、創作の短歌を待ちかねたい。そしてその席で、北海道の山ザルのような少年たちとの接触と学問の成果を報告してもらいたいと思う。
くれぐれも健康に留意し、君の新しい教育のビジョン実現を祈って、送別の辞とします。

小学校新任教師の挨拶

ただ今、ご紹介にあずかりました木村であります。私は十年前に、この学校を卒業しました。ですから、皆さんの先輩であります。

皆さんと同じように、この土地に生まれて、育ったのであります。ですから、この土地が大好きであります。

大好きでしたから、大きくなっても、この土地に一生住みたいと思いました。小さい時から、どういう職業についたら、長くこの土地に住めるだろうかと、考えました。

けれども子どものころは、どういうふうに考えたらよいのか、よくわからなくて、ただ勉強だけしていると、六年生の時に、今井先生がこられました。

大学を出たばかりだった今井先生は、私たちに、スキーの本式のすべり方を教えて下さいました。非常に基本姿勢がやかましくて、最初はバカらしいようだったのですが、少しこわい先生だったものですから、言われた通りに習っているうちに、自分ながら奇妙なほどじょうずにすべれるようになって、なるほど基本って大事なものだなァと、思いました。この学校を卒業して、中学にはいってから、今井先生が、国体の選手だったことを知りました。そうして、今井先生が、こんな雪深いいなかに先生になっておいでになったのは、スキーが好きで、スキーを私たちに教えたかったからだと知った時に、私も、あんな先生になりたい、と思いました。

「そうだ、勉強して先生になろう。そうすれば、好きな生まれ育った土地で暮らすことも出来る」

と決心したのは、その時であります。

そのころは、運動ばかりして、勉強をおろそかにしていたのですが、スキーでさえ基本がしっかりしていればじょうずになれるのだから、勉強だって、基本をしっかりやれば、もっと出来るようになるに違いない、そう思って、基本から一生懸命、勉強のやり直しをしました。

きょう、母校に先生になってこられたのは、今井先生に本当のスキーを習ったお陰だと思っております。

嬉しいことには、今井先生は、まだここにおいででした。私ががんばって十年進歩する間に、今井先生も十年進歩しておられ、今は教頭先生になっておられました。スキーを教える時は、今でも先頭に立つと伺って、今井先生らしいなァと、覚えず愉快になってしまいました。

ただし、スキーは、今の私の方が上だと思っています。そしてまた十年たてば、皆さんの中から私よりじょうずな人が出て来るのだ、そう思うと、こんな嬉しいことはありません。

私は、先生としては、まだ学校出たての新米であります。しかし、教育というものは、根本は心と心の触れ合いだと思います。

私は、教え方のへたな点は、私の真心で補うつもりであります。

体は鍛えてあります。努力は人一倍出来ます。

校長先生はじめ、諸先生、並びに父兄の皆様におかれましては、私の志のほどご推量の上、よろしくご指導、ご鞭撻下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶を終わります。

小学校校長歓送会（PTA副会長）

先生。五年の長い間、本当にご苦労様でした。先生のお陰で、この学校は、こんなに設備も整い、建て物もふえました。

先生は、この五年間、生徒を教育したばかりでなく、私共を根本から、再教育して下さいました。

おいでになった当初、校の内外を見られたあとに、本校施設の不備な点を一つ一つご指摘になって、更に数多のご計画をお示しになった時は、父兄のうちのだれがその実現を信じたでありましょう。ただ、相手が校長先生であり、おっしゃることはごもっともだったので、反対するものがなかっただけでありました。

先生の目からご覧になりましたら、私共がどんないなか者に見えたことか、思い出すだに汗顔（かんがん）の至りでございます。先生は、お言葉に従って私共が立ち上がる気配のないのをご覧になっても、ご不満な顔もお示しにならず、機会をお作りになっては、私共を連れて、学務委員、教務委員、市会、県会、果ては議会議員まで、あまねく訪問され、その連絡の糸を、文部当局のあちこちまで網のごとくに横につなげられました。

私共は、まるで投網（とあみ）の名人をあっけに取られて見ているようでありました。時にゆるやかに、時にギリギリと絞っているうちに、一歩一歩、先生は予算を獲得して行かれました。

そのご苦心のほどは、私共、終始牛尾に付した者が、一

番よく知っているのではないでしょうか？
　その間にあって、役所によっては役人風を吹かす者あり、責任を他の役所に転嫁する者ありで、ようやく事態に目ざめた私共が憤激することがあると、先生は柔らかく引き止めて下さるのでありました。
　――不言実行
という言葉があります。この言葉は、奥ゆかしい古武士にこそ適用するものであって、現代人には、ふさわしくないものだと、先生にお目にかかるまでの、私共は考えておりました。現代は、ＰＲの時代で、不言などと言っていたら、社会的落後者になってしまうと、思っていたのであります。
　しかし、先生こそ、不言実行の典型ではないかと推しはかるのでございます。
　小学校の予算というものには、枠（わく）というものがあり、国家の予算は、いかに精密なる計算のもとに立てられるものかなどと、金の出るあてのないことを、若い役人が滔々（とうとう）懸河の弁を振るい出した時、
「君だって、小学生だった時がある」
　と一言。凡人の私共にはわかったような、わからないような一言をつぶやかれた先生の横顔は、静かで、役所の窓からさす微光に包まれていました。話の腰を折られた役人が、最初怒ったかに見えましたが、次の瞬間に、はッと顔色を変えて立ち上がり、先生に向かって深く最敬礼をしたあの光景は、一生私共の瞼（まぶた）に刻まれて残るものであります。
「真実ほど強いものはない」ということを、
「真心のない人間はない」ということを、
先生は、無言の中で、敵味方に教えられたのであります。役人の目にすら、涙が光っていたのであります。
　先生が、行ってしまわれると伺って、生徒よりも、先生方よりも、残念に思うのは、私どもであります。
　しかし、達人である先生は、淡々としておられます。私共は、これもまた、不言実行の先生が、態度でお教えになっているのだから、明るくお送りしなければ、先生に相済まぬと、自ら言い聞かせ、申し合わせております。
　先生のあとは、ご教示を思い出しつつ、私共なりに、努力する覚悟でございます。
　先生、お元気で――。

小学校長転任の挨拶

私は、皆さんと、お別れすることになりました。よその学校の校長先生になって行くことに、なったからです。

私は、この学校が大好きでした。

生徒は可愛らしい子ばかりだし、先生は良い先生がそろっている。校庭の広いことも、回りが緑で囲まれていることも、何もかも大好きです。

こんないい学校に五年の間校長先生をしていて、残念なことが、たった一つあります。

皆に、ためになる、面白いお話を、たくさんしてあげたかったのに、忙しくて、それが十分出来なかったことです。

でも、皆がよく勉強するので安心です。校長先生がお話するより、もっとためになる面白い本を、皆が読めるようになれば、校長先生は、その方が満足なのです。

校長先生から、皆にお願いがあります。

それは、水泳です。今年の夏には、学校にプールが出来ます。そうしたら、皆が泳ぎを習って、だれでもこの学校の生徒全部が、泳げるようになって下さい。

泳ぎを習う時は、先生のいうことを、よく聞くのですよ。プールにはいる時も、はいる前に準備体操をたっぷりしてからはいるのですよ、そうすれば、足がつって泳げなくなるようなことはありません。

水泳は、一人だけでじょうずになろうと思っても、なれないものです。

皆が泳げるようになると、必ず一人、速く長く泳げる人が出てきます、すると、またそれを追い抜く人が、出てきます。そういうふうにして、皆がだんだんじょうずになってくるのです。

皆がじょうずに、元気一杯に泳げるようになったら、校長先生は、この学校まで、見にきますよ。お約束します。

では、それまで、お別れです。

皆、元気で勉強して下さいね。

夏に、またきますよ。

さよなら!

中学校長退職慰労会（有志）

今般、校長桂木先生のご退職に際しまして、僣越をわきまえず住民代表として、ご挨拶申し上げます。

思えば、当地は県北随一の商工業の中心でありまして、民風は競争意識の強烈をもって誇りとし、何事もよそに負けまいと、ひたすら努力を重ねて参りましたが、実はその一点が、またマイナス面でもありまして、文化水準の低いことも、県北随一の土地柄であったのであります。そこへ、先生が就任してこられました。先生の目からご覧になったら、ずいぶんガサツな人間の集まった所と、思われたことと思います。

たった一軒の書籍店さえ、営業不振、まさに閉店をあすに控えている始末だったのでございます。

しかし、先生は、そんなことを顔色にもお出しにならず、暇さえあれば、用務繁多の校長の身でありながら、克明に、率先生徒の自宅を訪問され、胸襟を開いて私共住民と打ち解ける機会を、お作りになりました。

――井の中の蛙、大海を知らず

とでも申しましょうか、その先生のご心中を推量するだけの教養もなかった住民たちは、ひそかに綽名をつけて、のんべえ校長、などと陰口をきくばかりだったのでありますす。顧みますれば、まさに冷汗三斗の思いであります。

しかし、地に埋もれていても、宝石はついに輝く時期が来るように、生徒はもちろん、父兄一同、いや住民のすべてが、理由のなんたるかを、知ると知らずの別なく、等しく先生の感化を受けるようになりました。

青年たちの間には、音楽を聞く会が、女子青年のグループでは、名作を読む会が、いずれも自然に出来上がり、発展して参りました。

先生のお仕事ぶりは、私共にはすべて、奇術師のように、拝見されるのであります。

いつか、学校に立派な体育館と図書館が新築され、医務室も学校としては立派すぎるくらいの設備を整えてしまいました。

運動も盛大となり、新設のプールでは、日本水泳界の次期ホープと呼ばれる、蛙の子も育とうとしております。

野球・サッカーをはじめとするクラブ活動の発展も、まためざましいものがあり、今や、スポーツ校としても県下第一になりました。しかも、進学率も、県下第一でありますす。

以上は、教育家としての先生のご活躍の一端でありますが、専門外の、先生のご意見、ご高説が、当地産業の発展に寄与されましたことどもを数え上げれば、一日しゃべり

続けても、尽きることがないと言って、決して過言ではないのであります。

このたび、先生が校長のイスを後進にお譲りになると知った折りの、私共の驚きは、いかばかりであったでありましょう。

早い話が——、私の息子は先生に教えられた後、順当に進学して大学を終え、目下は東京で、小企業ながら会社の中堅社員として奮闘しているのでありますが、先生ご退職のうわさを耳にするや、さっそく電話をかけてよこしまして、先生ご留任の運動をしながら、目的を果たせなかったこの親父を、無能者呼ばわりする始末でございます。

ひるがえって考えますに、先生が他校に転出なさるのでしたら、私共も粉骨砕身、いかなる手段をもってしても、お引き止めすることは、あながち不可能ではないと、うぬぼれるものでございます。けれども、先生ご自身が、現職を引かれ、この地で悠々自適される決心をお固めになったとなりましては、惜しみても余りあることではございますが、先生のご意志を尊重するより、仕方のないことでありますます。引き続き、当地にお住みになるのが、せめてもの慰めでございます。

本日は、地元青年会が発起して、先生への感謝への気持ちの万分の一でも表現しようという、慰労会であります。私ごとき老骨が、推参いたし、愚痴めいたことを申し上げまして、誠に失礼いたしました。

先生！　今後ともお元気でご指導下さるよう、よろしく、お願い申し上げます。

退職慰労会（校長謝辞）

本日は、かくも盛大なる宴を張っていただいて、身に余る光栄であります。

先ほどから、過分のおほめの言葉ばかり聞かされまして、私の脇の下は、冷汗の流れっぱなしであります。

私がきょう、この席に喜び勇んで参ったのは、本心を申せば、酒の香に引かれたのであります。昔から、一人をあざむくことは可能であるが、衆目をあざむくことは出来ないと申します。

学校の発展は、決して私の手腕でもなければ、私が奇術を使ったせいでもありません。在校の諸先生と住民の皆さんとの努力の結晶でありまして、私自身はまさしくのんべえ校長でありました。あすからは、のんべえ爺でありま

す。

元来、私は酒を飲むと、大いに愉快になるたちで、愉快になると

「おい、体育館を建てようじゃないか」

などと、気炎を上げたくなるのでございます。

これで、私が会社に勤めでもしている身分なら、のんべえのホラ吹きで済んだのでありますが、たまたま私が校長だったばかりに、回りの人も放っておくわけに行きません。

無理して予算を組んだり、寄付を集めたり、正直に実現化に努力する。正気に返って、これを知った私は、今さら、

「いや、あれは酔余の冗談だった」

などと言うわけにはいかない。校長であり、教師であります。

申し訳がないから、さも立派な企画を立てたような顔もしなければならず、言い出しっぺで、無い知恵を絞って、完成させなければならない。

そういうわけで、私が酔っぱらうたびに、学校が立派になりました。

今、本校に在職中の先生も、大部分は、私が他県へ行くたびに、酔った勢いで口説いて連れてきてしまった先生ばかりです。もちろん、直接口説いた先生もあり、教育委員を酔いつぶして、うん、と言わせた先生もあります。

ですから、私の自慢といえば、本校粒よりの先生方です。これだけは、実験済みの、保証つきです。私が安心して、景気のよいことをしゃべって回っても、彼らがちゃんと後ろの舵を取ってくれるからです。だから、私はますます安心して飲む。まさに悪循環の反対です。

飲めば飲むほど、学校は良くなる。人には尊敬していただける。

俗に酒は百薬の長と言いますが、私にとっては薬どころではない。万物の母であります。

当地の方たちも、また私の酒を受け入れてくれました。元来が、酒どころでもあります。

いつの間にか、私には、当地に骨を埋める決心が出来ておりました。よそで死ぬも一生、ここで死ぬも一生。どうせ死ぬなら、酒のうまい所で死んだ方がいい。

しかし、校長という職務は、聞こえはいいが、はかない浮き草稼業なのであります。一朝、転任の辞令がおりる

と、

「ハイ、かしこまりました」

と、他の学校へ行かなくてはなりません。

行くまいとしてがんばれば、がんばれないこともないけれど、がんばって残ったのでは、角が立つ。

酒というものは、角を立てて飲んでうまいものではありません。今さら、まずい酒を飲むのは、愚かな話です。

幸いにして、娘は当地で片づきました。居候にしてもらう話もつきました。

角の立たないうちに、校長などという堅いイスを人に押しつけ、浴衣一枚でゆっくり飲もう、というのが、私の腹の虫の訴えであります。

今後は酔うごとに、安心して大ボラを吹いて暮らすつもりであります。

よろしくお願いします。

工場長就任挨拶

一週間前に、私は社長に呼びつけられました。

「君に工場長をやってもらいたいと思うが、どうかね？」

と言われ、びっくりしてしまいました。考えてもいないことだったし、やって行けそうもなかったので、正直に

「抜擢されることは光栄ですが、とてもやれそうに思えません」

と、その場でお断わり申し上げました。

社長は、簡単に拒絶するところは、いかにも君らしい、と言いながら、考えておくようにと言われました。

私は、すっかり動転してしまったのです。本来、工場長という職務は、工場経験豊かな、どちらかというと、その工場はえ抜きの人がなるべきだと思っております。しかも、私はこの会社へ入社以来、ズッと事務家として仕事をしてきたのです。

それでいながら、凡夫のあさましさ、工場長ともなれば、月給も上がるだろう、ボーナスも何ヵ月分か多いはずだ、などと甘いことを考えたり、工員の皆さんに、知らないことばかり聞かれて、赤くなったり青くなったりする夢を見て、うなされたりする有り様でした。

全く、夢にも考えなかったポストだったのです。

二日後また、社長に呼ばれて

「どうかね、決心が着いたかね？」

と、聞かれました。

「とても、出来そうに思えません」
　また、正直に申し上げると
「それで、男かッ?」
　って、今度は頭からしかられてしまいました。うん、と言わざるを得ませんでした。
　私は、事務家ではありますが、幸いに学校の方は工科出身であります。機械の方を一通りやって物足りず、電気の方をやり直しました。だから、なんとかなるだろう、と思って決心したのです。
　このような状態で就任した私でありますから、着任後直ちに工場の習慣を改革したり、適材適所のモットーで配置転換をするなどという計画は、全然ありません。
　皆さんは、前任の片岡工場長の時と、同じ気分で、毎日を働いて下さい。
　私は、一ヵ月でも、二ヵ月でも、あるいは半年になるかも知れないけれど、黙って工場内の様子を見物させていただきます。私自身が、納得の行くまで研究します。その上で、改革を要する点は改革するよう、私の計画を練り上げ、私の理想の工場のイメージに近づけるつもりでおります。
　もっとも、その間も、私は月給をもらっている身分ですから、工場長の決裁を要する問題は、これは遠慮なく持ってきて下さい。私は元来気短で、グズグズしていることがきらいな性分ですから、なんでも即決で行くつもりです。
　ついでに、私の欠点の一つを申し上げておきます。私は、上役にペコペコすることがきらいです。私がすることがきらい、人がするのを見るのもきらいです。
　挨拶は、挙手の礼一つで結構、直ちに用件にはいっていただくように、お願いします。
　もう一つの私の欠点は、潔癖であります。どんなことでも、キチンとしていないと、安心していられない、あわれな男であります。
　ここでは、作業開始の一時間前に出社することになっていると総務課長から聞きました。大変結構なことではありますが、この一時間をダラダラとムダに過ごすのは、つまらないと思います。
　まず三十分の体操。続いて三十分の清掃。心もキチンとさせ、身の回りもキチンと片づけてから、作業にかかることにしたいと思います。
　何事も、キチンとする。ということで、もう一つ――。

公私の区別を、明瞭にしていただきたいと思います。

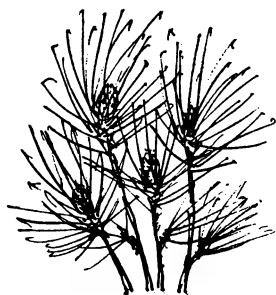
作業時間中、作業に専心することは、言うまでもないことですが、終了後は、私は一個人にかえります。一人の友人として、あるいは一人の同僚、ないし後輩として付き合っていただきたい。

私の唯一のとりえは、交友が多いことです。私には相談に乗りかねることでも、友人に頼むという便利な術もあります。何か困ったことが起きた時でも、なんとかお相手出来るのではないかと思います。

――乗りかかった舟

という言葉があります。騎虎の勢いかもしれませんが、私としては、全身をこの工場にぶちこむより、ほかの道はないと覚悟しております。

公私ともに、よろしくお願い申し上げます。

葬祭

弔　辞

故人に対する追慕の心

葬儀や告別式場で弔辞を述べることとは、大変重要な役割である。弔辞は単なる私的なお悔みと違って、巻き紙に書いて霊前で朗読するのが普通である。たまには口頭で語る人もあるが、文書にして読み上げた方が格式も感じられ、またその場のエチケットにかなっているように思われる。

弔辞は故人に対する追慕の心と惜しむ心情が、全面にあふれていなければならない。形式ばったきまり文句や美辞麗句を並べても、心からこみあげてくる話し手の悲しみがなければいい弔辞とはいえない。なんとなく頼まれたからといって弔辞を読むことは、決してすべきことではない。

弔辞は、故人の人柄や業績をしのび、追懐の情を述べ、悲しんで余りある訣別のことばを表現するものであるが、これは故人との関係の深さによって、その強弱が出るのは当然であろう。また、生前いくら親しかったからといって、故人を攻撃したり批判したりするような話題は慎まなければならない。

弔辞の書き方とマナー

弔辞の用紙としては巻紙か奉書を使う。それに毛筆で、なるべく崩さず楷書で書く。書きだしの行の前に10チセンほどの余白をとることが必要である。

書きあげたら、左からまず二つ折りにして、それをまた三つ折りにする。それから丈を手前に二つに折る。

弔辞の包み紙は奉書を使用し、奉書一枚を半分に切り、左前三つ折りにして中におさめ包む。包み紙の上には「弔辞」または「弔詞」、「弔文」と書く。

弔辞は右手に持ち、霊前に進むのである。故人の肖像に礼をしてから包みを開き、両手で目の高さにささげて読む。読み終わると、左側から巻いてたたみ、包み紙におさめて霊前に置くようにする。

便箋（びんせん）にペン書きの弔辞もあることはあるが、これはなんとなく雰囲気にそぐわない。弔辞は普通、霊前に置いてくるものであり、それを故人の家族が大切に保管するのが習慣となっているから、あまり略式では手軽すぎる感じがす

る。

友人の死

竹馬の友の死に

平林信夫君、今、お柩(ひつぎ)の前に佇立(ちょりつ)して、あなたに永遠のお別れの言葉を申し述べます。

袖振り合うも他生の縁と申します。人生を旅路にたとえるならば、あなたと私は、こもごもに語り合いながら、一緒に道を歩いてきた同行者でした。不思議なご縁でした。

私が疲れ、弱りきっているとき、あなたは励ましの声をかけてくれ、手を貸して助けてくれました。私もまたあなたに対してそうしようと心がけていました。ところが、ついに私の力では及ばないときがきてしまったのです。もはや、あなたは、私がどんなに大声で声をかけても答えてくれない人になってしまいました。

思えば、長いお付き合いでした。学校時代の楽しかった思い出、それぞれ方向の違った就職、結婚のこと、子どもたちのこと。お陰で、子どもたちも、私たち同様親しく行き来して、私たちの付き合いは、私たちの家庭の付き合いにまでなりました。

こうなりましたのも、何かの定めなのでしょう。そして、それは楽しく幸福な定めであったのです。しかし、今あなたは、私をあとに残して、幽冥境を異にしてしまわれました。悲しみに耐えません。いつかは、どちらかがこうならなければならなかったのですが、今その時がきて私がこうしてお別れの言葉を述べなければならぬ立ち場に立つとは、思いもよらないことでした。これが運命であるならば何を恨むこともできません。

私たちは、互いに友情の喜びを味わい尽くしてきました。この世に生まれて、私は、あなたによってそれが与えられたことを感謝したい気持ちです。世間には、孤独や裏切りなどの悲痛をなめながら、一生を送る人もあるようです。しかし、私たちには、終生変わらない信頼し合うしあわせが与えられたのです。私は今あなたの御霊に向かって、この感謝の心をはっきりと告げたいと思います。

これからは、あなたのいない悲しみをかみしめて生きて行くことになります。そして、やがてはあなたのもとに行くときがまいります。

平林信夫君、天にあるあなたの御霊が永遠に安かれと祈ります。さようなら。

親友の死に

山本君

私共大学時代の級友が、久々に地方から上京した友を迎えてクラス会を開き、学生時代の思い出について、仕事について、そして家庭について、夜の更けるのを忘れて話に花を咲かせたのは、つい先日二月十日のことでした。その時、君に近々お孫さんの出来ることを知り、私共は我らの仲間のおじいちゃん第一号として祝福したものでした。その祝福をニコニコとして心から嬉しそうに受けられていた君、その君が忽然（こつぜん）として幽冥境を異にしてしまったとはなんということでしょう。

君の霊前で今こうして弔辞を捧げていながらも、まだ私共は君の死を信じかねるような気持ちです。

私たちは大学時代はもちろんのこと、卒業後も長い間一緒に仕事をしてきました。君が通産省鉱業研究所に入所したのとほぼ同じころ私もこの研究所にはいりました。机だけしかなかったこの研究所で君は選鉱部門を、私は採鉱部門を担当しました。この研究所も日がたち、年を経るに従って、名前を変えながら今の資源技術試験所に育ちました。君はこの試験所の草分けであり、育ての親でありました。鉱業研究所当時、君が担当した黒鉱の問題は、二十年後の今、鉱業界の脚光を浴びております。研究は常に時代に先行しなければなりませんが、君はそれを実行してきました。

山本君、君は学生時代からそうでしたが、常に先を見て進み、しかも温厚にして悠揚（ゆうよう）迫らず、事を処してきました。君のその態度は、常に私共の鏡でした。君の薫陶を得た試験所の研究員は、君が三井の研究所に移られてからも、すくすくと育ち、今は各分野で活躍しております。君の悲報に接して彼らもまた驚き、悲しみの涙にむせんでおります。

まだまだ日本の鉱業界のために働いてもらわねばならなかった人、惜しい人、頼りになる人を私共は忽然として失ってしまいました。

君はもう現世の人ではありません。再び君の温顔に接することは出来なくとも、思い出の中で友として君を呼ぶことでしょう。また君が残された仕事の上の数々の教えに、

私共はいつまでも君の声を聞くことでしょう。

いま永遠の別れをするに当たり学友の一人として、また共に同じ職場で過ごした同僚の一員として、長い間の君の友情と恩義に感謝し、謹んでご冥福を祈ります。

さようなら山本君、さようなら。

随筆作家の死に（友人）

来る者、去る者、この世もまた永住かなわぬ仮の宿であると申します。この現世のありさまを、逝く川の水にたとえて古人も嘆いております。

外山栄三郎氏のご霊前に立ち、今はただこのあきらめによって、お別れの悲しみに耐えなければならぬのかと、うつつのわが身を見つめ、わが心に言いきかせています。外山栄三郎さん、私たちは、あなたを栄さんと親しく呼んで交わりを結んでまいりました。その栄さんが、今は現世になく、一基の位牌となって、幽冥境を異にする人になってしまったことを、私の貧しい頭脳では、どうしても肯じえないのです。あなたは、一体、どこに行ってしまわれたのでしょう。あれほど、生き生きとしていた肉体と心は、一体どこへ行ってしまわれたのでしょう。全く、居なくなってしまうということが、信じ難く、急にそのあたりから、イヤァと言って例の笑顔を現わすような気がしてならないのです。

けれども、実際には、やはりあなたは、この現世から、居なくなってしまわれたのですね。そう認めようとすると き、暗いつかみようのないこの世のはかなさが、胸一杯に広がってまいります。

理性では認めないわけにはゆかず、そのくせ心では、どうしても納得がゆかないというのが、正直に言って現在の私の気持ちです。栄さん、あなたは、本当にどこに行ってしまわれたのでしょう。

農林省技官、外山栄三郎氏。そして私たちには、山岳雑誌『アルプス』同人の栄さん。われらの仲間栄さん。あなたは立派な測量技師として、三十六年の短い生涯を閉じられました。あなたが公職を通じて果たされた社会的貢献には、はかりしれぬものがあることと存じます。そしてあなたがその仕事に注いでおられた情熱の強さ深さからいって、これからあなたが仕遂げていったであろう有益な業績は、現在までの仕事の軌跡の上から、さらに絶大なものがあったであろうことは想像に難くありません。

しかし、私たちの栄さんは、私たちにとっては、あなたの業余の手すさびから生まれた随筆作家としてきわめて人間的な喜怒哀楽が息づいている懐かしく親しい魂そのものを意味しています。

あなたは、笹群れに身を潜めて、じっといたちの足音を聞きわけていました。谷川から捕えてきた山椒魚(さんしょううお)の死に涙を浮かべていました。山の赤土をつかんで、遠い江戸期の陶工仁清に思いをはせていました。

栄さん、あなたは、自然の子でした。それは粗野な自然児ではなく、ひとたび自然と対立することを始めた人間の歴史の悲しみを知りつつ、改めて自然の声に耳を傾け、自然を慕う洗練された美の体得者としての自然の子なのでした。つまり、あなたは、真の文化人でありました。

あなたの文章は、正しく人間の心の琴線に触れた自然の声を私たちに伝えてくれたのでした。

そのあなたのペンは、永久に動かなくなってしまったのです。あなたの言葉は、再び新たに声となることはありません。誠に、悲しく寂しいことです。青森なまりのあるあなたのあの人なつっこい話しぶりに、二度と接することができません。あの純粋な目の光り、柔和な表情、すべてが私のイメージの中に躍動していますが、すでに、現実のものとして眼前に現われなくなってしまいました。

栄さん、今最後のお別れに臨んで、ただ、こう呼ばせてください。栄さん。

あなたがいずこの地に行ってしまったのか私にはわかりません。しかし、あなたの魂はいつまでもどこかで、残る者たちへ生き生きとした勇気と自然への尊敬を、教えつづけることでしょう。

その魂のありかを、私たちはあなたの文章を通じて模索し、たずねあてることができるに違いありません。どうか栄さん、いつまでも、どこかで私たちをお見守りください。

栄さん、あなたが最後までお心残りでありましたことでしょうご遺族の方々には、これからは、私たちはあなた同様にお付き合い願い、少しでもお慰めの一助になるつもりでおります。栄さん、安らかにご永眠ください。

自殺した友へ

堀内清史君、

すでに帰らぬ君の御霊に、深い悲しみをもって呼びかけ

ます。自分自身の死を自分で選ぶ。これほど、思いつめることは、この世の中にほかにありません。君は、君の全存在で、死をみつめ、そして、その方向に向かって踏み切ってしまいました。

君の心中についていろいろ考えてみましたが、結局、動機がなんであったかということについてはわかりません。ただ、わかることは、君がそこまでぎりぎりに思いつめたというそのことなのです。僕は、あまりに真剣な土壇場に立っていた君を思い、その切なさがひたすら悲しいのです。

君は、いい友でした。君との交わりのひとこま、ひとこまの情景があざやかに思いだされます。僕が精神的なショックや悩みで沈みこんでいるときは、君はいつも言葉少なに慰めや励ましを与えてくれました。僕は、そのたびに、君の短い言葉に、暖かい心づかいをジーンと胸に感じたものでした。

それに比べて、君の心の苦しみに対して、僕は、何物も君に与えることができなかったのです。どんな素朴な方法でもよかった、幼稚な言葉でもよかった、僕は自分の心の限りをぶちまけて、君に何かを言うべきだった、何かをしてやりたかった。今となってはただの愚痴にすぎなくなりますが、こうした後悔が悲しみとともに僕の心を深く領しています。

君は努力家で、聡明で、そして優しい心の持ち主でした。君と話を交わしたあと、もっと勉強しなければならないという自省とやる気が心に湧いてくるのが常でした。君との交わりが、どんなに僕の励みになっていたかわかりません。つまり、僕は、日ごろ、君から教えられ、受け取るのみで、君に与えることの乏しいことを自覚していました。

それだけに、今度の君の決行は、激しい衝撃となって僕を打ちすえました。呆然自失しました。そして驚きからさめながら、今、またとない友を失った悲しい現実をみつめているのです。

星の夜、あの海岸の断崖から入水した君に、僕は愚かなたどたどしい思考で、結論を出そうなどとは、毛頭思いません。いつか、君の心のうちが、実感で感じられる時があるかもしれず、そのとき、自分は何をどう考えるかということに問題が残されているのだと思います。

今はただ、僕が知っている限りの君という人の全体、君

の呼吸、あの懐かしい君がいなくなってしまったことの悲しみと恨みがあるのみなのです。
君の苦しみは、僕の想像もつかない苦しみだったに違いないのです。純粋な君が、純粋さのゆえに苦しみ、その苦しみを自らの手で死によって解決してしまったのです。君の死によって、あとに残る人たちが、どんなに悲しむか、愛情深い君がそれを考えないはずはないのですから、そのことからでも君の苦しみがどんなに大きなものであったかがわかります。
それにもかかわらず、堀内君、僕は、君に生きていてほしかったのです。何がなんでも生き抜いていてほしかったのです。僕には君の考えを一転させるような、どんな力も持っていないかもしれませんが、この強烈な願いで、君をとどめたかったのです。
今は、人間世界のすべての欲望と悲哀から去って天にある君の御霊に、相変わらずこんな一途なことしか言えない僕を許してください。会者定離とも言い、また死は永生であるとも言います。どちらも真実のような気がします。
地上を離れた君が、どこか天空でその純粋な美しい魂を永久に輝かせつづけていることを信じたいと思います。堀内君、君の安らかな永眠を祈ります。

水死した同僚へ

松本君、
このようなお別れの言葉を述べなければならない運命のきびしさに恐れを抱くとともに、運命として思い切ってしまうことのできない悲しみが胸をふさぎます。
松本君、君は、善良で誠実な良き同僚でした。ことしの三月、君が他の課に移られるまでは、同じ材料課にあって、デスクを並べ、職場における喜びも苦しみもともに分かち合ってまいりました。
君は、仕事に対して非常に責任感の強い人でした。ひとつの仕事を、細大漏らさず、徹底的に仕上げなければ気の済まぬ人でした。まあまあ、このくらいでよかろうというあいまいさがありませんでした。君のこの態度は、私たち同僚社員の範とするところでした。そして、現在の若さで、この仕事ぶりを示している君は、やがて成熟した年配に達するときには、立派に多くの人を指導する立ち場に立つに違いないという確信を私どもに与えておりました。
私たちは、君を信じ、君と一緒に仕事ができることに、喜

びをもっていたのです。
　時には、会社の帰りに、安酒で気炎をあげ、議論したものでした。とかく、酒の席では、他人の陰口などが話題になりやすいものですが、君が一切、陰口をきかないことに、かねがね気づいておりました。このことは、君の寛容な性格を現わすとともに、自分のことは自分で責任をとるという、君の堅い信条の現われとも受け取られました。君の怜悧（れいり）さと意志の強さを、心の底に刻み、学ばんとしていたものです。
　なんという残酷な、そして呆然たらざるを得ぬ出来事でしょう。
　たまたま私は同行できなかったけれど、君が海水浴に行くということは知っていました。最後の別れになったあの日、君は国電の改札口に向かいながら、「少し、泳いでくるか」と言ってヒジを上げて動かし、笑って人ごみに消えました。そのときの「じゃ」と言って別れて行った君の顔が、ありありと思い出されます。
　太平洋の波が、君の生命を遠くへ連れて行ってしまいました。心臓マヒの危険ぐらい知らないはずのない君でした。不運というのはこうして訪れるのでしょうか。
　前途有為な君が、あまりに短い生涯をこうして閉じられたことは痛恨きわまりなく、身近にいたひとりとして悲しみに耐えません。
　君への親しみを強く抱いていた私は、ますますこの悲しみが深く食い込んで来ることでしょう。しかし、君がその短い生涯で輝かせてくれた価値をかみしめ、それに学んでこれからの人生を生き抜いて行きたいと思います。君が、永遠に美しく天にあることを信じて。
　松本君、名ごりは尽きないが、安らかに永眠されることをお祈りして、お別れの言葉といたします。さようなら。

山で遭難した友へ

田川明夫君、
君にこのような言葉を述べる日がこようとは夢にも思っていませんでした。しかも、その日がこんなにも早く、また私がその立ち場に立とうとは。あまりに厳粛な現実が、はっきりしてくればくるほど、呆然とした衝撃の中から深い悲しみが湧いてきました。
　君は、明るい純真な学徒でした。君は志望していた大学に入学することもでき、いよいよ好きな学問研究に専念で

きる道が開け、君も君の周囲の人々も喜び、私たち友人も嬉しかった。君が高校時代の受験期に一時中止していた登山を、また始めたことについては、「遭難するなよ」と冗談混じりに注意はしたけれど、それほど深く気にもとめてはいませんでした。

勉強家の君が、体づくりのスポーツをやることは好もしいことだと、ただそのように考えていました。

君の大学の山岳部は、すぐれた登山家が輩出していて、よいリーダーに恵まれていたと思います。そのうえに君も慎重な性格で、しかもガンバリ屋だから、決して登山家向きではないとは言えなかったと思います。

結局、悲しい運命のなせる業だったのでしょうか。

運命という不可解なものにゆだねるには、あまりに口惜しいことです。なんのなせる業にせよ、あまりに残酷なことです。

君の前途は洋々と開けていました。君は君の進むべきかなたをじっと見つめていたに違いありません。私たちは、何をなすべきかについて、よく話し合いをしたものでした。それについては、長々といつまでも議論がつづいたものでした。この世の中の根本的な問題について、話は次から次へ移りつつ終わるところがありませんでした。

学問の意味について。宗教について。科学について。社会主義について。異性について。

君の純粋なものの考え方、ひとつひとつの問題を探究的に乗り越えて行こうとする情熱、小さな口約束も誠実に守ろうとする信義、それらを総合して君という人格に、私は深く敬服しておりました。

君が、生涯をかけて私を刺激し励ましてくれる良き友でありつづけることを、深い直感で感じとっていましたし、私もまた、それにこたえる人間として成長して行きたいと、ひそかに決意していました。

それら、私たちの人生のすべては、これから先にあるのであって、なすべきことの全部が、未来に横たわり開けていたのです。

それなのに、君は北アルプスの雪の谷に、そのすべてを投げ出してしまいました。

君の輝いていた瞳は、永久に凍りついている岩壁の向こう側に見えなくなってしまいました。

君の緊張した美しい魂は、どこへ行ってしまったのですか。

田川明夫君、私たちは、夜空に冴えてきらめく星空のどこかに君がいることにしよう。そして、いつまでも私たちの相手になってください。苦しいとき、悲しいとき、嬉しいとき、私たちは声なき君に呼びかけることにします。

ピアニストの友の死に

竹林君、僕は、まだ信じきることができない。こうしてお柩の前に立っていながら、どうしても君が、このわれわれの現世からいなくなってしまったということを信じることができない。

きっとこれから、本当に君はいないのだということを確かめながら、その寂しさが消えることのない僕の人生が始まることでしょう。

君は幼な友だちで、それでいながら今に至るまで交際が絶えることなく続いてきた親友でした。幼な友だちというものは、普通には、懐かしい思い出のかなたにだけ存在しているものらしいけれど、僕たちは珍しく、不思議な運命にひかれて、つかず離れず、とうとうまわりを見回したところ、これ以上の親しさはない親密な友として行き来していたのでした。

君のピアニストとしての出発は、もう思い出せないくらい幼いころからすでに始まっていました。小学校に入学したころは、バイエル五十番、六十番などといって、むずかしい曲を君がひくのを見ると、そのたびに感心して君の器用に動く指先をながめていたのを記憶しています。

中学、高校も一緒、大学だけが別でしたが、それでも親しく付き合っていて、一ヵ月も会わないでいると、ずいぶんご無沙汰をしていたように感じたものでした。

君が、大学二年のときに、〇〇音楽コンクールのピアノ部門で第一位に入選した折りは、熱狂しました。卒業後は、国際コンクールにも出場したりして、君のピアニストとしての地位は、不動のものとなりつつありました。

君の勉強ぶりは、いつも僕の模範でした。君の規則正しい毎日のピアノの練習は、僕に生きていく務めの厳粛さと、積み重ねの尊さというものを教えてくれました。それによる着実な進歩を、目のあたりにみせてくれたのですから。

思い返せば、実にさまざまなたくさんの楽しかった出来事や情景がよみがえってきます。二人で、季節の変わり目のさわやかな日には、秩父の山麓や御殿場などや、房総の

海岸などによくドライブに出かけたものでした。僕たちの話題は、尽きるということがなく、それは今考えると不思議なくらいでした。

君が一番すばらしかったのは、なんといっても演奏会場のステージで、真剣にピアノに立ち向かっているときの姿でした。そこには、君の全生命と情熱が傾注されていて、それは聴衆のすべての人々の胸に強く感銘深く伝わり、しみ通ってくるものでした。

君の存在は、一すじに音楽に集中され、盛んな炎となって燃えていました。

今、君は突然、僕たちの視界から見えなくなってしまったのです。しかし、君の炎は、幻となって燃えつづけ、いっそう明るく僕たちを照らしているのです。

竹林君、僕は、いつまでもいつまでも、この炎に照らされて君とともにありたいと思います。

そして君が長くない生涯に残してくれた最高の遺産を、できるだけ多くの人々に分かち与えることを任務としてこれから生きて行きたいと思います。

竹林君、生前の厚い深いご交誼、本当にありがとう。君の長い眠りが安らかであるようにお祈りいたします。

友人（同業者）代表

謹んで、故赤羽製薬社長高田一雄氏のご霊前に申し上げます。

あなたは、この二年来、ご健康をそこなわれ、ご静養の身にありながら、持ち前の強い精神力を奮いたたせて、絶えず新製品の開発、研究設備の改善にお力を尽くされ、単に企業内容を堅実に成長させてきただけにとどまらず、広く薬品業界のために、有益なご活躍をつづけてこられました。

この非凡なご活動のため、あるいはすでにご病気も快癒されたのではと、怪しみながらも安心いたし、お喜び申し上げておりましたところ、このたび、はからずもご逝去の悲報に接し、あまりのことに呆然といたしました。

今ここに、あなたのご霊前に立って回顧することは、その生涯を製薬業に捧げられたあなたの、偉大なお仕事の成果と、高潔なご人格についてであります。

ことに赤羽製薬社長に就任以来、十二年間は、変転めまぐるしい実業界にあって、仕事に対する剛毅不抜な熱情により、社運を興し、国内において不動の地位を築き、今

日、国際的にも名を知られる大会社にまで盛りたてられたのであります。

新しい製薬技術の導入、研究部門の進歩については、特別にご熱心で、業界に冠たる研究所の存在については、知る人ぞ知る、その水準は高く評価されております。

このことは、事業は、あくまでも社会に裨益するものであるとするあなたのご信念を、実現された一例と申せましょう。

またあなたは、社内にあっては、社員それぞれの個性を十分に引き出すいわゆる適材適所の人事をもって、合理的な近代性と、和気あいあいたる親密な人間関係を一致させた社風をつくりあげ、現代における会社のあり方の範を示されたのであります。

今や戦後二十数年、日本の経済はようやく国際的視点に立って大きく動き始めております。このときにあたり、幅広い見識と、諸外国の事情に精通した鋭い洞察力の持ち主であるあなたのような実業人を失うことは、ひとり経済界の損失であるばかりでなく、国家的な大きな痛手であることを、つくづく思い知らされる次第であります。

あなたの前途は、私どもの多大の期待のなかに輝いておりました。ところが、このたびの病患は、私どもの楽観に反して深刻なものであったのでした。その闊達な進取なご性格をもって、ひそかにこの病苦と戦っておられたのでした。私どもはそれを思い、ただ名状し難い悲痛に打たれるものであります。

ときにきびしく、ときに親しく、そして、やはりいつも懐かしく私どもの前にあったあなたのご尊容はすでになし。残された私どもは、今ひたすらただ寂しさに耐えません。

しかし、あなたのご子息がたは立派な社会人として各界に雄飛されんとなされておられます。奥様もまたその楽しみを柱として、ご一家を優しくお守りして行かれることでしょう。

あなたのご人格から出た生命は、決して消えることはございません。ご一家のかたがたと、そして社員のかたがたと、私どもの心の中に永久に脈打って生きつづけることでしょう。

あなたの御霊の安らかならんことを、切にお祈り申し上げます。

生前の長い間のご厚情とご交誼を感謝し、お別れの言葉

といたします。さようなら。

交通事故で死んだ友へ（女性）

富永さん、あなたはもうあの優しい笑顔で答えてくださらないのですね。人間はだれしもいつかは、この悲しい別れを経験しなければならないのですが、私たちのお別れは、あまりにも早すぎます。私たちは、このときのための用意などは何もできていなかったのです。そのときは、まだずっとはるかに先のことだったのです。

私たちは、生きることに夢中でしたし、それはいつまでも続くことであるように思っておりました。

富永さん、いまこの悲しい冷厳な事実を前にして、あなたに最後の言葉を述べなければなりません。

静かに振り返ってみますと、あなたが私に与えてくださった有形無形の贈り物が、どんなにたくさんなもので、尊いものであったかということが、つくづく身にしみます。そして、私のお返しは、貧しく、恥ずかしいものばかりだったのです。

大学に入学早々、廊下で初めてあなたのお姿を拝見しました。それがあなたとのその後の親しい交わりの最初の出会いになりました。私はあなたに好もしさを感じ、お友だちになれたらいいなと胸に思ったことをはっきり覚えています。その機会は、すぐにきました。教室で偶然席が並んだのです。私のほうが早めに着席して、講義の始まるのを待ちながら、本を読んでいるところに、あなたがこられて「この席あいていますか」とたずねられたのです。私は驚きに似た嬉しさで、いろいろ話しかけたのを記憶しています。私たちはすぐに打ちとけて、それからずっと仲良しで、いくら考えてもけんかをした思い出が浮かびません。これは、あなたが思いやり深くて、いつも相手の身になって考えてくださっていたからです。

私は、勉強の上でも、ずいぶんあなたに刺激され教えられましたが、それ以上に、あなたの包容力のある美しい心を見習いたいものといつも思っていました。

あなたは教養があり情操豊かな立派な妻として、母として、すぐれた子孫をたくさん産み育てるべき人でした。美しいおとなしいあなたは意外なほどの勇気もあり、また茶目っ気がありましたね。あなたのユーモアは、立派なあなたに近づくすべての人々に気安さと親しみを与えて、楽しいふんいきをつくりあげてしまうのでした。あなたとのお

付き合いの思い出はあまりにも大きすぎて、思い返すと際限もなく広がるばかりです。
それにしても、なんという残酷な悲しい運命でしょう。あの檜通りが、「このごろは車がふえて、あぶなくて」と、あなたがおっしゃっていたのを思い出します。その時は、何気なくあいづちを打っていたのですが、今はどうしてもっと強く注意の言葉を言ってあげなかったのかと悔まれてなりません。
富永さん、若くてすてきなあなた、虹のような未来をもっていたあなたが、永遠にこの地上から姿を消してしまうことが、あっていいはずがありません。この世の定めが、どのように狂ったのでしょうか。
あなたをここまでおいつくしみお育てになられたご両親、あなたを慕い尊敬していられたお妹さんがたのお気持ちを思うと、胸が迫ってこれ以上、申し上げる言葉がありません。
富永さん、私たちが、よく一緒にながめたあの夜空にキラキラ輝いている星のように、これからも、いつまでも私たちをお見守りくださいませ。富永さん、さようなら。

身近な人の死

亡父の告別式で（喪主）

本日はご多忙中のところ、かくも大勢ご参会下さいまして、感激のほど、申し上げようもございません。
その上、ご丁重なるご香典、ご弔辞を賜わりまして、故人もさぞ喜んでいることと存じます。
父は若くして海外雄飛を試みたほどですから、体は生来達者でございました。
近年は、年が年でございましたので、風邪を引いた折など、家族の者が心配して、医者よ、病院よと申しましても、
「わしが先に逝けば、それはめでたしというものだ」
と、冗談に紛らわして、ついぞアスピリン一粒、飲もうとしなかったのでございます。
いわゆる、楽天家でありまして、満州で事業に失敗した時は、私をはじめとし、既に五人の子どもと、祖父母など八人の家族をかかえていながら、ついぞ愚痴めいた言葉を

漏らしたことが、なかったということであります。

よく、人間万事、塞翁が馬とは、本当だねと申していたのは、波乱の生涯を通じて体得したものか、それをモットーとしてよく人生の曲折を乗り切ってきたのかは存じませんが、後半生は、誠に悠々自適の生活でありました。

植木と書道を趣味として、戦中戦後の食糧難の時代にも、不足顔一つ見せたこともありませず、過ごして参りました。

七十八歳という高齢で、孫の数も二十数名となると、そういう心境になるのでありましょうが、知人に筆を頼まれたりいたしますと、必ず、

――死を視ること、帰するが如し

と書いては、私を振り返り、

「どうだわかるかな。お前にはまだわかるまいな」

と申すのが、口癖でありました。

死に際しましても、

「少しくたびれたから――」

といって、床につくことわずかに三日、死亡診断書も、死因は老衰、とだけの、眠ったままの大往生でありました。

子としては、まだまだ生きていてもらいたかった父ではありますが、これからは生前の言葉の数々をかみしめつつ、及ばずながら志を心境の開拓に向けるつもりでおります。

なにとぞ、今後も生前のご厚誼同様、父と変わりませぬご指導のほど、お願いいたします。

これをもって、お礼の言葉にさせていただきます。

ご参会、ありがとうございました。

伯父の死を悼む

ついにお別れのときがまいりました。

三日前には、あのように生き生きとして優しいまなざしで私を見つめてくださった伯父様が、とうとう天に行かれることになってしまいました。早く父を失った私たち一家の力強い後ろ楯として、陰に陽に私たち母子をかばってくださされ、慈愛深くお導きくださいました伯父様のご恩は、私の終生忘れられないところでございます。

母はすでに職をもって働くには齢ふけてまいりましたが、私がこうして一定の仕事をもつことができるようになりました。もうこれからは私たち一家は、しっかりと自立

してやって行くことができるでしょう。ここに来るまでが大変だったのですが、その間、暖かい両腕を差しのべてくださった伯父様の愛情の深さと大きさが、改めてありありと思われてくるのでございます。

母も唯一の兄であられる伯父様を杖とも柱とも頼み、何事によらずご相談し、ごめんどうをおかけしてまいりましたし、多くを知らぬ私たちはただ甘える一方で、わがままいっぱいにふるまってまいりました。少しでも、ご恩返しの万分の一のことでもして喜んでいただきたかったのに、これからという矢先におなくなりになられ、うらめしくこんなに悲しいことはございません。

三日前、病院に伺いましたときには、ごきげんよろしく、私には、どこかホッとする感じさえあったのですが、その折りに、「幹子、これからはお前がしっかりやってくれよ」とおっしゃったお言葉が、強く心に残っておりました。今、思いますと、それが、私に残してくださった伯父様の最後のお言葉でした。

伯父様、このお言葉は、しっかり胸に抱きしめて放しません。伯父様、お名ごりは尽きません。今は、幹子はただ悲しみだけで胸がいっぱいです。どうぞこれからも、遠いどこかから、私たちをお見守りになっていてくださいませ。伯父様、さようなら。

恩師の死に

この悲しみの日、大竹義造先生のご霊前に、心からなる弔辞を申し上げます。

先生は、東京・芝に生をうけられ、大正の盛時に学窓生活を送られましたが、早くより衆を抜く天稟の才をもって、周囲から期待されておりました。学究生活にはいられてからも、日本歴史学の不毛の分野にわけ入り、パイオニアとして数々の学問上の業績を積み重ねられ、その鬱然たる体系は、とうてい私どもの伺い知ることのできぬ深きに達しておられました。

卓抜なる洞察力と、翺翔たる知識の広さから先生の学問は、多くの独創的な世界を開き、その存在はおおうべくもなく学界に屹立しております。

また先生は、後進を愛し、先生のご慈愛とご教示に学んだたくさんの学徒が、今やそれぞれの専攻分野で、著名な学者として真理の探究に大いなる業績をあげつつあります。

先生がこのように成し果たされた偉大な創造の世界は、他日、ますますその全容が明らかにされてゆくことになりましょう。

今、先生のご霊前に佇立して、悲痛やむなきものあるゆえんは、ひとえに学問の大先達を失うことのみによるのではありません。不肖私に寄せてくだされた恩愛の深さが、こと細かに回想されて胸を圧倒します。非力無才の私がかろうじて、今日学問の道を歩みつづけることができるのは、先生の尊いお教えと、暖かいおもいやりを身に受け、これをきびしい励ましとして自らをむち打つことができたお陰であります。先生なくして今日の私はありませんでした。私は人生の曲がりかどで、幾度か絶望から救われ、先生の内に秘めた熱火の意志力によって奮起させられました。

先生は言葉のみではなく、行ないによってそしてただ無言なるままにおいて、その深い慈しみの情を注いでくださいました。この広大な恩愛に、甘えるのみで、いたずらになすことなく過ぎた自らを省み、悔しみの心切なるものがあります。

ああ、先生はすでに現実におわしませず、今はただ、先生のお示しになられた道をひたすら歩み行くよりほかありません。峻峰気高い先生のお姿は、いつまでも私をお導きくださることでしょう。

先生、はかりしれないご恩に対し、深い深い感謝の心をもって合掌いたします。先生、安らかにご永眠ください。

先生の死を悼む（同窓生代表）

戸樫先生、もはや永久にお目にかかることができなくなってしまわれた戸樫先生。

仲谷高等学校の大先輩として、そして私たちには直接、数学の先生として、親しくお教えを受けた年月の思い出が、昨日のことのようによみがえります。先生のお教えを受けた生徒たちは幾千人の数になりましょうが、私たちも三年間、ホーム・ルームの担任の先生として先生を仰ぎ、恐れ、甘えて過ごしたのでした。私たちの高等学校生活の中心は、先生でした。卒業後も、当時のクラス・メートが寄り合うときには、いつも先生の話題に話が及ばないことはありませんでした。

あのころ、先生をずいぶんわずらわした生徒たちも、すでにそれぞれ社会の中堅層として活躍する年齢に達し、人

の夫となり親となり、会社では係長、課長という役職につき、また教師として人を教える立ち場についている者もございます。

人間の成長の過程で、最も大切な時期、肉体的にも精神的にも一個の人格を形成するかなめのときである高校時代に、先生から受けた強い感化を、私たち教え子は忘れることはできません。それぞれに社会に生きて行く道は違いますが、私たちはこれを生かし発展させていくことになりましょう。先生の高く清らかなご人格と、偏見なく人々に注がれた深い愛情とは、私たちにとっては、年を追うごとに深く認識されてくるものなのでございます。

先生は、もっともっと長生きなさるようにばく然と思っていたのですが、現在、この悲しい現実に直面して、自分たちの愚かさを思い知らされました。卒業後は、わずかに同窓会の席上でお目にかかるだけで、ゆっくりお話をする機会もないままに、まして先生をお喜ばせする何ものもないままに、このように早くお別れのときが来るとはだれが予想しえたでしょう。

私たちが、先生の深い尊いご恩に報いる道は、これからは、先生のお教えを自らそれぞれの上に生かしていくほかはありません。先生が私たちに注がれていたあのまなざし。その中にこめられていた意味を、私たちは終生胸の中に育てて行くつもりです。

先生どうぞ、安らかにお眠りください。そして天上にあって、私たちをお見守りください。先生、戸樫先生、さようなら。

先生の死を悼む（教え子代表＝女性）

大宮義男先生、

竹山高等学校在職十二年間、先生のお教えを受けたたくさんの生徒たちが、社会に巣立ちました。今その生徒たちは、この限りない悲しい知らせをどのように受け止めていることでしょう。この席に参ずることのできた私は、先生をお慕いしているたくさんの教え子を代表してお別れの言葉を申し述べさせていただきます。

国語担当でいらした先生は、学校の教科書の講読以外に、人生について、愛情について人間の尊さについて、実にたくさんのお話をしてくださいました。出席簿と教科書を持って教室にはいってこられ、うつむいたまま出欠を調べられ、それからお顔を上げて教室の生徒たちをぐるりと

見回されるときの明るいお顔と目の光りを、私はまだ昨日のことのようにありありと思い出すことができます。

先生は、万葉集や古今集の古い歌を講義なさるとき、節をつけて詠みあげられました。お茶目な生徒の中にはクスクス笑い出すものもありましたが、そのうちシンと静まりかえってしまうほど、先生の朗唱はおじょうずなものでした。「歌は訴えるものなのだから、声に出して歌いあげると、一番その心がわかるのです」とお教えくださいました。

このように、先生のお時間は、本当に魅力にあふれた楽しいものでした。

先生はまたあるとき、「きみたちは、死というものについて考えてみたことがあるかね。人間はいつか、必ず死ぬものなのだが」というお話をなさったことを、はっきり覚えております。そして、「人間は、本当に心の底から、何かを信ずることができるようになると、死はそれほどこわいものではなくなるのです」とおっしゃいました。

若い私たちは、そのとき、死について、それほど深刻に考えていませんでした。あるいは、少数の生徒たちは、先生のお言葉を深く受け止めていたのかもしれません。

けれども、不思議にのちのちになって、このお言葉がときどきよみがえることがあります。そしてそのたびに、先生のご健在をお祈り申し上げておりました。

あのころ、すでに先生は、何かを信じていらっしゃったのに違いないのです。その何かは何であったのでしょう。とうとうおたずねすることもできないままに、悲しいお別れのときがきてしまいました。

先生、先生のたくさんのお教えの中の大切なひとつとして、この「何か」を考えていきたいと思います。

先生のお教えを受けた生徒たちは、みな人の妻となり、母となり、新しい生命を育てております。先生のお教えの底にあった深い真理について考えることを忘れないで、生き抜いて行くことが、先生のご冥福を祈る最善の道と心得ます。

先生のあの明るいお顔と目の輝きを、いつまでも私たちの胸に生かしつづけるつもりでございます。

先生、どうぞ安らかにお眠りくださいませ。

俳句の師の死に

豊田利根雄先生、先生のご霊前に、心からなる哀悼の辞

を申し述べます。

先生の御急逝は、私たちの胸を驚きと痛恨をもって貫きました。先生は、いつまでもこの世にあって私たちの前を進んで、道を示されつづけているものと、私たちは思いこんでいたのでした。なんとのんきな甘えた私たちの心の態度でありましたことでしょう。先生のさし示しておられた目的は遠く高く、道ははるかなものでした。私たちは先生のあとに従ってさえゆけば、誤りなくその道を歩みつづけて行くことができると安心していたのですが、それだけ先生は仰ぎみる高き境地におられて、私たちに最も大切なもののありかを教示されておられたのでした。私たちには、先生が目的であったのです。

先生は、青年時代、俳句の革新運動に情熱をいだき、口語律俳句に接近されたことがありましたが、それはごく一時期で、その運動から離れ、ひとり、俳句の正道を模索、混乱した昭和の俳壇に力強い伝統のレールを敷かれたのであります。

戦後は、俳壇の重鎮としていよいよ新たな境地を開きながら、私たち後進の者にも、広く、暖かい手をさしのべてくださったのであります。それはむしろ、私たち、先生を慕うものが、先生のもとに集まり、先生のお手をわずらわせていたということになりましょう。

先生は、日本の古典の世界に精細に味到されていたことは申すまでもなく、中国の詩文の世界、さらに仏教に深い造詣を有しておられました。また学生時代は、ドイツ文学を専攻されておられたので、欧米の文学にも通暁されておられました。先生の作品は、このような広範な学殖に裏打ちされて、氷山の一角のように、世界で最も短い詩形の俳句に凝結されたものでありました。

先生の偉大な業績は、俳句作品の上に示された高い創造的世界とともに、これらその背景となった広い学問の現われとしてのおびただしい論文、啓蒙的諸文章の上にも打ち建てられているのであります。これは、裾野を広くひろげて屹立する高山の偉容にたとえることができるでしょう。

先生は、俳句の道が、社会的には、恵まれることのない地道な孤独な世界であること、そしてただ自分自身の一見目に見えぬ前進にのみ喜びを見いだすものの道であることを、繰り返し説かれておられました。鬼面人を驚かす派手さで、人の耳目をひくような、そのような虚妄が最もむなしいことである世界なのであると。そして同時に、自分自

身が日々新しさを感じる大胆な前進が大切なのであって、この二つは全く別物でありながら混同されやすいところにむずかしさがあると。

少なくとも私は、先生のお教えとして、このことを肝に銘じているつもりでございます。

今、悲しくも永久のお別れの場所に臨み、先生なき空漠（くうばく）の寂寥（せきりょう）をいかに耐えるか、先生のお志に添う方向は奈辺にあるかというその思いでいっぱいでございます。

先生はよく、芭蕉の「柴門の辞」の中の「古人の跡を求めず、古人の求めたる所を求めよと、南山大師の筆の道も見えたり」の一節を口にされました。私たちもまた、先生の求めたところを求めることが、先生のご遺志に添うものと決意し、精進をつづけてゆく覚悟でございます。

先生、最後に臨み、長い間のご鴻恩（こうおん）に対して深く感謝申し上げます。願わくは在天の御霊に永遠のご平穏がありますようにお祈りいたします。先生、さようなら。

生け花の先生の死を悼む

桃川やえ先生のご霊前に、悲しいお別れの言葉を捧げます。

先生は、もと池坊華道の流れをくみ、その道で立派に奥義をきわめられて、新しくご自分の流派をお開きになり、今日、日本の華道界に、特異な存在として隆盛の一途をたどる○○会を盛り育ててまいられました。

先生は、日本の古典芸術のひとつである生け花の真髄を把握され、そのゆるがぬ秩序の上に立って、先生の独創を生かした生け花の道をお進みになられたのであります。先生の作風は、現代感覚にあふれる洗練美を持ちながら、静かな落ち着いたたたずまいを、おのずから漂わせておりましたが、これは、あくまでも先生が伝統を重くみられて、その基盤をしっかり守っておられたことに原因があったと存じます。

現在、どの流派でも思いきった前衛生け花を取り入れ、彫刻のオブジェと異ならない作品も横行しておりますが、先生の行き方は、これとは一線を画するものがありました。

先生は、現代建築とその中に人々が暮らす住居様式、生活感覚から、前衛華道の存在を認められながらも、生け花の本質を、自然の生きた植物を素材とすることにあるとされ、それを守り抜かれたのであります。

日本の四季折り折りに変化する植物を相手として、時間とともに移ろい枯れてゆく草花のたまゆらの生命に、永遠の美を追求されたのでございます。

日本の芸術の長い歴史の中で、今日は大きな変動期であり混乱期でありますが、生け花もまた、その激しい試練に立たされているひとつでありましょう。

この時期にあって、先生の芸術とご見識は確固として、時代を貫いておられます。このことの意義は深く、その業績は高くたたえられるべきものでありました。

家元制度が根強く力をもち、ともすればそのしがらみに自らを縛って行かなければならない華道界の中で、先生が女性の身で、一派を創設されて、自由にご自身の道を歩まれたことは、この一事だけでも偉とするに足ることであります。先生は、さまざまの困難にうち勝ちつつ、生け花一筋に専心されて、今日の大を築きあげられました。これはひとえに、先生の抱かれた芸術家の魂が、高く純潔であり、不断に努力をつづける不屈なものであったからです。

先生は、その暖かいお心で、たくさんのすぐれたお弟子さんたちを育成されました。社中から巣立ったお弟子さんたちが、全国にあって、先生の芸術を継承して、現在それぞれに指導者として活躍されています。中には、国外で、日本の生け花の先生として努力をつづけておられる方々もございます。

先生のまかれた種子は、今こうしてたくさんの枝を伸ばし、葉を茂らせて生長をつづけています。

先生の芸術は、ますます深い進境にあって、さらに前途に期待が寄せられていました。

このようなときに、全く不意打ちのように先生のご急逝の悲報に接しました。日本の芸術にとって、また華道界にとって、大きな寂寥（せきりょう）であります。またあなたを知る私たちにとって痛恨きわまりありません。

しかし、あなたの正しい創造精神は、社中の方々は申すに及ばず、私たちもまたそれを受け継いで、立派に生かされて行かねばならぬものと思います。

では桃川先生、永久に安らかなご冥福を祈ります。そして、今後も、日本の伝統芸術の行くえを、そして生け花の発展を、いつまでもご照覧くださいますよう謹んでお願い申し上げます。

会社関係の死

会社功労者の社葬にて（副社長）

銅蓮の水、バサと落つる大南風の朝、突如として総務部長の浅田昇さんは、逝かれました。

享年わずかに四十七歳。年と共に重厚さを加えた人柄をもって、上下の信望をつなぎ、本領の発揮をあすに控える、惜しみても余りある方を、私たちは失ったのであります。

思えば浅田さんが、最初に頭角を現わしたのは、七年前の大争議の時でありました。

入社以来、ただ真面目（まじめ）一本槍で、コツコツと実績を積まれてきた浅田さんは、当時労務課長のポストにありました。

国外資本の進出により、経営に苦悩する会社側と、血気にはやる若手社員を先頭に押し立てた組合との対立は日ごとに悪化し、ついに争議に突入してしまったあの時であります。時代の風潮もありました。業界も大揺れに揺れておりました。日を重ねるうちに、事態を更に深刻化させたのは、第二組合の誕生でありました。

ここに至って争議は、泥沼に陥り、そのまま推移すれば、会社解散の終焉を待つばかりの窮地に立ち入ったのであります。

この時、あるいは脅迫に、ある時は暴力にも襲われながら、寝食を忘れ、文字通り身を挺（てい）して三者の調停に献身したのが、浅田さんでありました。たとえ、労務課長の職責がかくあるべきものであったとしても、浅田さんの真心と、人権尊重の崇高なる精神なくしては、決して効を奏することは、出来なかったでありましょう。社の内外を問わず、認めるところであります。

わが社は、浅田さんによって救われたと、言ってもいいのであります。わが社、今日繁栄の鍵（かぎ）は、浅田さんによってもたらされたと申し上げても、一人として反対する組合員もなく、会社幹部もおりません。

しかり而（しこう）して、争議終了後の浅田さんの態度も、また見上げたものでありました。

浅田さんは、一見温厚の紳士でありながら、心は頑固（がんこ）一徹、古武士の風格を蔵しておられまして、争議の犠牲者を

出すことについては、終了後も断固反対を続け、会議の席上、浅田さんの強硬さに席をけって立つ重役もあったにかかわらず、ついに目的を貫き通しました。

その時、浅田さんの主張によって残った方たちが、今日の繁栄に貢献するところ大であったことを考えると、浅田さんを単なる頑迷の徒と誤解した人たちは、改めてその先見の明の前に頭を垂れざるを得ないのであります。

争議がかくて、円満に解決すると、浅田さんは、微塵も誇らしげに功を誇る様を現わすことなく、黙々たる平凡な社員に戻ってしまいました。

家庭にあっても、二児のよきパパであり、仲間に誘われて麻雀でおそくなる時は、必ず電話で愛妻の許可を求めるという、ほほえましくも、典型的な、サラリーマンの生活でした。

きょうここに集まっておられる皆さんも、かつては激しく口論を戦わした思い出、楽しく杯を汲み交わした思い出、雀卓を囲んで三味線をひき合った思い出など、思い出は無限でありましょう。本当に浅田さんは敵を持たない、いや、敵さえも仲間にしてしまう、温かい、心の広い人でした。

この告別式に当たって、私は、心から叫びます。

浅田さん、霊あらば聞いて下さい！

あなたは、こんな大勢の人を放って、どうして、逝ってしまったのです？

……感情の赴くままに、返らぬことばかり申し上げてしまいました。

ありし日のあなたを偲びつつ、謹んでご冥福を祈ります。

部下の死に

謹んで、角村友二君の御霊に申し上げます。

あなたは、私たちを残して逝ってしまわれました。あなたの柔和な温容は、今も目の前にあるがごとく、静かな落ち着いた声は、今にも笑いながら語りかけてくるがごとく、あなたは私たちの心にのみ生きる人となって、すでにこの現実の世界から離れてしまいました。

この悲しみ、永遠の別離の悲しみが、今きてしまったのです。しかも私は残されたものとして、断腸の思いを味わう側に立って、この弔辞を捧げなければなりません。これが運命というものでしょうか。

どのような因縁か知りませんが、あなたと私は、職場を

同じくし、意気投合し、ともに人生について語り合うまでの親しい間柄として交際を重ねてまいりました。私は、あなたの人格に敬服し、あなたのような高い心を持つ友を得たことを、常に心に誇りとし喜びとしてきました。

あなたは、忽忙（そうぼう）の日常、雑然たる現実社会の営みの中にあって、毅然として誠実を貫く高潔の人でした。どちらかといえば地味な私たちの職場にあって、うまずたゆまず、細心の研究心をもって仕事を果たし、省みてこれをみるとき、その堅実な成果、きびしく行き届いた精密な努力の跡に、常に何人を問わず襟（えり）を正さしむるものがありました。

職場の職階としては、あなたは直接、私の仕事をささえる立ち場にありましたが、あなたの立派な仕事の成果のお陰で私の仕事もまた絶えず力強く始動することができ、心から感謝しておりました。あなたのような補佐役を得ていた私は幸福でした。

そのあなたが病患で倒れられ、恐らく病因の一因には疲労もあると思われ、私もまた少なからぬ責任を感じ、心痛いたしておりましたところ、思いもかけぬ悲報に接し、ただただ痛恨極まるところを知りません。

あなたの強い忍耐力、愚痴や弱音を吐かぬ精神力が、かえってあなたのご生命を縮めることになったのではとも思われ、それを察知することもできずに過ごしていた私自身の愚かさに、ひたすら自責の念を禁じ得ません。

今はただ、あなた亡きあとのご遺族の方々をお見守りをさせていただき、この悔いをわずかながらも、はらわせていただきたいものと存じております。

すでに幽冥境を隔てるあなたのご冥福を、お祈りし、お別れの言葉といたします。

事故死した作業員の死に

謹んで、鮎川鉄男さんの御霊に申し上げます。

三月二十四日、午後三時半、工事は〇〇山峡の架橋施工中でした。曇天の空は折りから雨雲を包んで広がっており、工事も早めに切りあげて引き揚げようとしていた直前でした。

突然不幸な事故があなたを襲ったのでした。

足を踏みはずしたあなたの背後に、鉄梁が落下したのです。それが夢魔のような一瞬に、尊いあなたのご生命を奪ってしまったのです。

危険な作業については、ベテランのあなたであり、班長

として作業員への注意と指導を毎日のミーティングで欠かさなかったそのあなたの上に起こったこの事故は、ほとんど人間の限界を越えた不可抗力の作用としてあなたを襲ったように思われます。

同じ作業に従事しているひとりとして、非常なショックと、深い悲しみに打たれています。そして、自分たちの取り組んでいる工事が容易ならざる仕事であることを、ひしひしと身に感じております。

この道路の建設は、〇〇県と××県を結ぶ新しい幹線として、この地域一帯の産業の主要な動脈を作ることになるのであります。建設完工の暁には、この地域一帯は急速に開発され、新しい時代の要求にこたえてよみがえり、繁栄の道を進むことは明らかであります。

この画期的な工事に参加することは、私たちの誇りでもあり、張り合いでもあったのであります。

明朗で勤勉な鮎川さんは、一日一日と立派に仕事の責任を果たしながら、工事の進捗に精励されておられました。私たち周囲のものたちも、鮎川さんと一緒に仕事をすることを、どんなに頼もしく、また楽しく思っていたことでしょう。鮎川さんは、熟練した技術と的確な判断で、私たちをリードしていてくださったのです。

鮎川さん、あなたは、ことに若い人たちに対しては、励ましといたわりをもって接しておられて、仕事が終わってからは、仕事以外の悩みや相談の相手にもなって親切な助言を与えるというようなお人柄の方でした。あなたは、本当に仲間たちのよき先輩であると同時に、それ以上に真の仲間でありました。

この連帯感こそが、危険な作業をものともしない仕事への意欲をかきたててくれたのです。

今は、悲しくも変わり果てたあなたの前に立ち、断腸の思いです。あなたがよく話をしていらしたご郷里のご家族の方々、その方々の驚きと悲しみを思うとき、ただただ、痛恨の情、切なるものがあります。

鮎川さん、しかし、私たちは、あなたのこの替え難い尊い犠牲を決して無にいたしません。あなたのご生命がかかったこの工事を、見事完成して、せめてもあなたのお恨みを晴らしたいものと決意しています。

鮎川さん、どうぞ、安らかに天にあって、これからの私たちをお見守りくださいますようお願いいたします。鮎川さん、私たちの真の仲間だった鮎川さん、さようなら。

委員長を悼む（労働組合代表）

故増谷友市君のご霊前に、和田製鋼労働組合千三百五十二名の組合員とその家族を代表して、謹んでお別れの言葉を、申し上げます。

あなたは、和田製鋼に二十二年の長きにわたって勤続され、今日の和田製鋼の繁栄に至る道を、一労働者としてつぶさに経てこられました。この間、和田製鋼の労働組合の設立に参加、この十一年間は、組合委員長の役職にあって、きわめて繁忙な日々を過ごしてこられました。あなたの輝かしい組合活動の成果は、われわれ和田製鋼に働く者のすべての、生活の改善向上をもたらし、今日、安んじて生活しうる基礎を固めてくれました。

あなたは、たぐいまれな忍耐力をもち、働く者の共感と愛情を、尽きることなくあふれさせつつ、献身的に自己の使命に専念しつづけられました。その寛容で不屈な人間性は、組合員すべての変わらぬ尊敬と信頼の的でありました。

今や国際情勢は、新たな転換期に立ち、歴史は刻々とその指針を進めています。日本の経済も、国際市場にそのエネルギーを進展させ産業全体がさらに近代化、合理化の歯車を推し進めています。和田製鋼の製品は、国内需要の面のみならず、国外発注の需要に応じて、いっそう質量ともにその優良さが要請されています。これをささえているのはわれわれ和田製鋼の全労働者であり、ここで、最も緊急事となることは、この全労働者の十分なる生活安全の確保なのであります。

あなたは、この時期に際し、万全の対策を立てるべく日夜苦慮され、疲れることを知らぬごとく精励努力を重ねておられました。

この折りに、突如として、あなたは倒れられたのです。荒海を航海中に不意にエンジンの響きが停止したように。

われわれは暗然として、悲しい現実に直面しなければなりません。

あなたの創造と闘争と、労働と平和の理想は、和田製鋼の上に立ち、灯台のように照明を放っていましたが、今、それは、ひとたび消えました。

われわれは深い悲しみをもって、あなたに訴えます。われわれは何をなすべきか。いかになすべきか。

そして同時に、明確な解答をあわせもってあなたに告げ

ます。あなたはすなわち、われわれなのであると。

われわれは悲しみを克服し、偉大な先輩の遺志をわれわれのものとして前進をつづけます。あなたの沈痛な表情、輝く澄んだ目、その姿は、戦後日本の労働者の典型であり、その姿には、労働者の苦しみも、労働者の希望も刻みこまれています。

われわれは今、あなたのご霊前に、あなたの見つめた希望をうち開いて行くことを誓います。

増谷友市君、安らかに瞑目してください。

社長夫人の死に（社員代表）

社長夫人長尾もと様のご霊前に、全社員を代表して謹んで告別の言葉を捧げます。

長尾社長が一代で今日の興亜産業を築き上げられた力の陰には、奥様の並み並みならぬご労苦とご努力のささえがあったことについては、折りにふれて私ども社員の耳に触れておりますが、だれよりも私ども社員がそのことを身にしみて感じておりました。

「和敬」を社是とし、社長を中心に、全社員一致協力して家族主義的な社風のもとに、結束を固めております興亜産業にあって、奥様はいわば母親のごとく、慈愛深く、私どもも社員に接してくださいました。

地方から親元を離れて、生まれて初めて社会の荒波に乗り出してきた若い社員たちにとっては、奥様の思いやりのある処遇がどんなに心のささえになったことでしょう。

それでも、初就職の現業員の中には、世の中を知らず他へ転職を求めたものもありましたが、そこで初めて古巣のよさに気づき、奥様の元に戻り、涙を流して再入社をお願いし、奥様の社長へのおとりなしでそれが許されたという例もございました。

社員たちのプライベートな悩み事についてもよき相談相手として助言を与えてくださいました。ことに恋愛、縁談など、奥様のひとかたならぬご尽力のお陰さまで、めでたくゴールインしたしあわせなカップルも、社員の中には数多くいるのでございます。その上、奥様は、社員たちの家族のことまで、親しみをもってお気をつかいくだされて、子どもの誕生などには心をこめた祝福を与えてくださいました。

昼に輝く太陽があり、夜には人の心を慰める月光があります。大地の生物は、日の光りとともに静かに降り注ぐ慈

雨によって成育します。そのように、奥様は会社という一つの共同体に静かにしみいるうるおいの源泉でした。

これは奥様のすぐれたお人柄からあふれ出ていたすばらしい光りであったと存じます。

しかし今は、もうその奥様にお目にかかることができません。どのように呼びかけても現実にはお声が戻ってまいりません。

全社員こぞって、ただただ悲しみに閉ざされております。そして尽きない奥様の思い出がよみがえって来るのでございます。これからは、親身にお世話をしていただいた深い慈愛を心に刻み、そのご恩に報いるためにも、いよいよ社業に専念いたし、会社の一層の発展隆盛を目ざして努力を傾ける所存でございます。

奥様、長年にわたり本当にありがとうございました。なにとぞ、安らかにお眠りください。

ビル工事現場事故死の従業員へ

謹んで田坂具伸氏のご霊前に弔辞を捧げます。

あなたは大友建設株式会社の現場従業員として、誠心誠意全力を尽くして仕事に打ち込まれ、東京港区の十一階建て高層ビル建築中に悲運にも職に殉じられました。誠に痛ましい悲しい出来事でした。

建築中のビルは鉄筋組み立て施工は完了し、すでにコンクリート打ち込みが始められていて、工事全体の八分通りの進行をみていたところでした。

あなたは、三階目の鉄梁で鉄ビョウの点検中、斜め左上方より起重機でゆるやかに降ろされてきた鉄箱に、思わず顔を振り向けた拍子に足場をすべらせたものと思われます。そのまま転落、取り返しのつかぬ大事に至りました。

ただちに病院に運ばれ、医師の治療を受ける間、私たちはただ、神に祈るよりほかありませんでしたが、三時間ののち、あなたはついに昇天されたのであります。

常在戦場という言葉がありますが、これは何も戦時中だけの言葉ではありません。私たちの職場は、戦場のごとくきびしい状況に常におかれているのであります。私たちは、戦士のごとく毎日の仕事に取り組まなければなりません。しかし、それは、戦争と全く反対の意味においてであります。つまり、いかにして人の生命を守るかというその戦いにおいてなのであります。

いかなる建築物も、橋梁も道路も、人間の平和な生活を

守るためのものであり、それらをいかに安全なものにするかということが、私たちの目的なのであります。

今や日本の工業力は自由世界第二位と称せられ、経済成長は著しく、平和国家として国際社会に肩を並べるところにきております。そのため、私たちの建設事業も、国民の生活の向上と繁栄の当然の必要に迫られて、その安全と平和を守るために進められているのであります。

あなたは、実にその平和の戦士として、犠牲になられたのであります。しかし、尊いご生命は、何物にも代えることはできません。私たちは、すぐれた仲間を永遠に失う悲しみとともに、残されたご家族の方々のご悲嘆を思うとき、ただ、痛恨耐え難きものがあります。

今は、あなたの悲運を、深く胸に刻み、再びこの不幸を繰り返さぬようあなたの御霊に堅く誓うことによって、せめてもあなたとのお別れの言葉にいたしたいと思います。

願わくは、あなたの御霊の永久に安かれと、深くご冥福をお祈り申し上げます。

タクシー運転手の事故死に（会社代表）

大西和行君、

あなたが日東タクシー交通に就職されてから二年五ヵ月、勤務中に悲しむべき不慮の災害に会われて還らぬ人となってしまわれました。悼んでも悼みきれぬ深い痛惜の念をもって、お別れの言葉を捧げます。

あなたは、当社の運転手として模範的な勤務をつづけてこられた誠実な社員でありました。あなたは、二十七歳という若さにもかかわらず、いつの場合も安全運転を守り、いまだかつて一度の事故も起こしたことがございませんでした。絶えず笑みを浮かべて話に興じていたあなたの元気なお姿は、他の従業員にとっても、仕事への明るい出発の励みとなっておりました。

乗客からは、再三再四にとどまらず、あなたへのおほめの言葉が会社に届いておりました。会社にとっても、社員にとっても、あなたは得難い従業員であり同僚であったのです。

交通戦争がうんぬんされるきびしい職業戦線にあって、無事故で、乗客に喜ばれる運転手は、なんとありがたい存在であったことでしょう。めまぐるしく、ひとときも停滞を許さない砂ばくのような現代都市。車の洪水の中を一刻を争う乗客を運ぶ運転手の仕事は、誠に錬られた精神力が

要求されていたのであります。
しかしまた、この仕事は、人々の足になることによって、社会の心臓、動脈を生き生きと動かせていることに貢献しているという自負をもいだかせるものであります。
大西君、あなたは、この社会の血液を運ぶ最もよき供給者として日々をいそしんでおられたのであります。
さらにあなたは、病身のお母様と三人のご弟妹の生活をその両腕でしっかりとささえておられたのです。
そのあなたの真剣なお仕事の一日、あなたは慎重に安全運転をつづけておられたところ、トラックのわき見運転により一方的に追突を受け、激しい衝撃によって車はひとたまりもなく破損、あなたは一時間後、救急病院のベッドで二十七年の短い尊い生涯を閉じられたのであります。
ああ、惜しみてあまりあるあなたを思い、残されたご家族のお悲しみを思い、痛嘆これに過ぎるものはありません。
もとより会社では、弔慰の方法に、遺漏のなきようとりはからいますが、このような悲しむべき事故が再び起きぬよう、深く反省して、新たな緊張をもって業務に立ち向かいたいと存じております。
あなたのご冥福を祈り、会社を代表して弔辞といたします。

政治家の死に

謹んで大鳥敏正先生のご霊前に申し上げます。
先生は、戦前、日本がまさに軍国主義の嵐に巻き込まれ、泥沼のような大陸の戦争にあえいでいるときに、その政治生活をスタートされました。先生は、軍部の専横に抵抗され、独自な大陸政策論を掲げ、東奔西走、文字通り国家存亡の危機を救済せんとして活動されたのであります。当時の大陸の新政権の汪精衛主席などの要人とも交流があり、困難きわまりなき日本の状況を洞察されていて、その進み行く方向を憂え、行動されました。その後、軍部、あるいはそれに乗ずる勢力に圧迫排斥され、政治活動は沈黙静止のやむなきに至りました。
日本の歴史は、敗戦という終末により、未曾有の大転換を余儀なくされ、戦後民主日本が出発しました。ここで、再び先生の政治活動は、きわめてエネルギッシュに開始され、占領軍追随の政治主流に、絶えず批判精神を注ぎ入れ、日本人の民族的な自主性を回復する努力を呼びかけつ

づけてこられました。先生は、あくまでも、政界にあっては、主人公ではなく、むしろその誤りを正し、本来の目的を目ざめさせる鋭き眼光の存在として重きをなしてこられました。主役ではないが、主役を生かす最主要人物でありつづけたのであります。

戦後日本の政治のなかで先生の果たした功績は万人の認めるところであり、後世いつまでもその偉業はたたえられることでありましょう。

先生が終生の悲願とされていた日本人の民族的な自立向上、それによる未来世界への有益な貢献、この傾向は現実にわれわれ日本人の手に実感として握りしめることができるようになってきました。敗戦後の混乱荒廃の中で、ややもすれば絶望的になる人心の動きを、日本再建の念願に結集せんと呼びかけ、活動されてきた先生の意志は、今こそ大きくはばたこうという時期にまいっております。

まさにこのときに、先生とお別れしなければならぬとは、悲しみこれにすぎるものはありません。

きびしい歴史の変動の中で、戦中、戦後、一貫して自己の原理と行動に生き抜かれた先生。すがすがしくも、懐かしい日本人の典型として、先生をたたえます。先生は日本人を愛し、日本の風土を愛し、この愛ゆえにこそ生涯を政治の場で戦いつづけてこられました。

今ここに先生との永遠の訣別に臨み、先生の全生涯のあざやかな姿が示す重大な意味を深く心に刻みつけるものであります。

先生、われわれは先生のご遺志を受け継ぎ、ますます繁栄して、世界の平和と文化に貢献する日本の国づくりに邁進いたします。先生の御霊の安らかに眠られることを、ここに切にお祈り申し上げます。

ＰＴＡ会長の死を悼む

故赤坂小学校ＰＴＡ会長藤堂謙三氏のご霊前に、謹んで弔辞を呈します。

赤坂小学校は、創立明治六年、九十五年にわたる長い歴史をもつ名門校であります。この間、国家社会に幾多の人材を送り出し、現在もたくさんの同窓生が、各界に雄飛、活躍をつづけております。

藤堂会長は、戦後、赤坂小学校のＰＴＡの発足と同時に会長に就任、以後、当市の児童教育に、熱心に献身奉公され、学校、家庭、児童のかけ橋となって、たくさんの業績

を果たしてこられました。その一つ一つは枚挙にいとまがありません。

会長は、街にあっては、親切で慈愛あふれる小児科医として、学校の校医として児童を病患から救い、市内の各家庭の明るい生活の源泉となってこられました。街の子どもたちで会長のお顔を存じあげぬものはなく、子どもも両親も、診療所で、路上で、また学校で、会長のお姿は実に親しく懐かしいものとして心を通わせておりました。通学の児童たちは、会長に出会うと、いっせいに黄色の帽子を振って挨拶をします。会長の徳は、全市にみなぎっておりました。

しかるに、なんと悲しいことでしょう。突然三月にご入院になってから、間もないうちに、ご急逝になり、今はすでに幽冥境を異にする方となってしまわれました。

わが郷土教育界にとって、全く実質そのものの意味において巨星落つの感があります。

昨年暮れ、学校の講堂で、冬休みにはいるに際しての健康の心得について、全児童を前にして講話をなされた折りのお元気なお姿が、目に浮かびます。あれほどに子どもたちの健康について真情あふれる慈しみの言葉を、他のどこで聞かれるでしょうか。

すでに、藤堂会長は、現実にまみえることができません。あのゆっくりと、一言一言子どもたちの胸に納得のいくようにかみくだいて、ユーモラスな話をたくさんとり入れて、健康についての注意を説かれたおおらかなご様子も、PTAの会議で、いつまでも熱心に問題の提出、事情説明をつづけていた真剣なご表情も、路上でにこにこと子どもたちに手を上げていた好々爺然とした血色のいいお顔も、もはやこの世のものでなくなりました。

悲しみは深く、愛情は尽きません。

藤堂会長、願わくは天にあって、いつまでもこの赤坂小学校をお守りください。

そしてその御霊の永久に安らかなれとお祈りいたします。

村長の死を悼む

今月二十一日、あたかも彼岸の中日に、現職のままご他界せられた河口栄太郎村長のご霊前に、謹んで哀悼の言葉を呈します。

村長河口氏のご急逝は、衝撃となって村中に伝わりまし

た。腎臓疾患のため○○市の市立病院に入院ご加療中と聞き、何びとも、このように病態が悪化しているとは夢にも知らず、ひたすら一日も早いご全快を念じておりましたところに、突然の悲報が伝えられたのであります。

河口村長の村政は、戦後、とびとびに三度の就任で、十二年の長きにわたるものでありました。この間、多田前村長と交代選手のごとく重任を背負ってご奮闘なさったのですが、村政の根本問題については、互いに息を合わせてしっかりとバトンタッチして、わが富沢村のために尽くしてくださったのであります。

思えば、河口村長の果たされた業績は数限りなくありますが、なんと申しましても、モダンで堅固な中学校校舎の建設事業、木臼山の果樹園開発に注がれた情熱と成果は、末長く人々の記憶に残り、その功績はいつまでもたたえられることでありましょう。

河口村長の郷土愛、郷土のために、郷土の人々とともに喜び悲しみ、生き抜こうとするご信念は、強く深いものがありました。最近は、農業生活者の家庭にとってぜひ必要な保育所の設立について、ひとかたならぬ熱意を傾けられ、資金の準備、専門家の意見打診など、具体的な設立計画を立てておられたところでありました。保育所の設立は都会地ではすでに早くから普及発達を遂げているにもかかわらず、家族ぐるみ野良に出て労働しなければならぬ農家においてこそ最も必要なのに立ち遅れている現状を、村長は残念に思われ、またその設立が緊急事業であることを痛感されていたのであります。

とかく働き盛りの村の人々が都会地へ転出し、村の魅力を省みない傾向にあることを嘆かれ、大きくは国の発展の基礎をなすのは、しっかりした平和な繁栄する村づくりにあることを、常日ごろ説いておられたのであります。

念願の保育所落成の日をとうとう見ることもなく、急逝された村長の胸中にさぞや一抹（いちまつ）の心残りがあったのではと、私どももまた、そのことを深く口惜しく思うものであります。

しかし、河口村長のご遺志を、私どもの責務として、継続進展させて行くことを、今、ご霊前に誓います。

河口家は、家祖元右衛門より二十三代を数える当富沢村はえ抜きの家柄であります。その当主が戦後の困難な社会情勢、歴史的な変革の時代に村政に当たられ、村のよりよい建設のために尽瘁（じんすい）されたことは、意義深く感銘すべきこ

とでございました。
河口村長、どうかこれからも、私たち富沢村の導きの星となり、永遠にご加護を賜わりますようお願い申し上げます。
最後のお別れに臨み、あなたの安らかなご永眠を深く深くお祈りいたし、私の弔辞といたします。

市長の死を悼む（市会議員代表）

謹んで当市市長最上恭一氏のご霊前に、市会議員代表として哀悼の意を表します。
最上氏は、市長の重責をすでに二期務めあげられ、現在は三期在任中でありました。
日ごろ、「健全なる精神は、健全なる身体に宿る」をモットーとされ、「老人扱いされては困る」を口ぐせのように、率先、激務に尽瘁（じんすい）されていた最上市長をよく知る私どもは、市長のご急逝に会って、全く青天の霹靂（へきれき）のような驚きと悲しみに打たれました。
最上市長は、当市になくてはならぬ星であり、また新しい時代における市の前進をリードする機関車でもありました。
町村合併に伴う市の新しい歴史に、最上市長は幾多の重要な功績を積み重ねてこられました。市長は絶えず前向きの姿勢で、市の繁栄と発展のために先頭を切っておられたのであります。
市の産業を興し、豊かな経済の開発を進めるためには、中央の行政の地域開発の手を待っているのではなく、内側から、こちらの手でそれを促すように立ち上がらなければならないという方針が、市長の持論でした。結果は、○○自動車の工場誘致もそのひとつの現われでした。市北西部の湿原地が見事に更生され立派な工場が立ち、市内近郊の若者たちが遠隔地に出ずに就労できるようになりました。さらに鍬形山から百合ガ浜一帯の観光地計画も、市長が積極的に取り組まれて、すでに観光道路の開通、植物園の設立が実現いたしました。
これらの市長の業績を貫く、市長の情熱の核心には、常に市民のために、市民とともにあるという強い信念が燃えていました。
このことは、頭で考えたり、口で言うのはやさしいことですが、本当に正しく実行していくことは、並み並みならぬ困難を伴います。しかも多くの人々の、必ずしも利害が

一致するとは限らない市の行政の事業を公平に力強く推し進めることが、どんなに容易ならぬ道であるかは、私どもはひとしく痛感しているところです。

市長は、当市の行政の最高責任者として、熟慮断行、正しい信念に基づいて、一歩一歩前進の道を歩んでこられました。

最上市長の成し遂げられた多くの業績の全容が、今こそ明らかに輝きを放って、その真価を示しているように思われます。

残された私どもは、よき後継者を選出し、この偉大な事業を汚すことなく発展させて行かなければなりません。最上市長への哀惜の情は、尽きるところを知りませんが、私どもも、全市民の幸福のため、これからも全力をあげることをお誓いして、在天の霊のご冥福を祈る次第であります。

最上市長、なにとぞ私どもの行く手をご照覧、ご加護くださいますようお願い申し上げます。

海上遭難で死んだ漁夫へ

謹んで中川一夫氏のご霊前にお別れの言葉を申し上げます。

私たち漁業労働に従事している者は、海とともに生き、海の恩恵を受け、そして海のきびしさと戦うことが生活であります。遠い祖先の昔から、私たちのすべての生活を賭(か)けた場所が海にあったわけであります。

あなたも、私たちの仲間として、幼いときから海で育ち、海に鍛えられてきたひとりであります。しかしながら、私たちの家も家族も陸にあり、生まれたところは陸である以上、当然、生の終わるときは畳の上でということが、私たちの切なる願いであるわけであります。

海の上の労働で、人一倍勇気とすぐれたカンとを持ち合わせて操業をつづけてこられたあなたも、いつかは、陸で家族の方々と団欒(だんらん)の営みをなさることを楽しく夢みてお仕事に励んでおられたことでしょう。

三月二十日の三陸沖の暴風雨は、あなたの夢とご家族の方々の夢と、そして、知人たちの夢を一気に吹き飛ばして、尊いあなたのご生命を奪い、残された者のすべてを悲

しみのどん底に突き落としてしまいました。
わずか三十トンの漁船日之出丸は、山なす激浪とよく戦いつづけました。四十八時間にわたってもちこたえたようでしたが、ついに難破、救助船が発見したときには、すでにみる影もなく、飛散していて、その周辺に、救命具をつけて漂うあなたがたを見いだしたときには、神に祈る心地で一人ひとりの引き揚げに当たりました。
若い人たちは、それぞれに一命をとりとめましたが、責任を負い、最後まで奮闘をつづけておられたあなたは、ついに帰らぬ人となってしまわれました。
ああ、本当に残酷な悲しい出来事でした。お元気だったあなたの思い出がさまざまによみがえります。あなたが、海の男として、その終わりまで毅然として大自然の猛威と戦い抜かれた状況は、生き残った者たちが、感謝をこめて口々に語っているところであります。あとに残されたものは、このことを強く心に刻み、語り伝えて行きたいと思っています。
日本の沿岸漁業は、現在深刻な不振に直面しております。どうしても小さな船をあやつって遠方の出漁に向かわねばなりません。今度の海上遭難も、この私たちの漁業労働の苦しい現在のあり方の反映とも、犠牲ともみることができましょう。
不運は、不運としてあきらめるほかありませんが、悲しみはこのため一層深く胸奥にこたえるものがあります。この悲しみの中で、あなたの死をむだにせず、日本漁業に対して新しい改善策を打ち出すよう、私たちとしてはさまざまな方法を通して努力をして行かなければならぬということを決意する次第であります。そして二度とこのような不幸な災難に会わないよう十分の態勢を整えたいと存じております。
ここに村民を代表して、あなたの永遠のご冥福を祈る次第でございます。

生花業組合理事の事故死に

美しい紅葉が舞い落ち、冷たい北風が身にしみるこの季節、玉川友一郎君のご急逝の報を聞き、今、ご霊前に立つに及んで、ただただ悲しみの極まるところを知りません。
あなたの健康な肉体と精神を、何ものも蝕むことはできないはずでした。あなたの生涯は、ひたすらおのれにむち打つ努力と、疲れを知らぬ活動力によって、生花業の近代

化に挺身することに捧げられました。戦時、戦後の食糧難時代に、花畑が壊滅的な打撃を受け、したがって生花業も、ほとんどその業態すら明らかでなくなってしまった状態の中から、あなたは、よく平和時代の到来とともに生花の需要の増大を見越され、この業界の力強い復活のために東奔西走の労を傾けられたのです。

平和のシンボルのうるわしい花々が人々に求められるようになるには、長い月日は要しませんでした。あなたの予測は次々に的中し、戦後の変動きわまりない経済状況の変転に合わせて、生花業が、無理のない新しい業態のもとに進展隆盛してきたお陰は、実にあなたの卓絶した見識と、ご指導によるところが極めて大きかったのであります。

従来の花種に加えて、新しい時代感覚に合う外来の新種の輸入、観葉植物の普及などに対するあなたの予言は、現在、ほとんどその通りになり、また造花、ホンコン・フラワーの進出に対応した新種の開発には、年来の研究の成果が、実際に役立つような状態になったのであります。

「現代人はますますほこりっぽくなる。現代人の生活の中に人間らしいうるおいをもたらすのは、みずみずしい生花をおいてないのだ」という言葉が、あなたの口ぐせであり、信条でありました。あなたはこの信条に、火のような情熱を注いで、ともすれば、他の産業、企業の片隅に追いやられようとする生花業の増大繁栄のために戦われたのです。全国連合組織の組合を結成、古いしきたりの悪しきを捨てて、各業者が生産地とつながりつつ横にしっかりと連携を密にして、合理的な産業として進む業界の発展の道を開かれたのであります。

私はあなたの活動に、単に利害関係の計算を離れた同志的な敬意をいだいておりました。

花は不死鳥のようにはばたいたのです。そして、私たちは、各々の仕事に対する意義を自覚して、ますます、生き生きとした花々が、家庭に、店内に、デパートに、職場に、と、町にも村にもあふれることを願って働いてまいったのです。

ところが、突然、車による交通事故の悲報に接したのです。文明の利器は、一瞬、凶器と変じてあなたのご生命を奪ってしまいました。なんという悲しい出来事でしょう。

私たちを導いて明るく輝いていた星が、不意に消えた寂しさと暗さの中で、あなたのお柩を送らなければなりませ

ん。

この悲しみのときに、私たちは、あなたのご活躍、あなたのお志を必ず受け継いで業界の一層の進展に邁進することを誓い、せめて、あなたの御霊をお慰めいたしたいと存じます。

天にあって、なにとぞ私たちの事業をお守りくださいますようお願いいいたします。

玉川友一郎君、安らかにお眠りください。

農業技術指導者の殉職に

謹んで大野民雄先生の御霊に、悲しいお別れの言葉を申し上げます。

大野先生が当市の農業協同組合の顧問として赴任され、技術指導に当たられるようになりましてから、五年八ヵ月の月日が経過いたしました。農攻大学ご出身の先生は、しばらく中央の官庁や研究諸機関に在職され、研究生活をつづけておられましたが、新たなご決意と情熱をいだき、自ら進んで、この山深い小都市においでになられたのであります。農村部の若い技術指導員を指導されつつ、またご自身、日夜を問わず実地に村から村へ巡り歩かれておられたご日常でありました。

先生の真剣な熱意と、ご努力に励まされ、若い指導員たちの活動は、見違えるように活発になりました。ことに、一昨年、先生の文字通り寝食を忘れたご努力により行なわれた、遠川、横館、多賀山各村における耕地整理は画期的な壮挙であり、当市の歴史に長く記念されるべき事業でありました。これにより、細かくいりくんだ田畑や飛び地が、整然とした区画、正しい水田地帯となり、労働は合理化され、収穫は急増したのであります。

とかく因襲にとらわれやすい地方人のふところに飛び込んで、先生は説得を重ね、容易に動かない壁を見事に砕いたのであります。これはひとえに、日ごろの先生のご技量とご人格への全幅の信頼の現われであったのです。

しかしなんと悲しいことでしょう。

この得難い先生は、永遠に帰らぬ人となってしまわれました。宮森村の土砂くずれを心配されていた先生が、その土質調査中に、まさしく懸念された土砂くずれによって尊いご生命を失われてしまいました。

あの大雨の日に、思いがけない悲報に接し、ただ夢中で現場に駆けつけた驚きを終生忘れることはできません。

先生は、生計のためにでもなく、出世のためにでもなく、大いなる使命感に燃えてご自身のお仕事に打ち込まれ、そして、そのお仕事に殉じられたのであります。
私どもは悲しみを押えて、先生のご立派な生き方をたたえます。そして当市の繁栄、ひいては日本全体の平和な豊かな存立のために、礎石となって地味に生涯を捧げられた先生の御霊をお慰めしたい気持ちでいっぱいです。
先生のご日常は、私ども関係者をはじめ、農山村の子どもたちに至るまで、深い感銘となって残されています。先生のあとを引き継ぎ、たくさんの人たちが、よりよい私たちの社会の建設のため奮いたつことでしょう。
先生、安らかにご永眠ください。

同僚の死に

秋山君、朗らかな笑い声と身ぶり手ぶりで、いつも話の中心になって話題を面白くしていた君の姿が、まだありありと目に浮かびます。それなのに、今は一言も、もの言わぬ君と相対さなければなりません。一ヵ月前にこんな日がこようとは夢にも思わないことでした。
君は豪放磊落（らいらく）、たくましい身体をもった有能な漁船員でした。君の前途は春秋に富み、七つの海に夢が開けていました。
恐ろしい偶然が、その君を襲ったのです。
ベーリング海上で操業中、デッキにいた君の背に監視塔に備えられたロープの束が落下したのです。君の苦しみはいかばかりだったことでしょう。君は直ちに北海道室蘭経由で、東京の病院まで苦しい旅をして運ばれてきましたが、ロープの強打は、とうとう二度と君を起き上がらせてくれませんでした。
二十一歳という若い人生にとって、なんという痛恨事でありましょう。本人の強い希望をお許しになって、海の男としての活躍を期待され、楽しみにしておられたご両親のご心中は察するにあまりあります。
君はつねづね、「海の人間は、陸の人間の二倍の勉強をしないと、陸の人に取り残されてしまう」と言っていました。長い遠洋航海で、陸を離れているもののみがわかる実感です。そして君は、その言葉通りによく勉強をしていました。多くの若い船乗りたちが、君を見習おうとしながら、なかなかついて行けず、君を畏敬（いけい）の念をもって見つめていたのです。

君は、ある港町の波止場で、チンピラやくざにけんかを売られたことがあり、大暴れをしたことがありました。見るに見かねることがあって注意をしたのが原因だったようです。多勢にひとりで、たかをくくっていた相手が、逆にほうほうの体で逃げ去った由、僕が駆けつけたときは、君は少し興奮していただけで、ケガもなくホッとしましたが、武勇ぶりは、恐れながらも成り行きをみていた見物の人から聞きました。そんなことも、一場の夢のごとく思い出されます。

君は、機関長に知れるとしかられるから、ぜひ黙っていてくれるように僕に頼み、僕も口をつぐんでいたのですが、この事件以来、僕はいっそう君が好きになったのです。君はよほどのことがなければ、暴力をふるうような人ではなかったからです。

男らしく、努力家で、能力のあった君が、殉職とはいいながら、君の可能性を本当に発揮する時もなく、非運に見舞われたことは、かえすがえすも悔しく、悲しいことです。

遠く天に去っても、どうかいつまでも、僕たちを見守る星となって輝きつづけていてください。

謹んで、君のご冥福をお祈りいたします。

芸能プロ社長の死を悼む

トリエ・プロダクション社長永井恒平氏のご霊前に、謹んで哀悼の辞を捧げます。

あなたは、現代社会の最先端に立たれ、恵まれた才能と、どのような場合にも落胆失望せずに困難に立ち向かう意志と努力をもって、自分の道を歩みつづけられました。

あなたの演劇、芸能についての情熱は、学生時代から熾烈に燃えつづけ、〇〇放送に職を得てからも、その方面の勉強を研鑽しつづけておられました。

あなたは、つねに、現代社会をリードするマス・コミの役割りについて、誤たない見通しと見識を有しておいでしたが、その信念を貫徹するため、自ら独立の道へ踏み出し、トリエ・プロダクションのタレントを世に送り出されたのであります。

興業界に根強く残る旧来の因習と対立し、真に現代の大衆が求めている芸術と娯楽の提供者として、また、無味乾燥な現代社会への批判者として、また、低俗に堕する大衆芸能に新鮮で健康なうるおいをもたらす創造的な企画者と

して、あなたは、マス・コミの一角になくてはならぬ人でした。

昼夜を定めぬような激務の中で、あなたは新しい時代の、新しい人々の憩いの時間をつくりだすために働きつづけられたのであります。茶の間にテレビのブラウン管を通じて現われるスターたちの顔、その内容、それらを人々が安心して受け入れることができるのも、その裏側に、たくさんの並み並みならぬ努力があと押しをしているお陰なのです。

トリエ・プロダクションは、そのために大きな役割りを演じておりますが、それには、プロモーターであるあなたの意向が反映していたわけです。その上、あなたの業績は、芸能プロダクションの機能に果たされただけでなく、多方面の執筆活動においても顕著なるものがありました。

そして、まさにこれからあなたの描く理想へステップするための土台ができあがったところであるのに、不意の交通事故によるご急逝の悲報を聞き、痛恨の念、切なるものがあります。

あなたの興された事業は、よき後継者により、ますます発展し、日本文化に大きく貢献して行くことでしょう。ここにあなたの業績をたたえ、安らかなご永眠を祈るものであります。

親族代表のあいさつ

遺族と親戚一同に代わりまして、一言ごあいさつを申し述べます。

本日は皆さまご多用中にもかかわらず、わざわざご会葬をいただきまして有難うございます。故人の霊も定めし皆さまのご厚情に感銘していることと存じます。

故人の病気中に、いろいろとお見舞いやら励ましをいただきましたことは、故人も深く感謝いたしておりました。あらためて厚くお礼申し上げます。

この二ヵ月前より、病状が悪化し、以来急速に衰弱の一途をたどっておりましたが、やはりガンでありました。まだ五十代という年齢でもあり、もうひと仕事人生に残してもらいたかったというのが遺族の心残りでもございますが、これからは、一同故人の遺志を引きつぎ、家庭生活におきましても、また仕事の面におきましても、皆さま方のご期待にそむかぬように努力いたす決意でございます。

今後とも、何卒皆さま方のご教導とお力ぞえを賜わりま

すよう、心よりお願い申し上げます。

これをもちましてお礼の言葉といたします。本日は、ご会葬とお見送りまことに有難うございました。

知人の一周忌にのぞみて

長田さんがお亡くなりになってから、早くも一年の月日が流れましたが、私にはまだ一、二ヵ月しか経っていないような気がいたします。それほど長田さんは、私の身近に生きておられましたし、この一年もずっと私の心の中で生きてこられました。

ひょうひょうとした風貌ににじみ出る人間的な暖かみはまさに絶品でしたし、あの独特な柔和な微笑(ほほえみ)は、何かにつけて思い出さずにはおれません。

長田さんの微笑はまさに心の微笑であり、人間の微笑でした。ひもじいときでも、体が寒さに震えるときでも、ちょっと思い出すだけで、心がほのぼのとなる——そんな人なつっこい微笑をもった長田さんでした。

ボサボサといってもいいくらい無造作な髪、ヨレヨレの背広、といったように、外見上のおしゃれには、とんと無とん着な長田さんでしたが、心のおしゃれは抜群でした。

きょうお集まりの皆さんは、生前、長田さんと親しくされていた方々ばかりですから、長田さんがいかに誠実であり、いかに心のきれいな方であったか、ご存じのことと思います。

嘘、偽りのない、本当に誠実な方でした。

人情とみに薄れ、人間らしからぬ人間が多い索莫(さくばく)とした現代にあって、いかなる人にも誠実に、またいかなるときにも、自分の良心に恥じない生き方をされた長田さんは、最も人間らしい人間であったと思います。

私もなんとか誠実な人間として生きたいと思いますけれども、そこは凡夫の浅ましさ、なかなか長田さんのようにはまいりません。私のような凡人には、長田さんのマネなど、とうていできないことかもしれませんが、私なりに努力してみようと思います。

また長田さんは、「人間は情深く優しくあれ」——というのが口グセでしたが、長田さんはそれを忠実に実行された博愛の人でもありました。

長田さんのように、人の喜びを心から喜び、人の悲しみを心から悲しむことのできる人は、まずいないのではないでしょうか。

長田さんとご交際願ったのは、わずか五年三ヵ月でしたが、その短い月日の間に、長田さんの人間味豊かなお人柄に心を打たれ、心を洗われるような思いをしたことは、数えきれないほどでした。

さりげない態度、さりげない言葉にも深い深い思いやりが感じられたものでございます。皆さんも、長田さんとの交流で、私のような心暖まる思い出を数多くおもちのことと思います。

長田さんは一編の詩も、一編の小説もお書きになりませんでしたけれども、私の心のページにすばらしい教えを書き残して下さいました。

長田さんの生きたお姿、生のお声は、もはや見ることも聞くこともできませんが、長田さんの心、長田さんの言葉は、今もなお私の心に脈々と生きております。

何よりも人間を大事にされた長田さんの心を心として、これからも生きて行きたいと思います。

長田さんのすばらしい心を少しでも生かすことができれば、喜びこれにすぐるものはありません。

こうして、長田さんゆかりの皆さんとお会いしておりますと、長田さんへの追慕はいやますばかりでございます。

亡父の三周忌法要にて

本日はご多用中のところを皆さまおそろいで、ご参列いただき、誠にありがたく、厚くお礼申し上げます。

私たち遺族にとりましての父は、皆さま方のお考えの故人と大分相違していたように思われます。私は父が他界するまで、大変厳格な片意地の強い親父として、父を見てまいりました。ところが、亡くなりまして、生前の父の事を皆さま方から伺いますと、私にはお世辞としか受けとめられないほどに、温厚で思いやりのあった人だったと、おっしゃっていただきます。

私たち、半信半疑で伺っておりましたが、きょう、父の三周忌の法要に、貴重な時間をおさきいただき、かように追悼会を催す事ができましたのは、皆さま方のご厚志の賜物であると同時に、故人の生前の遺徳でもあるように思われてなりません。

誠に身勝手なご挨拶になりましたが、父の残しました徳を、三周忌の法要を致しまして、はじめて知り、感銘致しております。粗餐も用意してございますので、どうぞ、お時間の許される限り、故人の生前の話でもお聞かせ願えれ

ば、私たち遺族にとりまして、この上なくありがたい事だと存じます。

本日は誠にありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

〈著者紹介〉

1931年京都生れ。
立教大学文学部日本文学科卒。
現在，立教大学文学部助教授。
著書，「谷崎潤一郎」「大伴旅人の生涯と作品」など。

式辞挨拶集

昭和45年4月20日　初版発行
昭和47年3月1日　9版発行

■著　者／平山城児
■発行者／佐藤道亮
■発行所／株式会社　大泉書店

東京都新宿区矢来町27番地
〒162　振替東京1742番
電話 東京（260）3533番

■印刷所／中央精版印刷株式会社
■定価はカバーに表示してあります　〈検印廃止〉

0077-1322-0701

大泉入門シリーズ

書名	著者	定価	内容
定石の急所（上下）	林海峯	各¥360	見やすく、わかりやすい定石の字典
置碁の急所	林海峯	¥360	実戦譜をつかって勝負どころを解説
手筋の急所	林海峯	¥360	実戦に活用できる筋と形を詳解する
死活の急所	林海峯	¥360	先手後手で逆転する石の死活を解明
トランプあそび	北野邦雄	¥330	坊やからおばあちゃんまであそべる
トランプ占い	石川雅章	¥280	トランプ占いは楽しいプレイである
トランプの遊び方	井出波男	¥350	トランプ遊びのテキストブック！
麻雀High戦術	後藤啓司	¥360	勝つための多角的ハイ戦術とは？
麻雀・急所の一手	村石利夫	¥400	勝負の決め手になる一手一手を解説
麻雀・手づくりの妙	村石利夫	¥400	最初の一パイから手づくりする技術
麻雀・攻める秘訣	村石利夫	¥400	勝っている時、負けている時の攻め
麻雀・一牌のあとさき	村石利夫	¥400	どのパイを先に、後に切るかを解明
振飛車破り	加藤一二三	¥360	どんな振飛車を相手にしても勝てる
矢倉の闘い	加藤一二三	¥360	矢倉の実戦、戦法、神髄を教える！
棒銀の闘い	加藤一二三	¥360	好敵手を苦しめる必勝の戦法！
力戦振飛車	加藤一二三	¥360	攻める振飛車の要点とその対応策。
かくし芸と演芸	石川雅章	¥300	これで宴会がいっそう待遠しくなる
宴会かくし芸	多田弘幸	¥360	歌あり、手品あり福引ありの虎の巻
ゲーム特集	古田久三郎	¥360	新しい創作ゲームのアイデア特集。
頭の体操	古田久三郎	¥300	クイズ・パズルにゲームの大特集！
頭のあそび	古田久三郎	¥350	パズルとクイズで楽しくあそぼう！
パズル大学	田中潤司	¥360	脳ミソの裏側を鍛える本格的パズル
パズル天才志願	田中潤司	¥360	水平思考をみがくにはパズルが一番
インスタント・マジック	引田天功	¥480	あなたを即席マジシャンにする！

印刷・製本などの値上りにより定価の改正を余儀なくされることがあります。〒110